

長野県松本市

松本城三の丸跡

DOIJIRI

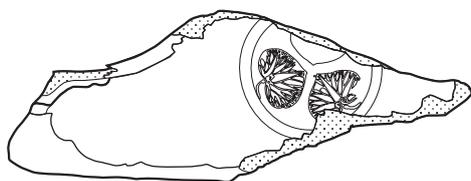
土居尻

—第1次発掘調査報告書—
(遺構編・遺物編2 第1分冊)

DAIMYOCHO

大名町

—第3次発掘調査報告書—



2023.12

松本市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成3年度と令和元年度に実施した、長野県松本市大手2丁目・3丁目に所在する松本城三の丸跡の土居尻第1次発掘調査報告書（遺構編・遺物編1）と大名町第3次発掘調査報告書である。
- 2 土居尻第1次調査については、平成14年3月に刊行された『松本城三の丸跡土居尻第1次緊急発掘調査報告書～遺物編2（木器編）～』において、4分冊構成を予定していたが、大名町第3次調査と合わせて整理作業（一部再整理）を実施し2分冊構成となったものである。
- 3 本調査は、松本市による（仮称）大手駐車場建設事業（平成3年度）・基幹博物館整備事業（令和元年度）に伴う緊急発掘調査であり、松本市教育委員会が発掘調査、整理・報告書作成を実施した。
- 4 本書の執筆分担は次のとおりである。
第Ⅱ章・第Ⅳ章第2節・第Ⅴ章第7節を高山いず美、第Ⅴ章第1節を大西理美、第Ⅴ章第2節を伊藤蔵之介、第Ⅴ章第3・4節・第Ⅵ章を壬生量子、第Ⅴ章第8節を西村奈美、その他を原田健司が行った。
- 5 本書作成にあたっての作業分担は以下のとおりである。
遺物洗浄・注記・保存処理・接合復元 市川二三夫・佐々木正子・竹内直美、洞澤文江
遺物実測・トレース・拓本
（土器・陶磁器）赤羽幸子・大西理美・竹内直美・竹平悦子・辻章江・直井知導・前沢里江・柳澤千代美
株式会社こうそく
（瓦）竹内直美・前沢里江 （木製品）富岡享子・丸山恵・壬生量子 （石製品）白鳥文彦・直井知導・原田健司
（金属製品）赤羽幸子・古幡大治朗・前沢里江・柳澤千代美 （その他遺物）竹平悦子、直井知導
遺物実測図版組 竹平悦子・直井知導・原田健司・高山いず美・壬生量子
第Ⅴ章第7節の表作成 西村奈美 遺構図整理・トレース・版組・一覧表作成 荒井留美子
写真撮影（遺構）高山いず美・原田健司・壬生量子 （空中写真・オルソ画像）株式会社アンドー
（遺物）壬生量子（漆器顕微鏡写真）、宮嶋洋一
DTP・編集 原田健司 その他 竹内靖長、竹原学、廣田早和子、宮島義和、吉澤せり子の助力を得た。
- 6 本書で用いた略記は次のとおりである。
松本城三の丸跡土居尻第1次調査→土居尻1、松本城三の丸跡大名町第3次調査→大名町3、第○検出面→○検、第○号建物跡→建○、第○号溝状遺構→溝○、第○号土坑→土○、第○号ピット→P○、第○号焼土範囲→焼土○、第○号木樋・竹管→木樋・竹管○、第○号井戸跡→井戸○、第○号埋設嚢→嚢○
- 7 図中で使用した方位は真北を示す。なお、図表中には調査時に設定した任意の座標系の数字を用いた箇所がある。国家座標との対応関係は第Ⅲ章第1節・第Ⅳ章第1節を参照されたい。
- 8 本書では以下のものを遺構図にスクリーントーンで表した。
 焼土  粘土 ・―・― 攪乱 - - - 推定ライン
- 9 土層色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版 標準土色帖』に準拠している。
- 10 土器・陶磁器実測図の断面の塗り分けは、白：土師質土器、黒：陶磁器・瓦質土器である。
- 11 石製品の一部について、信州大学大塚勉特任教授による石材鑑定を受けた。
- 12 発掘調査実施と報告書作成にあたり次の方々からご指導、ご助言をいただいた。記して感謝申しあげる。
市川隆之、大橋康二、河西克造、金子健一、後藤芳孝、嶋谷和彦、住田正、高山優、中川治雄、中寫茂、松井一明、山下峰司、山本文子、綿田弘実、関西近世考古学研究会
- 13 引用・参考文献は、各節の最後に記載した。
- 14 本調査の出土遺物および写真・実測図等の記録類は、松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館（〒390-0823 長野県松本市中山3738-1 TEL 0263-86-4710 FAX 0263-86-9189）に収蔵・保管されている。

目次

例言

目次

第I章 調査の経過

第1節 調査の経緯	5
第2節 調査体制	5

第II章 遺跡の位置と歴史

第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	10

第III章 調査成果（土居尻1）

第1節 調査の概要	15
第2節 遺構	16

第IV章 調査成果（大名町3）

第1節 調査の概要	57
第2節 遺構	58

第V章 遺物

第1節 土器・陶磁器	90
第2節 瓦	151
第3節 木製品	157
第4節 漆器・漆工用具	164
第5節 石製品	168
第6節 金属製品	175
第7節 ガラス製品・その他材質製品	181
第8節 自然遺物	184

第VI章 漆器の考察	186
------------	-----

第VII章 調査のまとめ	193
--------------	-----

写真図版

報告書抄録



図1 調査地に建つ新博物館の外観（令和5年10月7日開館）

第 I 章 調査の経過

第 1 節 調査の経緯

1 平成 3 年度（土居尻 1）

松本市による（仮称）大手駐車場建設事業が計画され、周知の埋蔵文化財包蔵地である松本城跡（三の丸土居尻）に計画された。そのため松本市教育委員会（以下「市教委」という。）では、試掘調査を実施したところ、遺構・遺物が確認されたため、開発担当部局（松本市商工課）と遺跡保護協議を行い、破壊が避けられない範囲について発掘調査を実施し、記録による遺跡の保存を図ることとした。土地所有者の承諾書が市教委へ提出され、発掘調査を市教委が実施した。

現地での発掘調査は、平成 3 年 4 月 9 日から平成 3 年 7 月 19 日の期間まで実施した。調査終了後、平成 3 年 7 月 22 日付で長野県教育委員会（以下「県教委」という。）に発掘調査終了報告書を提出した。また平成 3 年 7 月 22 日付で埋蔵物発見届を松本警察署に提出し、平成 3 年 8 月 26 日付で県教委より埋蔵物文化財認定及び出土品の帰属についての通知を受けた。

平成 4 年度に一部の成果のみを掲載した概要報告書を刊行した。概要報告にとどめざるを得なかった理由は、整理用テンバコ 120 箱以上に達した膨大な出土遺物の整理作業にかかる費用、作業スペース、人員確保などが困難で、報告書刊行まで長期に及ぶ見込みであったからである。概要報告書刊行後も継続的に整理作業を続けた結果、平成 13 年度に「遺物編 2（木器編）」の報告書を刊行するに至った。その後、平成 31 年度に同調査地を含め一帯が再開発されることになり、発掘調査（大名町 3）を実施したため、その整理作業と合わせ令和 3 年度から本次調査分の整理作業を再開したものである。

2 令和元年度（大名町 3）

上記市営駐車場北棟跡地において松本市による基幹博物館整備事業が計画され、周知の埋蔵文化財包蔵地である松本城跡（三の丸大名町）に計画された。そのため市教委では、開発担当部局と遺跡保護協議を行い、破壊が避けられない範囲について発掘調査を実施し、記録による遺跡の保存を図ることとした。なお、開発範囲のおおよそ西側半分は、市営松本城大手門駐車場建設に先立ち上記のとおり平成 3 年度に記録保存が図られている。土地所有者の承諾書が市教委へ提出され、発掘調査を市教委が実施した。

現地での発掘調査は、平成 31 年 4 月 15 日から令和 2 年 2 月 14 日まで実施した。調査終了後、令和 2 年 3 月 24 日付で県教委に発掘調査終了報告書を提出した。また令和 2 年 2 月 21 日付で埋蔵物発見届を松本警察署に提出し、令和 2 年 3 月 3 日付で県教委より埋蔵物文化財認定及び出土品の帰属についての通知を受けた。それを受け令和 2 年 9 月 2 日付で出土文化財譲与申請書を県教委に提出し、令和 2 年 9 月 8 日付で出土文化財の譲与についての通知を受けた。

第 2 節 調査体制

〈平成 3 年度（土居尻 1）〉

調査団長：松村 好雄（松本市教育長）

調査担当：竹内靖長（主事）、伊丹早苗（嘱託）、市川 温（同）、和田政雄（同）

指導者：桐原 健

調査員：松尾明恵、宮嶋洋一

発掘協力者

因幡美津子、青木俊江、青木雅志、赤沼淳夫、赤沼皆子、赤羽包子、荒木潮彦、飯田三男、五十嵐周子、石合英子、

井上優、太田千尋、大谷成嘉、大塚袈裟六、岡部登喜子、荻野目竹男、荻野目良子、小沢公洋、小沢松栄、開嶋八重子、上條尚美、神沢ひとみ、北沢達二、窪田由美、久根下三枝子、小池愛子、小池直人、小岩井美代子、興喜義、小松正子、齊藤節子、齊藤延子、齊藤政雄、新谷禮子、瀬川長弘、袖山勝美、武田次良、竹田寿子、竹田徹、武田睦恵、田口吉重、田中幸子、谷本達治、堤加代子、鶴川登、出井久美子、出井建二、出井志都子、戸部清和、戸部慶隆、直井スガ子、中沢美登子、中島新嗣、中村恵子、中村安雄、中村文一、西村好、服部寛、花岡芳昭、林昭雄、原田賢一、平林薫、藤井源吾、藤井久子、藤井マツエ、藤沢ミツ、藤本嘉平、洞沢文江、牧久雄、松井恵美子、松尾さだ子、丸山恵子、三沢元太郎、三井千明、宮本清志、村松到子、村山牧枝、甕国成、百瀬縫代、百瀬二三子、森井柳三郎、山口卓美、横山恒雄、横山真理、横山保子、吉田勝、米山泰正、和田裕一

〈平成4年度（土居尻1概要報告書刊行）〉

調査団長：守屋立秋（松本市教育長）

調査担当：竹内靖長（主事）

調査員：宮嶋洋一

〈平成13年度（土居尻1報告書-遺物編2（木器編）-刊行）〉

調査団長：竹淵 公章（松本市教育長）

報告担当者：竹内靖長（主任）、太田万喜子（嘱託）、廣田早和子（二種臨時）

整理協力者：林和子、福島紀子、松山あずさ、村田昇司

〈令和元年度（大名町3）〉

調査団長：赤羽郁夫（松本市教育長）

調査担当：原田健司（主事）、吉澤せり子（事務員）、高山いず美（会計年度任用職員）、壬生量子（同）

発掘協力者

芦澤雅量、太田行信、鹿住浩、加藤朝夫、金井秀雄、川崎勝英、児玉雅世、坂口ふみ代、清水陽子、鈴木高、関口滋、関谷昌也、曾根原裕、田中勇一郎、田中雄次、鳥井和幸、長岩千晴、西村一敏、林秋好、古屋美江、三谷久美子、道浦久美子

〈令和3～5年度（整理作業）〉

調査団長：伊佐治裕子（松本市教育長）

整理・報告書担当：原田健司（主任）、西村奈美（会計年度任用職員 R5.4～）、大西理美（同）高山いず美（同）、壬生量子（同）、伊藤蔵之介（同～R5.3）

調査員：宮嶋洋一

整理協力者

赤羽幸子、荒井留美子、内城悦子、内田和子、小林秀行、佐々木正子、竹内直美、竹平悦子、辻彰江、富岡享子、直井知導、中澤温子、古幡大治朗、洞澤文江、前沢里江、丸山恵、三澤栄子、村山牧江、柳澤千代美

事務局

〈平成3・4年度〉

松本市教育委員会社会教育課

荒井 寛（社会教育課長）、田口 勝（課長補佐）、熊谷康治（課係長）、直井雅尚（主事）、関沢 聡（同）、木下 守（同）、久保田剛（事務員）、荒井由美（嘱託）、山岸弥生（同）

〈平成14年度〉

事務局：松本市教育委員会文化課

有賀一誠（課長）、熊谷康治（課長補佐 文化財担当係長）、田口博敏（同）、直井雅尚（主査）、武井義正（主任）、久保田剛（主任）、渡邊陽子（嘱託）、塚原祐一（同）

〈令和元・3～5年度〉

松本市教育委員会文化財課

大竹永明（課長～R2.3）、竹原 学（課長 R2.4～）、竹内靖長（埋蔵文化財担当係長～R元.3）、百瀬耕司（埋蔵文化財担当係長・主査）、草間厚伸（主任・主査 R3.4～）、吉見寿美恵（会計年度任用職員）

第Ⅱ章 遺跡の位置と歴史

第1節 地理的環境

1 松本城周辺の地形・地質

松本城が位置する松本盆地は、南北約 50km、東西約 10km、西部の北アルプスおよび東部の筑摩山地に挟まれた南北に長い盆地である。中心市街地は海拔 600m の等高線が円形に取り囲み、市内で最も標高が低くなっている。ここに田川・女鳥羽川・薄川などの河川が流れ込み、複合扇状地を形成している。

女鳥羽川は元々稲倉から岡田松岡に流れ、神沢の西から城山の山頂部を流れていたと思われる（古女鳥羽川）。市街地の地盤沈降と城山方面の隆起により川筋がしだいに東側へ移動して水汲方面へ流路を変えていったものと考えられ、そのため、女鳥羽川扇状地を開析して右岸には河岸段丘の発達が見られる。市街地の沈降地帯には一時四方から河川が流れ込み、低湿地（深志湖または沼と仮称）が形成された。薄川は三峰山北西斜面に源を発し、大小の支流を集めて西流し、田川に注ぐ。中流部は河岸段丘が発達し、下流部では舟付橋付近を扇頂として扇状地ができています。女鳥羽川扇状地と薄川扇状地の扇端部付近に築城された松本城は、扇状地の伏流水を利用して堀を造り、豊富な地下水や湧水は城内外の水源として利用されてきた。

ボーリング調査の結果によれば、市街地の地盤は地表面付近では河川の礫が、基盤となる第三紀層の上には 100m 前後の河川堆積物がのっている。深さ 40m 以下では、梓川の礫の混入がみられ、深くなるにつれ次第にその量が増加している。

2 調査地点の地形・地質

調査地点は松本市大手 2・3 丁目にあり、松本城天守の南約 370m、標高約 587m 前後に位置する。南側約 120m の位置には女鳥羽川が西流する。付近の旧地形は、三の丸全体で北東から南西にかけて緩やかに傾斜している。調査地点の現地形は概ね平坦であるが、西側へ緩く傾斜している。

土居尻 1 北区では、戦国時代末～現代までの整地土層が地山面を最大約 140cm 覆う。基本構成は現地表から -20cm までが碎石等現代の整地土層、-80cm までが明治期以降の整地土層、-140cm が幕末以前の整地土層である。出土遺物から、Ⅰ検は明治期以降、Ⅱ検は 18 世紀後半～幕末、Ⅲ検は 16 世紀末～18 世紀、Ⅳ検は 16 世紀後半～17 世紀前半であると考えられる。

大名町 3 では、戦国時代末～現代までの整地土層が地山面を最大 100cm 覆う。基本構成は、現地表から -30cm までが近代以降の建築基礎構造物等に伴う攪乱・碎石であり、地山層を掘り込むものもある。その直下 -30cm ～ -60cm までが幕末～明治期の整地土層、-90cm までが近世の整地土層である。Ⅰ検は幕末～近代、Ⅱ検は松本城築城期（16 世紀末）～幕末以前、Ⅲ検は 16 世紀末頃～17 世紀中葉と考えられる。Ⅱ検は出土遺物の時期幅が非常に長く、一方で整地盛土は約 20cm 程度と、土居尻 1 や他の三の丸跡調査でみられたような近世の厚い造成土と比較するとごく浅い。これは、調査地の旧地形は東側が微高地状であったため、西側では火災や住み替えの際に盛土造成を行ったことに対し、東側の大名町では地面を削平して整地を行ったことによるものと推察される。

土居尻 1 地点ではⅣ検直下、大名町 3 地点ではⅢ検直下において、地山である腐食した植物繊維を多く含むシルト層、粘質土層を確認した。大名町 3 Ⅲ検の遺構からは 9 世紀代の土器片が出土しており、調査地周辺では古代に何らかの土地利用があったと考えられる。

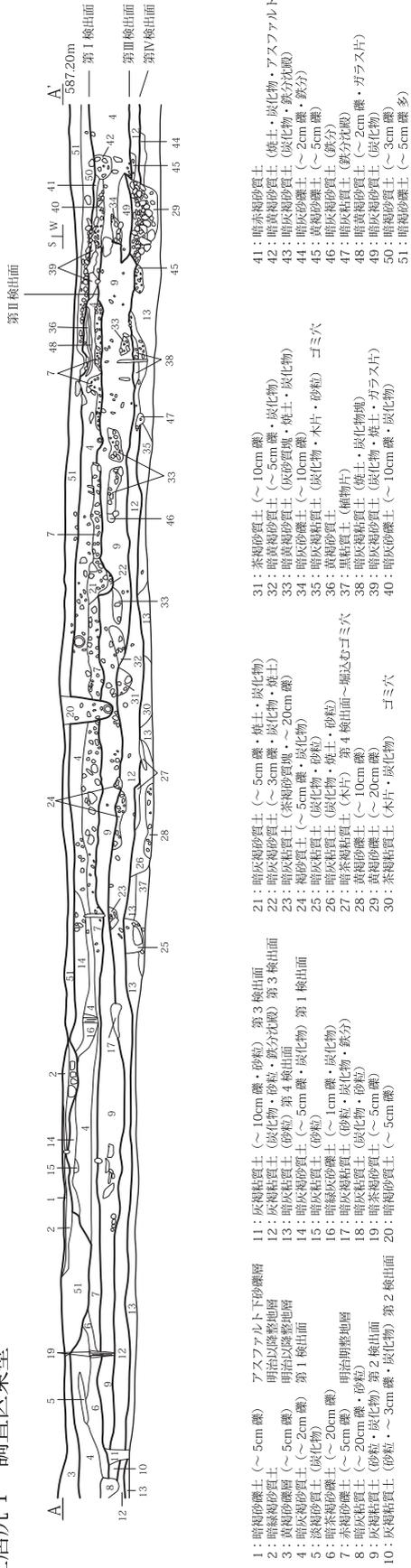


※数字は松本市遺跡台帳記載の遺跡番号

- | | | | |
|------------|------------|--------------|-----------|
| 148 沢村遺跡 | 156 女鳥羽川遺跡 | 165 筑摩遺跡 | 496 岡の宮遺跡 |
| 149 放光寺遺跡 | 157 松本城下町跡 | 172 井川城址 | 498 伊勢町遺跡 |
| 150 犬甘城址 | 158 丸の内遺跡 | 184 開き松古墳 | 499 土居尻遺跡 |
| 151 城山腰遺跡 | 159 大名町遺跡 | 185 饅頭塚古墳 | 500 片端遺跡 |
| 153 宮渚本村遺跡 | 161 県町遺跡 | 186 勢多賀神社裏古墳 | 510 堂町遺跡 |
| 154 蟻ヶ崎遺跡 | 162 本町南遺跡 | 494 松本城跡 | |
| 155 田町遺跡 | 163 渚城址 | 495 天神西遺跡 | |

図2 調査地の位置と周辺遺跡 (S=1/15000)

土居尻1 調査区東壁



大名町3 調査区南壁

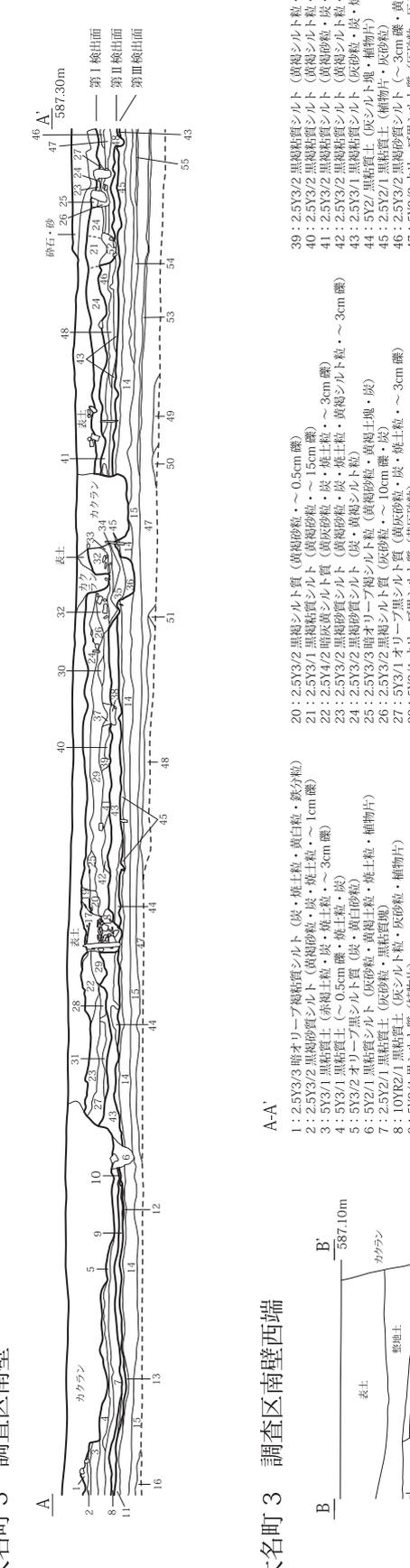
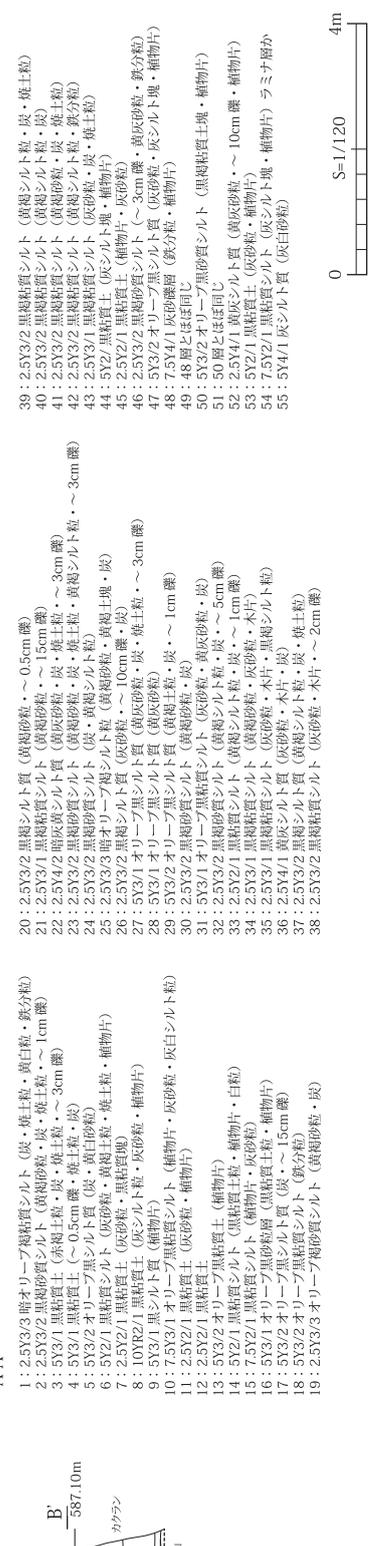


図3 土層断面図

大名町3 調査区南壁西端



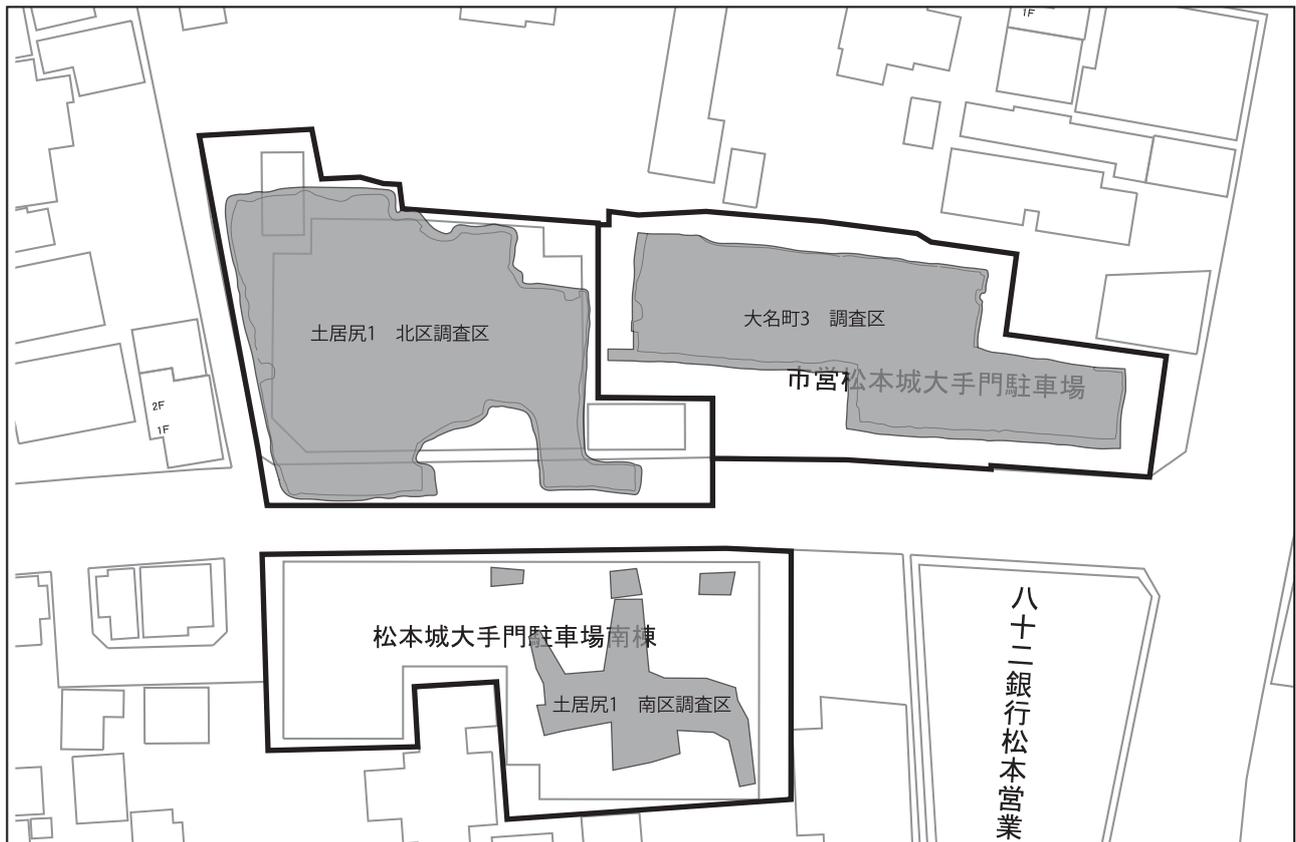


図4 事業対象地と調査区の範囲 (S=1/1000)

第2節 歴史的環境

1 原始～古代の周辺遺跡の概要

丸の内遺跡では日本銀行松本支店建設時に縄文時代中期から後期の土器片、大名町遺跡では縄文時代・中世の遺物、土居尻遺跡では平成12年度の調査で古墳時代の集落とみられる遺構を検出している。田町遺跡では縄文時代・古墳時代土器片、本町南遺跡では古墳時代・平安時代土器片、岡の宮遺跡では縄文時代・古墳時代土器片、伊勢町遺跡では中世遺構、片端遺跡では弥生時代土器片、堂町遺跡では古墳時代土器片の出土が現在まで確認されている。また、松本城三の丸跡土居尻5次では、8世紀後半から9世紀後半に帰属する遺物を伴う遺構が松本城三の丸跡内で初めて確認された。近年の三の丸跡の調査でも、松本城三の丸跡大名町2次や松本城三の丸跡土居尻11次・16次で平安時代の土器片を確認している。

2 深志城期

江戸時代、水野氏が編纂した「信府統記」によると、永正元年(1504)に信濃守護小笠原氏の一族である島右近(貞永)が、今の松本城辺りに城を移し「深志城」としたと伝えられている。元々は小笠原氏の家臣であった坂西氏が、深志の地に構えていた居館を拡張したと考えられる。この頃小笠原氏の本拠地は井川館(現在の井川城)から林城へと移転しており、深志城は本拠地を守る城塞の一つとされていた。

天文19年(1550)、甲斐の武田晴信(信玄)が松本平に侵攻以降、深志城は武田氏の信濃侵攻の拠点として拡張整備され、約32年間にわたり支配された。この間武田式の城郭整備がなされたとも言われるが、城郭の位置、規模、縄張りなどの詳細は明らかになっていない。近年の発掘調査では、松本城三の丸跡土居

尻2次で16世紀前半まで遡る薬研堀が、また松本城三の丸跡大名町1次では16世紀末に埋められた堀の跡が確認されているが、深志城に伴うものであるかは定かでない。松本城三の丸跡土居尻5次では、16世紀代に帰属する遺構・遺物が出土した層位面が、三の丸整備開始以前のもと考えられる。三の丸北東部で行った松本城三の丸跡柳町6次・7次では、近世武家地の下層に15世紀末から16世紀初頭の遺物を伴う整地層を確認しており、この層からは荷札木簡とみられる木製品も出土している。松本城築城以前のこの一帯は市辻・泥町の推定地にあたり、市があったとされる。このように従来不明とされてきた深志城期の痕跡が少しずつ明らかになっており、今後の調査でより解明が進むことが期待される。

3 松本城築城期

天正10年(1582)、武田氏の滅亡および本能寺の変を契機として、小笠原長時の三男貞慶が安曇・筑摩郡を回復し、深志城の名を「松本城」と改め、大規模な城郭整備にとりかかった。「信府統記」には、「〜其後深志ヲ改メ松本ノ城ト號シ大ニ普請ヲ企テ天正十三年乙酉ヨリ今ノ宿城地割シテ同十五年丁亥マテニ市辻泥町邊ノ町家残ラス本町ヘ引移シ〜」と記され、前述の市辻・泥町もこのときに本町へ移されたことがわかる。現在の松本城郭内ならびに城下町の原形はこのとき形成されたと思われるが、実際はどの程度の整備状況であったのかは不明である。その後天正18年(1590)に貞慶の後を継いだ小笠原秀政は、家康の関東移封に伴い、貞慶とともに下総古河へ移された。代わりに豊臣秀吉方の石川数正が入封し、松本の地一円の統治を任された。数正は城の普請や御殿の造営等を行い、その意思を継いだ子康長が天守を建て、郭内外の侍屋敷の整備に加え、総堀を深くし、土塁を築き、ここに近世城郭としての松本城が完成した。

4 近世の松本城

松本城の歴代城主は、石川数正から数え6家23人が務めた。石川氏の後は小笠原、戸田、松平、堀田と城主が交代するが在任期間は概ね短い。その後水野氏が6代83年間城主として在任、1726年からは再び戸田氏が治めることとなり、23代目城主となった光則の代で明治維新を迎えた。

松本城は本丸、二の丸、三の丸の3つの曲輪と、それぞれの曲輪を囲む内堀、外堀、総堀の3重の水堀からなる城郭部分と、その外側に広がる城下町で構成されている。三の丸には家老をはじめとする中級～上級家臣の屋敷地があり、南には大手門、東・西・北には馬出・門が設けられていたほか、葵馬場や作事所といった藩の施設や陽谷社(松本神社)などが存在していた。藩主がたびたび代われども、総堀より内側の郭内縄張りに大きな改変は行われず、石川氏時代の縄張りが概ね踏襲され続け、現在に至っている。

今回の調査地は三の丸内の南西部、大手門を通り左に折れた土手小路沿いに存在した武家屋敷地に位置する。武家屋敷は武士の身分や役職によって敷地面積や居宅の規模、内部構造、機能などに格段の差がある。城主の交代など様々な要因で住む武士が幾度も変わったため、その度に敷地や建物の配置などが作り変えられている。大名町通りに面した調査地東側には、特に上級武士の屋敷が配置されていた。

享保13年(1728)の絵図では、西から「友成権之丞」、「久米甚五左衛門」、「中村甚左衛門」、「笠井儀兵衛」等の名前が確認できる。18世紀後半に250石を与えられていた大名町の太田庄太夫家の間取りは、屋敷図(図6)が残されているため敷地面積が500坪前後、間口が約34m、奥行きは南側で最大約55mもあったことがわかる。その佇まいの様子は、屋敷地の周りを高堀が囲い、大名町に面した表には格式を誇る長屋門がたっていた。広大な敷地に書院造の邸宅をかまえ、そのなかには風雅な数寄屋風の部屋があり、作庭に風流を取り入れるなど、優雅な住生活が営まれていたことをうかがわせる。



図5 『享保十三年秋改松本城下絵図』（一部加筆・松本市教育委員会蔵）

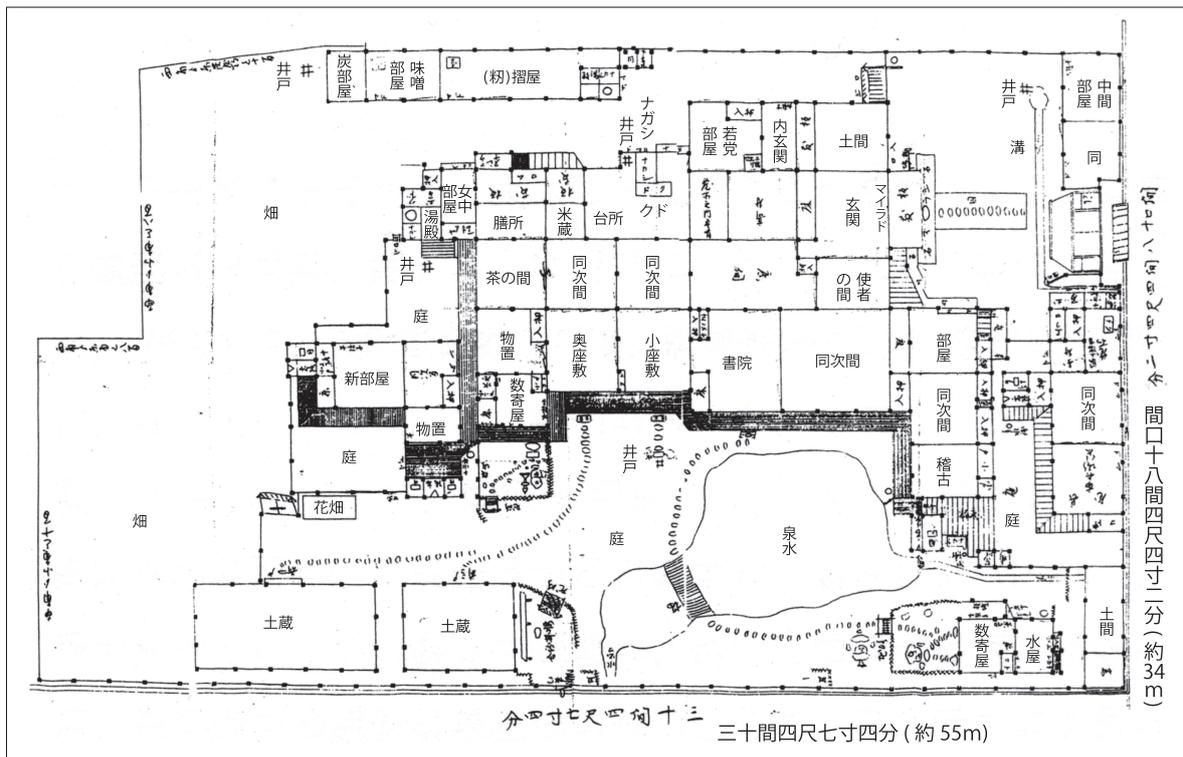


図6 太田庄太夫家の屋敷図（文献4より引用・追記）

5 明治以降の調査地

明治初期作成の絵図（図7）を見ると、「野々山」氏など近世から存在する武家の名前が確認できることから、維新後も引き続き居住していることがわかる。『松本市史』下巻によると、明治9年10月に本願寺の出張所が設けられ、明治13年に別院に昇格。その際、南総堀や土塁を払下げ埋立敷地としたとされる。明治15年に本堂等を竣工、明治20年に梵鐘を鋳たが、明治21年・23年に度重なる大火に見舞われ、本堂焼失等の大きな被害があった。その後本堂等は再建され継続、昭和24年には本願寺保育園が設置され、昭和30年に松本中央幼稚園に改名、昭和34年に現在の蟻ヶ崎地籍に園舎移転した^{文献16}。本願寺自体の移転時期もおそらくこの前後と考えられる。今回の調査では、本願寺松本別院の建築物の痕跡であろう遺構・遺物に加え、子ども用玩具が確認されたことから、土地利用の経緯と発掘調査の成果が一致する結果を得られた。その他、調査地西側付近には近代以降遊郭が存在していたという地元住民の証言を得られた。詳細は文献等では確認できなかったが、政府公認の横田遊郭とは異なる非公認の遊郭だったようである。

本願寺移転後から発掘調査直前までは、宅地や個人商店、駐車場、企業の営業所などが存在していた。

引用・参考文献

- 文献1・2 松本市 1933『松本市史』上・下巻
- 文献3～7 松本市 1995～1997『松本市史』第一巻、第二巻Ⅱ～Ⅳ、第四巻
- 文献8 江戸遺跡研究会 2001『図説 江戸考古学研究事典』
- 文献9 窪田雅之 監修・解説 2009『信州松本絵葉書集成』書肆秋櫻舎
- 文献10 窪田雅之 2013『近代松本地図集成』書肆秋櫻舎
- 文献11 松本市教育委員会 2016『松本城・城下町絵図集』
- 文献12 松本市教育委員会 2016『松本城三の丸跡を掘る』松本市文化財調査報告No.225
- 文献13 松本市教育委員会 2019『松本城下町跡本町第8次発掘調査報告書』松本市文化財調査報告No.234
- 文献14 松本市教育委員会 2022『松本城三の丸跡土居尻第5次発掘調査報告書』松本市文化財調査報告No.246
- 文献15 「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会 2022『松本城のすべて』渋谷文泉閣
- 文献16 松本中央幼稚園.“基本情報(あゆみ)”.松本中央幼稚園.

<http://www.chuouyouchien.com/aboutus.html>, (参照2023-10-19)

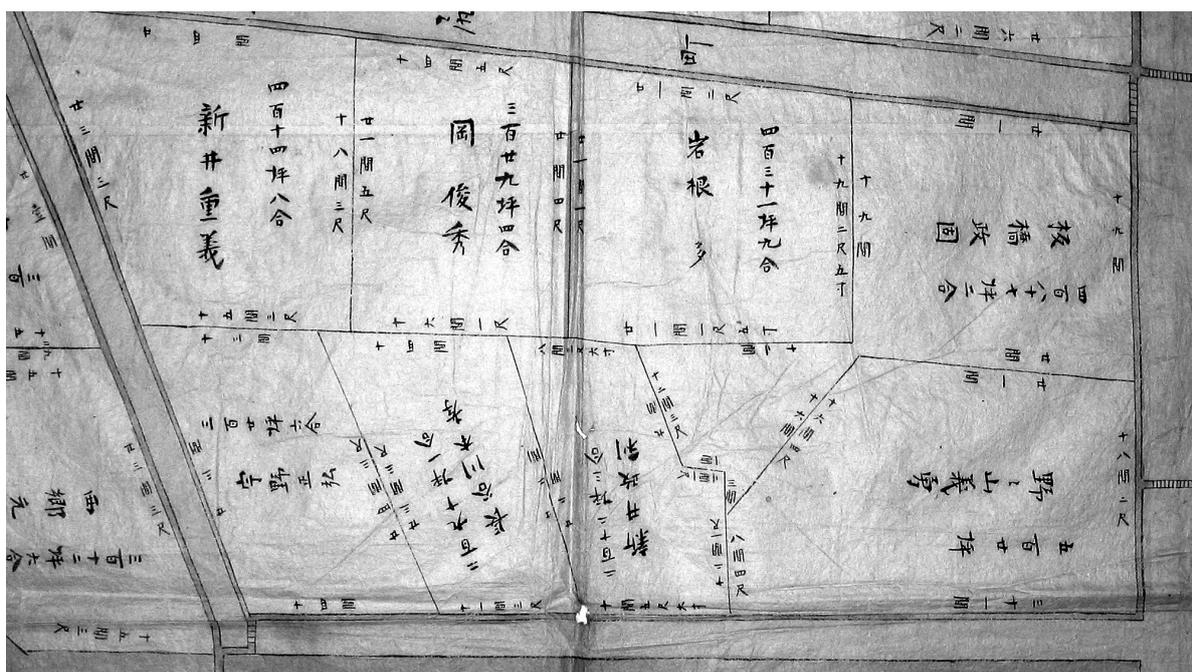


図7 明治時代初期の土族屋敷配置図（『筑摩郡松本図面三枚ノ内』より 松本市立博物館蔵）



図8 昭和10年頃の本願寺松本別院（写真中央）南東から撮影 文献9



図9 松本市全図（昭和28年）文献10
調査地点に寺院記号が記載されている

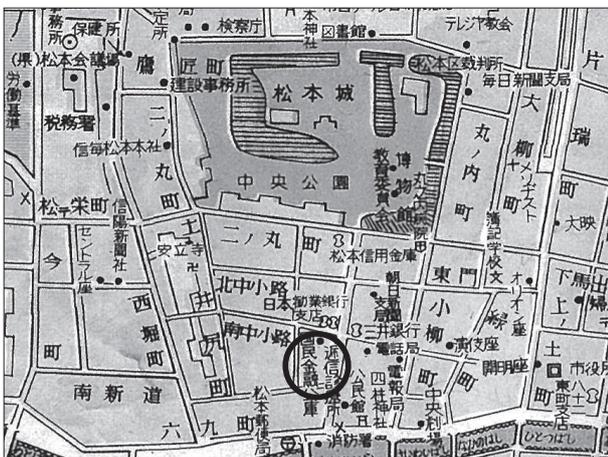


図10 松本市全図（昭和30年）文献10
調査地点から寺院記号が消えている

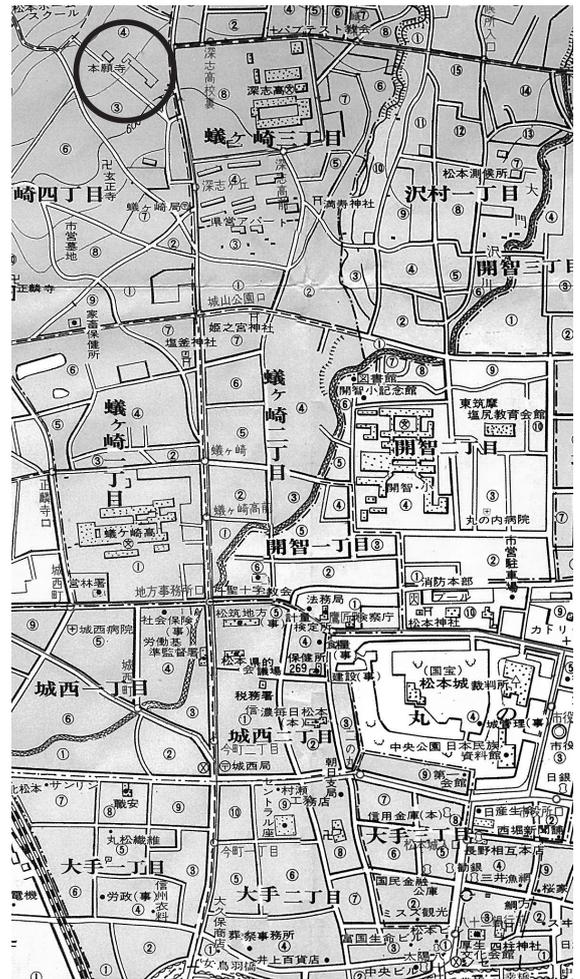


図11 松本市全図（昭和45年）文献10
現所在地に「本願寺」の名前を確認

第三章 調査成果（土居尻1）

第1節 調査の概要

1 調査区の設定

駐車場建設地のうち立体駐車場（北棟・南棟）が建設される範囲を対象とした。

2 発掘手順

パワーショベルを使用して攪乱土を除去し、最上面で検出された生活面をⅠ検とした。その後、人力による検出を行い、検出が完了した遺構から遺構番号を付与し、人力による掘り下げを開始した。なお、遺構番号は、検出面ごとに1号から順に付与し、さらに、混乱を避けるために北区Ⅲ検は301号から、北区Ⅳ検は501号から遺構番号を付与した。掘り下げの終了した遺構は、写真と測量図の作成による記録を行った。すべての遺構の掘り下げと記録が終了した後、重機を使用してⅡ検までの掘り下げを行った。その後、Ⅳ検まで同様の手順を繰り返した。最後に発生土による埋め戻しを行い、発掘調査の現場における工程を終了した。

3 測量・写真記録

遺構測量に係る基準は日本測地系の国家座標を用いたが、本書では大名町3と整合させるために世界測地系の座標（第8系・東北太平洋沖地震前の値）に変換した。調査地周辺にある街区多角点を基に調査地内に基準点を設置し、これを基に3mグリッドを設定した。測量基準点は、X=26240.000、Y=-47725.000をNSO、EWO（大名町3と共通）とした。平面図は簡易遣り方測量により作成した。なお、Ⅳ検は、株式会社日研コンサルに委託して写真測量により平面図を作成した。

平面図・断面図の縮尺は1/20を原則とし、詳細図が必要なものは1/10で作成した。写真は発掘調査の各調査段階と遺構等の遺物出土状況および完掘状況を、一眼レフカメラで撮影した。

4 整理の方法

図書類は平面図・土層断面図の点検・照合を行い、報告書に掲載するものはトレース作業を行った。遺物は洗浄・クリーニングを行った後、土器・陶磁器と瓦は注記（遺跡名、調査次、通し番号、帰属遺構名等）を行い、その他の遺物は台帳登録を行った。その後、遺構とその周辺単位で接合作業を行い、遺存度の良好なものや特徴的な遺物を中心に実測・トレースを行った。

5 調査区と検出面の概要

市営松本城大手門駐車場は道路を挟んで北側と南側の2カ所に建設予定であったため、発掘調査も北区と南区に分けて行った。北区は絵図との照合から、武家屋敷地内にあったことから面的な調査を進め、戦国時代末頃から明治時代前半までの4つの生活面を検出した。南区は絵図との照合から、南総堀・土塁内であると推定できるため、トレンチ調査を実施し、堀と土坡の位置や規模等を把握した。この調査で確認した堀位置ラインを、駐車場東側店舗前に平面表示した（写真図版6）。

北区において、Ⅱ検は上層のⅠ検で検出された建物跡や水道遺構の掘方部分等が当該検出面で検出・調査されている例はいくつかあり、整理段階で把握できたものについてはⅠ検に振り替えを行った。また、Ⅰ・Ⅱ検の検出面レベルはわずかであるため、Ⅰ検では検出できなかったが、出土遺物の時期からⅠ検に振り替えた遺構もある。

第2節 遺構

計4面の遺構検出面において、合計711の遺構が検出された。土坑・ピットについては、検出段階で長径50cm以上の遺構を土坑、それ未満のものをピットとした。そのため、遺構掘り下げ中に範囲が広がり、完掘状況が必ずしもこれにあっていないものもある。遺構名等の振替は、遺物保管との整合性のため、基本的には行わないが、異なる検出面で同遺構が異なる遺構名・番号が付されているケースは、上位検出面の遺構に統一したものや各検出面の遺構名称を統一した。また、整理段階で遺構名とその機能に大きな乖離がみられたものはその名称を変更した。

以下、各検出面について特徴的な遺構を中心に詳細を述べていく。

1 北区Ⅰ検の遺構

建物跡6軒、埋設甕14基、土坑1基、ピット16基、甕14基、石列7条、木材1か所を検出した。出土遺物から、当該面は近代の生活面と考えられる。

建1・3・4 胴木の上に栗石を敷き、石列を配置した布基礎である。本址と建2や土1等の基礎の軸はいずれも同じであるため、同一母屋の各部屋であると考えられる。

建2 上記と同様に布基礎であるが、胴木が認められず、栗石と石列のみ確認できた。

建6 4間×3間の礎石立ち建物である。礎石の下部に栗石はなく、直接地面の上に据えられている。位置関係から母屋から離れた場所に建てられた別棟ないし土蔵であったと推測される。

石列A～H 上記の建物跡の他に7条が確認できている。その位置関係から敷地境(石列A)や排水溝(石列G・H)、建物の付属施設(石列B・E・F)等に関わると想定される。

埋設甕 計14基が検出された。甕のサイズは規格化されているとみられ、いずれも径は60cm程を測る。2基ないし3基並ぶものもみられる。用途は便槽用等と考えられる。

木材A 南北方向に延びる布基礎の胴木と思われる。胴木の先には埋設甕が設置されていることや、建1等を含む母屋とは軸が異なることから屋外の厠跡か、別建物の厠跡である可能性が考えられる。

土1 最大幅約2.7m、深さ約0.4mを測り、底面から東西に延びる胴木が確認された。後世の攪乱等により上部の栗石や石列が認められず、掘方が非常に不明瞭であるが、検出状況から付近の建物群を構成する布基礎跡の一部である可能性が高い。

P1・2 礫が多量に投げ込まれており、礎石基盤の栗石の可能性が考えられるが、土の混入も多く断定は難しい。

P3 礎石と考えられる大型の礫が検出された。建物跡の一部と考えられるが、本址と対応する礎石は確認されていない。

P4・7・8・10・12 礫が多量に出土し土の混ざりは少ないため、礎石の基盤である栗石の可能性はある。

P16 礎石が検出され、その直下には栗石が敷き詰められている。

2 北区Ⅱ検の遺構

井戸跡9基、集水桝跡4基、木樋を伴う水道遺構9条、竹管を伴う水道遺構10条、桶6基、土坑9基、ピット36基、埋設甕9基を検出した。出土遺物から、当該面は18世紀後半から末頃の生活面と考えられる。

井戸1・4・7～12 桶底に竹管を接続するための穿孔が認められるものや地下に延びる竹管が検出されるもの、桶と竹管の両方が検出されるものがある。いずれも自噴井戸跡と考えられる。自噴井戸は、18世紀前半に江戸で初めてその掘削技術が現れ、その後各地域に広まったとされ^{文献1}、当検出面と時期的な整合

性がみられる。井戸 8 は桶底から大正時代のゴム印が出土しているため、廃絶は I 検造成に伴う時期であったと言える。

井戸 5 掘方を完掘していないため詳細は不明だが、検出した直径約 70cm の結桶の底面の内側に別の結桶の上部がわずかに確認できたため、結桶を積み重ねて井戸枠としたものと考えられる。

木樋・竹管（水道遺構） 導水のための管は、竹製のもの（竹管）と丸太を割り貫いたもの（木樋）の 2 種類が確認できる。水道遺構同士で切り合い関係がみられることから、複数の時期が認められる。井戸 1 と 8 はそれぞれ竹管 2 と 5 に接続しており、井戸水を離れた場所まで供給していることがうかがえる。

桶 2～6 桶底に自噴のための穿孔はなく、側面の 2 か所に高さの違う穿孔が認められ竹樋が接続されているため、水道遺構に伴う桶型の集水榭であると考えられる。

埋設甕 I 検同様に直径 60cm 程の甕が 9 基みつかった。2 基対になるように並んで検出される傾向が多くみられる（甕 15・16、甕 17・18、甕 21・22）。

土 1 サイズや遺物の出土状況からゴミ穴であると考えられる。出土遺物から江戸時代後期に帰属すると推定される。

土 3 多量の鉄滓と共に炭化物が出土している。

土 4 細かい木片が多量に認められ、ゴミ穴と思われる。

3 北区Ⅲ検の遺構

当該面で検出された遺構番号は、上位面との混乱を防ぐため 301 から付されている。建物跡 3 軒、池状遺構 1 基、木樋（水道施設）3 条、竹管（水道施設）6 条、溝状遺構 4 条、井戸跡 5 基、桶 9 基、集石遺構 1 基、土坑 126 基、ピット 111 基を検出した。すべての検出面の中で最も遺構密度が濃く、帰属時期も幅広い。出土遺物から、当該面は 16 世紀末～18 世紀の生活面と考えられる。

建 301 調査区北東隅に位置し、北側と東側は調査区外へ続く。ちょうど桶 305 が囲われるように幅約 0.4m、深さ 0.1～0.15m の溝が検出され、南側中央は幅 0.3m の隙間がみられる。南東隅あたりから溝が東に延び、さらに約 1.5m 南には東西に平行する溝（溝 304）も検出されており、これらも含め建物の布基礎跡と考えられる。

建 302 調査区中央西寄りに位置し、6 間（東西）×5.5 間（南北）の建物が想定される。南端と西端の一部において、礎石の下に胴木が設置されていた。

建 303 調査区中央東寄りに位置し、3 間（東西）×5 間（南北）で南東に張出しがある建物が想定される。建 302 と比べると礎石の利用もしくは残存が少ない。

井戸 304・308 直径約 65cm の結桶を積み重ねた井戸枠をもつ。井戸 304 は、結桶の上部に方形状に組まれた板材が設置されている。

井戸 306 隅柱に縦板や横棧等の枠材で組み立てた井戸枠をもつものである。掘方と井戸枠の間は掘削の際に発生したと考えられる砂礫で充填されていた。深さは 4.8m 以上を測る。

井戸 309・310 底面に竹筒が埋め込まれた自噴式の井戸跡である。

桶 9 基 検出された。桶 301～305 は、貯蔵や便槽等の用途が想定される。桶 306～309 は、側板に穿孔が認められ、水道遺構の一部である集水榭として使われたと考えられる。桶 306 と 307 はそれぞれ竹管 302 と 303 に接続している。

木樋・竹管（水道施設） II 検の水道管と同様、竹管と木樋の 2 種類が確認できる。出土位置は北西部と南東部に集中している。桶 306～309 のように桶を用いた集水榭のほか、立方体につくられた箱状の木製集水榭（竹管 301 と竹管 304 の接続部）もみられる。

溝 301 幅 0.8 ～ 1.8m、深さ約 0.4m の溝で両側に多数の杭が打たれていた。さらに、溝の中央部の最深部にも杭が打たれていた箇所が確認できた。絵図との合わせから、屋敷境に設けられた塀の基礎と考えられる。Ⅱ 検で検出された集石列が本址と重なることから、同遺構である可能性があり、Ⅱ 検時にも同じ位置に屋敷境が存在したとも考えられる。出土遺物から、本址は 16 世紀後半から 17 世紀前半に帰属すると考えられる。

池状遺構 長軸約 10.5m、短軸約 4.5m、深さ約 0.5m を測る。その規模と位置関係から屋敷地の中庭に設けられた池跡であると思われる。しかし、池跡とした場合、排水のための施設が確認できない。埋土からの遺物は比較的少なく、大名町 3 次の池跡（Ⅱ 検土 123）とは違い、廃絶時にゴミ穴として使われた形跡がみられない。

集石遺構 調査区東端に位置し、集石列が畝状に配列されている。東側と西側で列の軸が異なる。用途は不明である。

土 352・374・402 いずれも陶磁器や木製品等が多量に出土しており、ゴミ穴として使われたことがうかがえる。出土遺物から、土 352 は 16 世紀後半から 17 世紀前半に帰属すると考えられる。土 374・402 は、陶磁器の出土が少なく帰属時期は不明である。

土 356 礎盤と考えられる大礫が出土している。礎盤下には栗石はみられなかった。

土 371 長軸約 1.6m、短軸約 1.2m の方形に組まれた木枠が検出された。用途は不明である。

土 415 底面から筵を思わせる格子状に組まれた植物繊維が長軸約 1.4m の範囲で検出された。

土 430 遺物が多量に出土しておりゴミ穴と考えられるが、完形の土師質皿 3 点がまとめて出土している。出土遺物から、本址は 17 世紀前半に帰属すると考えられる。

P308 柱材の残る柱穴痕である。柱材は、約 9cm 角の角材が使用されている。掘方が確認できないため、柱材を打ち込んで設置したと考えられる。

P387 底面から φ 15cm 大の礫が複数出土している。礎石の栗石である可能性がある。

4 北区Ⅳ 検の遺構

当該面で検出された遺構の番号は、上位面との混乱を防ぐため 501 から付されている。建物跡 4 軒、溝状遺構 6 条、井戸跡 3、集石遺構 2 基、方形石列 1 基、木材 1 か所、土坑 101 基、ピット 182 基を検出した。出土遺物から、当該面は 16 世紀後～ 17 世紀前の生活面と考えられる。

建 502 調査区南東隅で、柱穴列が T 字状にみつきり、建物の基礎と考えられる。

建 504 東西に延びる溝の中に同軸に胴木が敷かれ、それを固定するように礫がおかれている。建物の布基礎跡であると考えられる。近辺で検出された土 576 や土 604 も関連する遺構と考えられる。

建 505 調査区南西隅に位置する南北に長い建物の柱穴列である。隣接する建 502 と軸が似ていることから、両者が関連するものと思われる。

建 506 調査区南東隅に位置し、建 505 と切り合い関係にある。柱穴列の軸も建 505 と若干異なる。

土坑・ピット列 土 579 を北端に P584 との間で列状に並ぶ一連の土坑・ピットは、上位検出面で確認された敷地境と考えられるⅢ 検溝 301 とほぼ同位置にあたる。

柱穴列 上記以外では調査区中央やや北寄りにピットの列がみられる。建物になりうるような配置はなく、塀や柵等の基礎であると推測する。

井戸 501 木製でできた井戸枠で平面形は方形を呈し、四隅に支柱を据え縦板を組んで造られている。軟弱地盤のため底面までは調査が及ばなかったが、深さは少なくとも 2.8m 以上であることがわかった。

井戸 502 長径約 1.7m、深さ 1.2m で、平面形はやや楕円を呈すが、円筒形に掘り込まれている。壁面

がほぼ垂直に立ち上がっていることから、素掘りの井戸跡と扱ったが、井戸 501 と比較すると非常に浅いため、他の可能性も検討する必要がある。例えば、掘方は実際まだ深い可能性、未完成の井戸である可能性、ゴミ穴などの別用途である可能性等が考えられる。埋土の出土遺物から本址は 17 世紀末から 18 世紀に帰属するため、上層の生活面を造成する際に埋められたものであろう。

溝 501 東西に延びる幅 0.5 ～ 0.9m の 2 条の溝で同軸に位置しているため一括に扱った。2 条の溝の間隔は約 1.2m あり、西側の溝の一部のプランは不明瞭であったが、両者ともに同規模の長さを測る。

溝 502 調査区の東西を分断するように南北に長く延びる。付近にある敷地境遺構と推測される土坑・柱穴列やⅢ検溝 301 と同様の用途であると思われる。また、切り合い関係と出土遺物から土坑・ピット列より古く、松本城築城期の敷地境である可能性が高い。

溝 503 幅 0.8 ～ 1.4 m で東西に延びる。西端は溝 505 に切られ、東端はプランが不明瞭になる。溝 501 と似た軸上に位置しているため、両者に関係性が感じられる。出土遺物から、本址は 16 世紀後半から末に帰属すると考えられる。

溝 504 竹樋が検出されていることから水道遺構であると考えられる。出土遺物から、本址は 16 世紀末から 17 世紀前半に帰属すると考えられる。

溝 505 出土遺物から、本址は 15 世紀末から 16 世紀前半に帰属すると考えられる。溝 501 ・ 503 と合わせて松本城築城前の中世的な方形区割りに関連する溝状遺構の可能性がうかがえる。

方形石列 一辺約 100cm の方形の坑の西側を除く 3 方向の壁面際と底面に直径 20 ～ 30cm 大の円礫が設置されている。礫の表面には被熱等の使用痕跡は認められず、用途は不明である。

集石 501 長軸約 2.7m、短軸約 1.8m を測る不整形の坑に直径 5 ～ 20cm 大の礫が多量に検出された。礫が敷き詰められたというよりは、投げ込まれた様相であった。

土 586 本址内にⅡ検井戸 9 の自噴用の竹管が検出されたため、その掘方である可能性がある。

土 561 ・ P579 ・ P580 建物跡の軸とは異なり、調査区南側の東西の道である土手小路に平行に接するため、敷地境に関する遺構であると考えられる。

5 南区の遺構（総堀・土塁跡）

絵図との照合から、調査対象地は土塁南半から総堀にかけての範囲と推定され、トレンチ調査の結果ほぼ絵図と一致するように総堀北側の立ち上がり部分を検出した。

土塁の盛土上部は近代に削平されているが、基底部分付近で厚さ 0.6m の盛土が確認できた。西総堀土塁や他地点でみられる異なる土質の土を混ぜて突き固めた版築土は確認できず、近世整地土に似た粘質土層が認められた。総堀の埋土は砂礫の堆積であった。

土塁法尻と総堀法面との境界と考えられる位置に杭列が検出された。平成 16 ・ 17 年度の東総堀跡や西総堀跡、平成 26 年度の土居尻第 5 次調査の際には、杭列が設置される場所はテラス状に造られていることが判明しているが、本次調査では判明するに至らなかった。杭の設置状況や密度は他地点で検出された杭列と酷似した様相がみられる。また、杭列の位置は「享保十三年秋改松本城下絵図」に重ね合わせて（図 5）みると、ほぼ土塁と総堀の接点にあたり、絵図の正確性がよくわかる。

〈参考文献〉

文献 1 鐘方正樹 2003 『井戸の考古学』 「ものが語る歴史 8」 同成社

表 1 土居尻 1 土坑一覧表

検出面	土坑 No.	平面形	規模 (cm)			備考	その他
			長径	短径	深さ		
I	1	不整形	348	308	44	底面に胴木あり	建物基礎か
II	1	楕円形	260	98	32		
II	2	楕円形	129	100	20		
II	3	楕円形	114	58	12		
II	4	楕円形	102	68	35		
II	5	楕円形	181	86	16		
II	6	欠番					
II	7	円形	128	111	21		
II	8	楕円形	74	56	7		
II	9	円形	62	50	8		
III	301	楕円形	166	112	30		
III	302	不整形	190	114	18		
III	303	欠番					
III	304	楕円形	83	71	5		
III	305	楕円形	126	84	24		
III	306	楕円形	68	26	11		
III	307	楕円形	77	35	9		
III	308	楕円形	49	36	8	木材あり	
III	309	円形	56	56	22		
III	310	円形	58	56	13		
III	311	楕円形	88	54	12		
III	312	楕円形	112	96	39		
III	313	円形	124	96	10		
III	314	楕円形	98	68	12		
III	315	円形	118	104	17		
III	316	楕円形	100	84	9		
III	317				18		
III	318	楕円形	132	76	16		
III	319	欠番					
III	320	不明	-	-	-		
III	321	楕円形	97	54	14		
III	322	楕円形	104	81	15		
III	323	円形?	109	<81>	16		
III	324	不明	-	-	-		
III	325	楕円形	64	54	9		
III	326	方形	64	60	7		
III	327	楕円形	94	78	56		
III	328	円形	102	96	25		
III	329	円形	96	88	37		
III	330	楕円形	<160>	90	15		
III	331	円形	55	42	13		
III	332	不整形	265	125	14		
III	333	円形	61	58	11		
III	334	不整形	148	<106>	17		
III	335	楕円形	77	60	5		
III	336	楕円形	123	84	76		
III	337	楕円形	68	34	14		
III	338	楕円形	150	71	16		
III	339	欠番					
III	340	楕円形	210	108	64		
III	341	隅丸方形	221	171	26		
III	342	楕円形	189	84	43		
III	343	楕円形	72	54	15		
III	344	楕円形	76	58	15		
III	345	楕円形	177	131	28		
III	346	不整形	188	(90)	9.8		
III	347	不整形	221	114	13		
III	348	楕円形	80	49	16		
III	349	楕円形	54	36	13		
III	350	円形	62	54	8		
III	351	隅丸方形?	130	101	16		
III	352	楕円形	140	80	46	遺物多あり	ゴミ穴か
III	353	円形	54	52	38	底面に礫あり	
III	354	欠番					
III	355	円形	60	53	22		
III	356	円形	49	44	20	底面に礫あり	
III	357	円形	56	54	21		
III	358	円形	118	108	37	底面に礫あり	
III	359	円形	78	<44>	9		
III	360	不整形	84	62	9		
III	361	楕円形	72	46	12		
III	362	楕円形	231	173	35		
III	363	隅丸長方形	152	78	10		
III	364	楕円形	130	78	69		
III	365	楕円形	266	62	30		
III	366	楕円形	73	34	20		
III	367	楕円形	76	32	10		

検出面	土坑 No.	平面形	規模 (cm)			備考	その他
			長径	短径	深さ		
III	368	不整形	245	169	46	遺物・骨・礫多あり	
III	369	楕円形	67	54	10		
III	370	円形	104	82	20		
III	371	方形	170	166	61	木枠あり	
III	372	楕円形	126	74	9		
III	373	楕円形	58	31	16		
III	374	楕円形	92	24	20		
III	375	円形	64	50	12		
III	376	円形	116	114	20		
III	377	楕円形	81	63	21		
III	378	円形	62	56	15		
III	379	円形	96	80	6		
III	380	楕円形	121	65	8		
III	381	円形	60	50	13	杭あり	
III	382	楕円形	83	52	36		
III	383	円形	74	70	4		
III	384	円形	66	57	6		
III	385	円形	96	94	12		
III	386	欠番					
III	387	円形	54	48	18		
III	388	楕円形	78	59	16		
III	389	楕円形	100	60	30		
III	390	不整形	158	100	10		
III	391	円形	56	53	16	杭あり	
III	392	円形	50	50	17	礫多あり	
III	393	円形	55	48	3		
III	394	楕円形	144	90	18		
III	395	円形	126	126	29	礫多あり	
III	396	円形	68	60	14	杭あり	
III	397	円形	60	46	8		
III	398	欠番					
III	399	楕円形	116	93	17		
III	400	不整形	190	150	22		
III	401	円形	104	101	17	杭あり	
III	402	楕円形	134	94	47	木片多あり	
III	403	欠番					
III	404	円形	72	68	48		
III	405	円形	52	50	8		
III	406	円形	82	74	23	礫多あり	
III	407	楕円形	123	94	62		柱穴痕か
III	408	楕円形	<97>	121	58		
III	409	円形?	<63>	<62>	64		
III	410	楕円形?	104	<30>	8		
III	411	楕円形?	66	<60>	12		
III	412	楕円形	188	39	8		
III	413	楕円形	140	70	9		
III	414	楕円形	<87>	64	40		
III	415	楕円形	316	102	56	礫と木片多あり	
III	416	不整形	476	133	68		
III	417	不明	<96>	<78>	13		
III	418	円形	104	96	58	礫多あり	
III	419	円形	94	86	40		
III	420	欠番					
III	421	楕円形	89	56	18		
III	422	楕円形	78	50	6		
III	423	円形	90	<67>	8		
III	424	楕円形?	<102>	103	36		
III	425	不整形	262	<162>	31		
III	426	隅丸方形	102	78	25		
III	427	楕円形	88	60	41		礎石
III	428	楕円形	106	78	20		
III	429	欠番					
III	430	不整形					
III	431	円形	70	64	20		
III	432	欠番					
III	433	不整形?					
III	434	楕円形?					
III	435	不整形					
III	436	楕円形?					
IV	501	楕円形	114	34	7		
IV	502	円形	68	58	13	柱材あり	柱穴痕
IV	503	円形	52	52	48		建 506
IV	504	欠番					
IV	505	楕円形	76	35	12		
IV	506	円形	134	<80>	13		
IV	507	円形	72	68	40		
IV	508	円形	56	52	11		
IV	509	楕円形	40	26	9		
IV	510	楕円形	118	94	17		

検出面	土抗 No	平面形	規模 (cm)			備考	その他
			長径	短径	深さ		
IV 511	楕円形	57	33	38		建 506	
IV 512	楕円形	158	60	21			
IV 513	楕円形	106	52	10			
IV 514	円形	60	58	15		柱穴痕	
IV 515	円形	70	52	8		礎石	
IV 516	円形	65	58	42		礎石	
IV 517	楕円形	-	-	12			
IV 518	円形	80	60	8			
IV 519	楕円形	123	86	7			
IV 520	楕円形	60	38	17			
IV 521	楕円形	-	-	-			
IV 522	楕円形	288	142	8	礎多あり		
IV 523	楕円形	56	30	11	柱材あり	柱穴痕	
IV 524	楕円形	166	80	6	未掘		
IV 525	円形	74	56	12			
IV 526	円形	54	51	46		柱穴痕	
IV 527	楕円形	180	112	11			
IV 528	不整形	-	-	-			
IV 529	楕円形	122	80	7			
IV 530	隅丸長方形	146	80	16			
IV 531	円形?	114	<66>	12			
IV 532	円形	82	72	32			
IV 533	円形	120	105	38			
IV 534	楕円形	104	62	8			
IV 535	円形	57	45	57		柱穴痕	
IV 536	円形	68	52	9			
IV 537	楕円形	120	60	7			
IV 538	楕円形	204	102	14			
IV 539	円形	<57>	58	25			
IV 540	円形	66	52	11			
IV 541	楕円形	92	<46>	15			
IV 542	楕円形	92	76	16			
IV 543	欠番						
IV 544	楕円形	130	108	63		礎石	
IV 545	長円形	320	65	18			
IV 546	楕円形	82	72	32			
IV 547	楕円形	84	56	6			
IV 548	楕円形	80	34	12			
IV 549	円形	48	36	17			
IV 550	楕円形	120	42	14			
IV 551	楕円形	72	46	12			
IV 552	円形	54	50	27			
IV 553	楕円形	<64>	38	21			
IV 554	楕円形	82	38	11			
IV 555	楕円形	84	56	12			
IV 556	円形	106	95	28			
IV 557	円形	40	24	12			
IV 558	長円形	184	58	26			
IV 559	円形	56	50	11			
IV 560	欠番						
IV 561	円形	42	42	10			
IV 562	円形	48	40	22			
IV 563	円形	43	40	15			
IV 564	円形	40	40	22			
IV 565	円形	92	83	33			
IV 566	円形	54	40	28			
IV 567	円形	36	<28>	15		建 506	
IV 568	楕円形	<76>	48	13			
IV 569	楕円形	74	<8>	26			
IV 570	不整形	<194>	122	8			
IV 571	円形	80	64	24	礎多あり		
IV 572	楕円形	<136>	86	17			
IV 573	欠番						
IV 574	円形	54	46	30			
IV 575	円形	63	54	12		礎石	
IV 576	楕円形	83	53	12		礎石	
IV 577	楕円形	116	60	40			
IV 578	円形	52	34	15	礎多あり		
IV 579	円形	86	69	25	柱材か		
IV 580	円形	62	54	25	礎多あり	柱穴痕か	
IV 581	楕円形	(71)	51	36	底面に礎あり		
IV 582	楕円形	94	70	15			
IV 583	楕円形	50	30	10			
IV 584	円形	84	76	52		ゴミ穴か	
IV 585	円形	58	48	5			
IV 586	楕円形	188	109	112			
IV 587	円形	46	46	29			
IV 588	円形	128	114	32			
IV 589	楕円形	154	91	30			
IV 590	円形	60	40	18			

検出面	土抗 No	平面形	規模 (cm)			備考	その他
			長径	短径	深さ		
IV 591	楕円形	76	45	10			
IV 592	円形	70	66	5			
IV 593	長円形	<52>	20	21			
IV 594	長円形	72	55	12			
IV 595	円形	88	70	14	礎多あり	建 503	
IV 596	円形	68	58	12			
IV 597	長円形	<190>	76	20			
IV 598	楕円形	80	48	20			
IV 599	円形	<80>	78	11			
IV 600	楕円形	73	62	42			
IV 601	欠番						
IV 602	楕円形	71	42	-			
IV 603	楕円形	68	46	-			
IV 604	楕円形	120	70	-			
IV 605	円形?	150	<50>	-			

※ () 内数値は残存値、< > 内数値は推定値を表す

表 2 土居尻 1 ピット一覧表

検出面	PIT No	平面形	規模 (cm)			備考	その他
			長径	短径	深さ		
I 1	円形	90	76	38	礎多あり	礎石か	
I 2	楕円形	120	98	34	礎多あり		
I 3	楕円形	80	56	10		礎石か	
I 4	円形	76	74	26	礎多あり		
I 5	楕円形	116	86	26	礎多あり		
I 6	欠番						
I 7	円形	76	66	21	礎多あり		
I 8	円形	84	68	22	礎多あり		
I 9	円形	104	82	36	礎多あり		
I 10	円形	100	81	17			
I 11	円形	83	72	12			
I 12	円形	67	61	13			
I 13	円形	82	70	12			
I 14	楕円形	< 74 >	84	11			
I 15	円形	71	66	15			
I 16	円形	95	79	56		礎石か	
I 17	欠番						
I 18	欠番						
II 19	円形	52	40	8			
II 20	円形	45	43	5			
II 21	円形	40	39	6			
II 22	円形	36	30	8			
II 23	円形	40	40	16			
II 24	不明	-	-	-			
II 25	不明	-	-	-			
II 26	楕円形	144	64	12			
II 27	円形	121	104	18			
II 28	楕円形	61	44	21			
II 29	楕円形	81	56	11			
II 30	円形	46	40	9			
II 31	円形	84	76	9			
II 32	楕円形	108	56	9			
II 33	円形	60	58	22	礎多あり		
II 34	円形	64	49	24	礎多あり		
II 35	円形	40	32	14			
II 36	円形	64	52	9			
II 37	円形	64	46	16			
II 38	円形	36	27	16			
II 39	円形	24	19	12			
II 40	楕円形	94	60	8	礎多あり		
II 41	円形	64	64	20			
II 42	円形	56	44	13			
II 43	円形	56	49	14			
II 44	円形	24	22	5			
II 45	円形	44	42	22			
II 46	円形	30	26	8			
II 47	円形	36	31	19			
II 48	円形	60	58	11			
II 49	円形	35	33	8			
II 50	楕円形	90	66	22	礎多あり		
II 51	円形	26	24	10			
II 52	円形	46	44	8			
II 53	円形	26	26	6			
II 54	円形	34	28	7			
III 301	円形	40	33	6			
III 302	円形	36	30	12			
III 303	円形	56	42	7			

検出面	PIT No.	平面形	規模 (cm)			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅲ	304	円形	34	32	12		
Ⅲ	305		欠番				
Ⅲ	306	円形	30	24	7		
Ⅲ	307	円形	21	18	8		
Ⅲ	308	円形	36	34	16	杭あり	
Ⅲ	309		欠番				
Ⅲ	311		欠番				
Ⅲ	312	円形	44	26	22		柱穴痕か
Ⅲ	313	円形	40	39	5		
Ⅲ	314	円形	38	32	5		
Ⅲ	315	円形	30	26	5		
Ⅲ	316	円形	<30>	30	7		
Ⅲ	317	円形	22	20	6		
Ⅲ	318		欠番				
Ⅲ	319	円形	16	12	3		
Ⅲ	320	円形	<20>	20	3		
Ⅲ	321	円形	28	24	4		
Ⅲ	322	円形	42	42	27		
Ⅲ	323	円形	32	<30>	3		
Ⅲ	324	円形	28	26	10		
Ⅲ	325	円形	48	48	8		
Ⅲ	326	円形	36	32	6		
Ⅲ	327	円形	31	24	33		
Ⅲ	328	円形	34	30	14		
Ⅲ	329	円形	30	28	12		
Ⅲ	330	円形	46	41	15		
Ⅲ	331	楕円形	52	38	8		
Ⅲ	332	楕円形	34	23	20		
Ⅲ	333	楕円形	51	40	9		
Ⅲ	334	円形	48	42	11		
Ⅲ	335	円形	19	17	11		
Ⅲ	336	円形	18	15	5		
Ⅲ	337	楕円形	50	30	9		
Ⅲ	338	円形	23	23	10		
Ⅲ	339	円形	36	33	12		
Ⅲ	340	円形	37	36	7		
Ⅲ	341	円形	39	32	7		
Ⅲ	342	円形	49	42	14		
Ⅲ	343	円形	46	42	10		
Ⅲ	344		欠番				
Ⅲ	345	円形	52	50	11		
Ⅲ	346	円形	44	44	15		
Ⅲ	347	円形	36	33	6		
Ⅲ	348		欠番				
Ⅲ	349		欠番				
Ⅲ	350	円形	21	20	5		
Ⅲ	351	円形	39	36	10		
Ⅲ	352	円形	28	26	9		
Ⅲ	353	円形	26	24	11		
Ⅲ	354	円形	40	38	12		
Ⅲ	355	円形	36	34	8		
Ⅲ	356	円形	31	30	8		
Ⅲ	357	円形	34	30	9		
Ⅲ	358	円形	36	30	11		
Ⅲ	359	円形	45	28	4		
Ⅲ	360	円形	26	23	7		
Ⅲ	361	円形	34	34	17	杭あり	
Ⅲ	362	円形	52	50	13		
Ⅲ	363	円形	35	29	4		
Ⅲ	364		欠番				
Ⅲ	365	円形	18	14	5		
Ⅲ	366	円形	45	40	21		
Ⅲ	367	円形	30	28	10		
Ⅲ	368	円形	40	38	39		
Ⅲ	369	円形	37	30	14		
Ⅲ	370	円形	60	<46>	21		
Ⅲ	371	円形	49	48	23		柱穴痕か
Ⅲ	372	円形	32	26	8		
Ⅲ	373	円形	40	36	9		
Ⅲ	374	円形	28	24	8		
Ⅲ	375	楕円形	47	26	14		
Ⅲ	376	円形	36	32	12		
Ⅲ	377		欠番				
Ⅲ	378	円形	42	42	21		
Ⅲ	379		欠番				
Ⅲ	380		欠番				
Ⅲ	381	円形	44	40	15		
Ⅲ	382	円形	27	24	24		
Ⅲ	383	円形	40	38	16		
Ⅲ	384	円形	<44>	40	9		礎石

検出面	PIT No.	平面形	規模 (cm)			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅲ	385	円形	24	24	17		
Ⅲ	386	円形	34	27	16		
Ⅲ	387	円形	44	40	8	礫多あり	
Ⅲ	388		欠番				
Ⅲ	389	円形	40	30	21		
Ⅲ	390	円形	50	50	9		
Ⅲ	391	楕円形	70	51	55		
Ⅲ	392	円形	22	18	10		
Ⅲ	393	円形	24	24	18		
Ⅲ	394		欠番				
Ⅲ	395	円形	34	29	11		
Ⅲ	396	円形	14	14			
Ⅲ	397	円形	12	12	4		
Ⅲ	398	円形	27	25	10		
Ⅲ	399	円形	44	36	3		
Ⅲ	400	円形	28	28	4		
Ⅲ	401	円形	33	32	5		
Ⅲ	402	円形?	<40>	42	12		
Ⅲ	403		欠番				
Ⅲ	404	円形	30	26	9		
Ⅲ	405	円形	34	32	11		
Ⅲ	406	円形	32	25	8		
Ⅲ	407	円形	36	32	24		
Ⅲ	408	円形	40	40	7		
Ⅲ	409	円形	46	38	5		
Ⅲ	410	円形	36	30	7		
Ⅲ	411	円形	44	40	20		
Ⅲ	412	円形	52	34	4		
Ⅲ	413	円形	26	16	13		
Ⅲ	414	円形	46	44	9		
Ⅲ	415	円形	34	28	8		
Ⅲ	416	円形	48	42	26		
Ⅲ	417		欠番				
Ⅲ	418	楕円形	28	18	3		
Ⅲ	419		欠番				
Ⅲ	420	円形	50	38	12		
Ⅲ	421	円形	30	28	10		
Ⅲ	422	円形	28	22	6		
Ⅲ	423		欠番				
Ⅲ	424		欠番				
Ⅲ	425	円形	48	42	28		礎石
Ⅲ	426	円形	30	26	22		
Ⅲ	427	楕円形	68	43	8		
Ⅲ	428	楕円形	40	20	19		
Ⅲ	429	円形	40	39	7		
Ⅲ	430	円形	42	40	8		
Ⅳ	501	円形	20	18	7		
Ⅳ	502	円形	36	32	28		
Ⅳ	503	円形	42	36	23	柱材あり	建 505
Ⅳ	504	円形	44	36	34		建 506
Ⅳ	505	円形	48	47	28		建 506
Ⅳ	506	円形	34	33	26		建 505
Ⅳ	507	円形	16	14	5		
Ⅳ	508	円形	43	42	28	礎石あり	建 506
Ⅳ	509	円形	58	50	7		建 506
Ⅳ	510	円形	42	37	34		建 506
Ⅳ	511	円形	43	54	18		柱穴痕
Ⅳ	512	楕円形	82	28	13		
Ⅳ	513		欠番				
Ⅳ	514	円形	20	20	5		
Ⅳ	515	円形	369	34	15		柱穴痕か
Ⅳ	516	円形	58	42	10		
Ⅳ	517	円形	37	31	45		
Ⅳ	518	円形	36	34	12		
Ⅳ	519	円形	34	34	5		
Ⅳ	520	円形	54	46	7		
Ⅳ	521	円形	32	30	31		
Ⅳ	522	円形	46	42	33		
Ⅳ	523	不明	-	-	-	腐食木材	
Ⅳ	524	楕円形	24	16	9		
Ⅳ	525	円形	45	30	25		
Ⅳ	526	円形	38	36	26		
Ⅳ	527	円形	44	43	20		
Ⅳ	528	楕円形	73	60	11		
Ⅳ	529	円形	42	40	15		
Ⅳ	530	円形	43	40	12		
Ⅳ	531	円形	38	34	5		
Ⅳ	532	円形	40	36	21		礎石か
Ⅳ	533	円形	35	33	18		
Ⅳ	534	円形	44	40	7		

検出面	PIT No	平面形	規模 (cm)			備考	その他	
			長径	短径	深さ			
IV 535		円形	20	16	18			
IV 536		円形	32	32	7		柱穴痕	
IV 537		円形	62	39	20			
IV 538		円形	48	38	29			
IV 539		円形	27	24	28	礫多あり	柱穴痕	
IV 540		円形	47	46	6			
IV 541		円形	43	41	12		礎盤石	
IV 542		円形	34	33	12	礎盤あり	建 505	
IV 543		円形	53	50	27	礫多あり	建 502	
IV 544		楕円形	18	10				
IV 545		楕円形	16	8				
IV 546		円形	30	<18>	10			
IV 547		円形	46	40	22	礫多あり	建 502	
IV 548		円形	20	20	22			
IV 549		円形	33	32	8			
IV 550		円形	35	32	12			
IV 551		円形	42	39	13			
IV 552		欠番						
IV 553		円形	55	48	18	平石あり	建 502	
IV 554		円形	40	32	15		建 502	
IV 555		欠番						
IV 556		円形	44	42	12		建 502	
IV 557		円形	48	44	7		建 502	
IV 558		円形	44	42	35		礎石	
IV 559		円形	40	33	18			
IV 560		円形	38	30	10			
IV 561		円形	36	32	10		柱穴痕	
IV 562		円形	46	36	15		柱穴痕	
IV 563		円形	24	18	34			
IV 564		円形	46	46	22			
IV 565		円形	30	<22>	10			
IV 566		円形	35	30	22			
IV 567		円形	34	30	11			
IV 568		円形	32	28	15			
IV 569		楕円形	67	43	27			
IV 570		円形	32	28	13			
IV 571		楕円形	60	40	34			
IV 572		円形	50	46	21	底面に礫あり	建 502	
IV 573		円形	48	36	18			
IV 574		円形	56	46	8			
IV 575		円形	41	40	19	柱材あり	建 506	
IV 576		円形	40	30	11			
IV 577		円形	40	33				
IV 578		楕円形	70	39	20	礫多あり	建 506	
IV 579		円形	46	44	12		建 502	
IV 580		円形	53	40	30	礫多あり	建 502	
IV 581		円形	33	27	<42>	平石あり	建 504	
IV 582		円形	38	38	20	底面に礫あり	建 505	
IV 583		円形	40	36				
IV 584		円形	34	31	22	礫多あり		
IV 585		円形	48	44	13			
IV 586		円形	32	30	20			
IV 587		円形	29	25	16			
IV 588		円形	29	26	14			
IV 589		円形	38	36			建 505	
IV 590		円形	40	34	10	底面に礫あり	建 502	
IV 591		円形	53	48	19	底面に礫あり	柱穴痕	
IV 592		円形	58	52	9			
IV 593		欠番						
IV 594		円形	<22>	12	4			
IV 595		円形	30	27	10		建 506	
IV 596		円形	36	33	50	柱材(角材)あり	建 506	
IV 597		円形	19	16				
IV 598		円形	17	12		柱材(丸太材)あり		
IV 599		円形	38	36	10		建 505	
IV 600		円形	27	26	27		建 506	
IV 601		円形	37	34	6		建 505	
IV 602		円形	32	30	15		建 505	
IV 603		-	-	-	20	計測不能		
IV 604		-	-	-	17	計測不能	礎石	
IV 605		円形	26	22	15			
IV 606		欠番						
IV 607		円形?	(50)	46	15		礎石	
IV 608		円形	33	26	17			
IV 609		円形	44	44	13			
IV 610		円形	36	34	18	礫多あり		
IV 611		楕円形	42	26	12			
IV 612		円形	44	24	16			
IV 613		円形	36	28	30			

検出面	PIT No	平面形	規模 (cm)			備考	その他	
			長径	短径	深さ			
IV 614		円形	58	50	16			
IV 615		円形	80	<46>	24	礫多あり		
IV 616		円形	39	37	18	底面に礫あり	礎盤石	
IV 617		円形	36	32	10		柱穴痕	
IV 618		欠番						
IV 619		円形	26	22	18			
IV 620		円形	52	50	7			
IV 621		欠番						
IV 622		円形	53	50	12			
IV 623		楕円形	52	34	30	底面に礫あり	柱穴痕	
IV 624		円形	40	38	18	底面に石臼あり		
IV 625		楕円形	48	32	34	礫多あり		
IV 626		楕円形	30	22	21			
IV 627		円形	36	36	22	底面に礫あり	建 505	
IV 628		円形	26	22	<26>			
IV 629		円形	38	33	22		柱穴痕	
IV 630		楕円形	70	40	16			
IV 631		円形	20	18	18			
IV 632		円形	23	18	23			
IV 633		円形	20	16	22			
IV 634		円形	28	26	20	底面に礫あり	柱穴痕	
IV 635		楕円形	46	28				
IV 636		円形	32	26				
IV 637		円形	36	30				
IV 638		円形	60	52	60		柱穴痕	
IV 639		楕円形	63	46	42		柱穴痕	
IV 640		楕円形	48	32	19	底面に礫あり	柱穴痕	
IV 641		円形	32	25	8		柱穴痕	
IV 642		円形	57	48	28	底面に礫あり	柱穴痕	
IV 643		円形	30	24	10		柱穴痕	
IV 644		円形	26	26	15			
IV 645		-	-	-	26		不明	
IV 646		円形	46	<26>	19		柱穴痕	
IV 647		円形	62	50	12		柱穴痕	
IV 648		円形	40	28				
IV 649		円形	38	36	32			
IV 650		円形	26	24	7		柱穴痕	
IV 651		円形	54	44	17		柱穴痕	
IV 652		円形	60	36	7		柱穴痕	
IV 653		円形	22	20	16			
IV 654		円形	38	33	23	礫多あり	柱穴痕	
IV 655		円形	60	60	21	礫多あり	柱穴痕	
IV 656		円形	<34>	24	16	底面に礫あり	柱穴痕	
IV 657		円形	36	30	15	底面に礫あり	柱穴痕	
IV 658		円形	32	26	6	底面に礫あり	柱穴痕	
IV 659		円形	30	29	27		柱穴痕	
IV 660		円形	11	10	5			
IV 661		円形	45	44	14	礫あり		
IV 662		円形	43	42	18			
IV 663		円形	42	36	10	礫多あり		
IV 664		円形	43	40	21		建 506	
IV 665		円形	38	36	19	底面に礫あり	建 505	
IV 666		円形	46	40	18	底面に礫あり	建 505	
IV 667		円形	54	50	25			
IV 668		円形	58	(58)	22	底面に礫あり	建 505	
IV 669		円形	40	38	23	底面に礫あり	建 505	
IV 670		円形	28	20	8			
IV 671		円形	34	32	22	底面に礫あり		
IV 672		方形?	35	34	18			
IV 673		円形	34	25	12			
IV 674		円形	42	36	22	杭あり		
IV 675		円形	22	18	9			
IV 676		円形	53	32	12			
IV 677		円形	46	30	16			
IV 678		円形	42	40	8			
IV 679		円形	30	28	12			
IV 680		円形	26	22	8			
IV 681		円形	25	22	10			
IV 682		円形	38	38	13	礫多あり		
IV 683		円形	24	22	3			
IV 684		円形	46	44	14		建 505	
IV 685		楕円形	56	22	18			
IV 686		円形	32	31	37		柱穴痕	
IV 687		円形	36	36	12		柱穴痕	
IV 688		円形	39	39	13		柱穴痕	
IV 689		欠番						
IV 690		円形	40	34				
IV 691		円形	38	28				

※ () 内数値は残存値、< > 内数値は推定値を表す

土居尻 1 | 検全体図

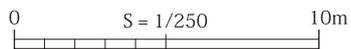
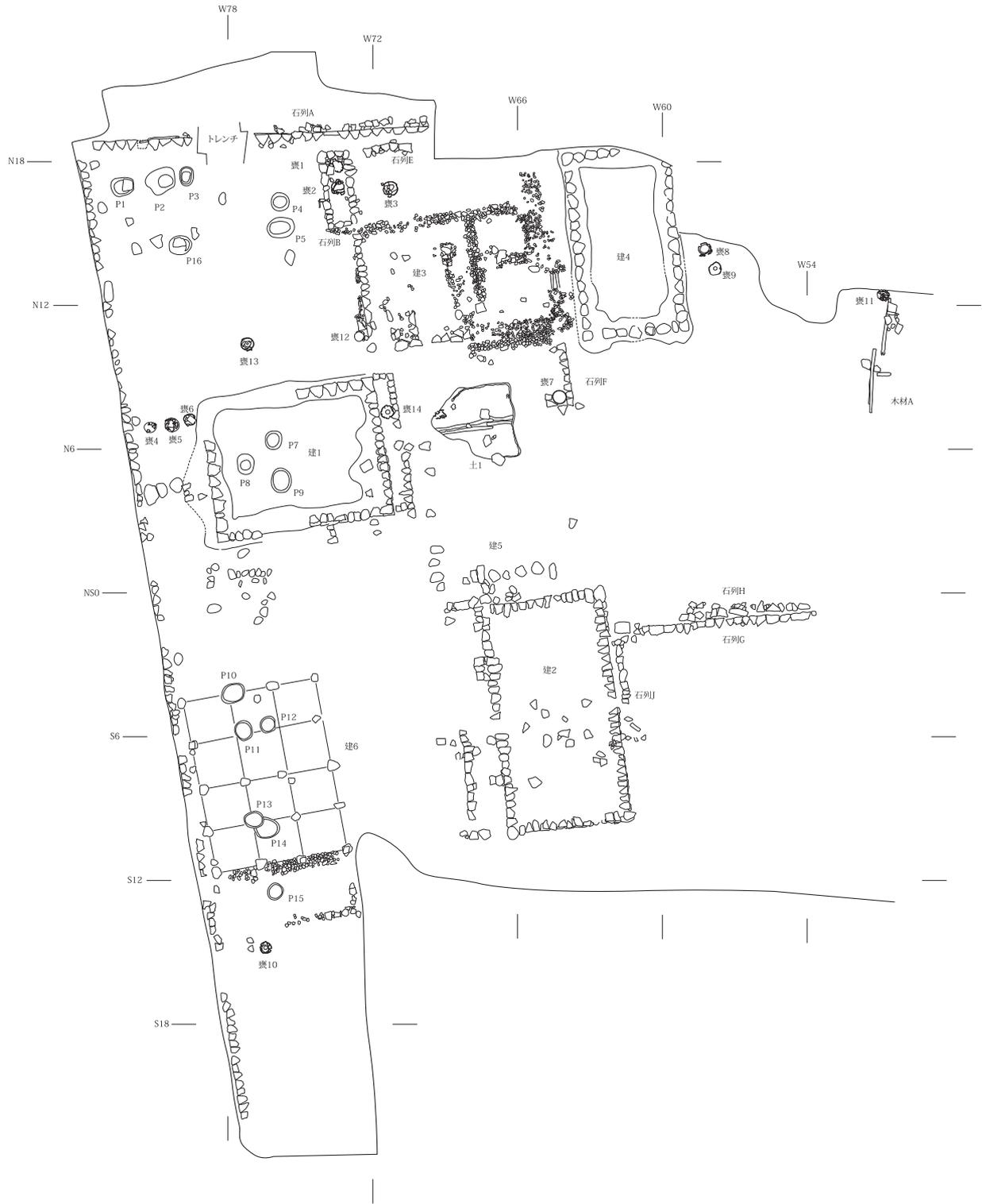


図 12 土居尻 1 | 検全体図

土居尻 1 II 検全体図

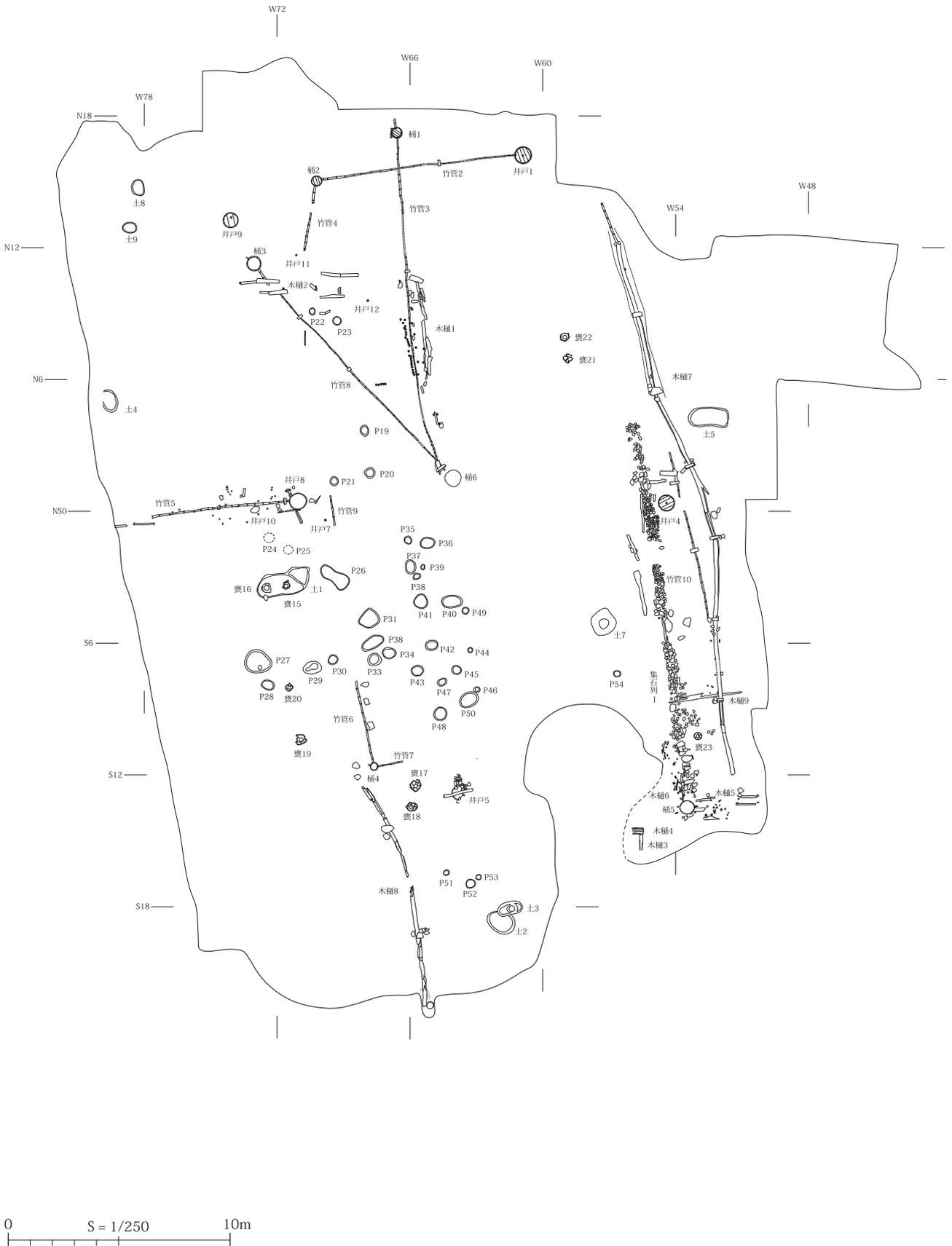


図 13 土居尻 1 II 検全体図

土居尻1
Ⅲ検全体図



图 14 土居尻1 Ⅲ検全体图

土居尻 1
IV 検全体図

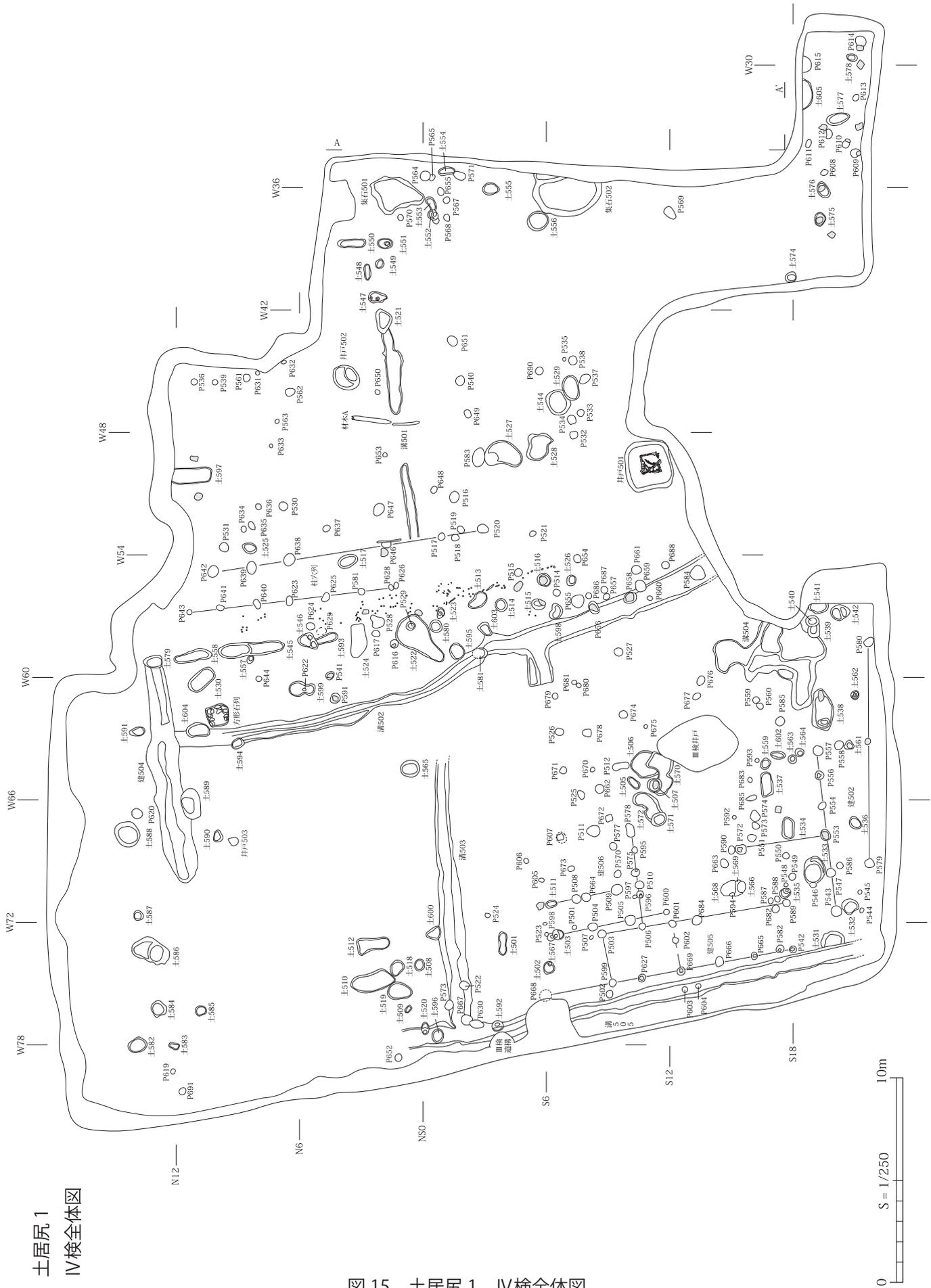


図 15 土居尻 1 IV 検全体図

土居尻 1 I 検
建1

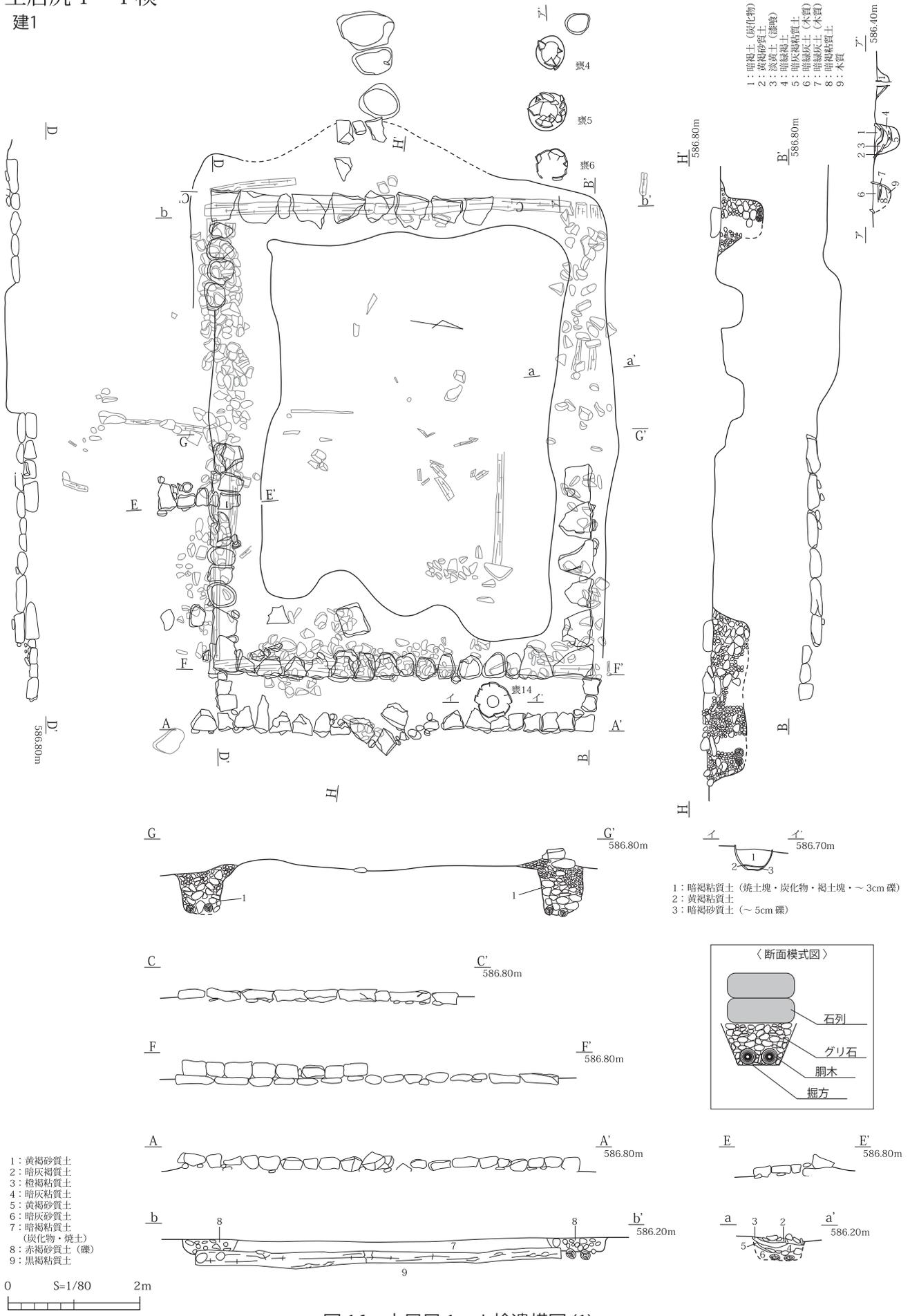


図 16 土居尻 1 I 検遺構図 (1)

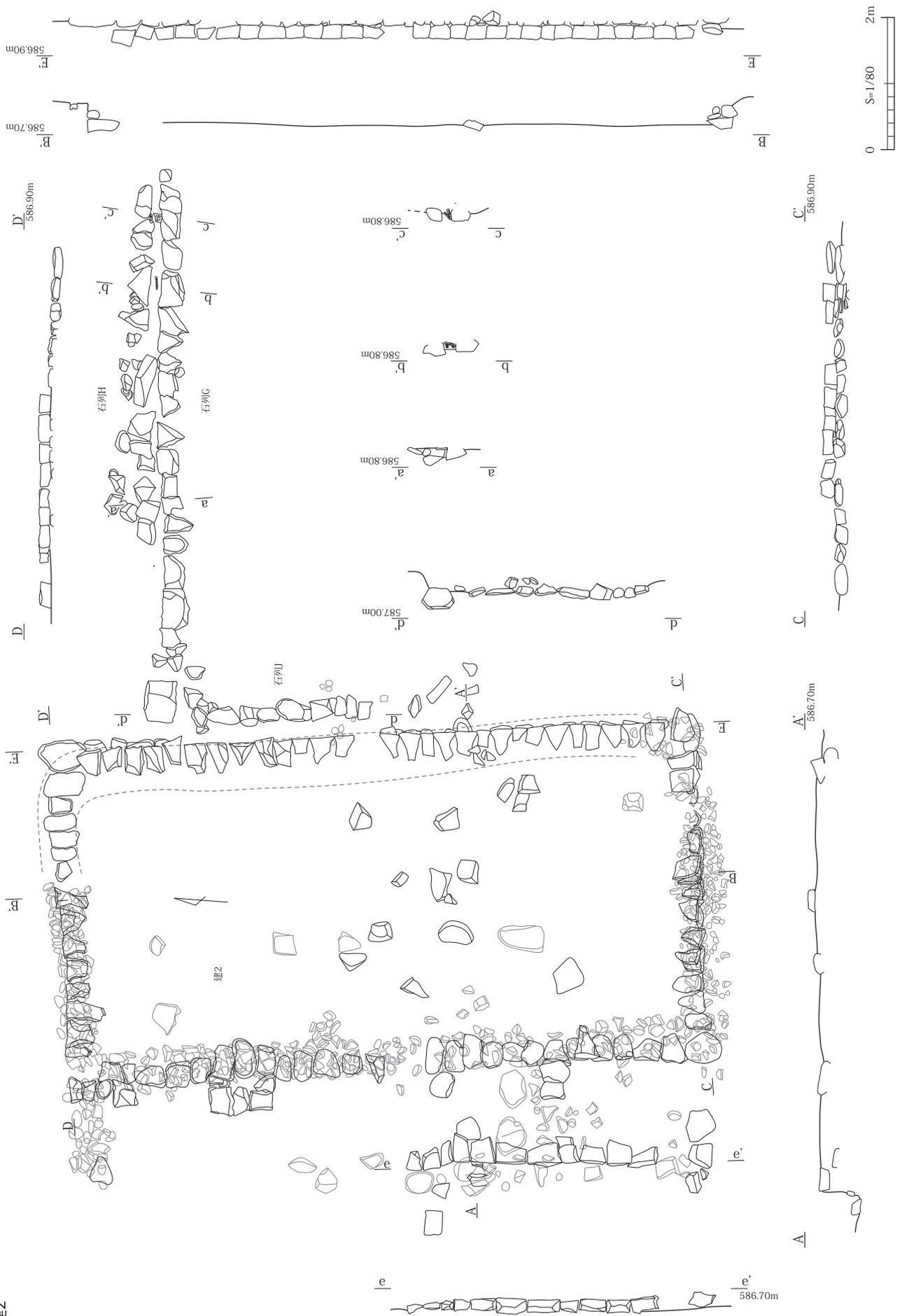
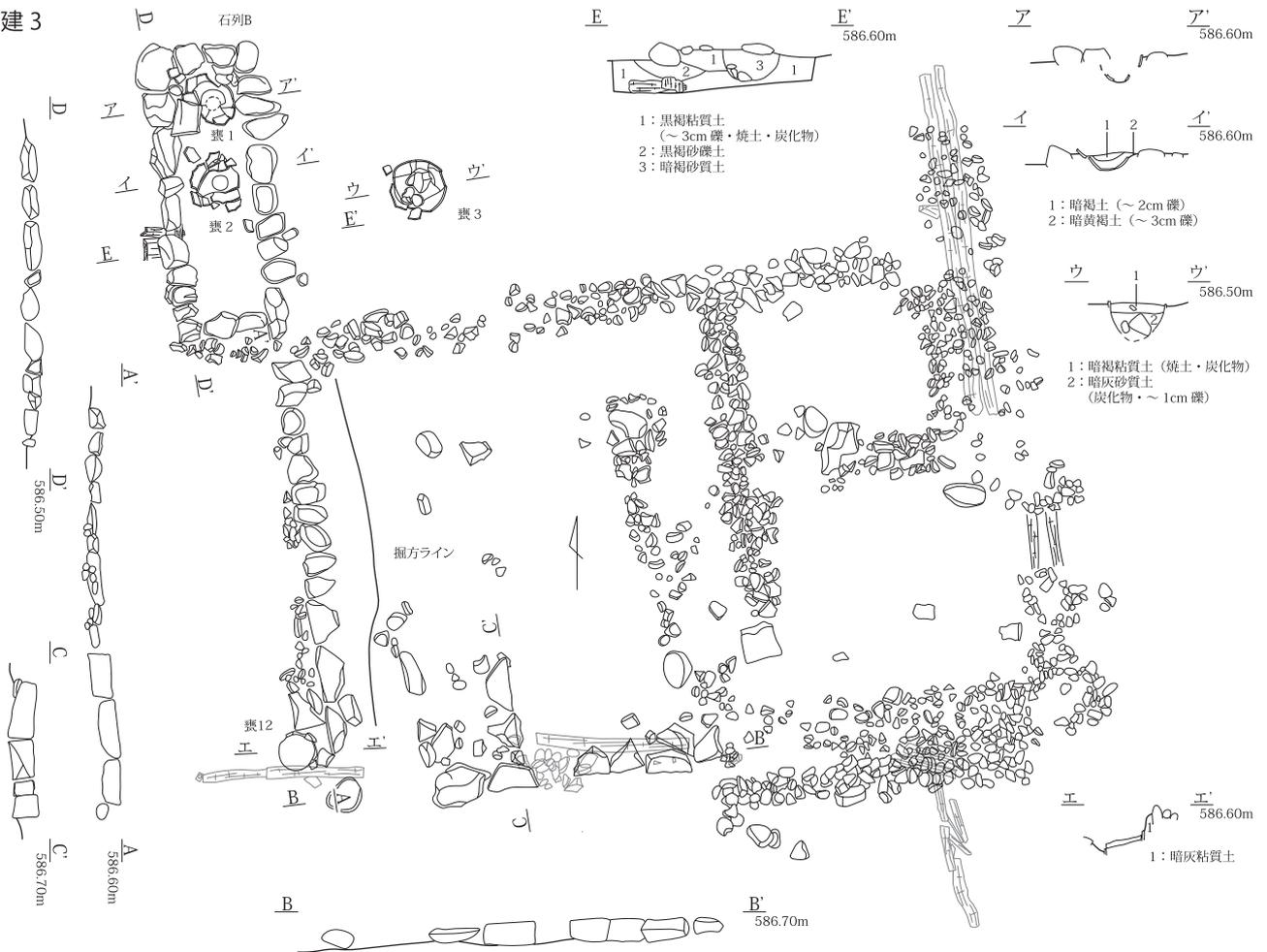


图 17 土居尻 1 | 検遺構図 (2)

建3



建4

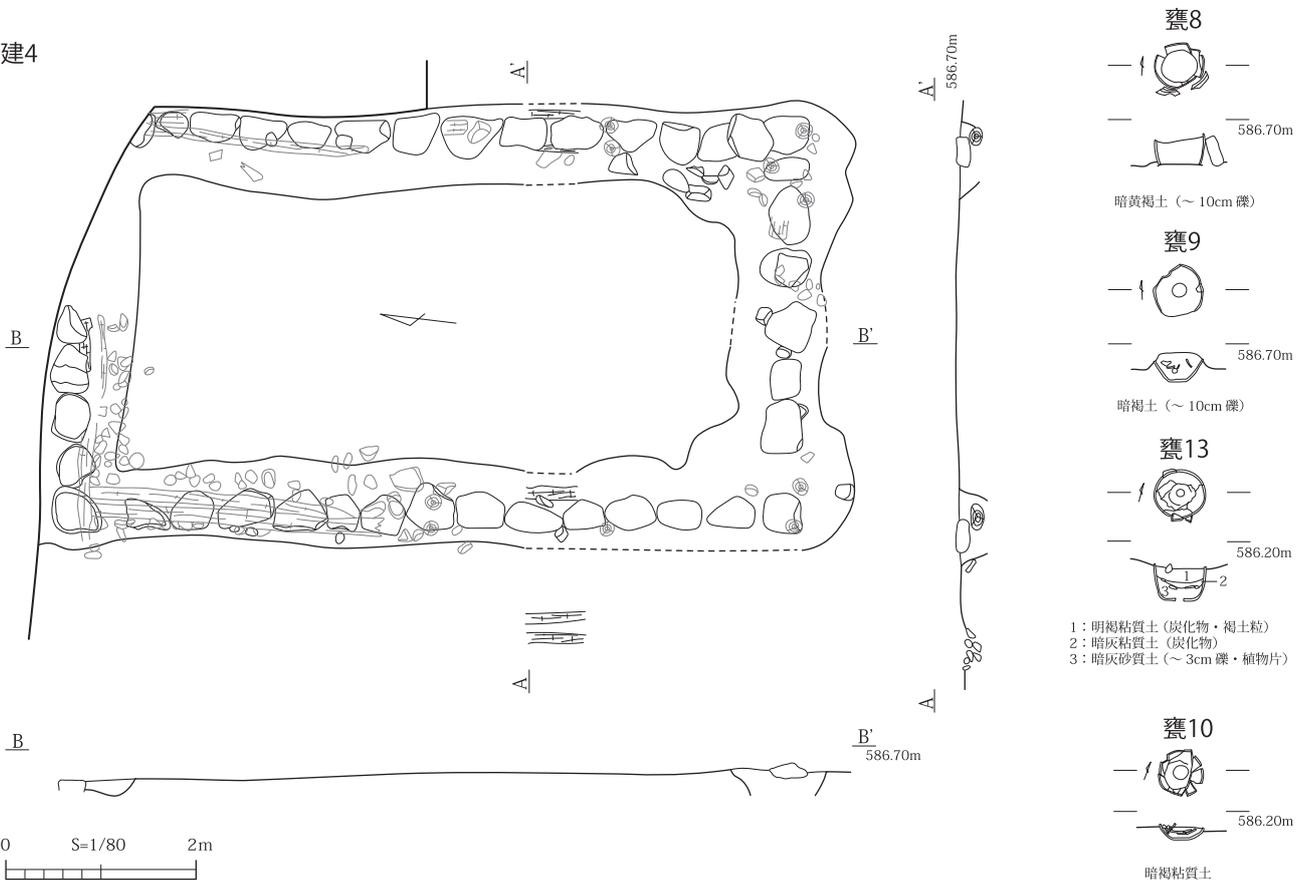
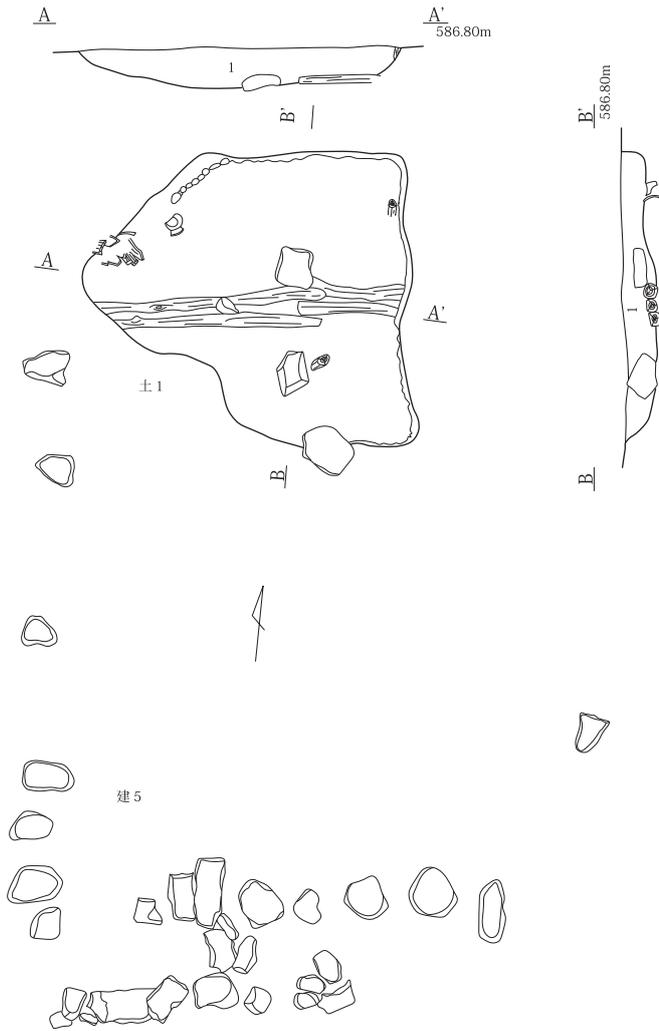
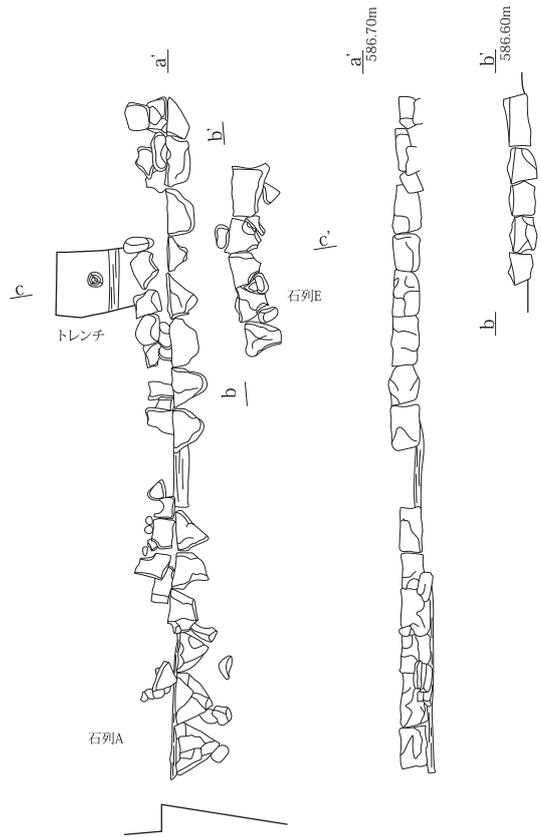


図18 土居尻1 | 検遺構図(3)

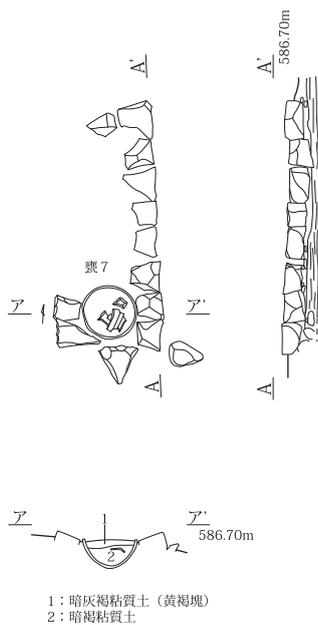
建5・土1



石列 A・E

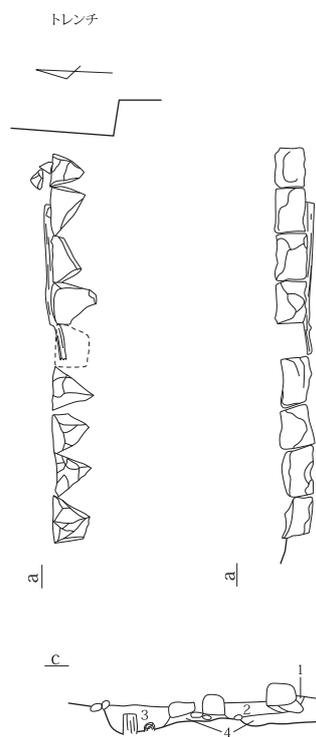
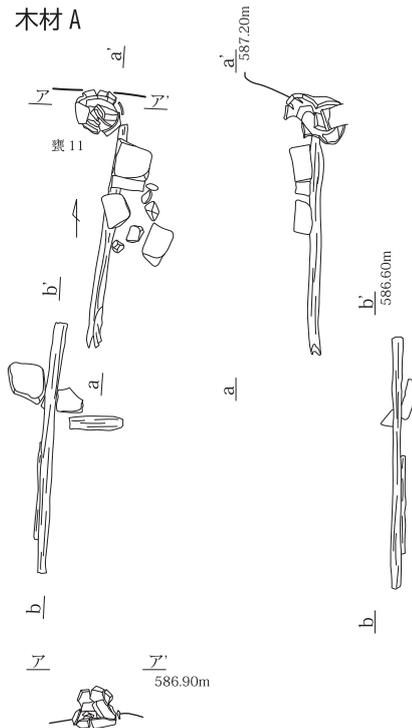


石列 F



1: 暗灰褐粘質土 (黄褐塊)
2: 暗褐粘質土

木材 A



1: 黄褐砂質土
2: 黒褐粘質土 (~3cm 礫・焼土・炭化物)
3: 黒褐粘質土
4: 暗褐砂質土 (~3cm 礫・炭化物・焼土)

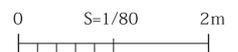


図 19 土居尻 1 | 検遺構図 (4)

建6

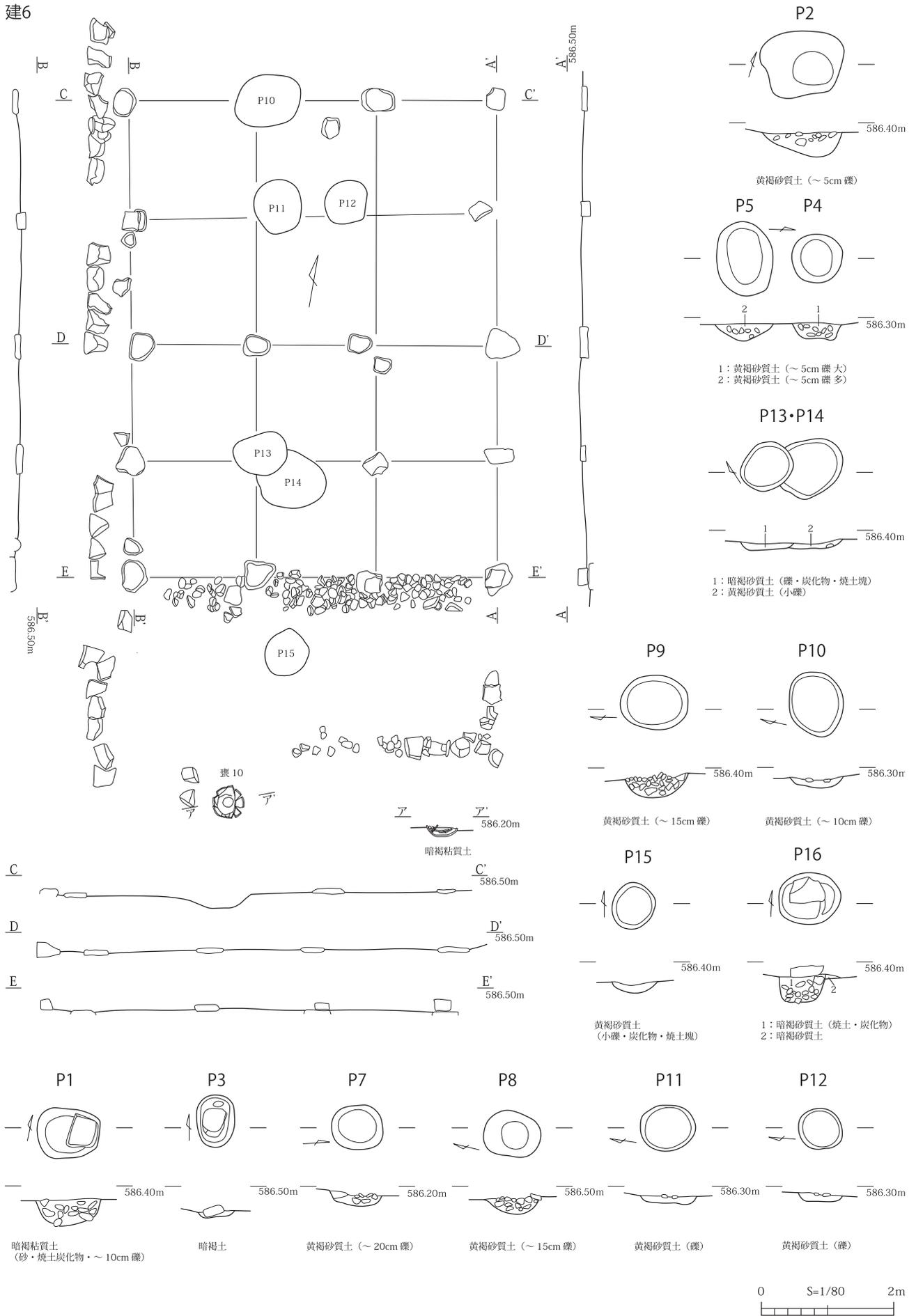


図 20 土居尻 1 | 検遺構図 (5)

土居尻 Ⅱ 検

竹管配置図

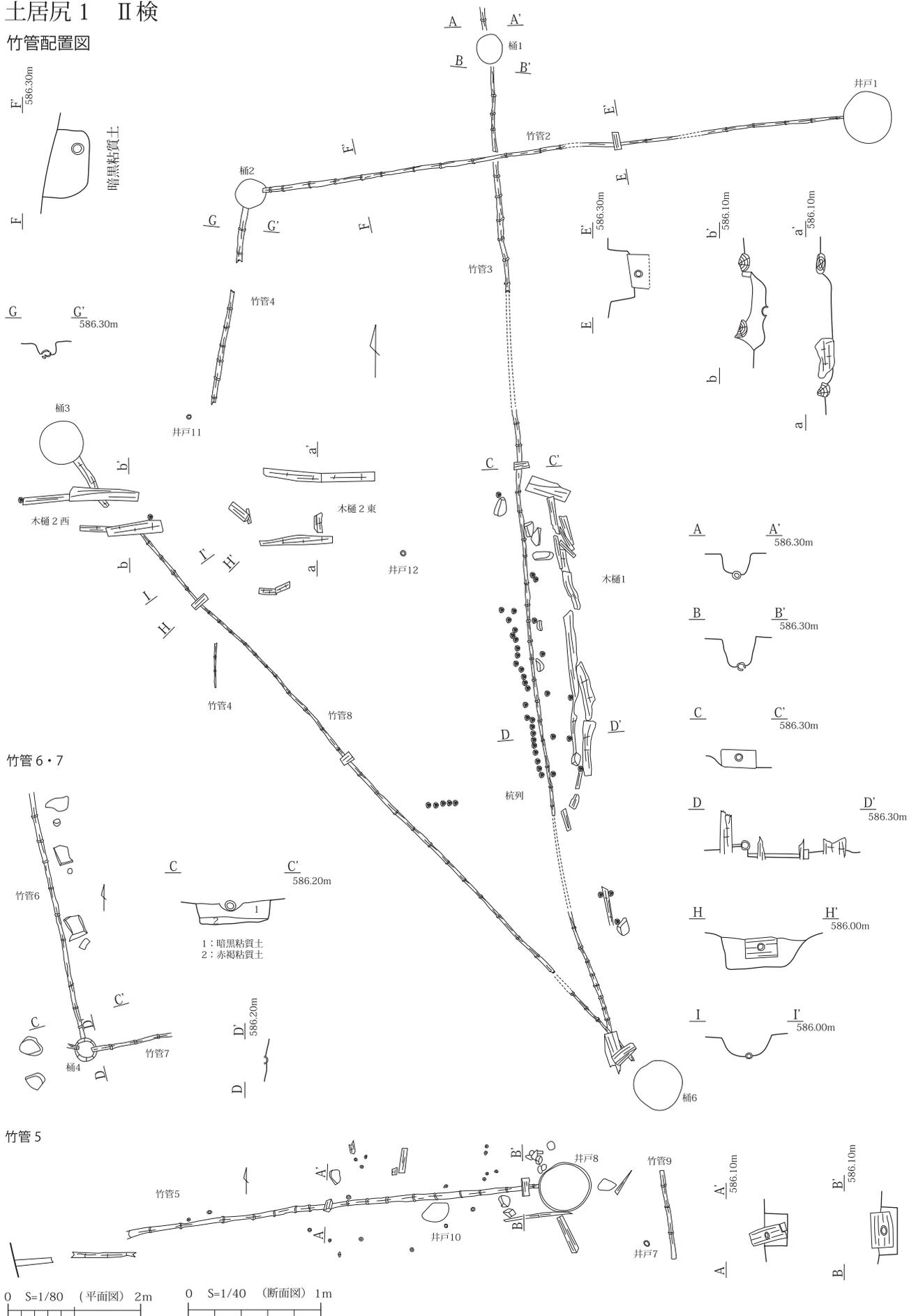


図 21 土居尻 Ⅱ 検遺構図 (1)

木樋7・9・竹管1・10・集石列1

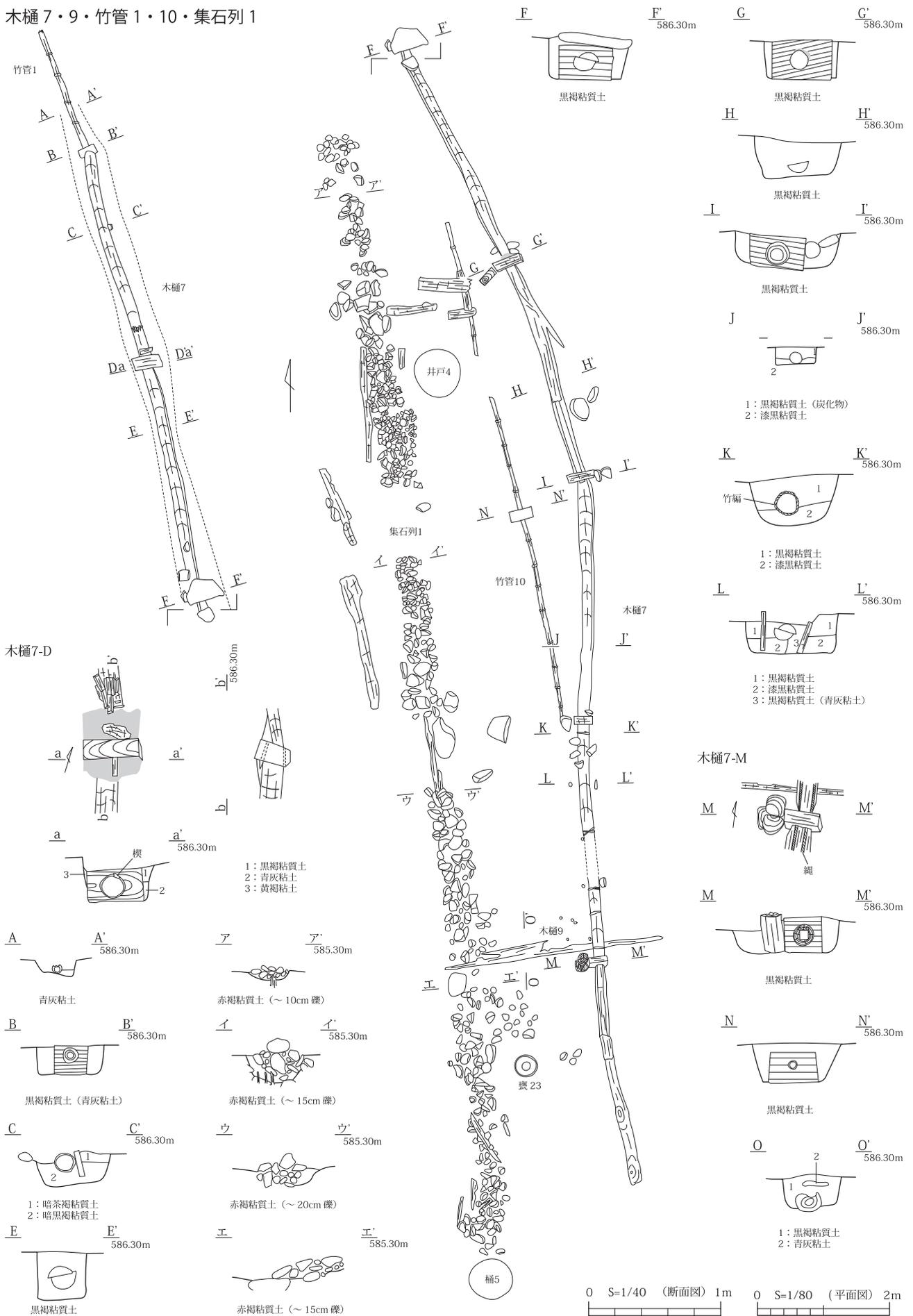


図22 土居尻1 II 検遺構図(2)

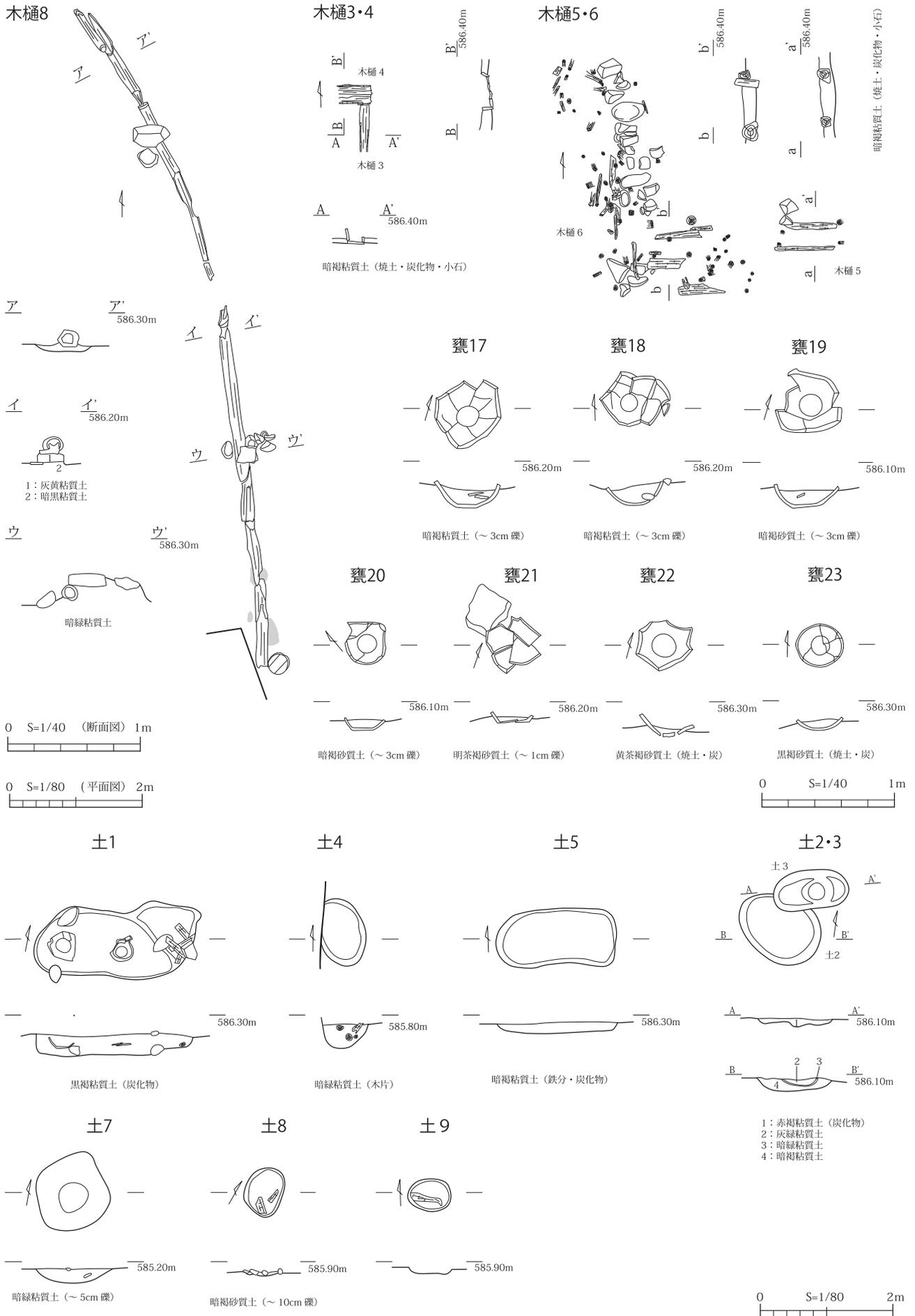


図 23 土居尻 1 II 検遺構図 (3)

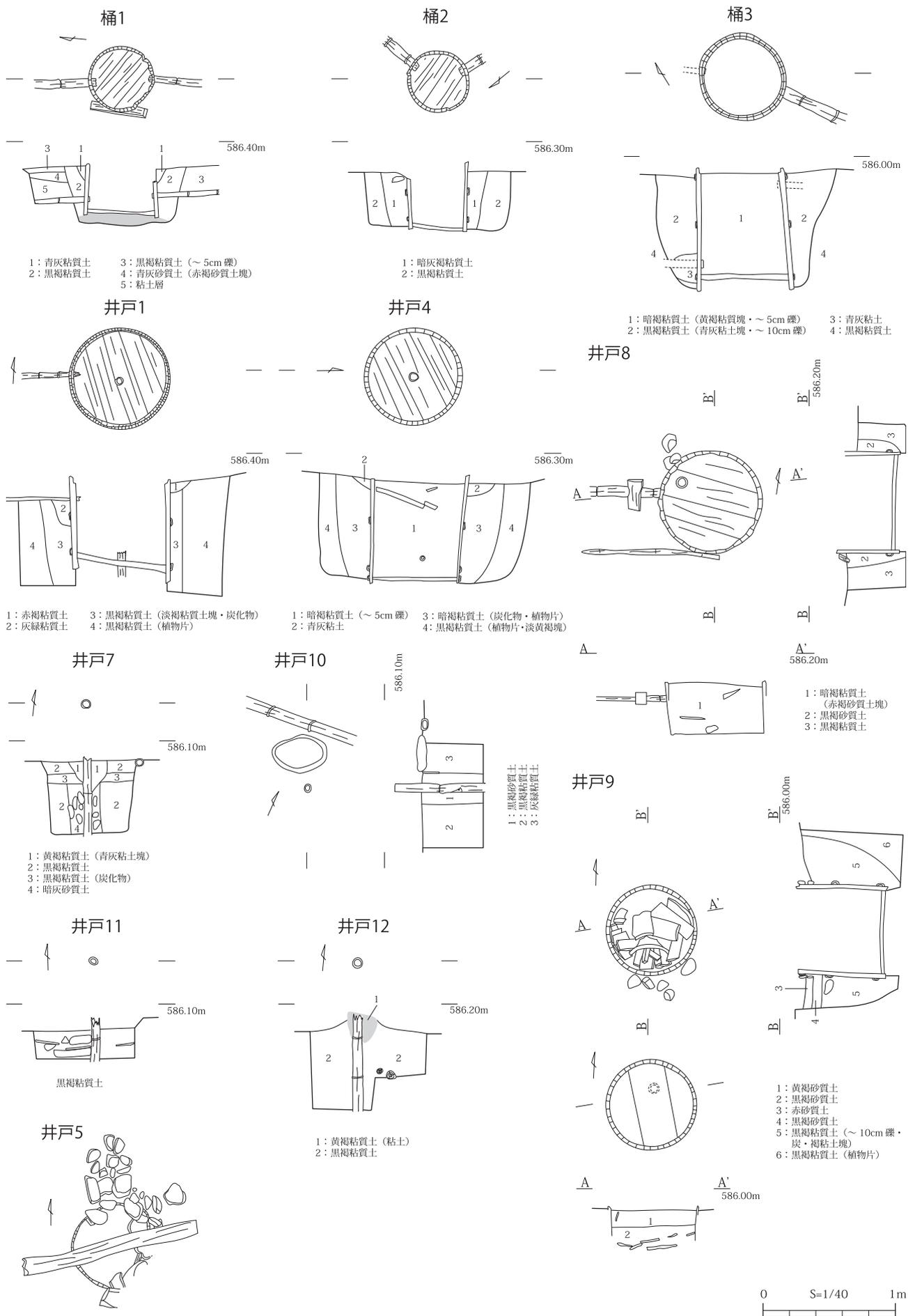


図 24 土居尻 1 II 検遺構図 (4)

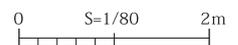
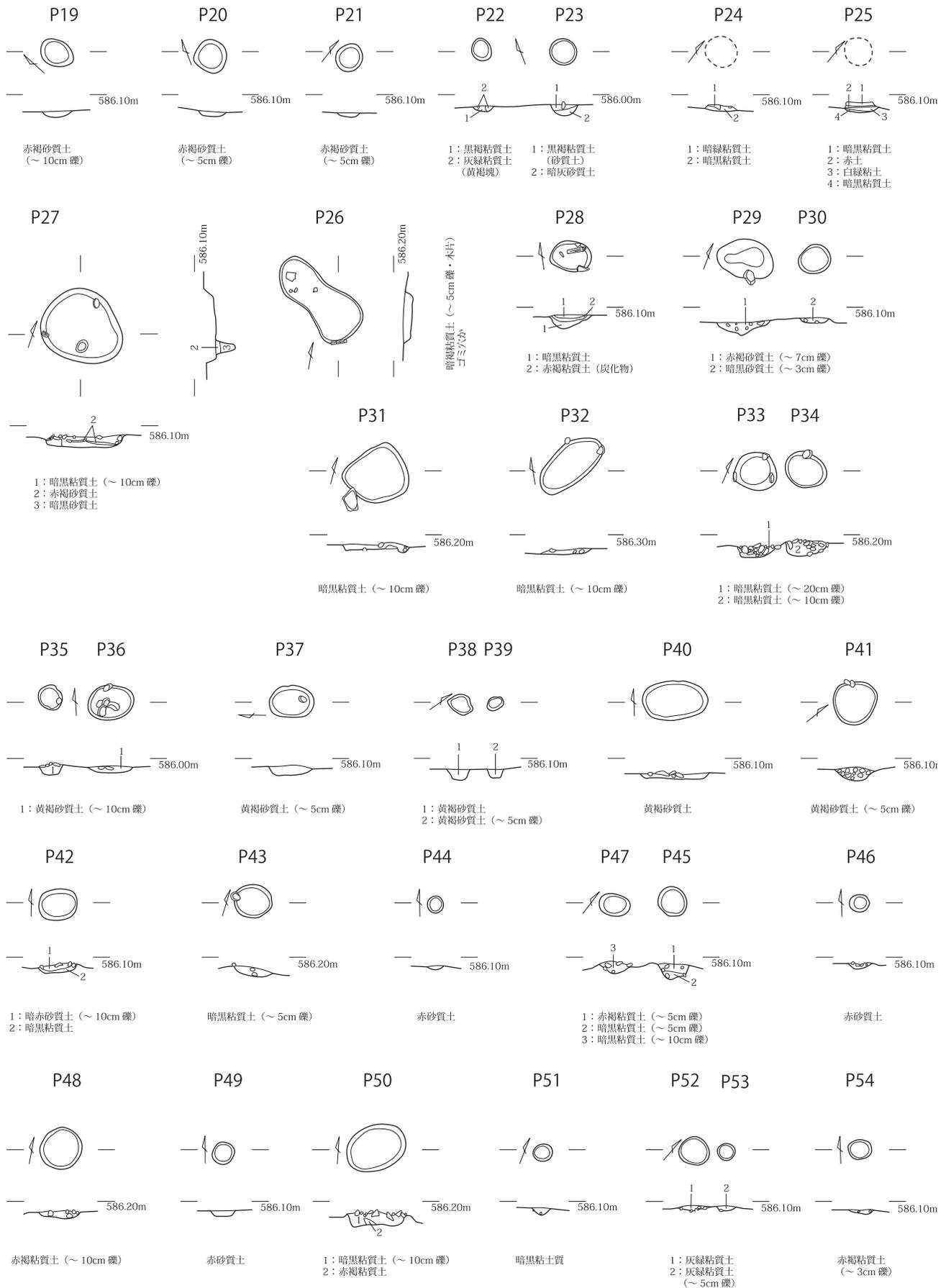
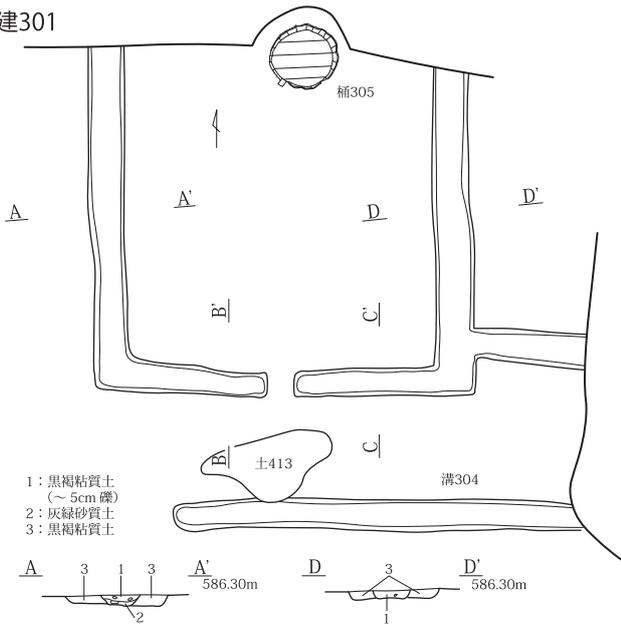


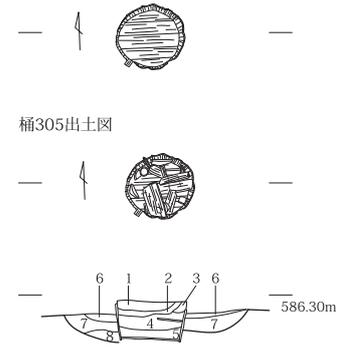
図 25 土居尻 1 II 検遺構図 (5)

土居尻 1 Ⅲ 検

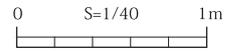
建301



桶305



- 1: 暗灰砂質土 (青灰砂質塊)
- 2: 暗灰褐砂質土
- 3: 暗灰褐粘質土 ((木片)
- 4: 青灰粘土 (暗灰粘質土)
- 5: 暗灰粘質土 (炭化物・木片)
- 6: 暗灰砂質土 (青灰粘土)
- 7: 暗茶褐粘質土 (木片)
- 8: 黒褐粘質土



建 303

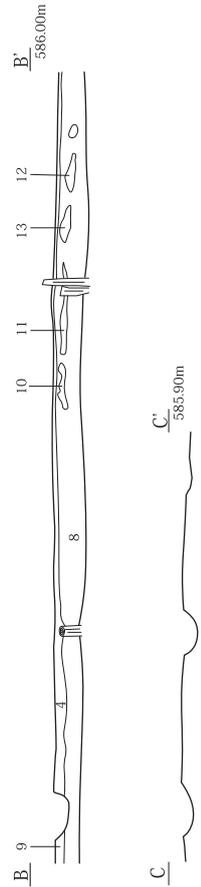
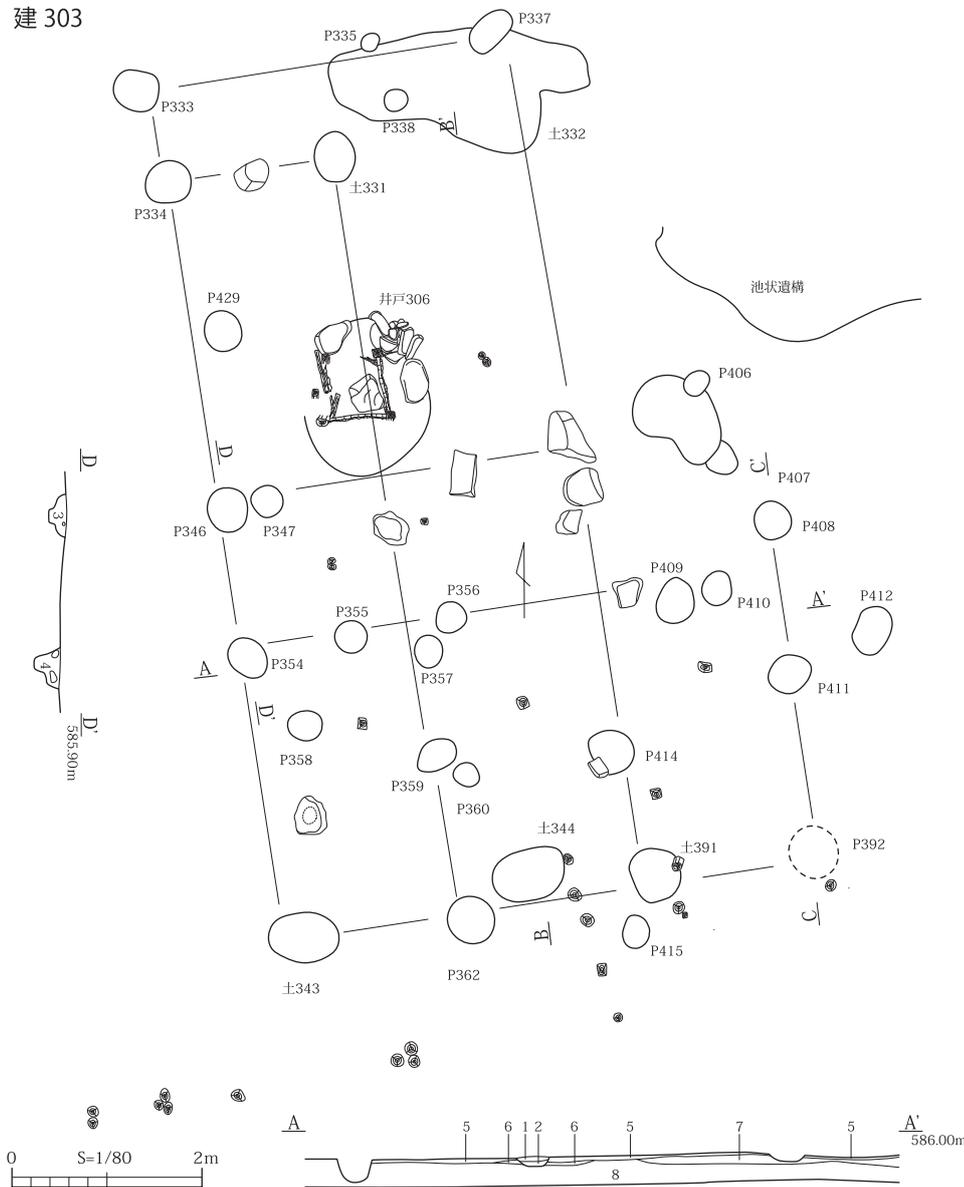


図 26 土居尻 1 Ⅲ 検遺構図 (1)

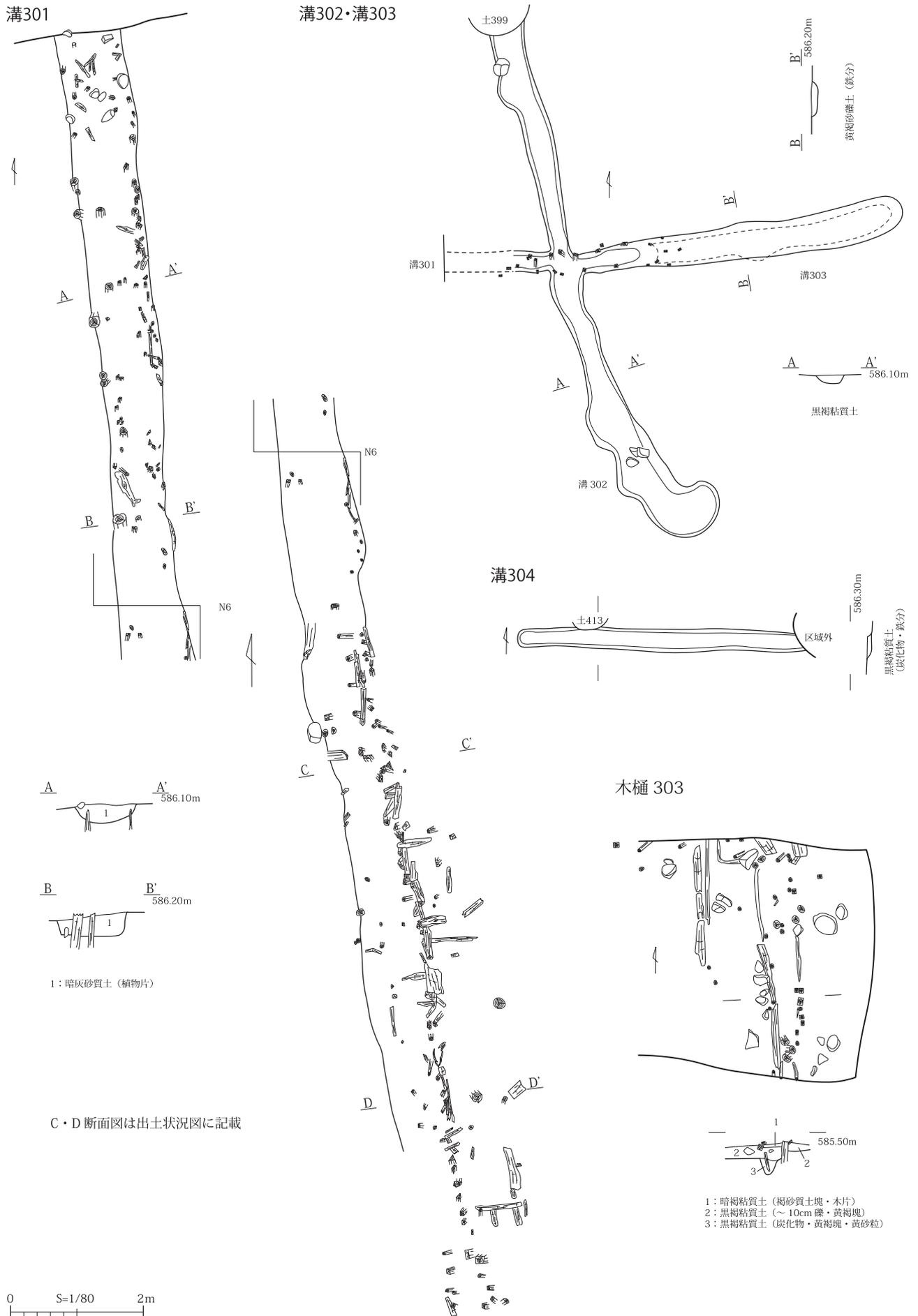


図 27 土居尻 1 III 検遺構図 (2)



图 28 土居尻 1 III 検遺構図 (3)

竹管 301・302・304・木樋 301 東

竹管上層出土状況図

桶 306

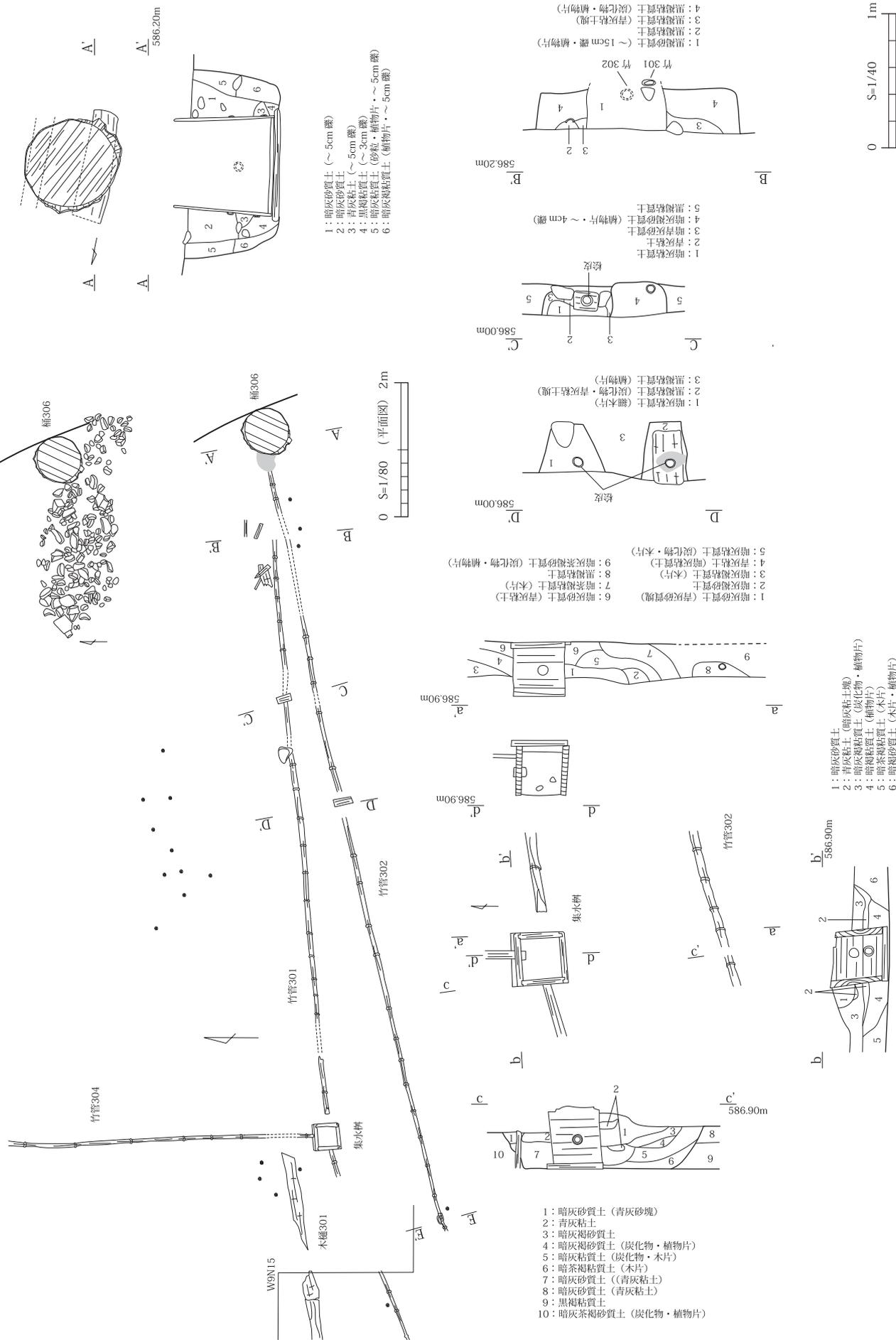


図 29 土居尻 1 III 検遺構図 (4)

竹管 301・302・304・木桶 301 西

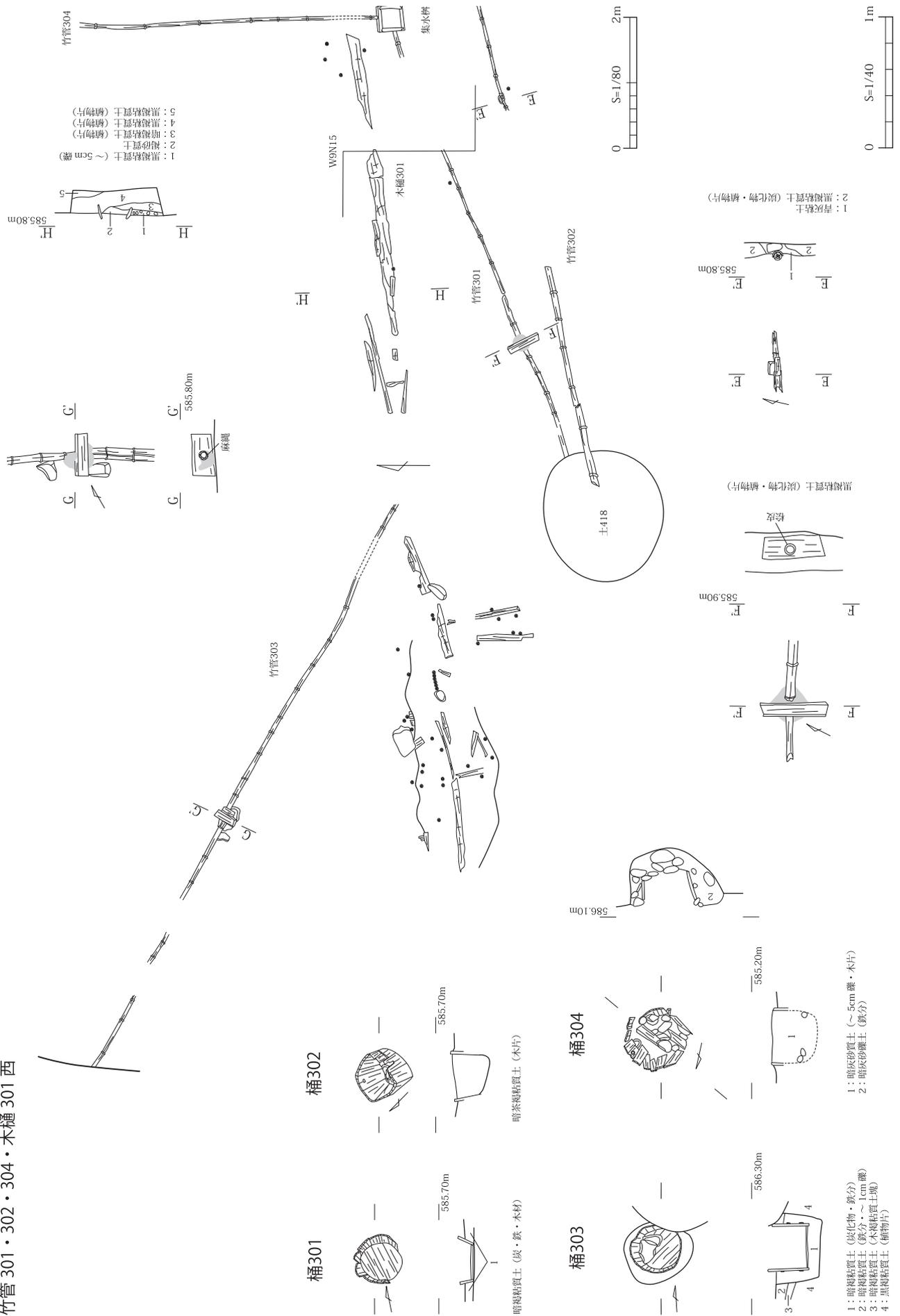


图 30 土居尻 1 III 檢遺構圖 (5)

池状遺構

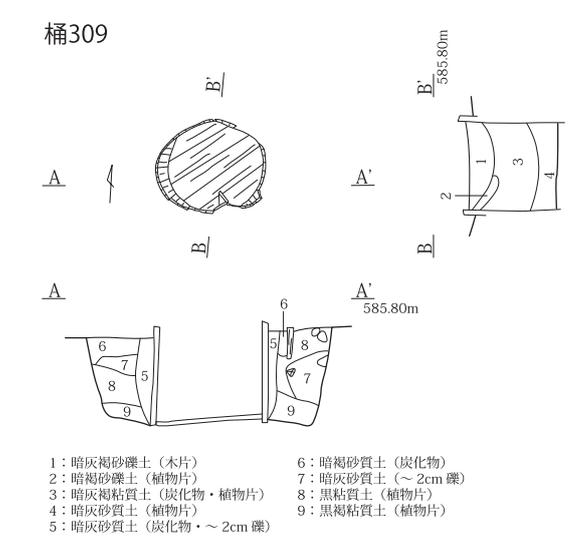
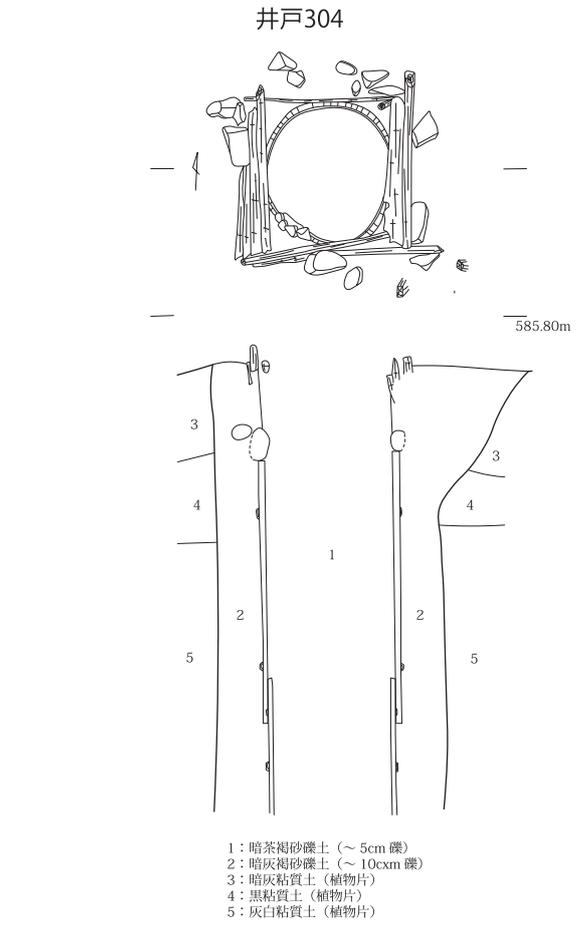
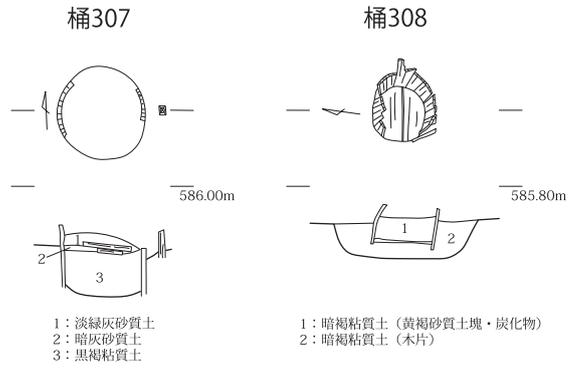
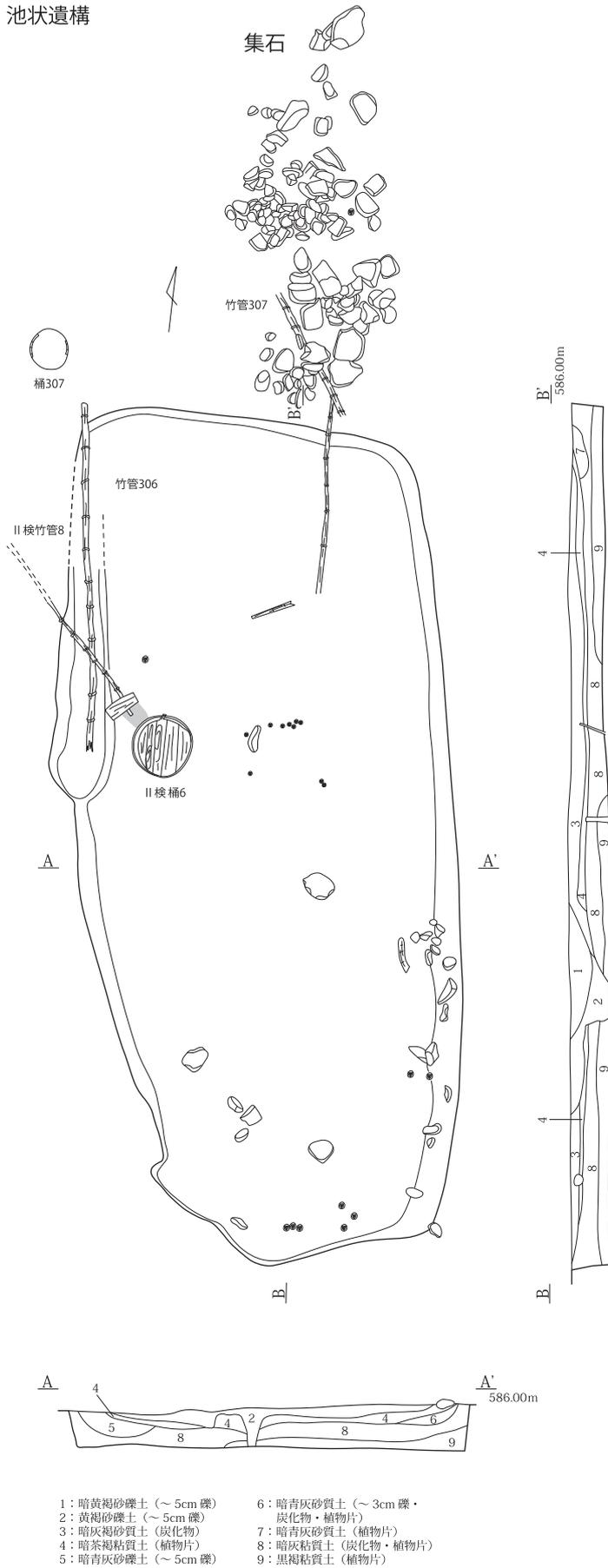
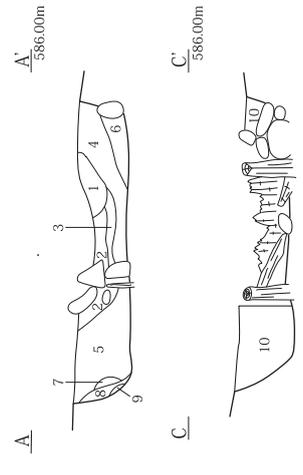
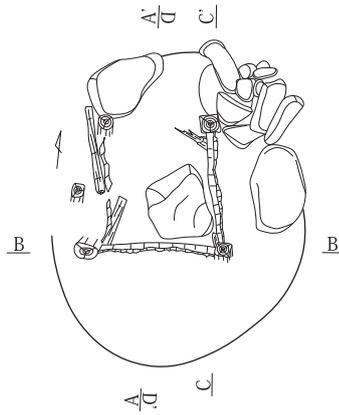
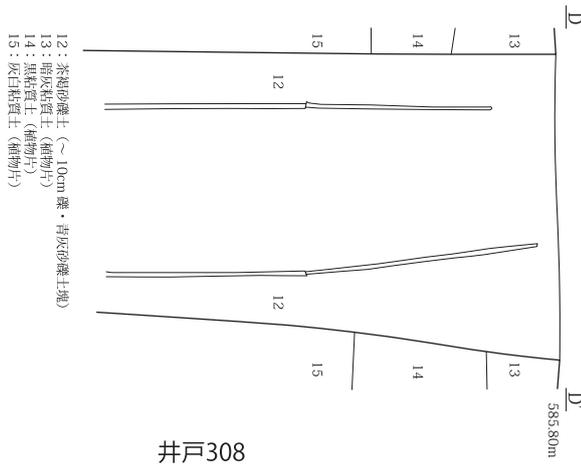


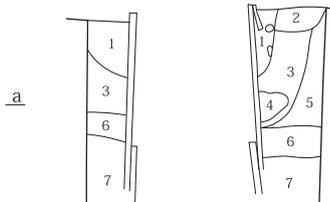
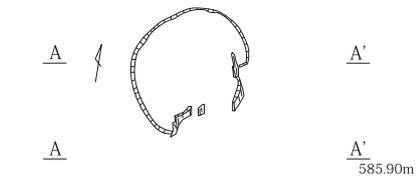
図 31 土居尻 1 III 検遺構図 (6)

井戸306

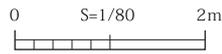
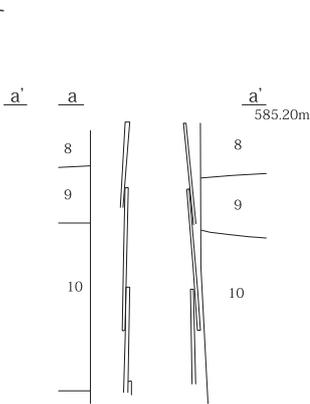
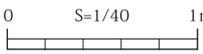


- 1: 暗灰褐粘質土 (~5cm 礫・炭化物)
- 2: 暗褐粘質土 (炭化物・鉄分, ~20cm 礫)
- 3: 暗灰砂質土
- 4: 黒褐粘質土 (~5cm 礫)
- 5: 橙褐砂質土
- 6: 黒褐砂質土
- 7: 青灰砂質土
- 8: 黒褐粘質土
- 9: 淡褐粘質土
- 10: 赤褐砂質土 (鉄分)
- 11: 青灰砂質土

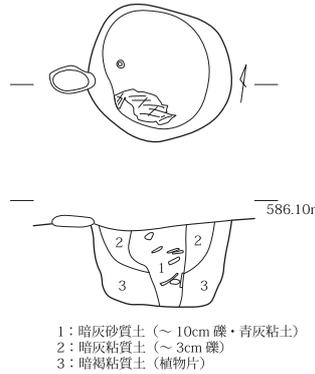
井戸308



- 1: 暗褐砂質土 (~4cm 礫)
- 2: 暗茶褐砂質土 (~3cm 礫)
- 3: 黒粘質土 (植物片)
- 4: 緑灰砂質土
- 5: 暗褐粘質土 (植物片・青灰砂質塊)
- 6: 暗灰褐粘質土 (植物片・青灰砂質塊)
- 7: 黒粘質土 (植物片)

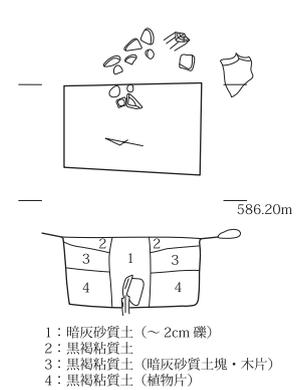


井戸309

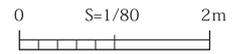


- 1: 暗灰砂質土 (~10cm 礫・青灰粘土)
- 2: 暗灰粘質土 (~3cm 礫)
- 3: 暗褐粘質土 (植物片)

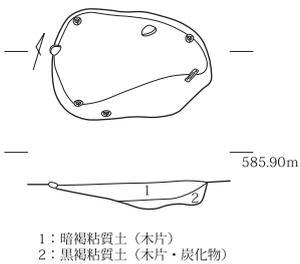
井戸310



- 1: 暗灰砂質土 (~2cm 礫)
- 2: 黒粘質土
- 3: 黒粘質土 (暗灰砂質土塊・木片)
- 4: 黒粘質土 (植物片)



土301



- 1: 暗褐粘質土 (木片)
- 2: 黒粘質土 (木片・炭化物)

土302



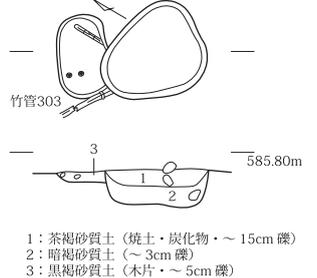
- 1: 暗褐粘質土 (木片)

土305



- 1: 暗茶褐砂質土 (~5cm 礫)

土311・312



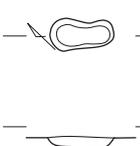
- 1: 茶褐色砂質土 (焼土・炭化物・~15cm 礫)
- 2: 暗褐砂質土 (~3cm 礫)
- 3: 黒粘質土 (木片・~5cm 礫)

土304



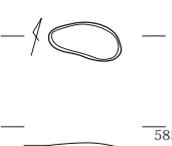
- 1: 黒粘質土 (~1cm 礫)

土306



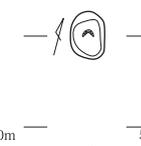
- 1: 黒粘質土 (植物)

土307



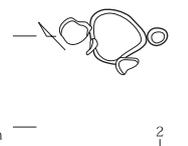
- 1: 暗茶褐砂質土 (~2cm 礫)

土308



- 1: 灰黄褐砂質土

土309 P307



- 1: 暗褐粘質土 (~3cm 礫)
- 2: 灰黄褐砂質土

土310



- 1: 暗褐砂質土 (~3cm 礫)

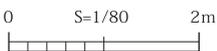
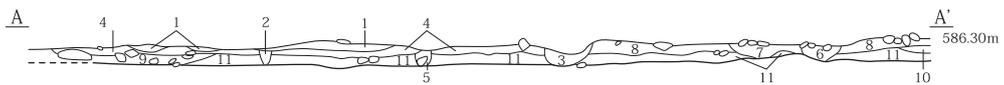


図 32 土居尻 1 III 検遺構図 (7)



- | | |
|----------------------------|---------------------------------|
| 1: 黄褐砂礫土 (～10cm 礫) | 7: 明茶褐粘質土 (炭化物・黄砂粒・暗褐塊・～10cm 礫) |
| 2: 暗灰砂質土 (炭化物) | 8: 茶褐粘質土 (炭化物) |
| 3: 暗灰褐粘質土 (鉄分沈殿) | 9: 暗茶褐粘質土 (炭化物・鉄分沈殿) |
| 4: 暗褐砂質土 (炭化物・鉄分) | 10: 暗灰粘質土 (灰砂粒・植物片) |
| 5: 暗褐粘質土 | 11: 黒褐粘質土 (炭化物・砂質塊) |
| 6: 暗褐粘質土 (炭化物・灰砂粒・～10cm 礫) | |

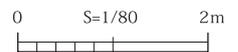


図 33 土居尻 1 III 検遺構図 (8)

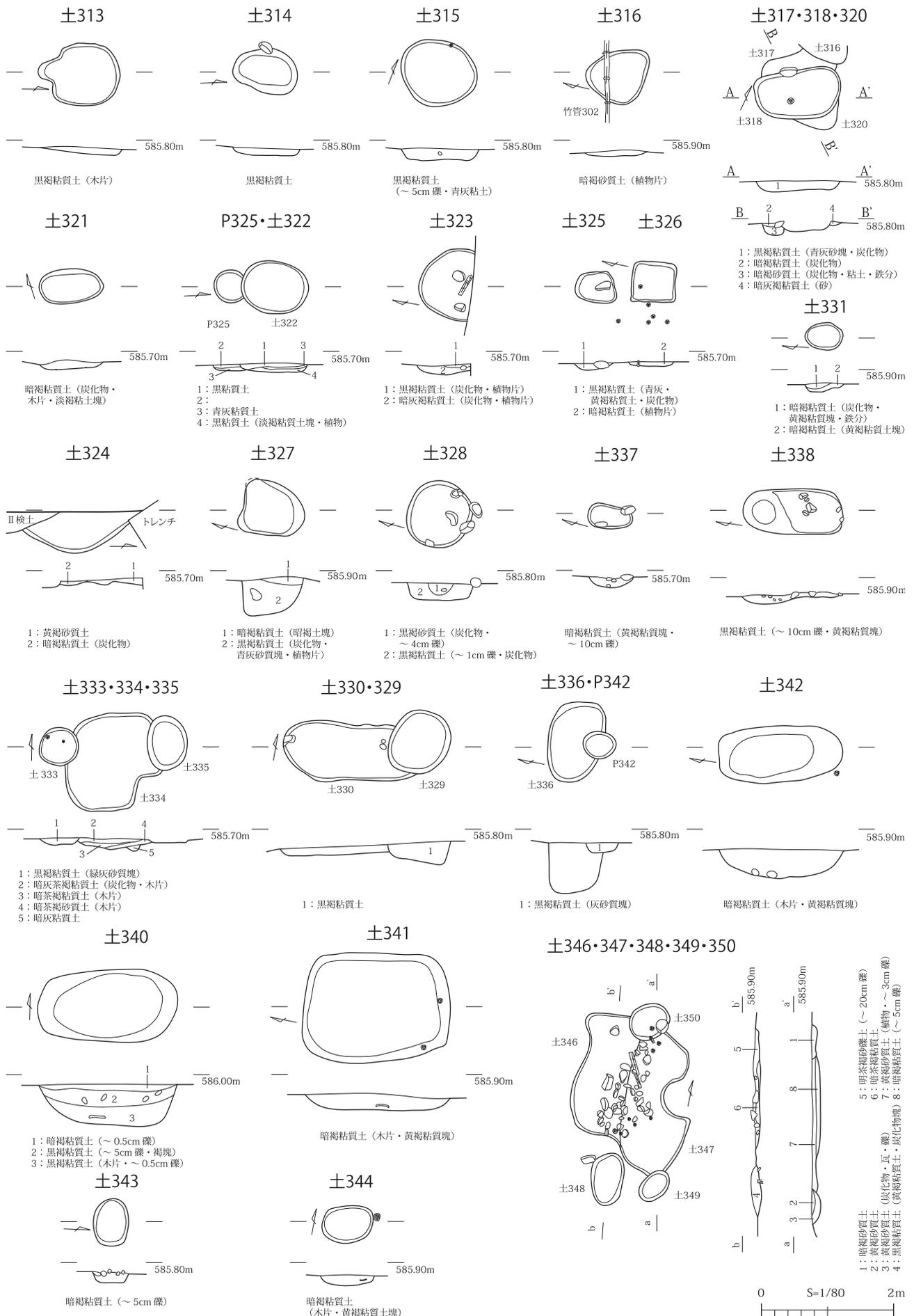


図 34 土居尻 1 III 検遺構図 (9)

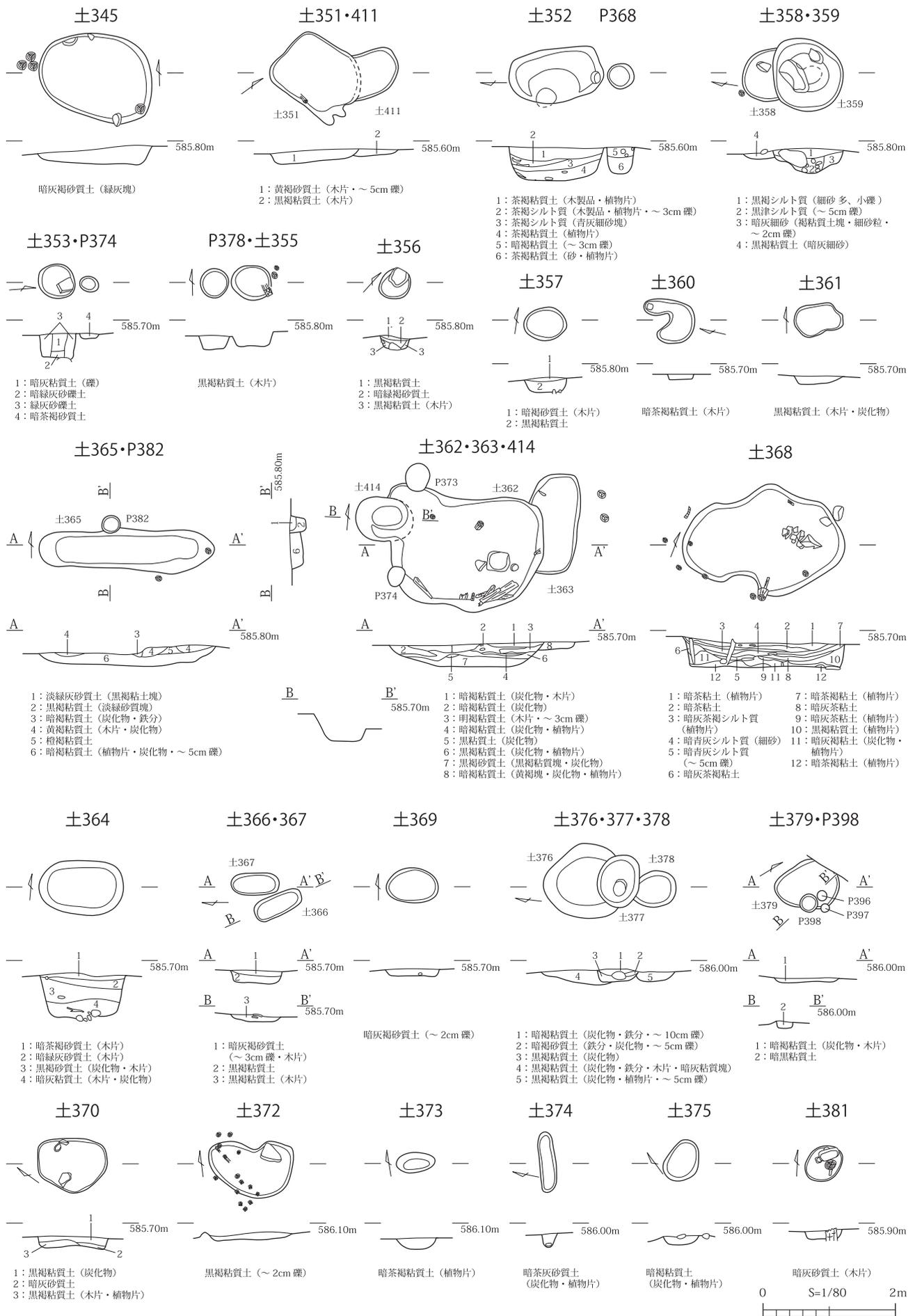


図 35 土居尻 1 III 検遺構図 (10)

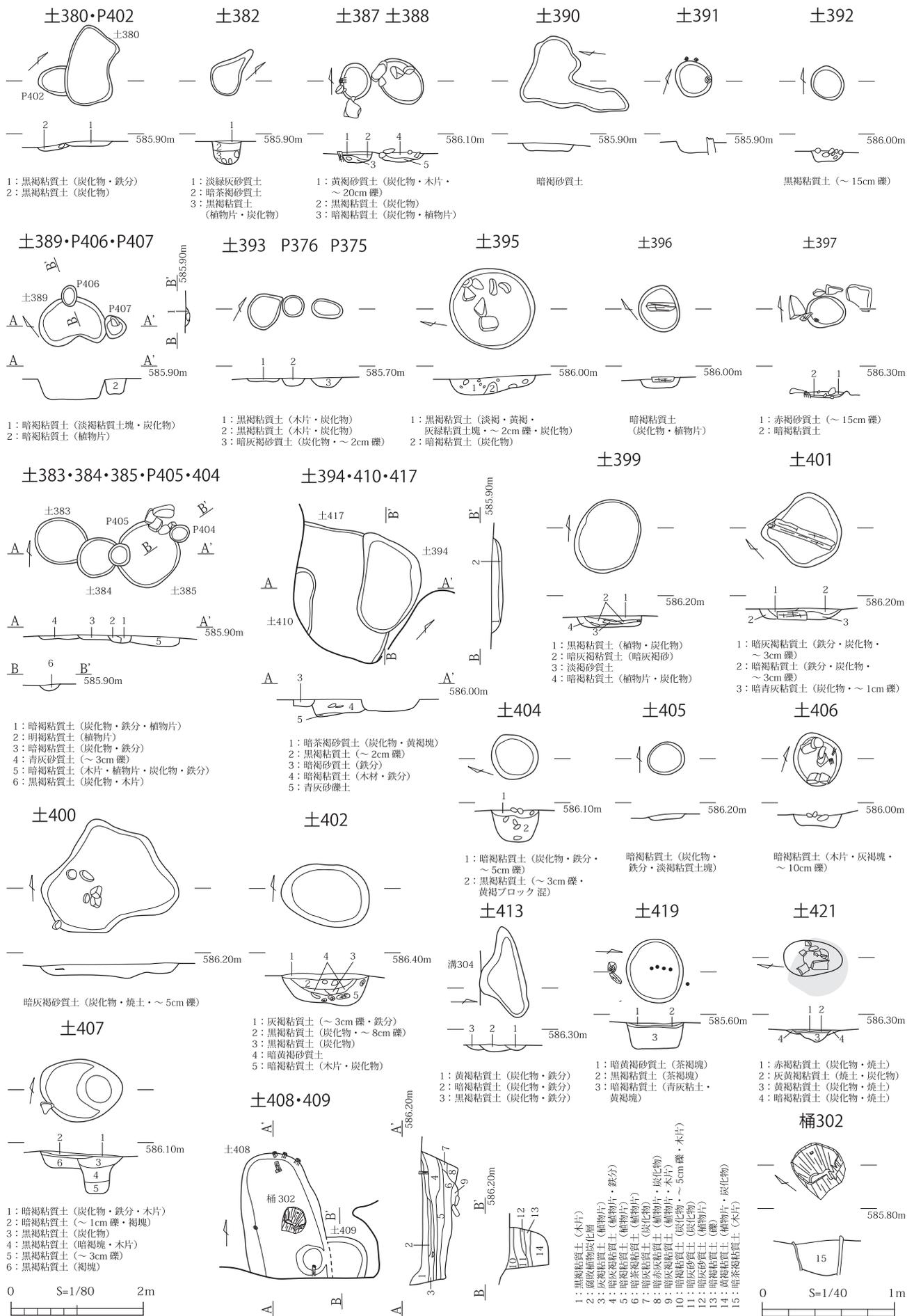


図 36 土居尻 1 III 検遺構図 (11)

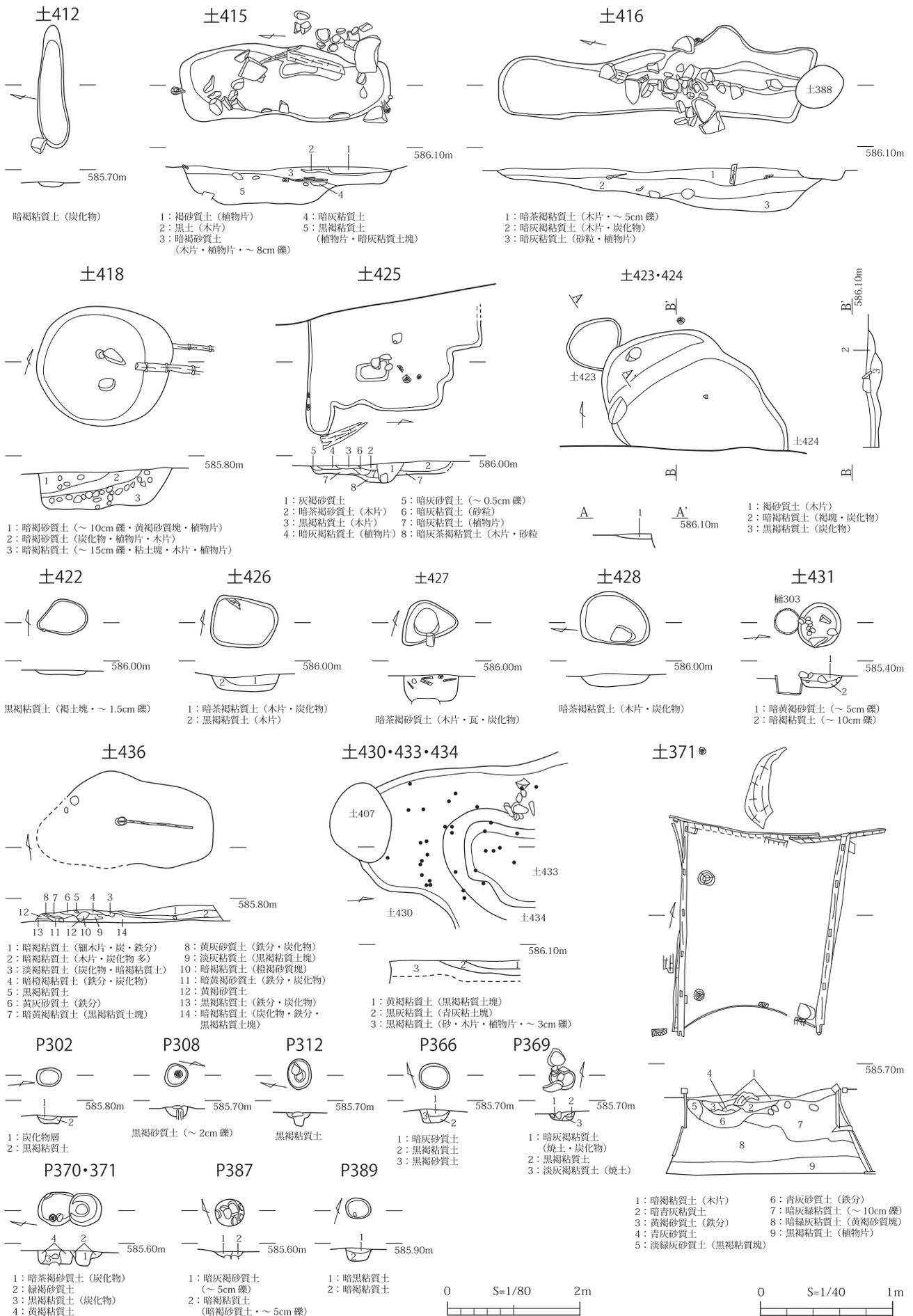
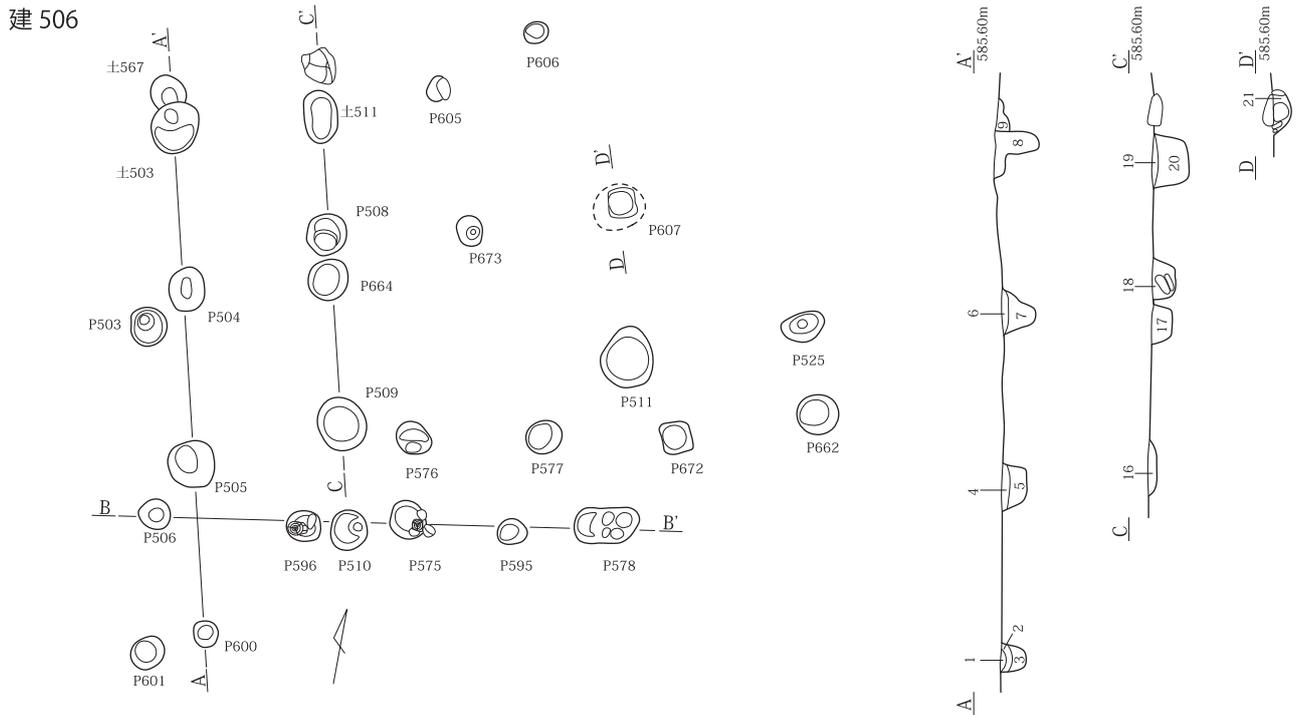
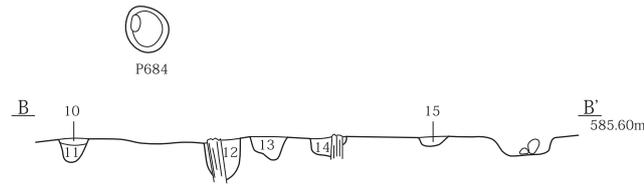


図 37 土居尻 1 III 検遺構図 (12)

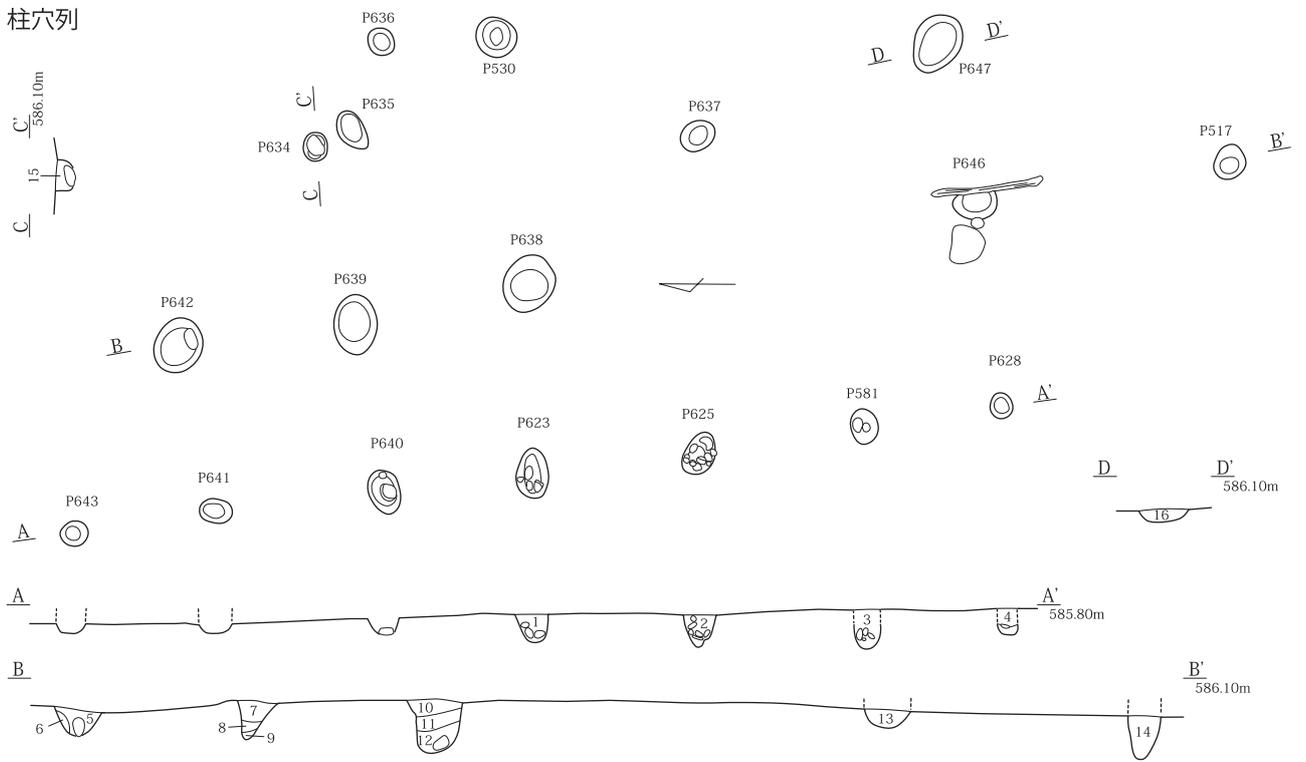
土居尻 1 IV 検
建 506



- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1: 暗褐色粘質土 (～1cm 礫) | 12: 暗褐色粘質土 (青灰砂質土塊) |
| 2: 淡褐色粘質土 (暗褐色土塊) | 13: 暗灰緑粘質土 (～2cm 礫・灰緑砂質土塊) |
| 3: 黒褐色粘質土 (炭化物・鉄分) | 14: 暗褐色粘質土 (青灰砂質塊・炭化物) |
| 4: 黒褐色粘質土 (炭化物・植物片) | 15: 黒褐色粘質土 (青灰砂質土・炭化物・鉄分) |
| 5: 黒褐色粘質土 (～10cm 礫) | 16: 黒褐色粘質土 (～10cm 礫) |
| 6: 灰褐色砂礫土 (～4cm 礫) | 17: 黒褐色粘質土 (灰白粘質土塊・炭化物・鉄分) |
| 7: 黒褐色粘質土 (黒褐色砂質土・～4cm 礫) | 18: 黒褐色粘質土 (黒褐色砂質土・～4cm 礫・鉄分) |
| 8: 暗褐色粘質土 (～5cm 礫・鉄分・細木片) | 19: 黒褐色粘質土 (灰白粘土・黄褐色粘土塊) |
| 9: 黒褐色粘質土 | 20: 黒褐色砂礫土 (～4cm 礫) |
| 10: 暗褐色粘質土 (鉄分・炭化物・灰白粘土塊) | 21: 暗褐色粘質土 (炭化物・鉄分・～15cm 礫) |
| 11: 黒褐色砂礫土 (黒褐色粘質土) | |



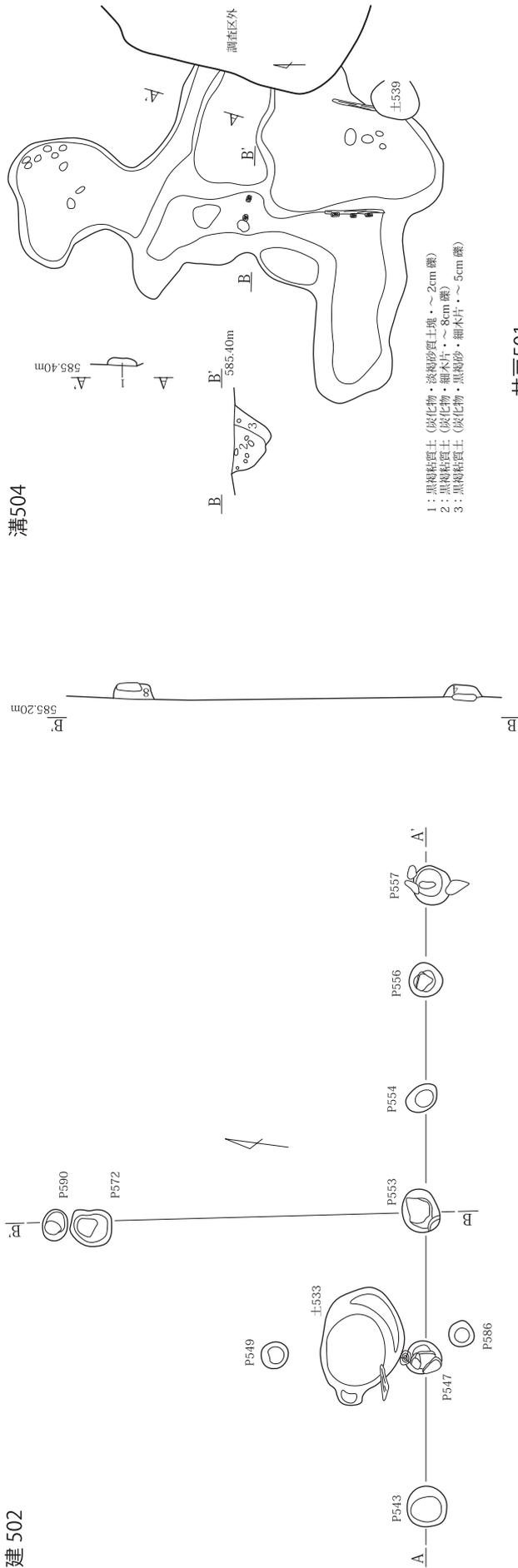
柱穴列



- | | | | |
|---------------------------|--------------------|---------------------|---------------------|
| 1: 暗褐色粘質土 (～8cm 礫・砂粒) | 5: 暗褐色粘質土 (砂粒・炭化物) | 9: 暗褐色粘質土 (植物片) | 13: 黒褐色粘質土 (植物片) |
| 2: 暗褐色粘質土 (植物片・木片・～8cm 礫) | 6: 暗褐色粘質土 (植物片) | 10: 暗褐色粘質土 (黒褐色粘質塊) | 14: 黒褐色粘質土 (植物片) |
| 3: 暗褐色粘質土 (～8cm 礫・植物片) | 7: 暗褐色粘質土 (砂粒) | 11: 暗褐色粘質土 (木片・炭化物) | 15: 暗褐色粘質土 (植物片・砂粒) |
| 4: 暗褐色粘質土 | 8: 暗褐色粘質土 (砂粒) | 12: 暗褐色粘質土 (植物片) | 16: 暗褐色粘質土 (植物片) |

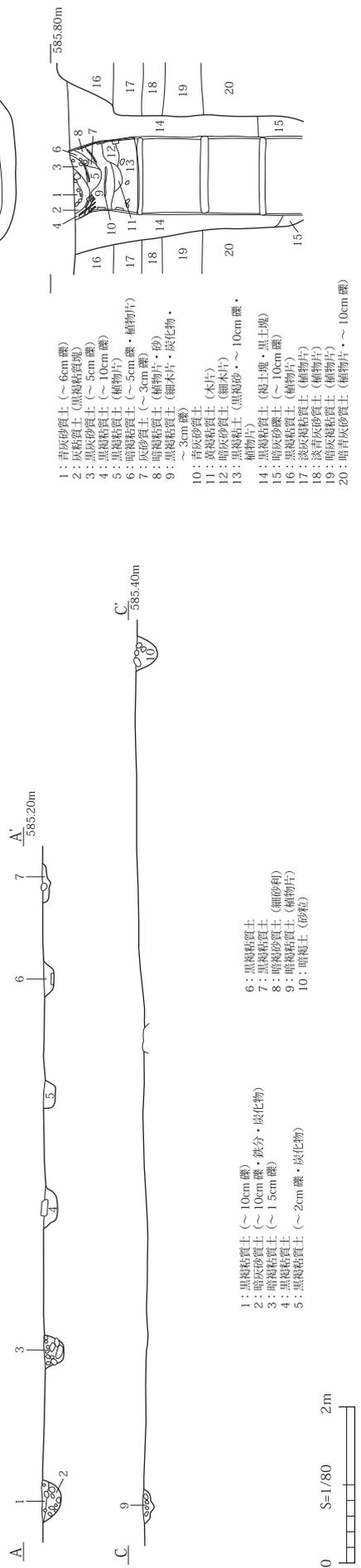
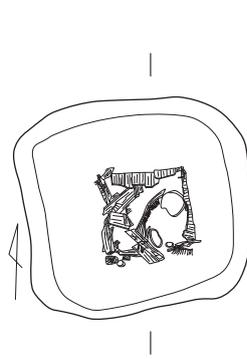
図 38 土居尻 1 IV 検遺構図 (1)

建 502



- 1: 黒粘質土 (炭化物・漆粉砂質土塊・~2cm 礫)
- 2: 黒粘質土 (炭化物・細木片・~8cm 礫)
- 3: 黒粘質土 (炭化物・黒粘砂・細木片・~5cm 礫)

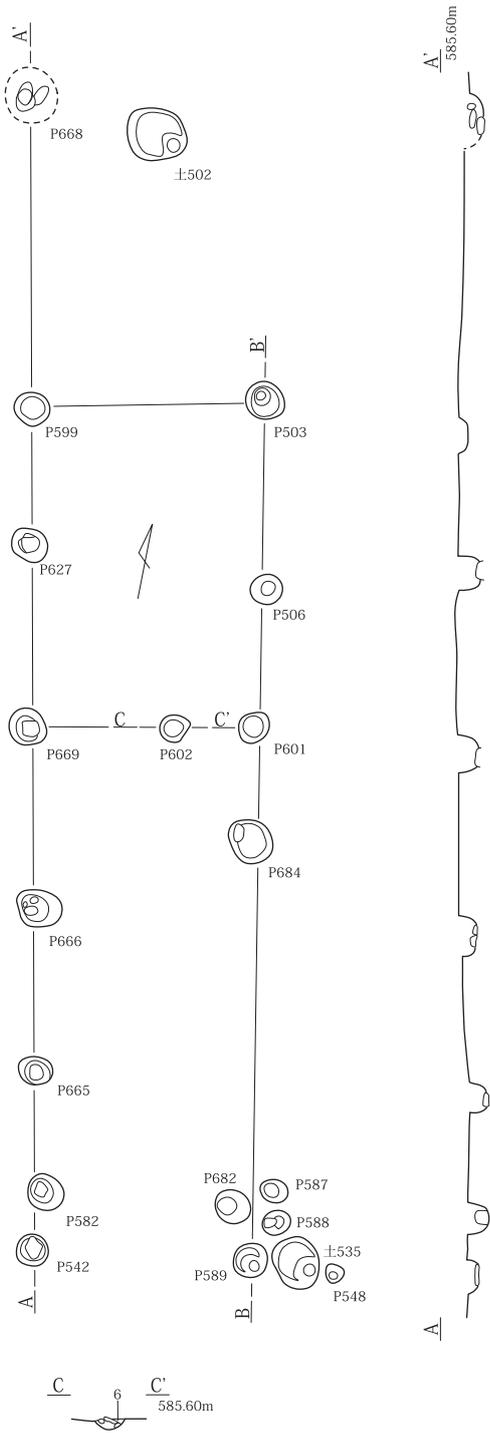
井戸501



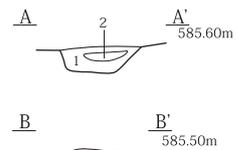
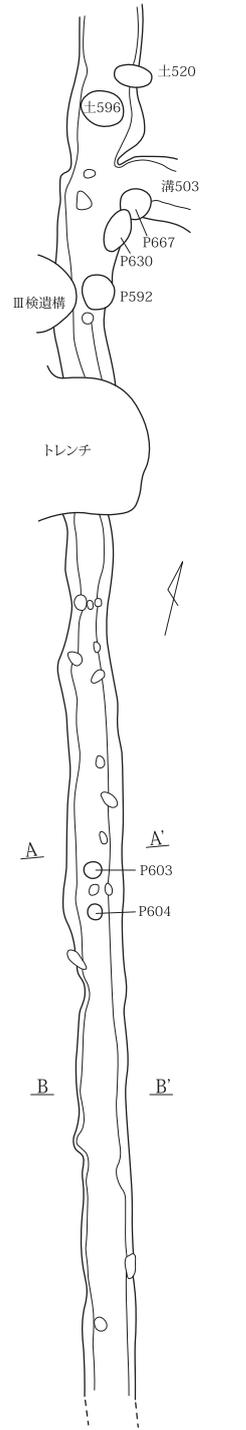
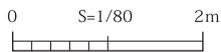
- 1: 青灰砂質土 (~6cm 礫)
- 2: 灰粘質土 (黒粘粘質塊)
- 3: 黒灰砂質土 (~5cm 礫)
- 4: 黒粘粘質土 (~10cm 礫)
- 5: 黒粘粘質土 (植物片)
- 6: 暗粘粘質土 (~5cm 礫・植物片)
- 7: 灰砂質土 (~3cm 礫)
- 8: 暗粘粘質土 (植物片・砂)
- 9: 黒粘粘質土 (細木片・炭化物・~3cm 礫)
- 10: 青灰砂質土
- 11: 黄粘粘質土 (木片)
- 12: 暗灰砂質土 (細木片)
- 13: 黒粘粘土 (黒粘砂・~10cm 礫・植物片)
- 14: 黒粘粘質土 (褐土塊・黒土塊)
- 15: 暗灰砂質土 (~10cm 礫)
- 16: 黒粘粘質土 (植物片)
- 17: 漆灰粘粘質土 (植物片)
- 18: 漆灰砂質土 (植物片)
- 19: 暗灰粘粘質土 (植物片)
- 20: 暗青灰砂質土 (植物片・~10cm 礫)

- 6: 黒粘粘質土
- 7: 暗粘粘質土 (細砂利)
- 8: 暗粘粘質土 (植物片)
- 9: 暗粘粘質土 (砂粒)
- 10: 暗粘土 (砂粒)

図 39 土居尻 1 IV 検遺構図 (2)



- 1: 黒褐粘質土 (炭化物・鉄分・~12cm 礫)
- 2: 黒褐粘質土 (淡黄褐砂質土・炭化物・鉄分)
- 3: 暗褐粘質土 (鉄分・炭化物・灰白粘土塊)
- 4: 黒褐砂礫土 (黒褐粘質土)
- 5: 黒褐粘質土 (炭化物・鉄分・灰白粘土塊・植物片)
- 6: 暗褐粘質土 (~15cm 礫・炭化物・鉄分)



- 1: 暗灰粘質土 (炭化物)
- 2: 暗灰粘質土 (同色砂・植物片)

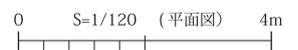
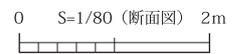
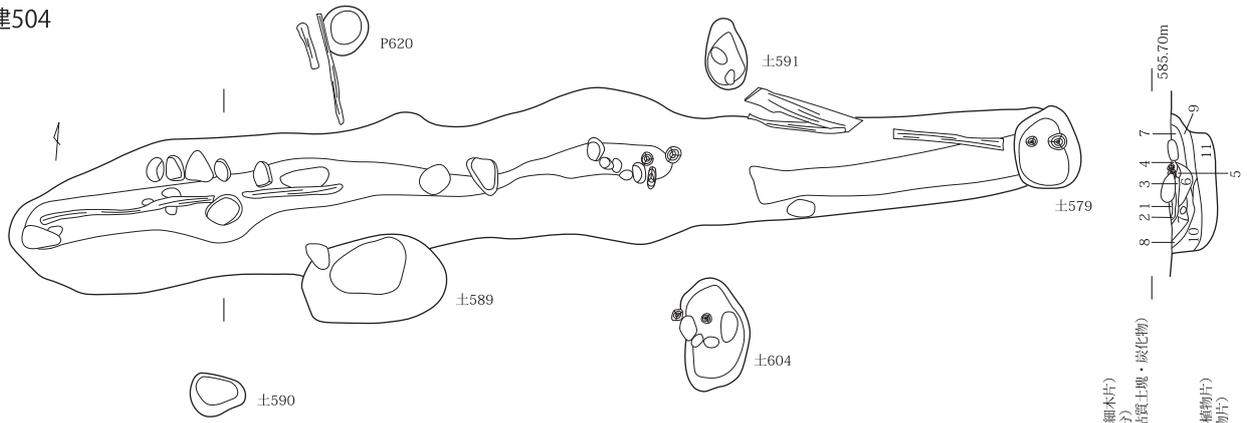


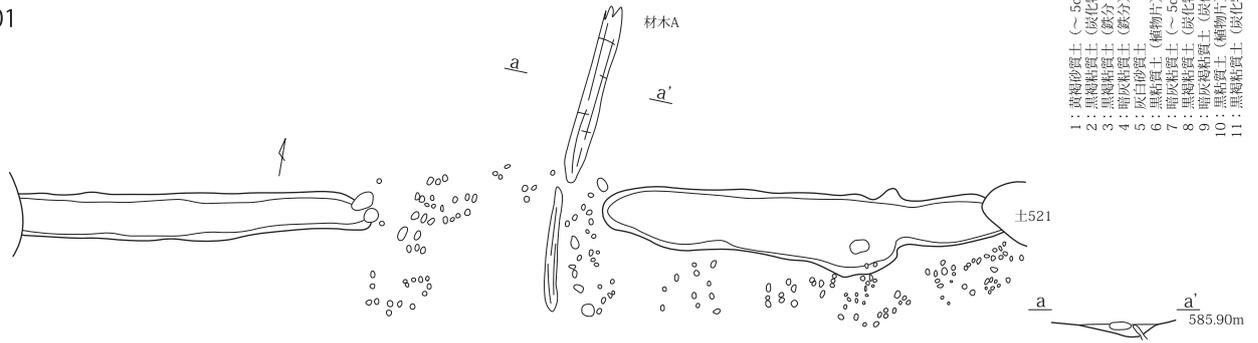
図 40 土居尻 1 IV 検遺構図 (3)

建504



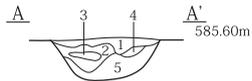
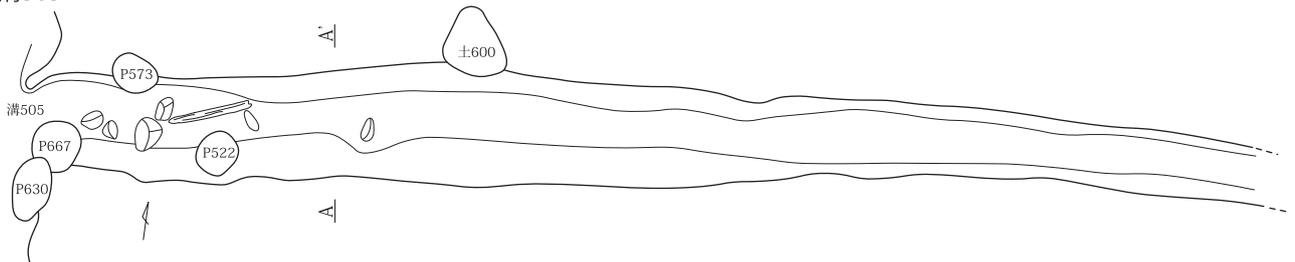
- 1: 草褐色粘質土 (炭化物・細木片)
- 2: 黒褐色粘質土 (炭化物・鉄分)
- 3: 黒褐色粘質土 (鉄分・灰白粘質土塊・炭化物)
- 4: 灰白粘質土 (鉄分)
- 5: 灰白砂質土
- 6: 黒粘質土 (植物片)
- 7: 暗灰粘質土 (炭化物・鉄分)
- 8: 黒褐色粘質土 (炭化物・植物片)
- 9: 暗灰粘質土 (炭化物)
- 10: 黒粘質土 (植物片)
- 11: 黒褐色粘質土 (炭化物・細木片)

溝501



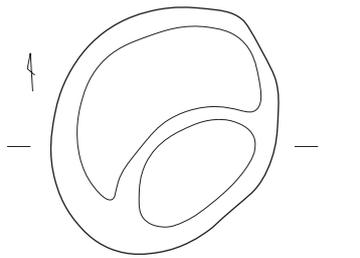
暗褐粘質土 (植物片・鉄分)

溝503

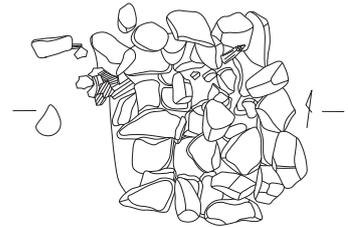


- 1: 暗茶褐色粘質土 (鉄分沈殿)
- 2: 暗灰粘質土 (炭化物・砂粒)
- 3: 暗灰粘質土 (砂粒)
- 4: 暗灰褐色粘質土 (砂粒)
- 5: 暗茶褐色粘質土

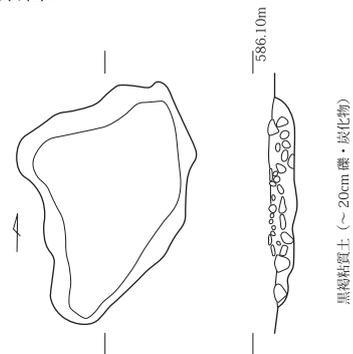
井戸502(土543)



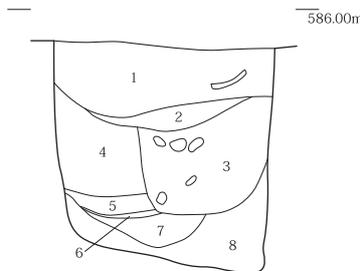
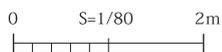
方形石列



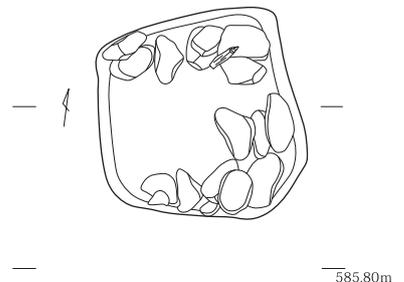
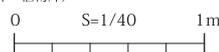
集石501



黒粘質土 (炭化物)



- 1: 黒褐色粘質土 (~3cm 礫)
- 2: 黒褐色粘質土 (植物片)
- 3: 黒褐色粘質土 (~10cm 礫)
- 4: 黒褐色粘質土
- 5: 暗灰粘質土
- 6: 黒褐色粘質土
- 7: 炭化物層
- 8: 黒褐色粘質土 (木片・植物片)



暗褐粘質土

図 41 土居尻 1 IV 検遺構図 (4)

溝502

土坑・ピット列

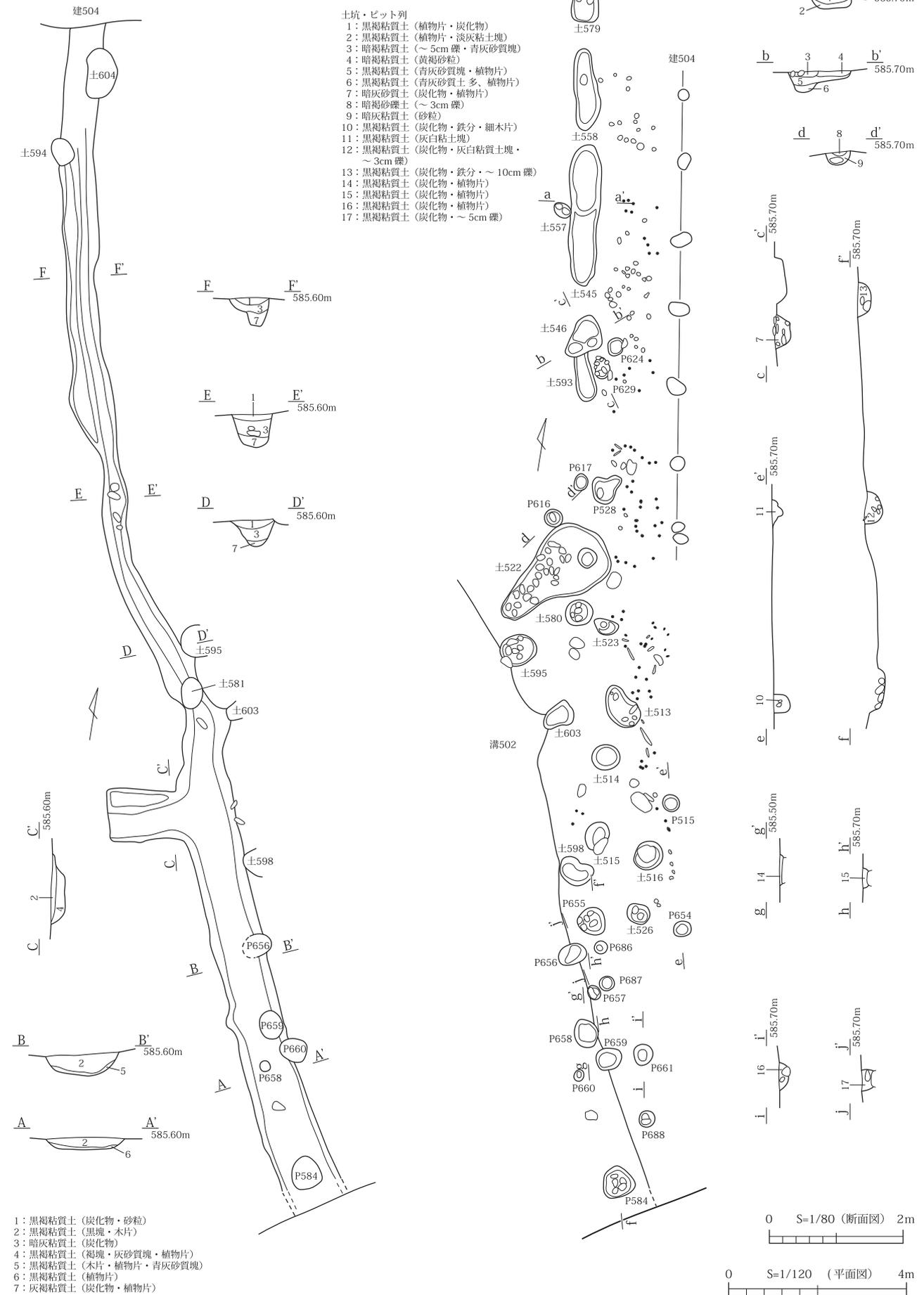


図 42 土居尻 1 IV 検遺構図 (5)

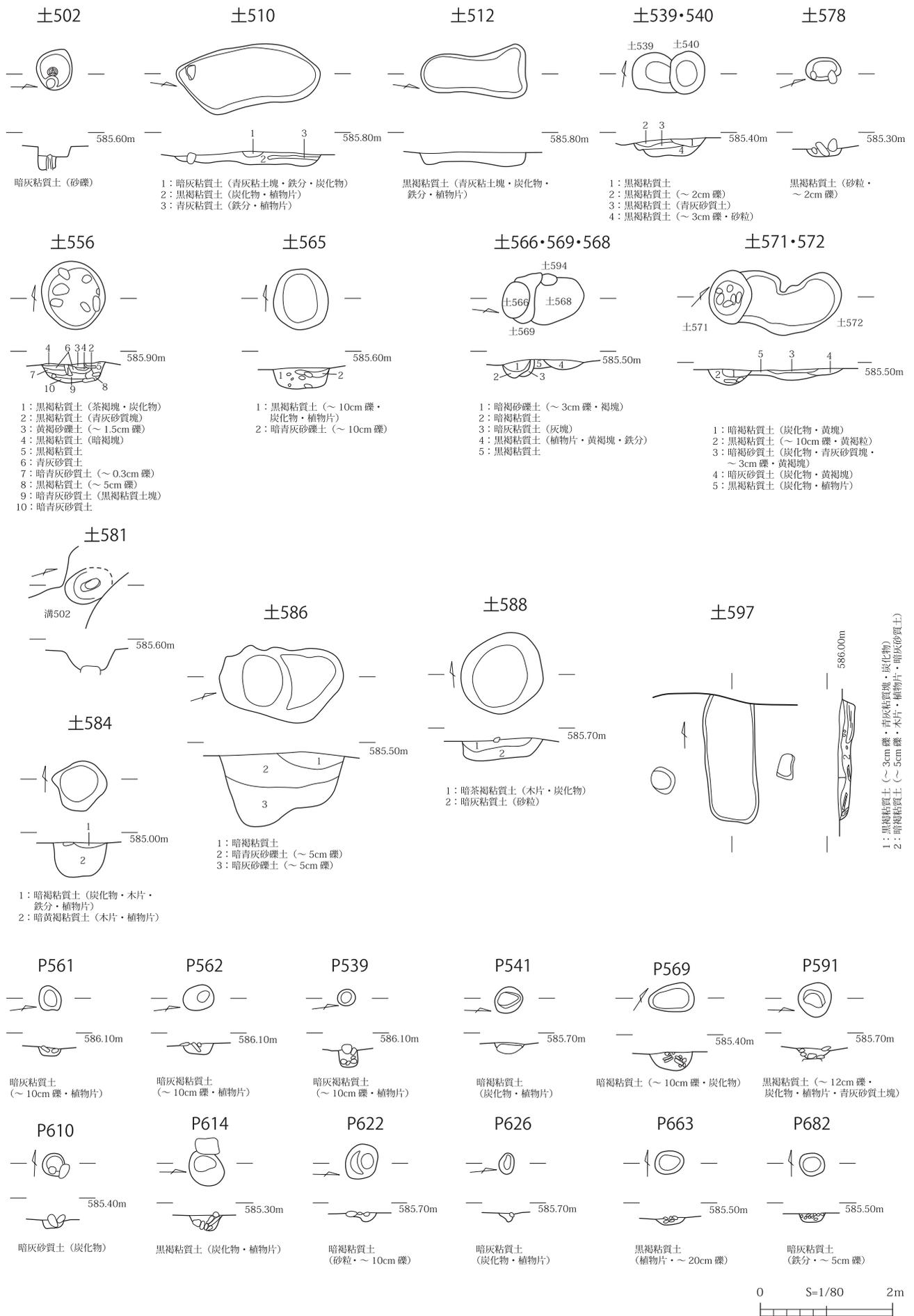


図 43 土居尻 1 IV 検遺構図 (6)

土居尻1 南区

586.20m

586.20m

586.20m

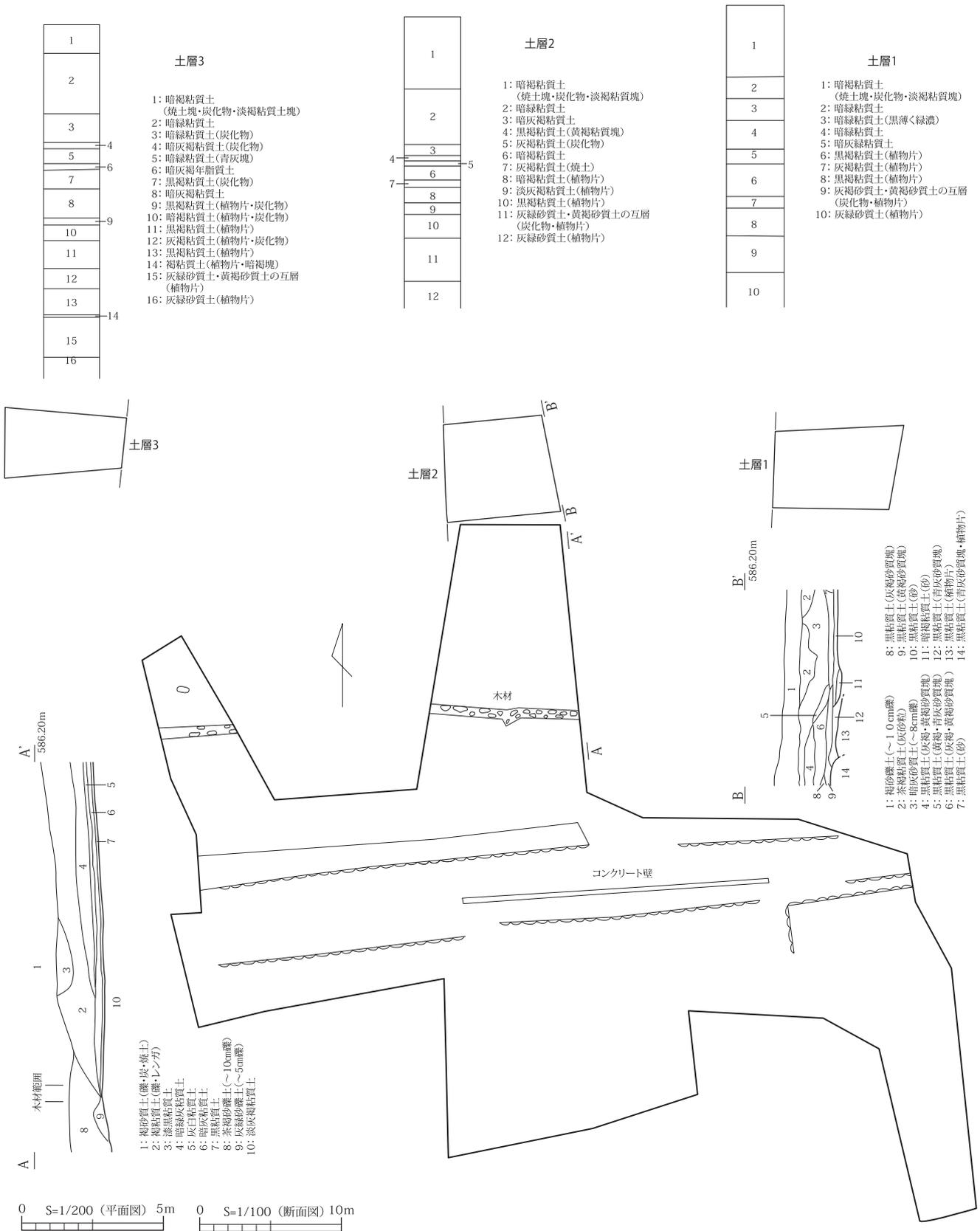


図 45 土居尻1 南区全体図

第Ⅳ章 調査成果（大名町 3）

第 1 節 調査の概要

1 調査区の設定

基幹博物館建設地のうち、土居尻 1 で調査が及んでいない東側を調査対象とし、最大の面積となるように調査区を設定した。この調査により、土居尻 1 と合わせて三の丸南端に位置する土手小路に面している武家屋敷地のほぼ全面を調査することができた。

2 発掘手順

パワーショベルにより攪乱土を除去し、最上面で検出された生活面をⅠ検とした。その後、人力による検出を行い、検出が完了した遺構から遺構番号を付与し、その後は人力により掘り下げた。なお、遺構番号は検出面ごとに 1 号から順に付与した。掘り下げの終了した遺構は写真撮影と測量図の作成による記録を行った。すべての遺構の掘り下げと記録が終了した後、重機を使用してⅡ検までの掘り下げを行った。その後、Ⅲ検まで同様の手順を繰り返した。調査は発生土により埋め戻しを行い、発掘調査の現場における工程を終了した。

3 測量・写真記録

遺構測量に係る基準は国家座標（世界測地系・第 8 系・東北太平洋沖地震後の値）を用いた。調査地周辺にある街区多角点を基に調査地内に基準点を設置し、これを基に 3m グリッドを設定した。測量基準点は、X=26240.000、Y=-47725.000 を NS0、EW0 とした。平面図は簡易遣り方測量により作成し、部分的に光波測距儀を併用した。平面図・断面図の縮尺は 1/20 を原則とし、詳細図が必要なものは 1/10 で作成した。写真は発掘調査の各調査段階と遺構等の遺物出土状況および完掘状況を、一眼レフデジタルカメラ（NIKON D90）・コンパクトデジタルカメラ（RICOH G700）で撮影した。

4 整理の方法

図面類は平面図・土層断面図の点検・照合を行い、報告書に掲載するものはトレース作業を行った。遺物は洗浄・クリーニングを行った後、土器・陶磁器と瓦は注記（遺跡名、調査次、通し番号、帰属遺構名等）を行い、その他の遺物は台帳登録を行った。その後、遺構とその周辺単位で接合作業を行い、遺存度の良好なものや特徴的な遺物を中心に実測・トレースを行った。

5 調査区と検出面の概要

本調査地は土居尻 1 北区に隣接している。絵図との照合から、調査区の西側概ね 1/3 から 1/2 の範囲は土居尻に属するが、より範囲の大きい大名町の遺跡名で調査を実施した。Ⅰ検は近代の遺構・遺物を検出し、Ⅱ検では近世前期から後期までの遺構が切り合う形で検出された。土居尻 1 のような近世の中で明確な盛土造成の痕跡は確認できないため、同一面を使用し続けたか、わずかに削平しながら生活面を整地した可能性がある。

地山面であるⅢ検まで掘り下げると、Ⅰ・Ⅱ検において展開されていた現代攪乱の多くが除去されたため、Ⅰ・Ⅱ検に帰属するが検出できなかった複数の遺構が検出できた。そのため、出土遺物等の時期から整理段階において本来帰属するであろう検出面へ振り替えを行った。

第2節 遺構

1 | 検の遺構

出土遺物から、大正から昭和時代のものも若干含まれているが、主に当該面の主は幕末から明治時代に帰属すると考えられる。この時代の主な出来事として、本願寺松本別院が明治15年に竣工され、明治の大火(21年と23年)により損傷し、昭和30年代に蟻ヶ崎へ移転したことが挙げられる。出土遺構から、本願寺松本別院の範囲は調査区の東側2/3程度と推定される。出土遺物から、遺構は本願寺竣工以前及び明治の大火前、後の3時期に分けられることがわかった。

溝4・10 溝4は「L」字状に曲がり、北部と西部は攪乱に切られている。覆土には拳大～人頭大の礫が敷きつめられており、雨落ち溝の様子を呈している。溝10は2本の溝が十字状に交差したように検出された。2本の溝に切り合いがみられなかったため、同一遺構として扱った。溝4と溝10の間は攪乱によりそのつながりは不明であるが、合わせて「コ」字状ないしは「ロ」字状につながる可能性があり、明治15年から昭和30年頃まで存在した^{文献1}本願寺松本別院の本堂周囲を囲う雨落ち溝とも考えられる。また、本址辺りに本堂があったと記憶している地元住民の証言も得られたことや、出土遺物には幕末～明治期の陶磁器が多く見られることから、前述の本願寺の記録とも合致する。

溝5 「L」字状に曲がり、南側は調査区外に延びる。東側は溝15と切り合い関係にありプランが不明瞭なため、本来は溝15に重なるように南に溝が延びていた可能性がある。北側の東西に延びる溝の端部に礎石と考えられる大礫が確認できたため、建物の布基礎跡であると考えられる。

溝7 幅約40cm、検出延長は約6mで南北に延び、南側は調査区外へ続く。覆土中には拳大の礫が充填され、中央付近を水路1に切られる。上部に基礎石を置く建物基礎か。出土遺物から18世紀末～幕末期に帰属する。

溝14 上端の幅約40cmで南北に延び、さらに調査区外へと続く。溝の両岸に多数の杭が打たれており、さらに部分的に杭列と岸の間に板材が設置されていた。溝底部から砂層の堆積があったことから、水が流れていたと推測される。似たような事例として江戸武家屋敷跡(千代田区溜池遺跡^{文献3}等)で検出された溝状遺構が挙げられ、そこでは排水溝址として扱われている。

溝16 竹管が設置された水道遺構である。竹管は、6～8間隔に設置された木製ジョイントによりつながられている。検出された範囲は、東半が約28m、西半が約18m弱で、さらに東西に延びると考えられる。土86の桶は、溝16と同軸上に位置しているため、水道遺構の一部であった可能性がある。竹管の一部は銅線を用いて修復され、さらに止水のために粘土で覆われていたことが確認できた。出土遺物から幕末～近代に帰属する。

溝17 幅は約50～90cmでL字状を呈している。覆土上層部は焼土と拳大の礫、L字角部には上面を平らに整形した60～70cm大の石が据えられ、それを除去すると丸太が組まれていた。溝底面には捨て杭は打たれないが、布堀礎石建物の基礎部分と考えられる。角部の石は礎石の一部か。

水路1 部分的にコンクリートで造られており、本願寺の参道に関わる遺構と考える。推定される本堂の位置と当時の様子を知る地元住民の証言から参道は千歳橋からまっすぐ北に延びた箇所位置すると考えられるため、本遺構は参道にかかる遺構と推定できる。出土遺物には19世紀～近代の陶磁器、大正～昭和期に生産されたマーブル玉がある。

土5 桶を埋設した自噴式の井戸跡である。底板の穴には廃絶時の息抜き用の鉄管が通されていた。掘方内より16世紀末～17世紀の瀬戸・美濃産陶器が出土するが、自噴式の井戸の登場が幕末期以降のため混入品か。桶内埋土から出土した10円玉から廃絶は昭和30年以降と考える。

土84 東側にこぶし大～人頭大の礫、瓦、陶磁器片等が集中する。南西壁部には4本の杭、底面には3

本の細杭が打たれている。出土遺物から幕末～明治期に帰属する。

土 86 検出時には木桶が確認されていた。西半は攪乱されているが、位置的におおよそ溝 16 の延長線上にあるため、調査区を東西に縦断する水道遺構の一部である可能性がある。

土 87 掘方はごく浅く、土坑中央に礎石と思われる扁平な自然石が据えられていた。本址に対応するほかの礎石は確認されなかった。

土 90 埋設桶が壊れ、底板と側板の一部は失われている。隣接する土 93 との切り合いは確認できなかったため、同一時期に埋設されたものと考えられる。

土 93 埋設桶が良好な状態で残存し、底板・側板に穿孔は見られない。桶の下部には更に別の桶（Ⅱ検土 191 埋設桶）が検出されたが、本址の配置とは合わない。下部遺構は桶を重ねた形式の井戸だが、本址は井戸とは異なる遺構と考えられる。

焼土範囲 調査区の東半にのみ焼土範囲が認められた。明治の大火に伴う焼土と考えたが、出土遺物の大半が 17 世紀～18 世紀に帰属し、19 世紀のものはごくわずかであったため、大火に伴う焼土というより、別の火災場所から持ち込まれた造成土である可能性が高いと思われる。

瓦集中部 本願寺本堂の周囲に巡らされた雨落ち溝跡と考えられる溝 4・10 に囲まれた中で検出された。瓦が含まれていた土層に焼土塊や炭化物が多く含まれていたため、火災により焼失した建物の瓦が一括廃棄された可能性がうかがえる。瓦の中には、立沢瀉文、三つ巴文等の家紋瓦が含まれている。「旧松本市史」^{文献 1}によると、明治 21 年 1 月と明治 23 年 3 月の 2 度の火災により調査地一帯も含め相当な被害を受けたことから、瓦の廃棄時期は、明治の大火直後と考えられる。

2 Ⅱ 検の遺構

出土遺物は 16 世紀後半～近代までと幅広いが、当該面は主に松本城築城期頃から幕末以前に帰属すると考えられる。近世の遺構の大半はこのⅡ 検に集中している。近世の三の丸は武家屋敷地として利用されており、家主は時代によって変わり、敷地面積や建物の配置も家主の石高に応じて作り変えられた。地点によって整地盛土を行っていることが過去の発掘調査の成果や絵図から判明している。本調査地では旧地形が微高地状であったため、土居尻 1 でみられた盛土による整地ではなく削平を伴う整地を行った結果、幅広い時期の遺構が検出されたと考えられる。

溝 7 調査区北端から真っ直ぐ南へ延び、両端とも調査区外へ続く。中央付近は池状遺構である土 123 に切られている。幅は 40cm～200cm と一定でなく、北半が狭く南半は広い傾向がみられる。埋土中には胴木を伴う人頭大の石列と拳大の自然礫が集中し、礫は胴木下部にも及ぶ。土 123 との切り合い部では掘方は確認できないが、平面プランに併行して杭列が並んでいる。出土遺物から 16 世紀後半～17 世紀前半に帰属すると考える。近世の屋敷割とは軸が異なるため、三の丸整備以前の地割に伴う遺構である可能性も考えられる。

溝 16 幅約 20～70cm、北東から南へくの字状に延び、南側は調査区外へ続く。北半底面部には杭が打ち込まれており、敷地境の溝と考えられる。出土遺物から 18 世紀後半～19 世紀初頭に帰属すると考えられる。

溝 31 竹管が設置された水道遺構で、竹管は木製ジョイントに連結する。南北両端には桶形の枡を配置、竹管と接続している。検出範囲は延長約 10 m、北西から南東に延び、さらに東西へ続くと考えられる。多量の遺物が出土しており、陶磁器の制作年代から概ね 18 世紀後半～19 世紀初頭に帰属する。

畝状遺構 調査区中央付近で検出。東西に延びる 6 条と南北に延びる 1 条の溝状掘り込みが複合しており、切り合い関係は認められない。長さは東西約 160cm～280cm、南北 410cm、幅は約 25cm～50cm 程であり、

いずれも断面はごく浅い。北から2本目の掘方内に自然木が確認されたが用途は不明。18世紀後半の家主である太田氏の屋敷間取り図^{文献2}には畑の位置が記載されているため、本址は畝を作る際にできた痕跡と考えられる。出土遺物から19世紀前半以降に帰属すると考えられる。

また、同様に土125を切る溝12～15、土142についても畝状に検出されていることから、同様に太田氏時代の畑跡である可能性が高い。

土44 底面に扁平な自然礫が据えられている。埋土内に堆積する栗石から、柱抜取後の掘立柱建物の柱穴と考える。

土113 桶が埋設されており、桶底板・側板に穿孔はなく、栗石もない。出土遺物から廃絶年代は19世紀以降と考えられる。

土114 土113に隣接し、113同様桶が埋設されている。桶底板・側板に穿孔は認められない。桶内上層には板状の木材が重なって破棄されていた。

土123 長軸約11mで平面不整形を呈する。南半中央底面部にはテラス状の高まりがあり、これを境に東西両側の底面はより深く掘り込まれている一方、北半は浅く平面は不整形である。南東部底面付近で拳大～人頭大の礫集中を確認したが、湧水が確認されたことから本址より古い時期の石組井戸(土194)の痕跡とした。出土遺物より廃絶期は18世紀後半～19世紀初頭に帰属する。陶磁器の他、漆器・木簡等の木製品、刀装具・包丁・簪等金属製品、石臼・基石等石製品、瓦、ガラス製簪など多岐にわたる多量の遺物が出土した。元来は池として作られたが、屋敷の住み替え等の理由で廃絶された際に廃棄土坑として利用されたものと考えられる。

土131 桶が埋設され、掘方内には木材が据えられていた。底板、側板に穿孔は見られない。遺物は陶磁器小片の他、桶下部からは硯が出土している。

土143 長軸約7m、平面隅丸長方形を呈する。南北に長く南側は調査区外へ続く。北半底面部がやや深い。多量の遺物が出土しており、土123と同様同様の年代観を持つ。壁はほぼ垂直に立ち上がり、周縁付近で浅いテラス状を呈する。比較的形状が整っていることから、元は別の目的で作られた遺構を最終的に廃棄土坑として利用したものか。

土182 掘方を地下水脈まで掘り抜き、底板の無い桶を積み重ねた井戸側を持つ井戸跡である。出土遺物から廃絶期は18世紀中葉～後半と考えられる。

土191 底板の無い桶を積み重ねた井戸側を持つ井戸跡である。I検土93埋設桶の下部の桶に相当する。18世紀中葉の瀬戸産せんじ碗などが出土している。

土192 埋設された木桶底部に穴を開け、竹管を設置した自噴式の井戸跡である。掘方内出土遺物から、構築年代は幕末以降に帰属すると考えられる。

土194 掘方を地下水脈まで掘り抜き、拳大～人頭大の自然礫を積み重ねた井戸側を持つ井戸跡である。土123の掘り下げ過程で礫集中を確認したため別遺構とした。出土遺物は無い。

土196 断面台形で深さは約90cm、埋土内から17世紀後半～18世紀陶磁器・土器、木製品などが出土した。本来の機能・性格は判然としないが、未完掘の井戸などの竪穴を廃棄土坑として利用したものと考えられる。

土197 方形に組んだ木枠の井戸枠を配し、木枠周囲に拳大～人頭大の自然礫・割石を充填した井戸跡である。遺物は17世紀後半の磁器、漆器等が出土した。

土198 断面袋形で深さは約130cm、埋土内からは16世紀後半～18世紀頃の陶器・土器、木製品などが出土した。土196と同様、本来の性格は判然としないが、竪穴を廃棄土坑として利用したものか。

土199 底面の一部が円筒形に深く掘り下げられている。出土遺物は17世紀代の陶器、漆器等がある。

出土遺物の多さから廃棄土坑と考えられる。

土 201 掘方円筒形で深く掘り下げられるが、安全面から完掘はしなかった。出土遺物は 17 世紀～ 18 世紀の陶磁器・土器、漆器等がある。素掘りの井戸ないし未完掘の井戸を廃棄土坑として利用したものか。

土 202 廃棄土坑と考えられる。遺物は 16 世紀末～ 17 世紀の陶器・土器が出土した。

3 III 検の遺構

遺物出土量が少ないものの、時期は 16 世紀末～ 17 世紀中頃までとまとまりがあり、II 検とも共通する時期である。遺構密度は II 検と比較すると少なく、特に調査区中央部ではほとんど検出されなかったが、II 検で確認した武家地に伴う遺構とは軸が異なる建物址、溝跡が認められた。また掘立柱建物址と見られる土坑の中に栗石や礎盤石を伴うものも確認された。

建物跡（土 101・105・107・108・121・123・124・169・173・175・176） 2 間× 4 間の建物跡 1 棟を確認した。土 105・108・176 には木製の柱材が残存する。これらは掘方底面より下層に打ち込まれていた。土 101・121・123・124・169・173・175 には礫が残存しており、これらは柱材の腐食や軟弱地盤での沈下を防ぐためのものである。出土遺物は土 169 で 16 世紀末～ 17 世紀末の陶磁器、土 108 から 17 世紀後半のものが確認されたが、それ以外は 18 世紀中葉～後半にまとまる。

溝 7 北西から南東へ延びる平面不整形の溝状遺構で、溝 8 等と切りあうが攪乱を受け正確な範囲は特定できない。計測可能な範囲では幅約 60～130cm で、両端が調査区外へ続いている。出土遺物が少なく時期の特定は難しいが、近世の遺構軸と異なることから三の丸整備以前の可能性も考えられる。

溝 9 幅約 80cm、検出された延長は約 12m 弱で東西に延びる。出土遺物は少ないが、遺構の軸から溝 7 同様三の丸整備以前の可能性も考えられる。

土 8・70・71・89・90・104・135 埋土中～底面付近に拳大程度の自然礫・角礫が集中する。栗石を伴う掘立柱建物の柱穴と考えられる。土 71 は平面不整形を呈するが、切り合い或いは抜取等によるものか。土 135 には柱材と思われる木材の一部が残存する。出土遺物は少量で時期を比定できるものはない。

土 58・75・131・139・172 底面部に扁平な面を持つ自然礫が 1 つないし複数集えられている。礎盤石を伴う掘立柱建物の柱穴と考えられる。土 139 は礎盤石上に中心が腐食し空洞化した柱材が残存していた。土 172 のみ埋土内から連房期の陶器片が出土する。

土 69・88・160・166 埋土中に拳大程度の自然礫が集中し、底面部には扁平な面を持つものや人頭大の礎盤石が据えられている。土 69 のみ底面に 2 か所の礫集中と打ち込まれた杭が認められる。切り合いのない作り変えのためと考えられる。出土遺物はほとんどなく、時期の特定は難しい。

土 40・54 土層断面から柱痕跡が確認できたが、木質は残存しておらず、柱抜取後に埋土したと考えられる。

〈参考・引用文献〉

文献 1 松本市教育委員会 1933 『松本市史』上巻

文献 2 松本市教育委員会 1995 『松本市史』第二巻歴史編Ⅱ近世

文献 3 公益財団法人 東京都スポーツ文化事業団 東京都埋蔵文化財センター 2011 『溜池遺跡』
東京都埋蔵文化財センター調査報告 258

文献 4 江戸遺跡研究会 2001 『図説 江戸考古学研究辞典』 柏書房

文献 5 鐘方正樹 2003 『江戸の考古学』 「ものが語る歴史 8」 同成社

表3 大名町3 土坑一覧表

検出面	土抗No	平面形	規模 (cm)			備考	その他
			長径	短径	深さ		
I	1	楕円形	55	41	11		
I	2		欠番				
I	3	不明	154	(34)	20		
I	4	楕円形	116	80	27		
I	5	楕円形	142	(85)	43	桶	
I	6	不明	120	(31)	6		
I	7		欠番				
I	8	円形	43	< 38 >	28	桶	攪乱に切られる
I	9	不整形	318	104	10	礫多あり	
I	10	楕円形	148	97	11		
I	11		欠番				
I	12	楕円形	67	30	6		
I	13~20		欠番				
I	21	円形	72	55	34	礫・杭あり	
I	22		欠番				
I	23	方形	55	39	9	木枠あり	
I	24	円形	68	50	4		
I	25	楕円形	92	81	11		
I	26		欠番				
I	27	不整形	132	94	9		
I	28	円形	31	25	4		
I	29	不整形	172	162	5		
I	30	不整形	160	109	10		
I	31	楕円形	73	45	9		
I	32	楕円形	40	20	5		
I	33	楕円形	40	< 34 >	13		
I	34		欠番				
I	35	不整形	183	56	14	礫多	
I	36	不整形	214	127	14	礫多	
I	37	円形	37	36	5		
I	38~39		欠番				
I	40	楕円形	52	37	5		
I	41	不整形	50	45	13		
I	42		欠番				
I	43	不整形	103	70	15		
I	44	円形	53	51	15		
I	45	不整形	110	40	12		
I	46	円形	63	43	9		
I	47	円形	38	27	4		
I	48	楕円形	55	35	9		
I	49	円形	35	30	26		
I	50	円形	57	57	12		
I	51	円形	69	47	51		
I	52~53		欠番				
I	54	円形	37	20	8		
I	55	楕円形	98	40	25		
I	56		欠番				
I	57	円形	53	51	6		
I	58	円形	44	38	10		
I	59	円形か	65		65	桶・竹管あり	水道遺構
I	60	楕円形	84	42	12		
I	61~63		欠番				
I	64	楕円形	62	38	7		
I	65	円形	55	34	4		
I	66	円形	53	50	9		
I	67	円形	40	< 38 >	43	礫多あり	
I	68		欠番				
I	69		欠番				
I	70	円形	38	27	12		
I	71	円形	36	32	8		
I	72	楕円形	81	58	13		
I	73	円形	36	30	6		
I	74	円形	40	30	9		
I	75	楕円形	112	< 75 >	8	礫多あり	
I	76		欠番				
I	77	円形	52	42	12		
I	78	不整形	105	76	11		
I	79	楕円形か	90	(90)			
I	80	楕円形	71	53	23		
I	81	円形	49	43	14		
I	82		欠番				
I	83		欠番				
I	84	不整形	318	148	38	礫・木片等あり	

検出面	土抗No	平面形	規模 (cm)			備考	その他
			長径	短径	深さ		
I	85	円形	102	77	10		
I	86	不明	58			桶	井戸か
I	87	円形か	72	(32)	25		礎石か
I	88	楕円形	(274)	134	7		
I	89	円形	54	(32)	16		
I	90	円形	-	-	-	桶	
I	91	不整形	173	70	10		
I	92	楕円形	75	59	12	礫多あり	
I	93	円形	-	-	-	桶	
II	1	円形	39	33	9		
II	2	楕円形	143	63	33		
II	3	楕円形	42	33	6		
II	4	楕円形	91	59	9		
II	5	円形	41	33	6		
II	6	楕円形	48	38	4		
II	7	楕円形	98	54	6		
II	8	円形	30	28	6		
II	9	円形	22	14	3		
II	10	円形	22	17	2		
II	11	楕円形	112	94			
II	12	円形	23	18	8		
II	13	円形	20	(10)	14		
II	14		欠番				
II	15		欠番				
II	16	楕円形	50	26	2		
II	17	楕円形	97	25	5		
II	18	円形	16	(8)	11		
II	19	楕円形	68	50	8		
II	20	円形	28	26	3		
II	21	円形	48	38	3		
II	22	円形	20	18	8		
II	23	円形	27	18	4		
II	24	円形	23	14	3		
II	25	円形	18	16	4		
II	26	楕円形	111	36	6		
II	27	楕円形	150	76	14		
II	28	円形	63	58	35	礫多あり	
II	29	楕円形	162	84	10		
II	30	円形	33	28	16		
II	31	円形	20	13	7		
II	32	円形	38	32	7		
II	33	円形	22	22	4		
II	34	円形	26	24	8		
II	35	円形	31	30	6		
II	36	円形	36	33	4		
II	37	楕円形	106	40	62	礫多あり	柱穴痕
II	38	不整形	158	68	9		
II	39	楕円形	60	41	6		
II	40	円形	178	146	20		
II	41	円形	48	46	16		
II	42	円形	39	38	21		
II	43		欠番				
II	44	円形	42	42	38	礫多あり	柱穴痕
II	45	円形	50	(22)	21		礎石か
II	46	円形	48	40	6		
II	47	方形	118	110	10	礫一面あり	
II	48	円形	25	(14)	18	杭あり	
II	49	円形	134	(70)	13		
II	50	楕円形	(90)	(21)	5		
II	51	円形	48	37	16		
II	52	不整形	142	134	36	礫・木多あり	
II	53	円形	94	80	19		
II	54	楕円形?	(40)	31	10		攪乱に切られる
II	55	楕円形	104	58	20		
II	56	楕円形	74	32	9		
II	57		欠番				
II	58	楕円形	64	46	17		
II	59	円形	32	29	7		
II	60	円形	26	24	8		
II	61	円形	40	34	3		
II	62	楕円形	30	14	2		
II	63	円形	57	42	8		
II	64	楕円形	290	99	10		
II	65	円形	49	40	10		
II	66	楕円形	53	30	12		
II	67	円形	54	44	52	礫多あり	柱穴痕か
II	68	円形	46	44	76	礫多あり	柱穴痕か
II	69	円形	60	52	49		柱穴痕か
II	70	円形	38	28	9		

検出面	土抗No	平面形	規模 (cm)			備考	その他	
			長径	短径	深さ			
II	71	円形	66	62	56	底面に礫あり	柱穴痕か	
II	72	円形	38	40	10			
II	73	楕円形	83	48	13			
II	74	不整形	168	74	7			
II	75	円形	97	76	13			
II	76	円形	70	63	15			
II	77	欠番						
II	78	不整形	96	82	5			
II	79	円形	60	57	44		柱穴痕か	
II	80						未掘	
II	81	円形	18	17	8			
II	82	円形	34	29	9			
II	83	円形	22	19	5			
II	84	円形	45	37	7			
II	85	楕円形	220	127	18	桶		
II	86	楕円形	124	105	36			
II	87	欠番						
II	88	楕円形	236	74	5			
II	89	不整形	(300)	168	14			
II	90	円形	66	56	10			
II	91	円形	55	40	13			
II	92	円形	61	57	16			
II	93	円形	28	26	16			
II	94	円形	61	53	14			
II	95	欠番						
II	96	円形	(20)	29	26		柱穴痕	
II	97	円形	46	35	4			
II	98	円形	42	40	16	礫多あり		
II	99	円形	38	36	8			
II	100	楕円形	55	22	4			
II	101	円形	57	48	12			
II	102	楕円形	54	204	8			
II	103	長円形	(108)	64	14			
II	104	円形	26	21	2			
II	105	不明	-	-	-		未掘	
II	106	円形	95	84	10			
II	107	円形	49	33	9	礫多あり		
II	108	円形	30	29	4			
II	109	円形	44	39	8	礫多あり		
II	110	不整形	60	40	12			
II	111	円形	34	33	6			
II	112	円形	52	42	5			
II	113	円形	86	84	29	桶		
II	114	楕円形	116	110	40	桶		
II	115	欠番						
II	116	円形	43	(34)	33		礎石か	
II	117	円形	46	33	4			
II	118	欠番						
II	119	不整形	(130)	(120)	84			
II	120	楕円形	49	26	5			
II	121	円形	33	18	5			
II	122	楕円形	103	74	9			
II	123	不整形	1040	972	98		池状遺構	
II	124	円形	127	102	24			
II	125	楕円形	(123)	62	19			
II	126	楕円形	54	21	8			
II	127	楕円形	58	23	6			
II	128	円形	60	46	12			
II	129	楕円形	126	120	50			
II	130	円形	74	<47>	22			
II	131	円形	94	84	30	桶		
II	132	不明	-	-	-		未掘	
II	133	円形	48	35	24			
II	134	欠番						
II	135	欠番						
II	136	楕円形	(74)	28	12			
II	137	楕円形	64	33	13	杭2本あり		
II	138	欠番						
II	139	不整形	200	(140)	4			
II	140	楕円形	125	108	10			
II	141	円形	32	(15)	(47)		柱穴痕か	
II	142	不整形	694	274	20			
II	143	楕円形	718	369	63			
II	144	楕円形	115	96	5	木多あり		
II	145	欠番						
II	146	不整形	(154)	150	10			
II	147	不整形	(260)	180	43			
II	148	円形	(42)	35	11			
II	149	円形	112	96	33	礫多あり		
II	150	欠番						

検出面	土抗No	平面形	規模 (cm)			備考	その他	
			長径	短径	深さ			
II	151	円形	67	52	15			
II	152	楕円形	40	17	5			
II	153	不整形	(95)	83	7		攪乱に切られる	
II	154	円形	44	27	5			
II	155	欠番						
II	156	円形	40	27	3			
II	157	楕円形	50	43	1			
II	158	円形	29	28	1			
II	159	楕円形	43	13	2			
II	160	楕円形	60	38	11			
II	161	不整形	366	206	4		水路に切られる	
II	162	楕円形	83	23	3			
II	163	楕円形	90	43	3			
II	164	円形	43	40	6			
II	165	円形	33	30	13			
II	166	楕円形	102	57	8			
II	167	楕円形	39	30	5			
II	168	楕円形	82	67	10			
II	169	楕円形	349	260	42			
II	170	楕円形	137	41	12			
II	171	欠番						
II	172	円形	71	56	11			
II	173	不整形	150	142	7			
II	174	円形	57	50	6			
II	175	円形	88	53	5			
II	176	円形	36	35	5			
II	177	長方形	117	72	6			
II	178	楕円形	76	49	(68)			
II	179	楕円形	51	25	10			
II	180						未掘	
II	181	欠番						
II	182	円形	213	200	(200)	桶	結桶組型井戸跡	
II	183	不整形	(370)	(190)	13	骨範囲1		
II	184	不整形	296	170	13			
II	185	楕円形	(210)	95	9			
II	186	不整形	122	93	9			
II	187	円形	39	38	3			
II	188	円形	94	78	9			
II	189	円形	46	46	5			
II	190	円形	95	(70)	23			
II	191	円形	(220)	(164)	(75)	桶		
II	192	楕円形	(223)	(193)	90	桶	自噴式井戸跡	
II	193	楕円形	62	34	48			
II	194	楕円形	227	208	(160)		石組型井戸跡	
II	195	不整形	(160)	(63)	32			
II	196	円形	162	155	87			
II	197	楕円形	168	150	240以上		方形縦板組型井戸跡	
II	198	方形	214	202	129			
II	199	楕円形	292	203	127			
II	200	楕円形か	271	126	63			
II	201	円形	251	200	(170)			
II	202	楕円形	277	(190)	55			
II	203	楕円形	516	413	46			
II	204	円形	<50>	<43>	61	杭あり	柱穴痕	
II	205	円形	73	62	45			
III	1	円形か	56	(30)	5			
III	2	不整形	52	43	7			
III	3	欠番						
III	4	欠番						
III	5	楕円形	74	42	6			
III	6	円形	41	32	4			
III	7	欠番						
III	8	円形	32	27	26		柱穴痕か	
III	9	欠番						
III	10	欠番						
III	11	楕円形	118	101	5			
III	12	楕円形?	(30)	30	4			
III	13	欠番						
III	14	円形?	<190>	(77)	17			
III	15	不整形	(170)	87	9			
III	16	楕円形	117	58	4			
III	17	欠番						
III	18	円形	40	34	11			
III	19	円形	31	30	20			
III	20	楕円形	40	26	22			
III	21	円形	46	34	5			
III	22	欠番						

検出面	土抗No	平面形	規模 (cm)			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅲ	23	楕円形	120	53	6		
Ⅲ	24				欠番		
Ⅲ	25				欠番		
Ⅲ	26	円形	37	35	3		
Ⅲ	27	楕円形	78	33	6		
Ⅲ	28～32				欠番		
Ⅲ	33	円形	36	34	12		
Ⅲ	34	隅丸長方形か	(44)	52	<45>		
Ⅲ	35～37				欠番		
Ⅲ	38	円形	14	14	8		
Ⅲ	39	円形?	35	(10)	13		
Ⅲ	40	円形	32	23	20		柱穴痕
Ⅲ	41	円形	40	33	15		
Ⅲ	42	円形	39	28	9		
Ⅲ	43	不整形	(260)	127	(17)		
Ⅲ	44				欠番		
Ⅲ	45	円形	28	23	11		
Ⅲ	46	円形	25	25	5		
Ⅲ	47				欠番		
Ⅲ	48	楕円形	125	105	10		
Ⅲ	49				欠番		
Ⅲ	50	楕円形?	116	(75)	10		
Ⅲ	51	楕円形	115	74	7		
Ⅲ	52	円形	41	41	6		
Ⅲ	53	楕円形?	64	(20)	33		
Ⅲ	54	円形	50	38	24		
Ⅲ	55				欠番		
Ⅲ	56	不整形	391	70	27		
Ⅲ	57	円形	35	24	6	礫2個あり	
Ⅲ	58	円形	33	27	20	底面に礫あり	柱穴痕か
Ⅲ	59				欠番		
Ⅲ	60	円形	27	21	7		
Ⅲ	61	円形	39	29	10		
Ⅲ	62	円形	30	19	11		
Ⅲ	63	円形	28	16	5		
Ⅲ	64				欠番		
Ⅲ	65				欠番		
Ⅲ	66	不整形	132	45	13		
Ⅲ	67	円形	44	36	4		
Ⅲ	68				欠番		
Ⅲ	69	隅丸長方形	162	103	38	礫・杭多あり	
Ⅲ	70	円形	40	40	30	底面に礫多あり	
Ⅲ	71	不整形	168	43	38	礫多あり	
Ⅲ	72				欠番		
Ⅲ	73	楕円形か	(98)	45	14		
Ⅲ	74	円形	25	(13)	33		
Ⅲ	75	円形	20	(10)	18	礫あり	
Ⅲ	76	楕円形	80	55	23		
Ⅲ	77				欠番		
Ⅲ	78	円形	70	67	23		
Ⅲ	79	円形	32	20	15		
Ⅲ	80	円形	24	22	7		
Ⅲ	81	円形	16	15	14		礎石か
Ⅲ	82	円形	32	23	3		
Ⅲ	83				欠番		
Ⅲ	84	円形	32	30	22		
Ⅲ	85				欠番		
Ⅲ	86	楕円形	72	53	15		
Ⅲ	87	円形	105	96	28	礫多あり	
Ⅲ	88	円形	61	59	31		礎石か
Ⅲ	89	円形	35	(20)	31		
Ⅲ	90	円形	50	48	40	礫多あり	
Ⅲ	91	円形	16	13	8		
Ⅲ	92	円形	14	11	7		
Ⅲ	93	円形	(19)	18	10		
Ⅲ	94	円形	40	35	13		
Ⅲ	95	円形	24	18	10		
Ⅲ	96～98				欠番		
Ⅲ	99	円形	33	26	8		
Ⅲ	100	不整形	215	145	10		半分未掘
Ⅲ	101	楕円形か	(43)	58	31		建物址1
Ⅲ	102						未掘
Ⅲ	103	円形	16	15	5		
Ⅲ	104	円形	40	35	30	礫多あり	
Ⅲ	105	円形	55	49	24	柱材あり	建物址1

検出面	土抗No	平面形	規模 (cm)			備考	その他
			長径	短径	深さ		
Ⅲ	106	円形	65	45	5		
Ⅲ	107	円形	58	58	10		建物址1
Ⅲ	108	円形	58	54	25	柱材あり	建物址1
Ⅲ	109	円形	48	37	23	礫多あり	
Ⅲ	110	円形	43	33	6		
Ⅲ	111				欠番		
Ⅲ	112	楕円形	128	75	8		
Ⅲ	113	円形	33	30	20	底面に礫あり	
Ⅲ	114	楕円形	45	25	12		
Ⅲ	115	楕円形	52	30	16		
Ⅲ	116	楕円形	64	40	35	底面に礫あり	
Ⅲ	117	円形	40	40	38		
Ⅲ	118	円形	23	21	17		
Ⅲ	119	円形	28	20	11		
Ⅲ	120	円形	28	26	8		
Ⅲ	121	円形	55	51	34		建物址1
Ⅲ	122	円形	27	26	17		
Ⅲ	123	不整形	69	59	70		建物址1
Ⅲ	124	円形	49	48	30		建物址1
Ⅲ	125	円形	32	27	24		
Ⅲ	126	楕円形	54	33	27	礫多あり	
Ⅲ	127				欠番		
Ⅲ	128	円形	90	72	14		
Ⅲ	129	不整形	225	112	13	Ⅱ検土197に切られる	
Ⅲ	130	楕円形	113	65	10		
Ⅲ	131	円形	36	33	30	底面に礫あり	
Ⅲ	132	楕円形	55	36	47		柱穴痕か
Ⅲ	133				欠番		
Ⅲ	134				欠番		
Ⅲ	135	円形?	35	(27)	20	杭と礫あり	
Ⅲ	136				欠番		
Ⅲ	137	円形	33	24	9	礫あり	
Ⅲ	138				欠番		
Ⅲ	139	円形	<54>	41	37	底面の礫上に杭	
Ⅲ	140	楕円形	80	32	5		
Ⅲ	141	楕円形	66	40	22	木片多・礫あり	
Ⅲ	142				欠番		
Ⅲ	143	円形	34	28	15		
Ⅲ	144	円形	22	18	11		
Ⅲ	145	不整形	125	63	37	杭あり	
Ⅲ	146	円形	30	28	15	礫あり	
Ⅲ	147				欠番		
Ⅲ	148	円形	39	36	9		
Ⅲ	149	円形	29	28	13	礫多あり	
Ⅲ	150	円形	67	55	16	礫多あり	
Ⅲ	151	楕円形	(105)	81	5		
Ⅲ	152	円形	43	38	27		柱穴痕か
Ⅲ	153				欠番		
Ⅲ	154	円形	38	36	45		
Ⅲ	155	不整形	56	32	34		
Ⅲ	156	円形	41	35	16		
Ⅲ	157	円形	54	(32)	52		
Ⅲ	158	円形	77	77	48	杭・礫大2個	
Ⅲ	159				欠番		
Ⅲ	160	円形?	(24)	22	36	礫多あり	
Ⅲ	161～165				欠番		
Ⅲ	166	円形	55	48	20	礫多あり	
Ⅲ	167	楕円形か	<92>	(56)	45	杭あり	
Ⅲ	168				欠番		
Ⅲ	169	円形か	57	(37)	50		建物址1
Ⅲ	170	円形	24	24	18		
Ⅲ	171	楕円形	(36)	32	28		
Ⅲ	172	円形	57	55	22		礎石か
Ⅲ	173	円形か	47	(29)	48		建物址1
Ⅲ	174				欠番		
Ⅲ	175	円形	47	45	28		建物址1
Ⅲ	176	円形か	39	(29)	22	柱材あり	建物址1
Ⅲ	177	円形	22	22	7		
Ⅲ	178	円形	27	26	12		
Ⅲ	179				欠番		
Ⅲ	180	不整形	215	(118)	26	Ⅱ検土192に切られる	
Ⅲ	181				欠番		

※ () 内数値は残存値、< > 内数値は推定値を表す

表4 大名町3 焼土範囲一覧表

検出面	No.	平面形	備考	その他
I	1		欠番 (焼土 15 に統一)	
I	2		欠番	
I	3		欠番	
I	4		欠番	
I	5		欠番 (焼土 15 に統一)	
I	6		欠番 (焼土 15 に統一)	
I	7		欠番 (焼土 15 に統一)	
I	8		欠番 (焼土 15 に統一)	
I	9		欠番	
I	10		欠番	
I	11	楕円形		焼土塊が混入した搬入土と推定
I	12	不整形	礫多あり	焼土塊が混入した搬入土と推定
I	13	不整形	焼土塊少ない	焼土塊が混入した搬入土と推定
I	14	不整形		焼土塊が混入した搬入土と推定
I	15	不整形	焼土塊多い	焼土塊が混入した搬入土と推定

表5 大名町3 溝状遺構一覧表

検出面	No.	新旧関係		備考	その他
		旧	新		
I	1		欠番		
I	2		欠番		
I	3		溝		
I	4		水路1・土88		
I	5	溝15			
I	6		欠番		
I	7				
I	8		欠番		
I	9				
I	10				
I	11				
I	12				
I	13		欠番		
I	14		溝15		
I	15	溝14	溝5		
I	16		土50・55・57・58・91・水路1	竹管あり	水道遺構
I	17				
II	1				攪乱に切られる
II	2	土179?・土19	土179・土19		
II	3		欠番		
II	4		欠番		
II	5	土86	溝7		
II	6	土180	溝7	礫多あり	
II	7	溝5・6・11・土180	溝31・土88・123・142・193	礫多・木多あり	
II	8	溝9		礫多・木多あり	
II	9		溝8	礫多・木多あり	
II	10				
II	11		溝7		
II	12				
II	13	土123			
II	14	土123			
II	15	土123			

検出面	No.	新旧関係		備考	その他
		旧	新		
II	16	土111・139・142・溝16		杭列あり	排水溝跡か
II	17	溝18	溝16		
II	18		溝17		
II	19	溝20・土146			
II	20	溝21・土184	溝19		
II	21	土184	溝20	礫多あり	
II	22		欠番		
II	23		土169		
II	24				
II	25				
II	26		欠番		
II	27		欠番		
II	28		欠番		
II	29		欠番		
II	30				
II	31		土123・125・130・192・溝7・32	桶・竹管あり	水道遺構
II	32		溝31・土183		
II	33	土185・143			
III	1		土171・172		
III	2	土12			
III	3				
III	4				
III	5				
III	6				
III	7	溝8			
III	8		土168・土98・102・溝7		未掘
III	9	土102	溝13・土121・109・108・II検土196		
III	10				
III	11		欠番		
III	12				攪乱に切られる
III	13	土100・溝9			

大名町3 | 検全体図



図 45 大名町3 | 検全体図

大名町3 II 検全体図

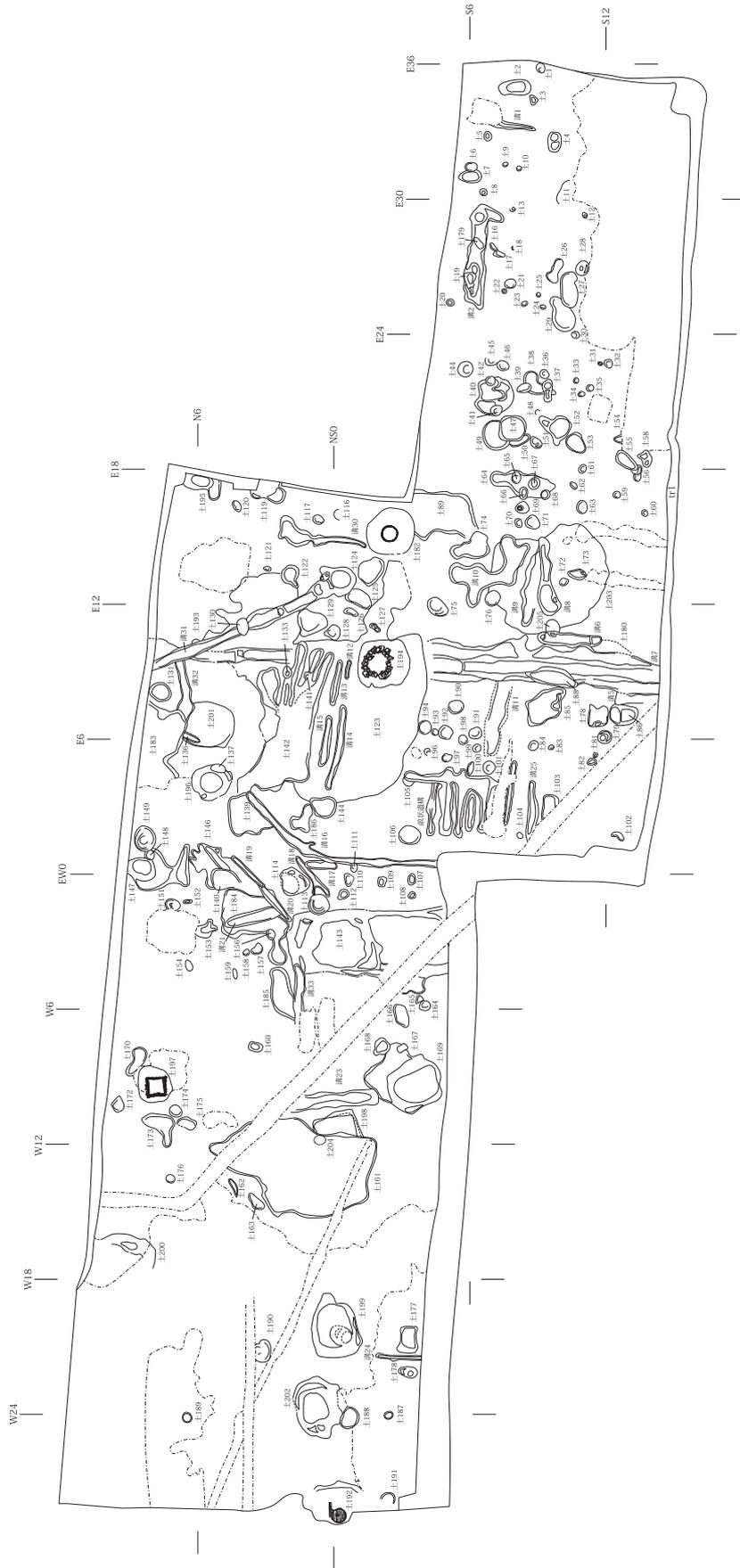


図46 大名町3 II 検全体図

大名町3 Ⅲ検全体図

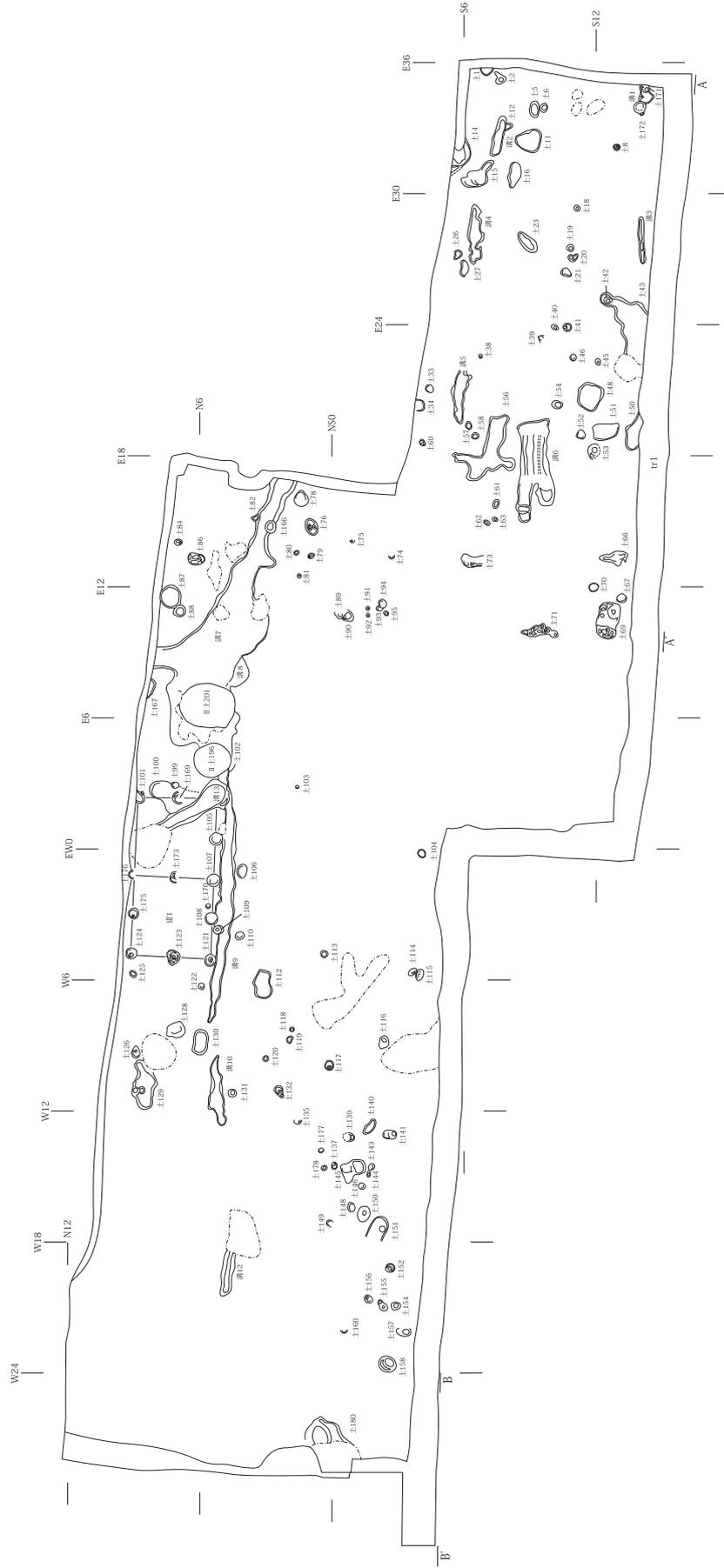
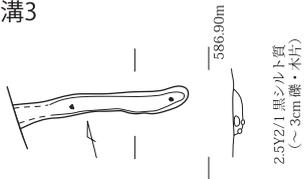


図 47 大名町3 Ⅲ検全体図



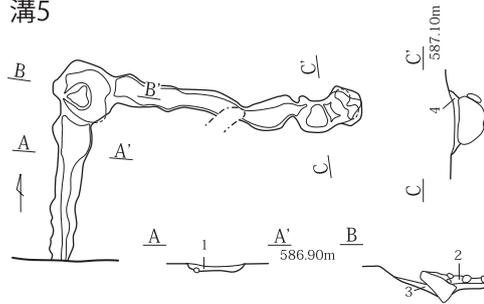
大名町3 I 検

溝3

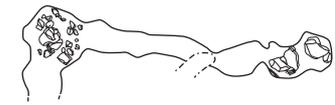


2.5Y2/1 黒シルト土質
(~3cm 礫・木片)

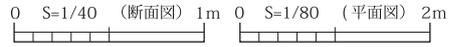
溝5



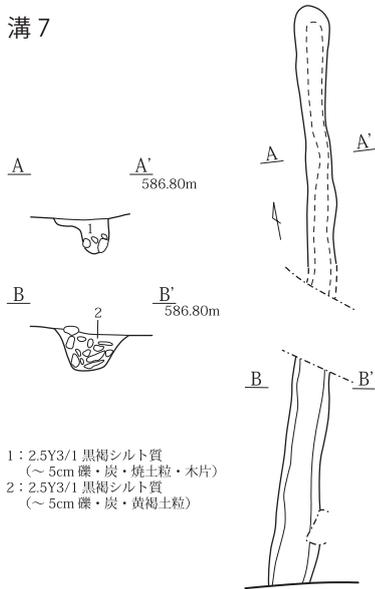
礫出土状況図



- 1: 5Y3/2 オリーブ黒細砂 (明黄褐細砂塊)
- 2: 2.5Y5/6 黄褐粗砂 (~10cm 礫)
- 3: 2.5Y3/2 黒褐砂質シルト (~7cm 礫
黄褐砂質塊・炭化物)
- 4: 2.5Y3/2 黒褐砂質シルト (~8cm 礫・黄灰砂粒)

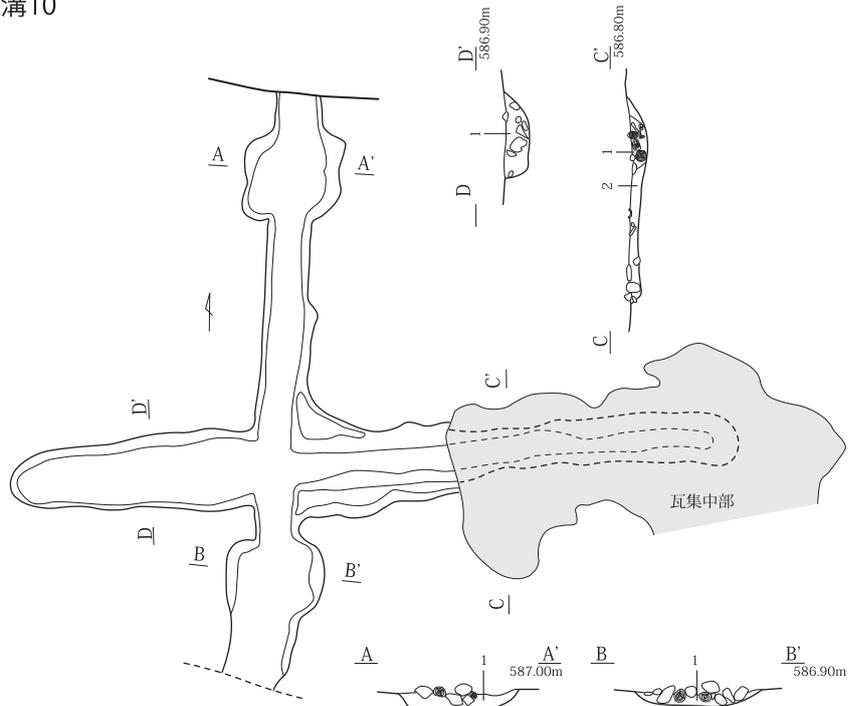


溝7



- 1: 2.5Y3/1 黒褐シルト質
(~5cm 礫・炭・焼土粒・木片)
- 2: 2.5Y3/1 黒褐シルト質
(~5cm 礫・炭・黄褐土粒)

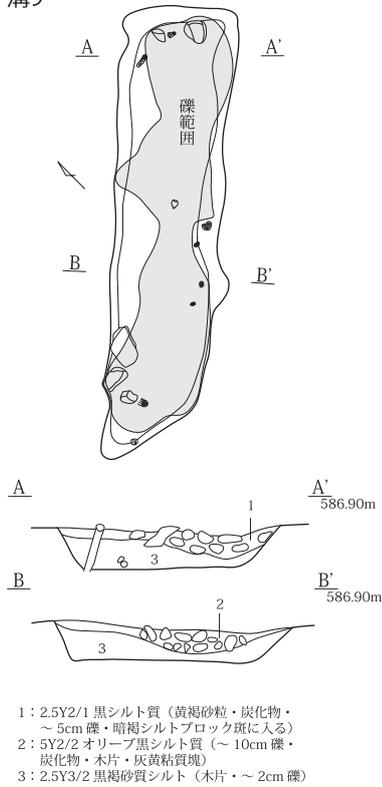
溝10



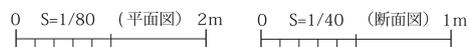
- 1: 5Y2/1 黒砂質シルト (~15cm 礫・オリーブ灰塊・木片)
- 2: 5Y2/1 黒シルト質 (~15cm 礫・オリーブ灰塊・木片)



溝9



- 1: 2.5Y2/1 黒シルト質 (黄褐砂粒・炭化物・
~5cm 礫・暗褐シルトブロック斑に入る)
- 2: 5Y2/2 オリーブ黒シルト質 (~10cm 礫・
炭化物・木片・灰黄粘質塊)
- 3: 2.5Y3/2 黒褐砂質シルト (木片・~2cm 礫)



礫等出土状況図

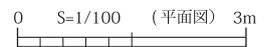
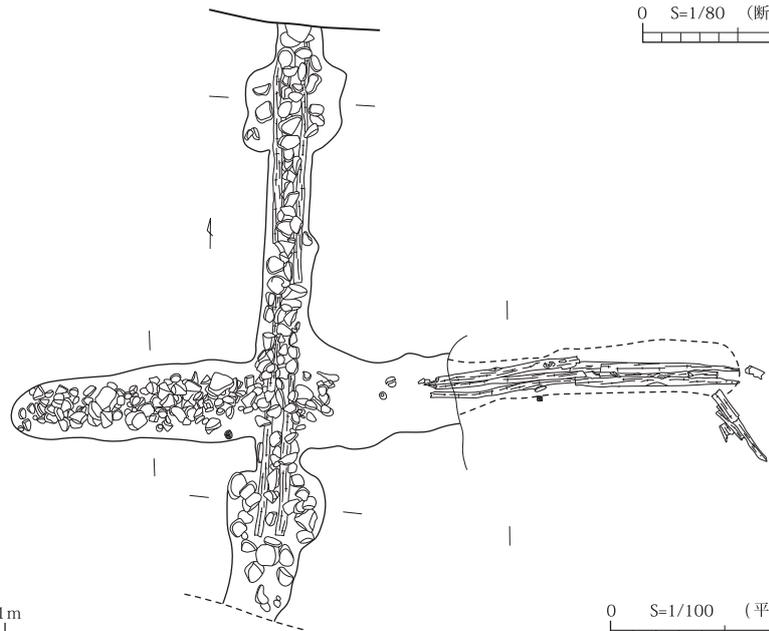
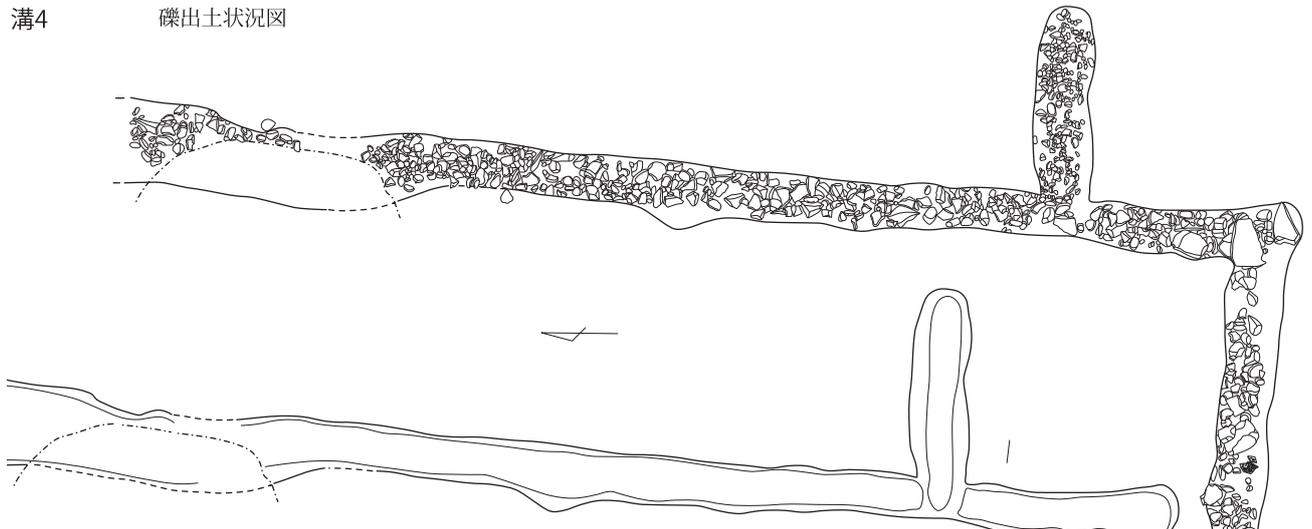


図48 大名町3 I 検遺構図(1)

溝4

礫出土状況図



溝14・15

遺物出土状況図

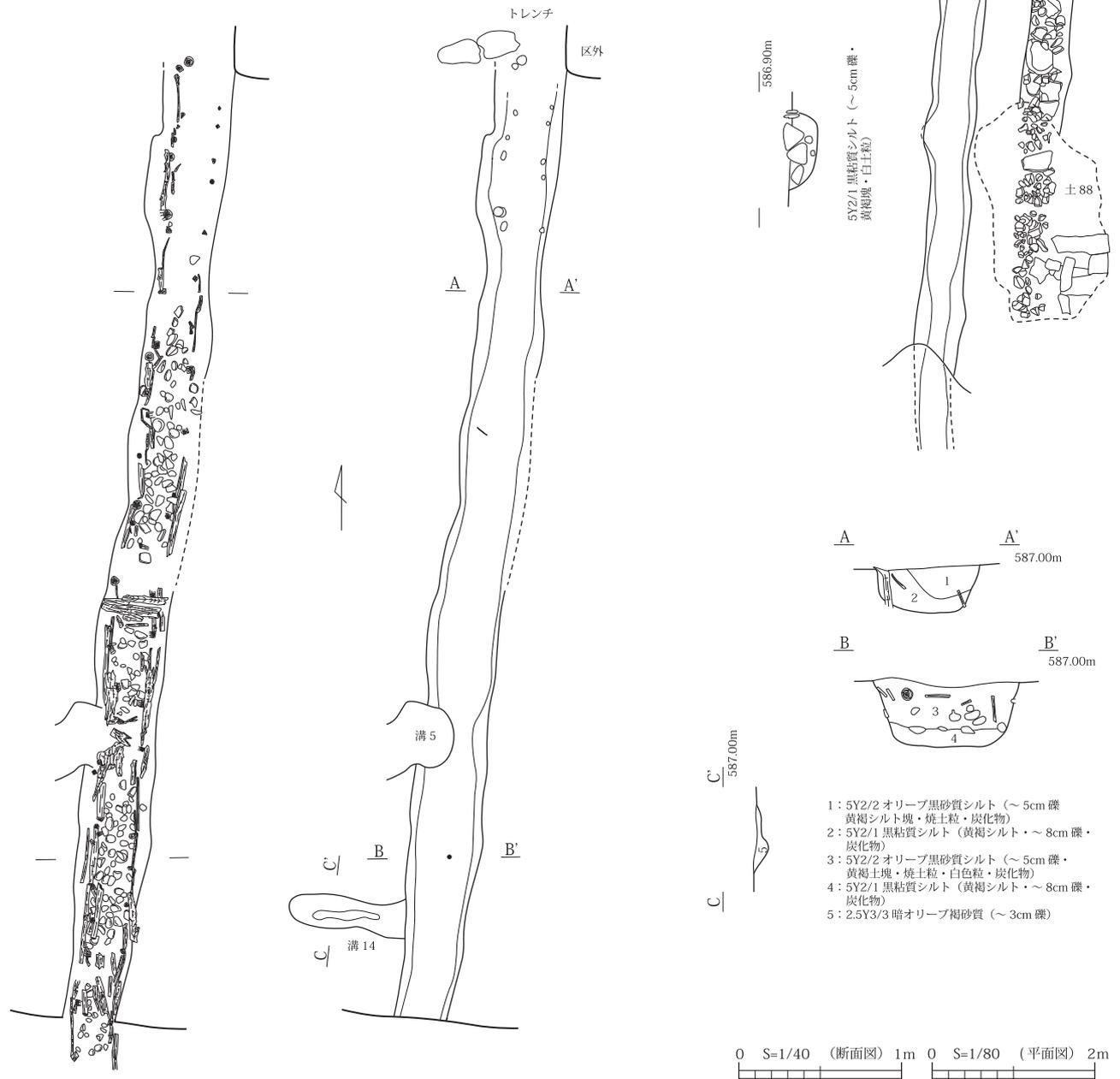
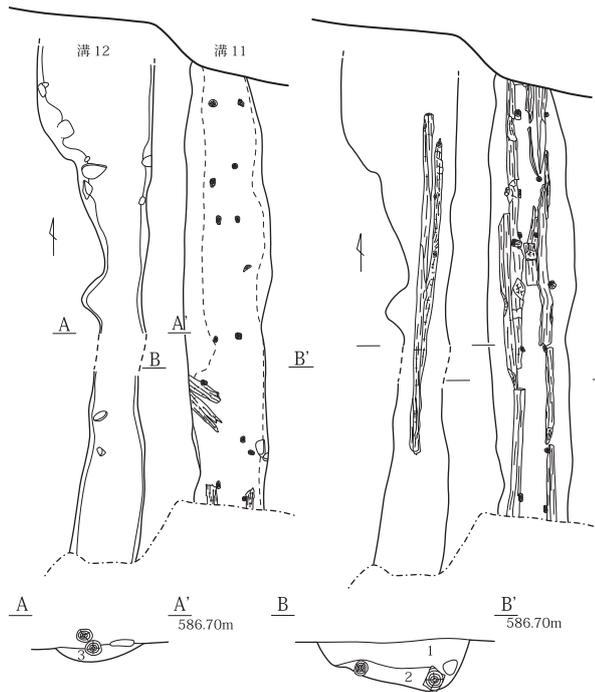


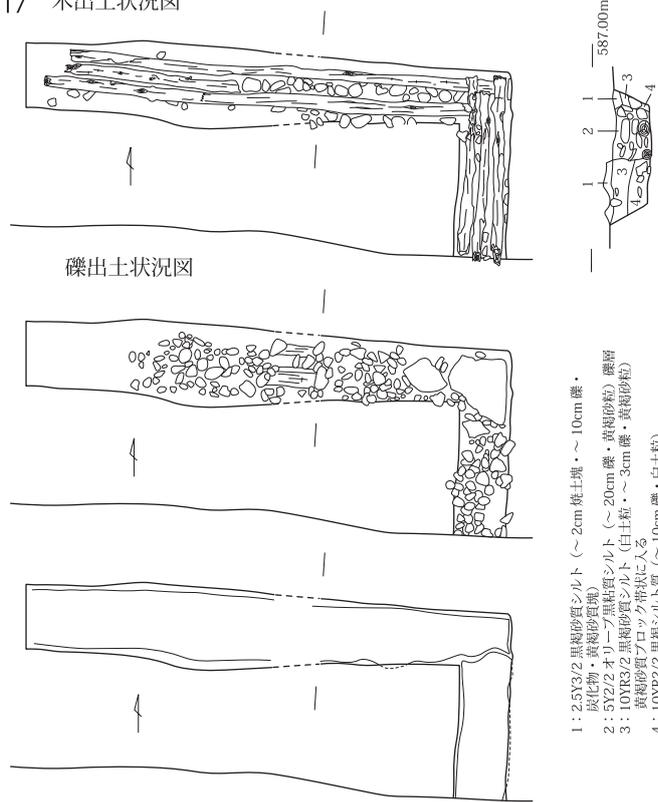
図 49 大名町 3 | 検遺構図 (2)

溝11・溝12



- 1: 2.5Y3/2 黒褐シルト質 (～10cm 礫・黄褐砂粒)
- 2: 2.5Y3/1 黒褐砂質シルト (～2cm 礫)
- 3: 5Y2/1 黒粘質シルト (黄灰砂粒・～1cm 礫)

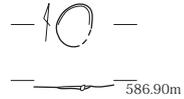
溝17 木出土状況図



- 1: 2.5Y3/2 黒褐砂質シルト (～2cm 焼土塊・～10cm 礫・炭化物・黄褐砂質塊)
- 2: 5Y2/2 オリーブ黒粘質シルト (～20cm 礫・黄褐砂粒) 礫層
- 3: 10YR3/2 黒粘砂質シルト (白土粒・～3cm 礫・黄褐砂粒) 黄褐砂質ブロック体状に入る
- 4: 10YR2/2 黒粘シルト質 (～10cm 礫・白土粒)

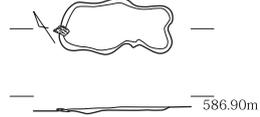
0 S=1/40 (断面図) 1m 0 S=1/80 (平面図) 2m

焼土11



- 2.5Y2/1 黒シルト質 (焼土粒・炭・～1cm 礫)

焼土12



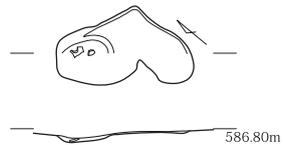
- 2.5Y3/1 黒褐砂質シルト (焼土塊・炭化物～4cm 礫・木片・黄褐砂質塊)

焼土13



- 2.5Y3/1 黒褐砂質シルト (焼土・炭化物・～3cm 礫・木片)

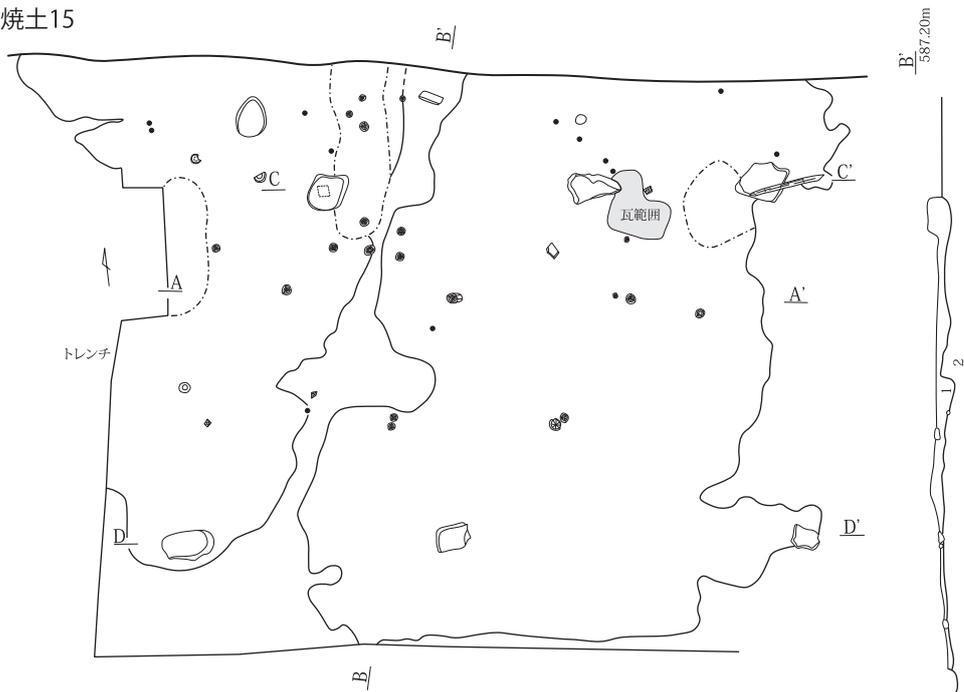
焼土14



- 10YR2/1 黒シルト質 (焼土粒・炭・～1cm 礫)

0 S=1/80 2m

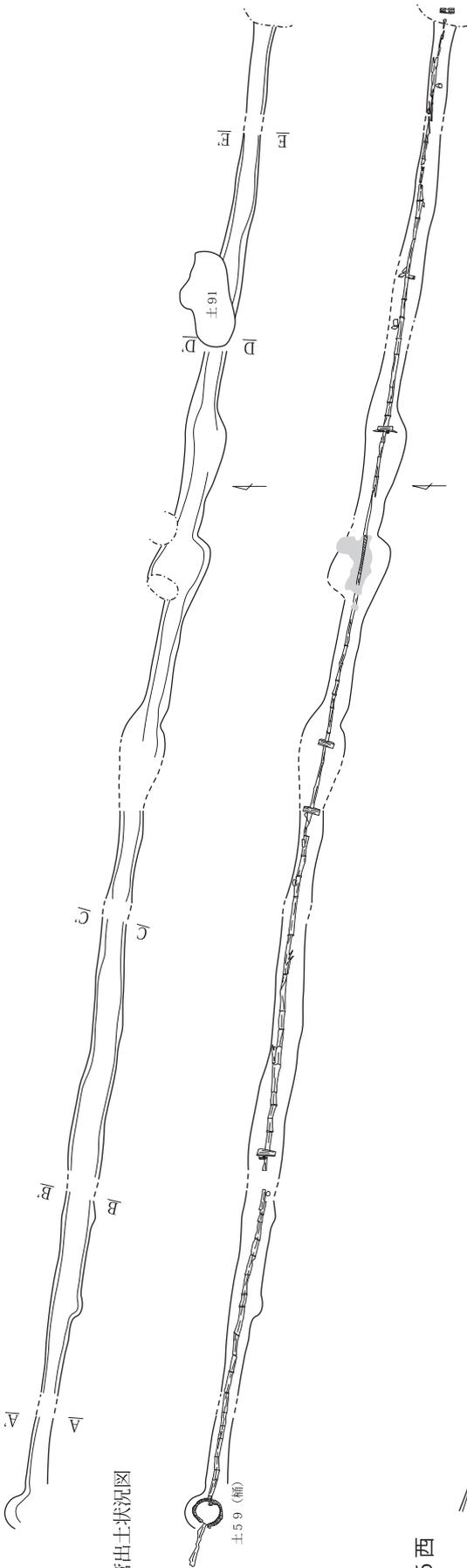
焼土15



- 1: 10YR2/2 黒褐砂質シルト (焼土ブロック・炭化物・オリーブ黒砂質塊・～5cm 礫・黄褐砂質土が全体に混ざる)
- 2: 2.5Y2/1 黒粘質シルト (炭化物・焼土塊・～3cm 礫・オリーブ黒砂質塊)

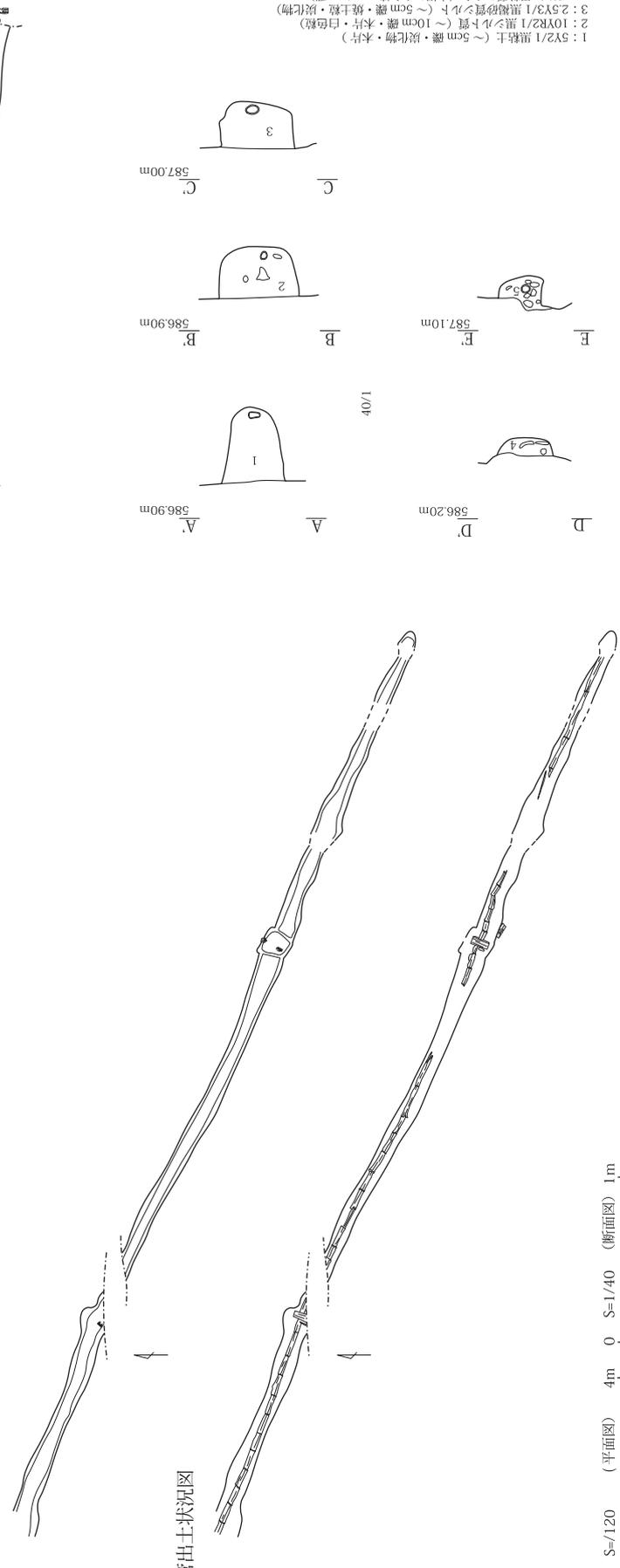
図 50 大名町 3 | 検遺構図 (3)

溝 16 東

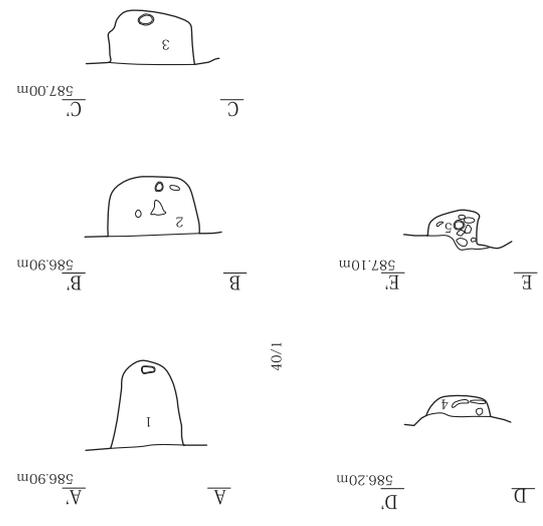


竹管出土状況図

溝 16 西



竹管出土状況図



- 1: 5Y2/1 黒粘土 (~5cm 礫・炭化物・木片)
- 2: 10YR2/1 黒シルト質 (~10cm 礫・木片・白色粒)
- 3: 2.5Y3/1 黒褐色シルト (~5cm 礫・炭化物)
- 4: 5Y2/1 黒粘質シルト (赤褐色シルト (~3cm 礫))
- 5: 2.5Y2/1 黒粘質シルト (~5cm 礫・粘土粒・炭化物・黄褐色砂質塊)



図 51 大名町 3 | 検遺構図 (4)

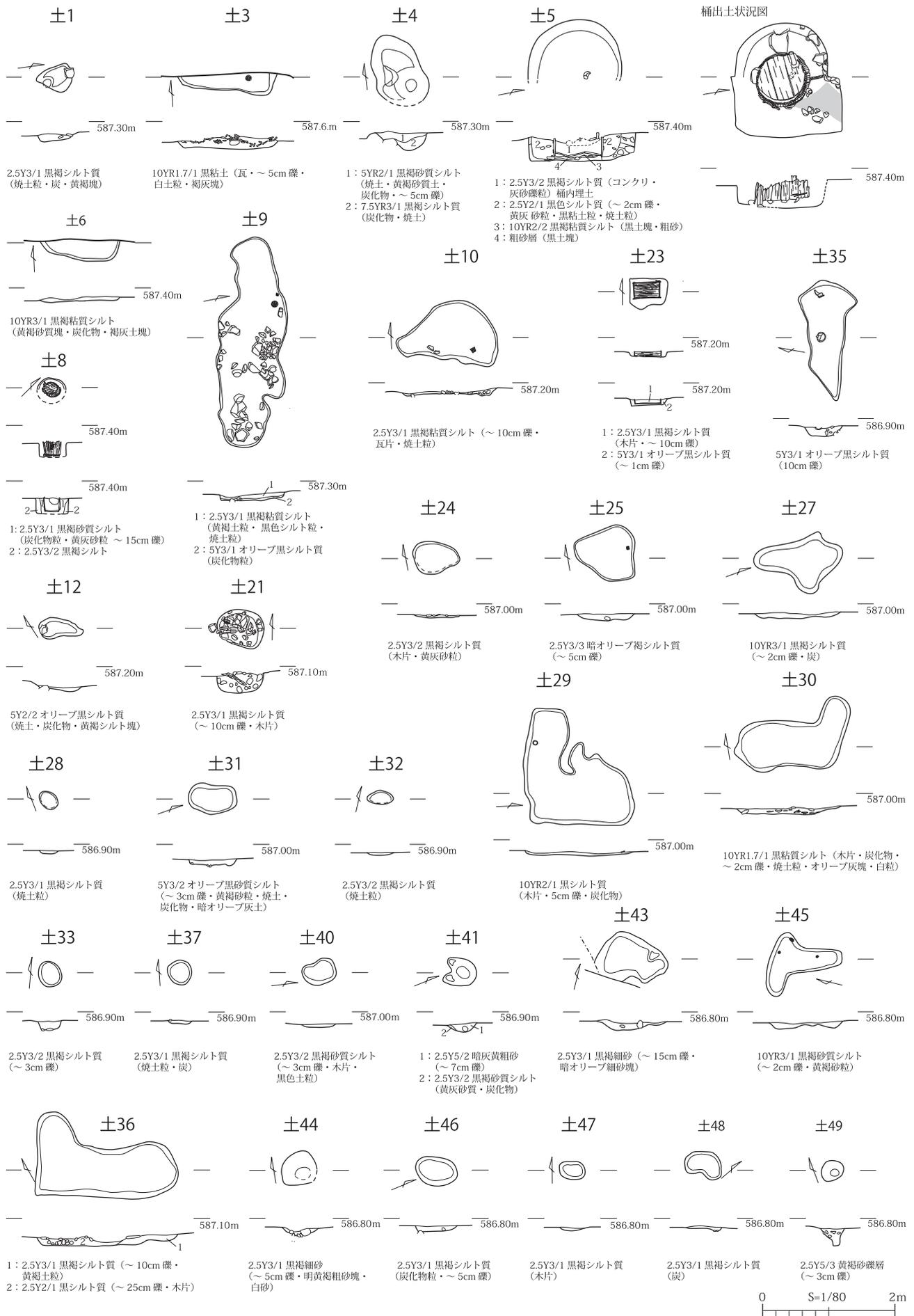


図 52 大名町 3 | 検遺構図 (5)

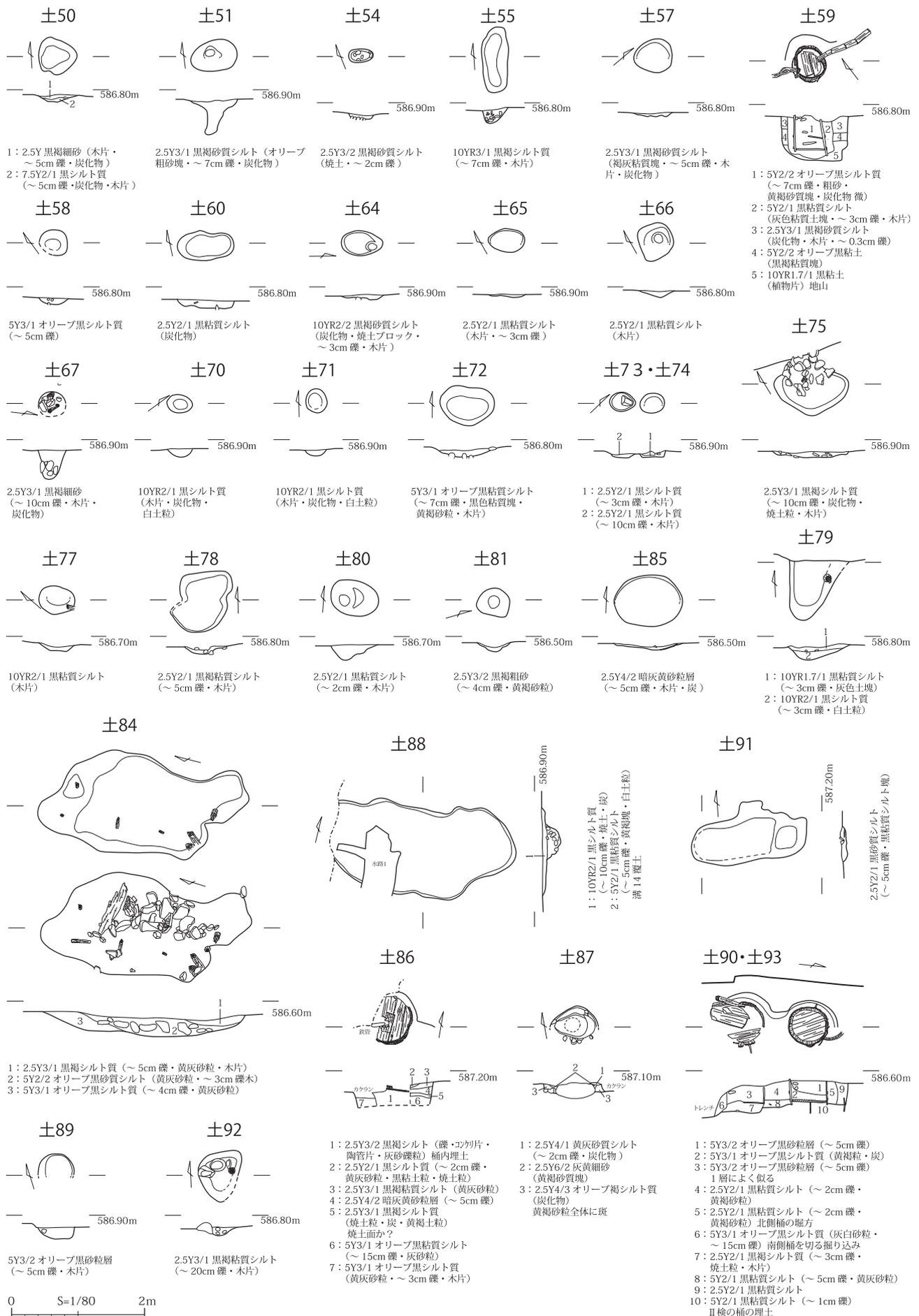


図 53 大名町 3 I 検遺構図 (6)

大名町3 II 検

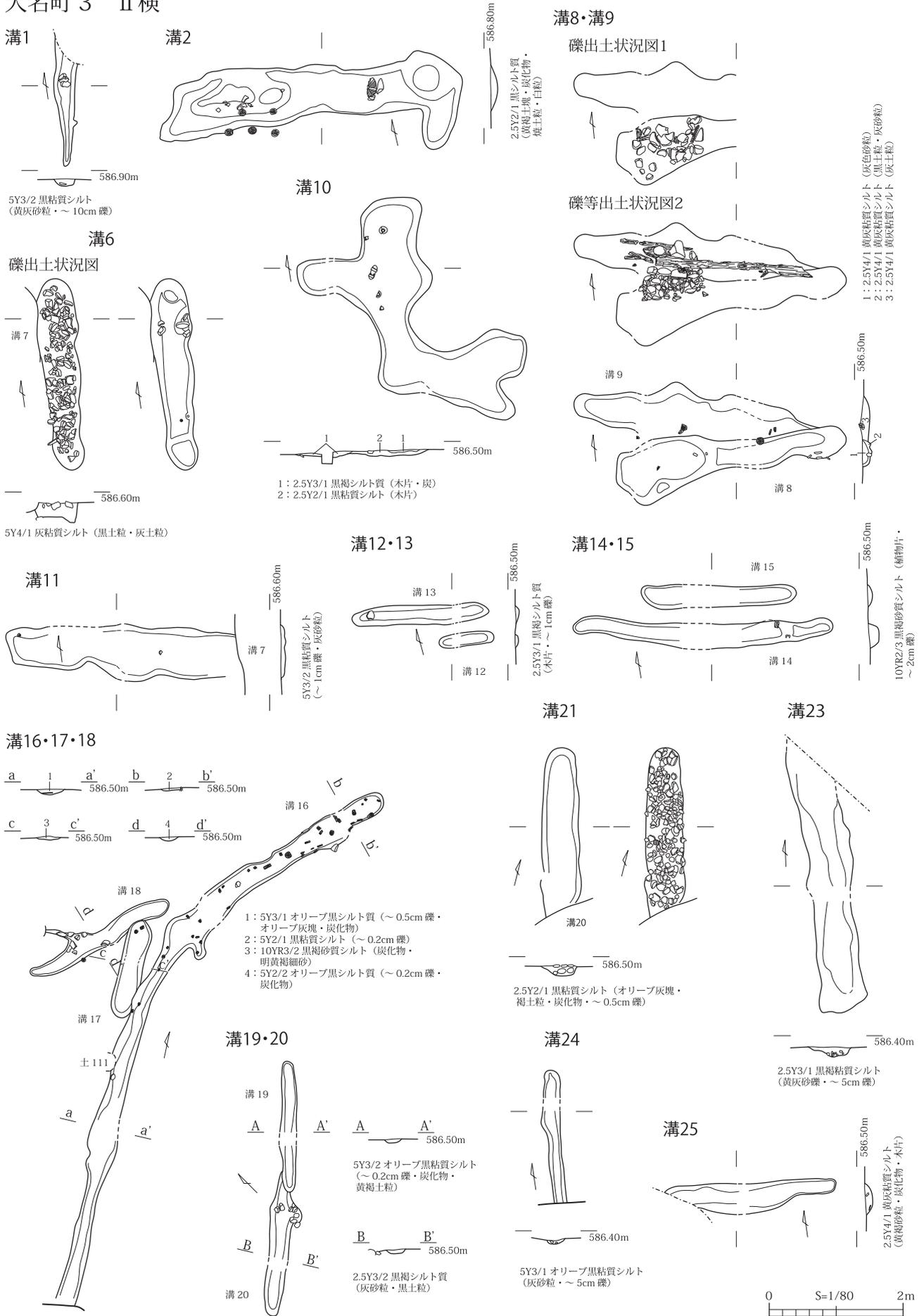
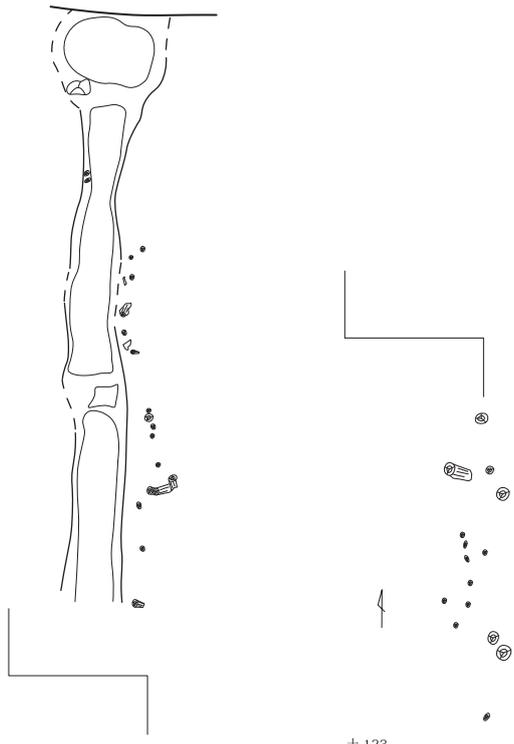
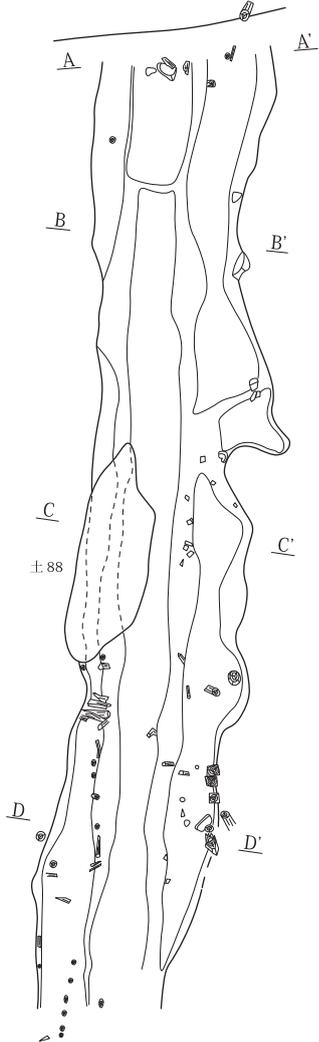


図54 大名町3 II 検遺構図(1)

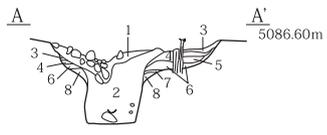
溝7



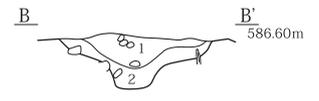
± 123



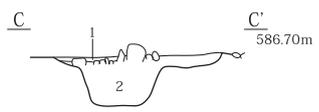
± 88



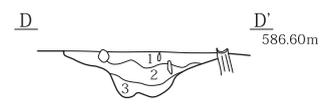
- 1: 2.5Y3/1 黒褐粘質シルト (～15cm 礫・炭・木片)
- 2: 2.5Y2/1 黒粘質シルト (灰砂粒・～20cm 礫・木片)
- 3: 5Y3/1 オリーブ黒シルト質 (灰砂粒)
- 4: 5Y2/1 黒粘質シルト (黄灰砂粒・黒褐粘質土粒)
- 5: 7.5Y2/1 黒粘質土 (黄灰砂粒)
- 6: 5Y2/1 黒粘質シルト (黒褐粘質土粒・植物片)
- 7: 7.5Y2/1 黒粘質土
- 8: 5Y2/1 黒粘質土 (植物片)



- 1: 10YR2/1 黒粘質シルト (～10cm 礫・赤褐塊・炭化物・黄褐土粒・白土粒)
- 2: 10YR2/2 黒褐粘質シルト (～12cm 礫・炭化物・オリーブ灰塊)

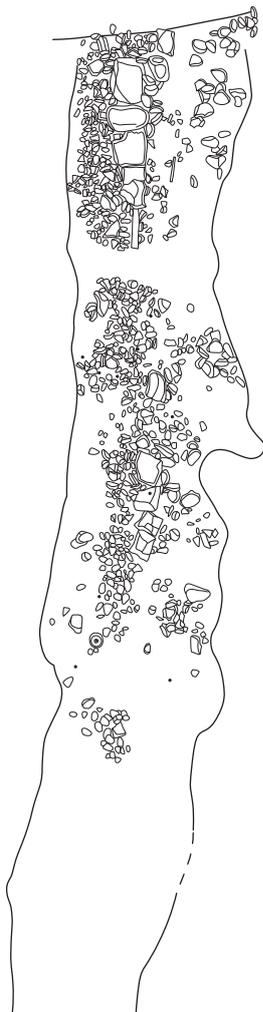


- 1: 5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト (木片・黄褐砂粒・～1cm 礫) ± 88 覆土
- 2: 5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト (黄褐砂粒・灰土粒・～3cm 礫)



- 1: 5Y3/1 黒粘質シルト (黄褐砂粒・木片・灰土粒)
- 2: 5Y2/1 黒粘質シルト (灰砂粒)
- 3: 5Y2/2 黒粘質シルト (～1cm 礫)

礫出土状況図



木材出土状況図

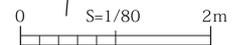
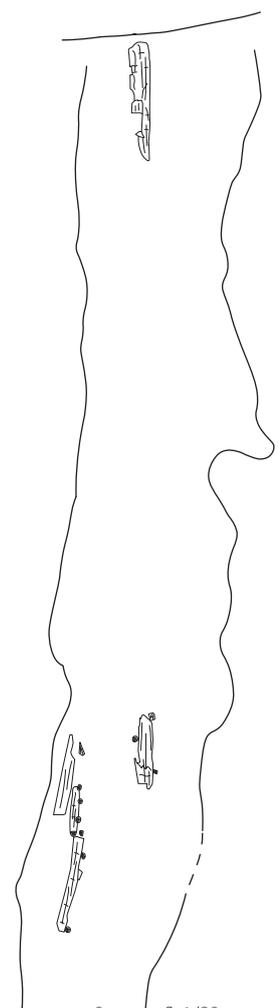
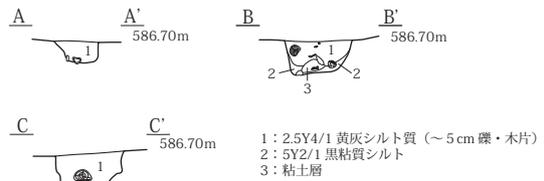
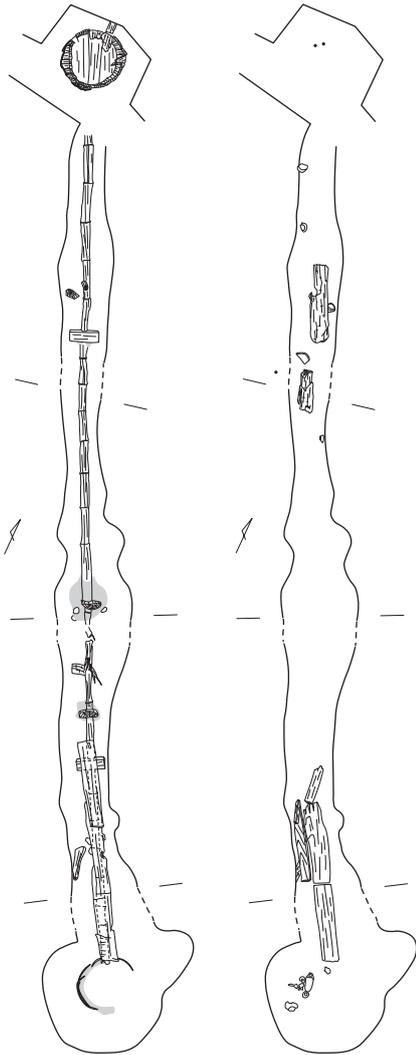


図 55 大名町 3 II 検遺構図 (2)

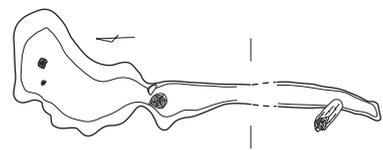
溝31

桶・竹管出土状況図 木材出土状況図



- 1: 2.5Y4/1 黄灰シルト質 (～5cm 礫・木片)
- 2: 5Y2/1 黒粘質シルト
- 3: 粘土層

溝30



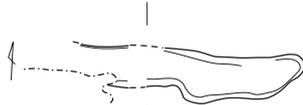
5Y4/1 灰粘質シルト
(黄褐砂粒・～2cm 礫)

溝32



586.60m

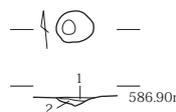
溝33



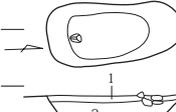
586.40m

2.5Y3/1 黒粘質シルト
(～3cm 礫)

±1



±2



±3

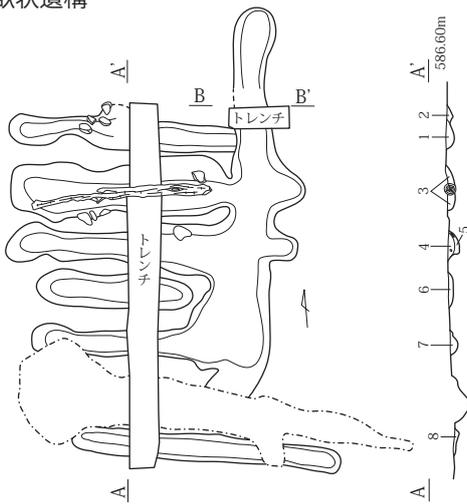


- 1: 5Y3/1 オリーブ黒シルト質 (黄褐シルト塊・焼土粒・～0.5cm 礫・白粒)
- 2: 10YR3/1 黒粘質シルト (黄褐土塊・炭化物・～3cm 礫)

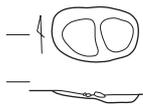
- 1: 5Y2/2 オリーブ黒シルト質 (黄褐土塊・～10cm 礫)
- 2: 7.5Y2/1 黒シルト質 (～5cm 礫・木片・炭化物)

- 5Y3/1 オリーブ黒砂質シルト (黄褐土塊・赤褐土塊・灰粒・炭化物・白粒)

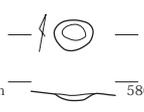
畝状遺構



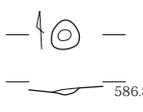
±4



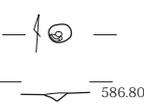
±5



±8



±12



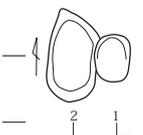
- 5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト (灰砂粒)

- 5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト (黄灰砂粒・～1cm 礫)

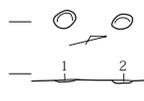
- 5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト (黒色土粒・灰土粒)

- 5Y3/1 オリーブ黒砂質シルト (～3cm 礫・黄褐土塊・赤褐粒)

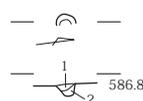
±7・6



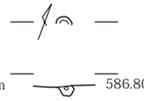
±10 ±9



±13



±18



- 1: 2.5Y3/2 黒粘質シルト (黒土粒・～5cm 礫)
- 2: 2.5Y3/1 黒粘質シルト (灰土粒・黒粒)

- 1: 5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト (灰砂粒)
- 2: 5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト (黄灰砂粒・焼土粒)

- 1: 5Y2/1 黒シルト質 (焼土粒・～15cm 礫)
- 2: 5Y2/2 黒粘質シルト

- 5Y2/1 黒シルト質 (焼土粒・～5cm 礫・木片・炭化物・白土粒)

±17・16



±19



±20



±21



- 1: 2.5Y3/1 黒粘質シルト (黄褐土塊・白粒)
- 2: 2.5Y3/1 黒粘質シルト (炭化物・黄褐土塊・木片・～1cm 礫)

- 5Y2/1 黒シルト質 (焼土粒・～5cm 礫・木片・炭化物・白粒)

- 5Y2/1 黒シルト質 (焼土粒・炭化物・黄褐土塊)

- 5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト (灰砂粒)

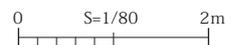


図 56 大名町 3 II 検遺構図 (3)

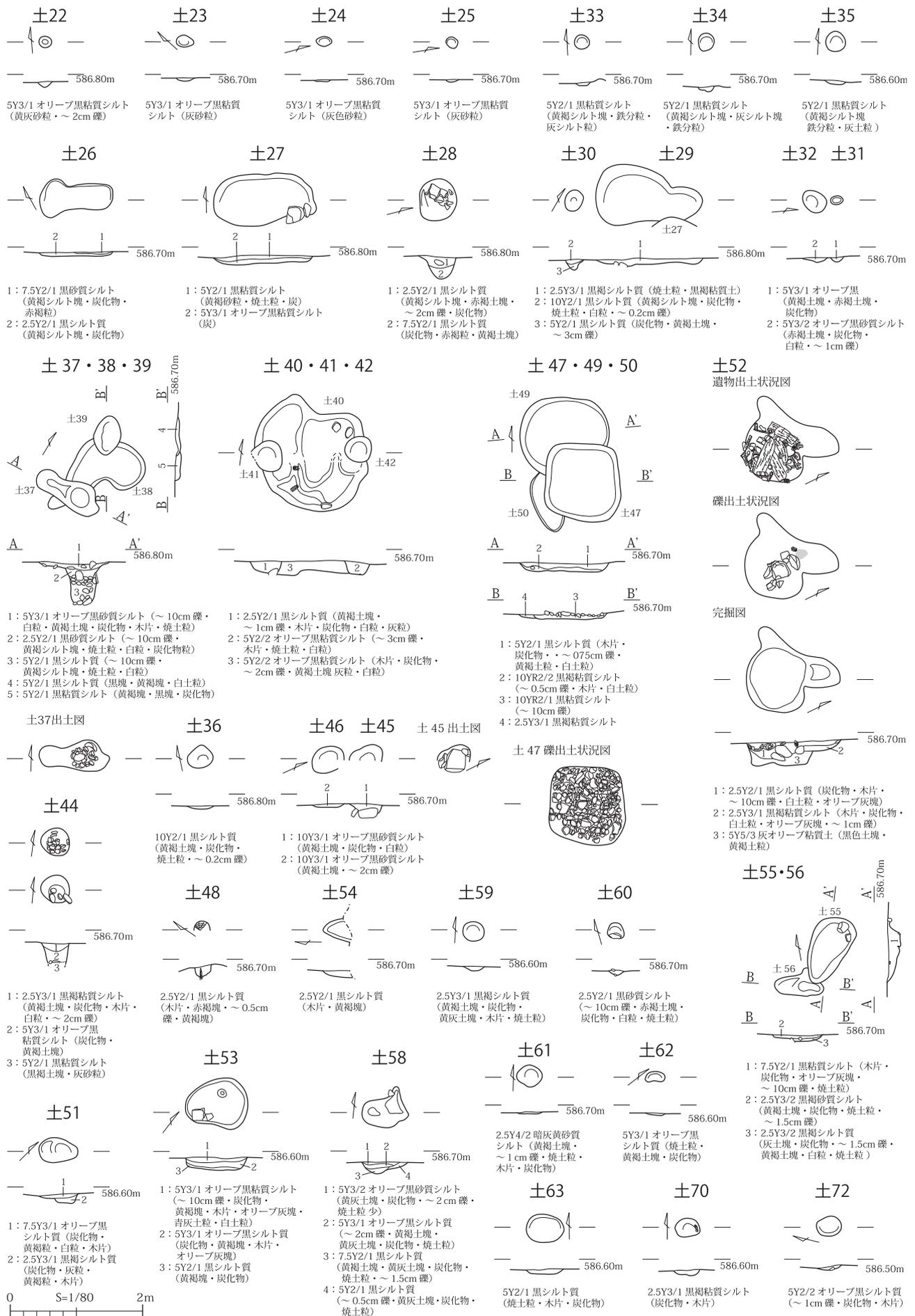
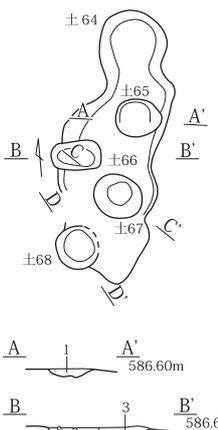


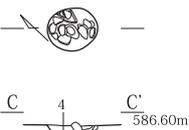
図 57 大名町 3 II 検遺構図 (4)

±64・65・66・67・68

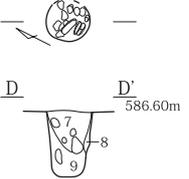


- 1: 5Y2/1 黒シルト質 (オリーブ灰塊・～5cm 礫・褐色塊・木片・白土粒)
- 2: 10YR2/1 黒シルト質 (～5cm 礫・植物片・黄褐塊・白土粒)
- 3: 2.5Y2/1 黒シルト質 (～2cm 礫・植物片・炭化物・オリーブ灰塊)
- 4: 7.5 黒粗砂 (～10cm 礫・赤褐塊・木片・炭化物・青灰塊)
- 5: 7.5Y3/1 オリーブ黒粗砂 (～10cm 礫・青灰塊・炭化物・木片・赤褐塊)
- 6: 10YR2/1 黒粘質シルト (オリーブ灰塊・～1cm 礫・植物片)
- 7: 7.5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト (～15cm 礫・黒塊・赤褐塊・炭化物)
- 8: 5Y2/1 黒シルト質 (オリーブ灰塊)
- 9: 10Y2/1 黒粘質シルト (～15cm 礫・植物片・オリーブ灰塊)

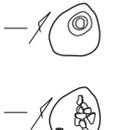
±67礫出土状況図



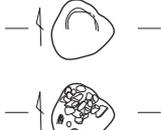
±68礫出土状況図



±69



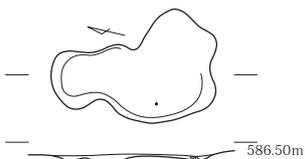
±71



- 1: 5Y3/1 黒砂質シルト (～10cm 礫・植物片・褐土粒・白土粒)
- 2: 5Y4/1 灰砂質シルト (～10cm 礫・炭化物)

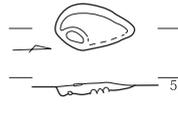
- 5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト (～10cm 礫)

±74



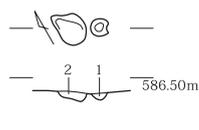
- 2.5Y3/1 黒粘質シルト (～5cm 礫・炭化物・木片・白粒・黄灰土粒・青灰土粒)

±73



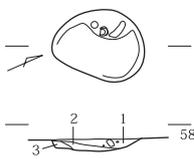
- 5Y2/1 黒シルト質 (～10cm 礫・炭化物・褐色・オリーブ灰塊・木片)

±82 ±81



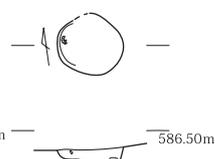
- 1: 10YR2/2 黒粘質シルト (炭化物・褐色塊・黄褐土粒・白粒)
- 2: 10YR2/2 黒粘質シルト (褐色塊・炭化物・黄褐土粒)

±75



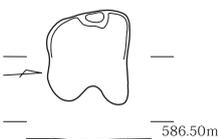
- 1: 5Y2/1 黒シルト質 (木片・焼土粒・炭化物・白粒・黄褐土塊)
- 2: 5Y2/1 黒粘質シルト (～0.5cm 礫・木片・黄灰土塊・焼土粒・炭化物・白粒)
- 3: 2.5Y3/1 黒粘質シルト (木片・黄灰土塊・焼土粒・白粒)

±76



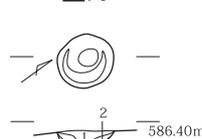
- 5Y2/1 黒粘質シルト (木片・黄褐土塊・白粒・～5cm 礫・焼土粒)

±78



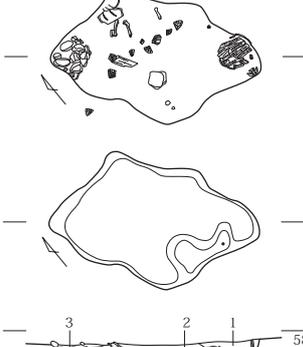
- 5Y2/2 オリーブ黒粘質シルト

±79

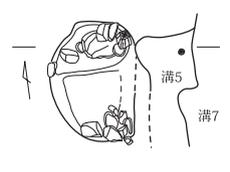


- 1: 5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト (黄灰砂粒・～5cm 礫)
- 2: 10YR3/1 黒粘質土 (黄白土粒)
- 3: 10YR2/1 黒粘質シルト (黄粗砂粒・木片)

±85



±86

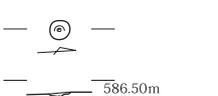


- 1: 5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト (灰シルト粒)
- 2: 5Y4/1 灰粘質シルト (黒土粒・灰砂粒)



- 5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト (木片・黄褐砂粒・～1cm 礫)

±83



- 2.5Y3/1 黒粘質シルト (青灰粒・炭化物)

±84



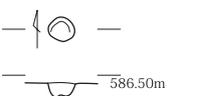
- 7.5Y2/1 黒砂質シルト (黄灰塊・炭化物・木片)

±98



- 5Y3/1 オリーブ黒砂質シルト (～15cm 礫・炭化物・褐土粒)

±93



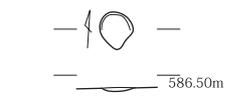
- 10Y2/1 黒シルト質 (～0.2cm 礫・炭化物・黄褐土粒)

±96



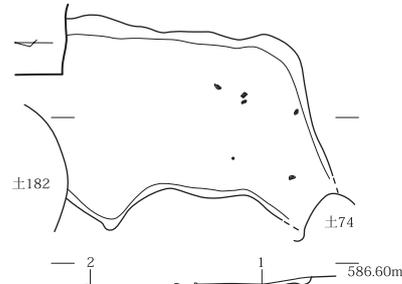
- 5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト (灰色土粒・灰砂粒・～20cm 礫)

±97



- 2.5Y3/1 黒粘質シルト (黄褐塊・木片・～0.5cm 礫)

±89



- 1: 5Y2/1 黒シルト質 (～1cm 礫・木片・炭化物・白土粒)
- 2: 10YR2/1 黒粘質シルト (木片・植物片・～0.5cm 礫・黄褐土粒)

±90



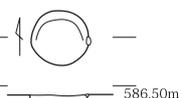
- 5Y2/1 黒粘質シルト (オリーブ灰塊・炭化物)

±91



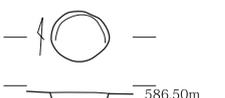
- 10YR1.7/1 黒粘質シルト (～2cm 礫・木片・オリーブ灰塊・炭化物)

±92



- 5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト (～2cm 礫・炭化物・白土粒・黄褐土粒 中)

±94



- 2.5Y2/1 黒シルト質 (～5cm 礫・褐塊・炭化物・木片・青土粒)

±99



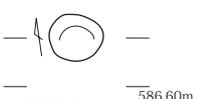
- 10YR2/1 黒シルト質 (炭化物・オリーブ灰塊・～1cm 礫・焼土粒)

±100



- 5Y2/1 黒粘質シルト (炭化物・焼土塊・～1cm 礫・白土粒)

±101



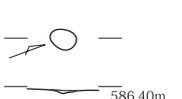
- 2.5Y2/1 黒シルト質 (～15cm 礫・炭化物・オリーブ灰塊・黄褐土粒)

±102



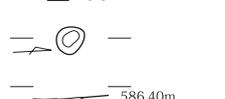
- 2.5Y2/1 黒シルト質 (炭化物・オリーブ灰塊)

±104



- 2.5Y3/1 黒粘質シルト (炭化物・焼土粒)

±108



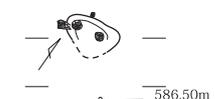
- 2.5Y3/1 黒粗砂質シルト (灰砂粒)

±109



- 2.5Y3/1 黒粘質シルト (～2cm 礫・炭化物)

±110



- 5Y2/1 黒シルト質 (炭化物・木片・オリーブ灰塊)

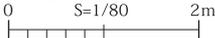


図 58 大名町 3 II 検遺構図 (5)

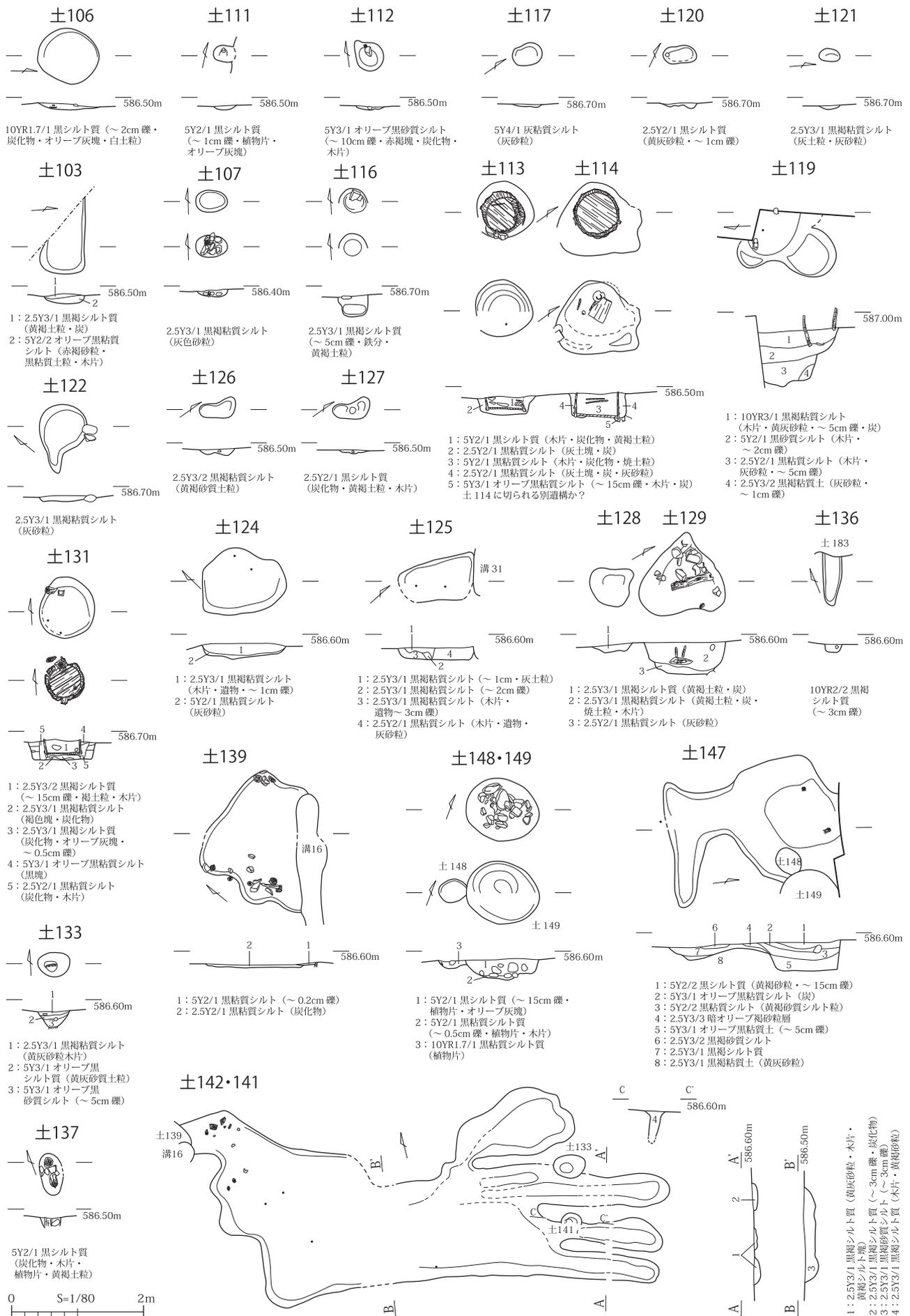
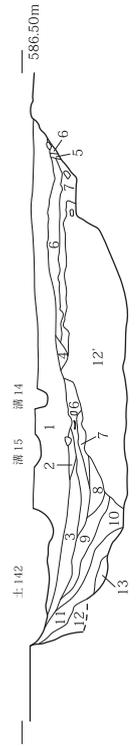
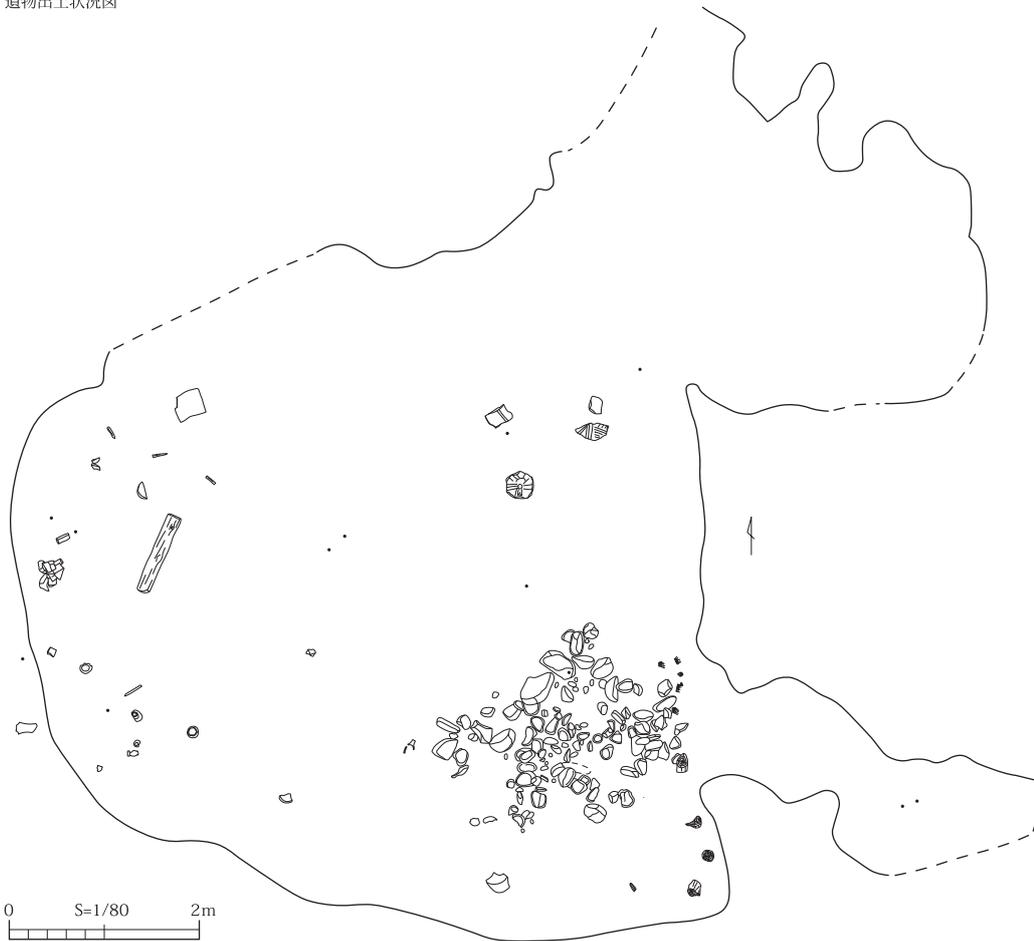


図 59 大名町 3 II 検遺構図 (6)



遺物出土状況図



- 8 : 10YR3/1 黒褐粘質シルト (木片・~3cm 礫・炭化物)
- 9 : 5Y2/2 黒シルト質 (植物片・木片)
- 10 : 2.5Y2/1 黒シルト質 (植物片)
- 11 : 2.5Y3/1 黒粘質シルト (植物片)
- 12 : 10Y3/1 黒粘シルト質 (植物片・木片・~4cm 礫)
- 12' : 礫硬面 (~20cm 礫・木片・炭やロープ細砂・植物片)
- 13 : 5Y2/1 黒粘土質 (植物片)

- 1 : 5Y3/2 オリーブ黒シルト質 (~7cm 礫・赤褐色硬塊・黄褐色粒)
- 2 : 2.5Y2/1 黒シルト質 (植物片・木片・黄褐色粒)
- 3 : 2.5Y3/1 黒褐砂質シルト (植物片・木片・~6cm 礫・赤褐色粒)
- 4 : 2.5Y2/1 黒粘質シルト (植物片)
- 5 : 2.5Y3/1 黒粘シルト質
- 6 : 5Y2/2 オリーブ黒シルト質 (~8cm 礫・木片・植物片・赤褐色粒・炭化物)
- 7 : 2.5Y3/1 黒粘シルト質 (植物片)

図 60 大名町 3 II 検遺構図 (7)

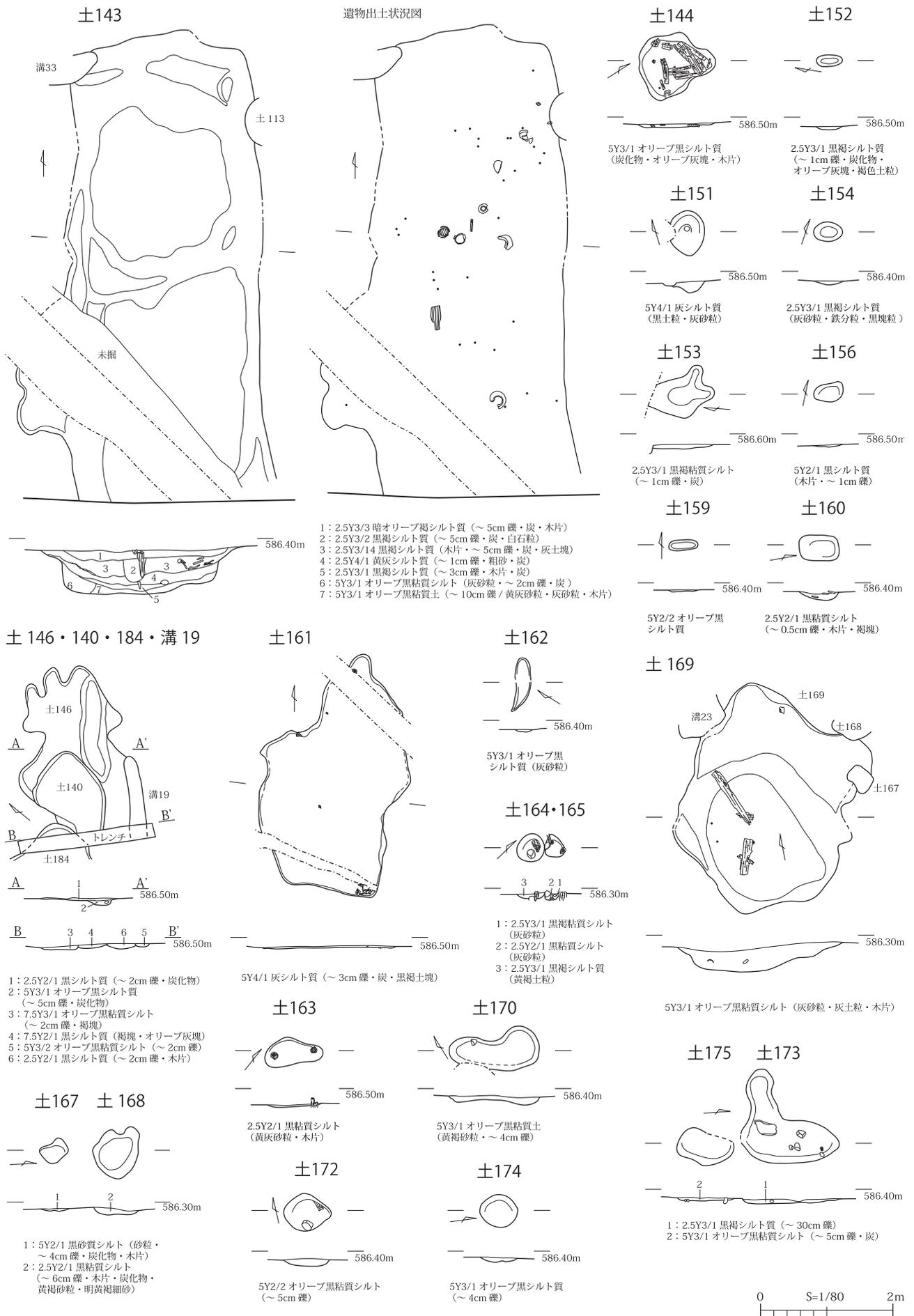


図 61 大名町 3 II 検遺構図 (8)

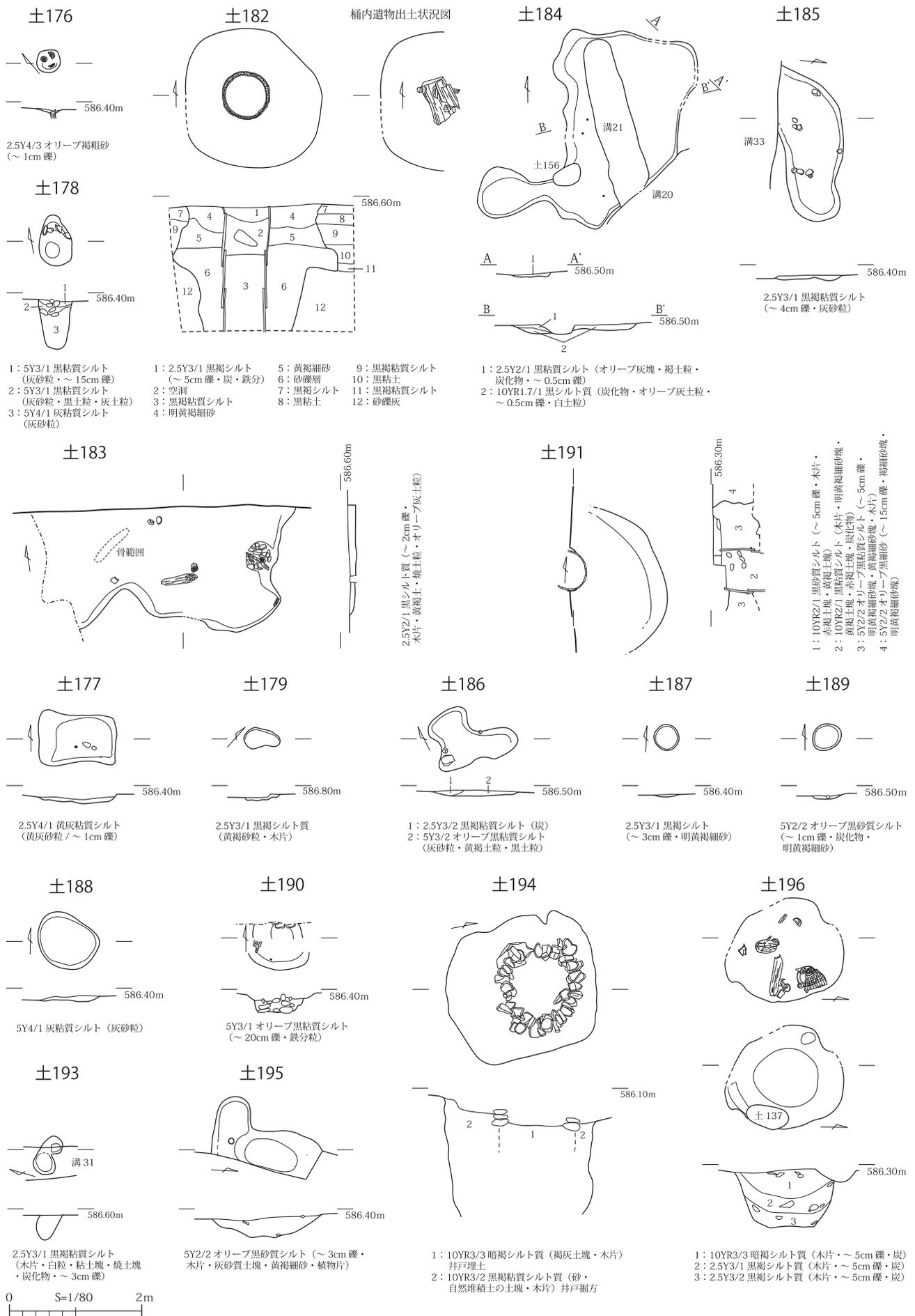


図 62 大名町 3 II 検遺構図 (9)

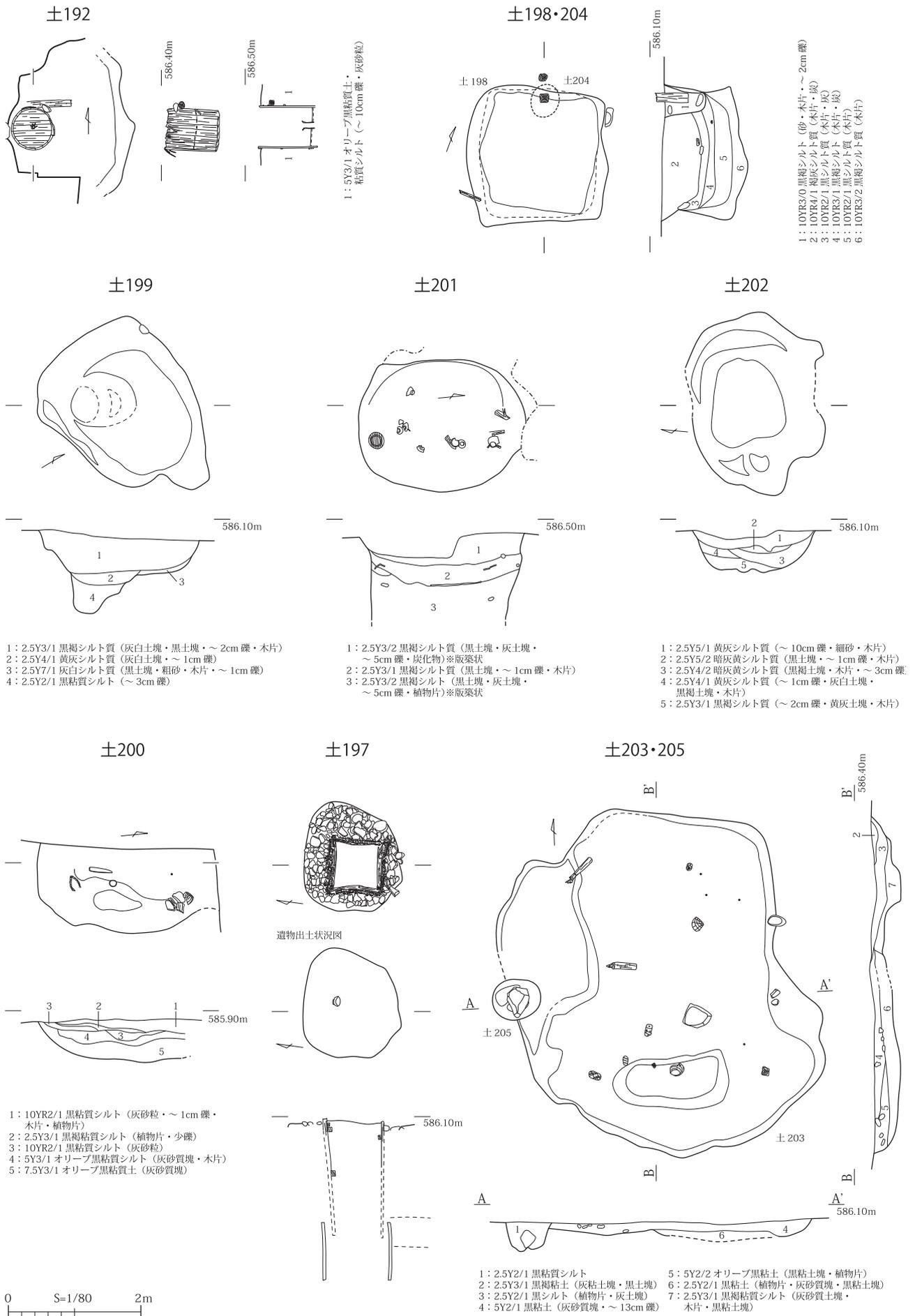
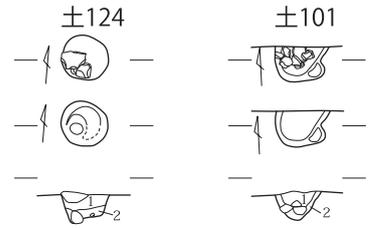
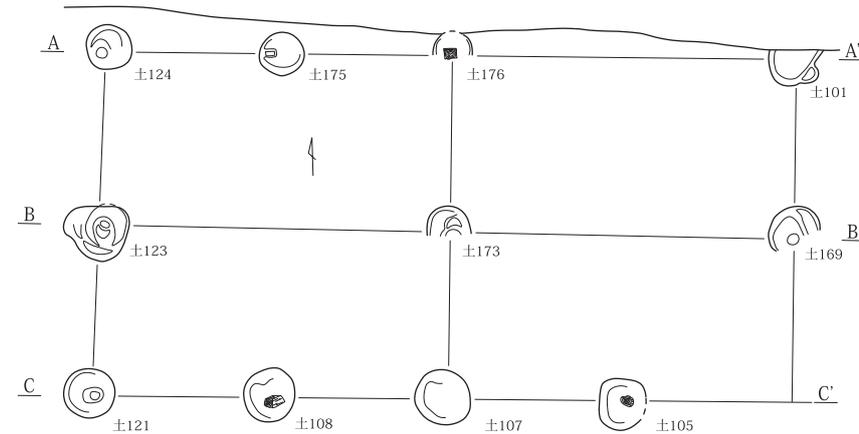


図 63 大名町 3 II 検遺構図 (10)

大名町3 Ⅲ検

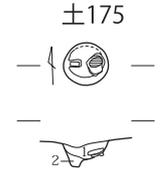
建物址1

標高586.20m



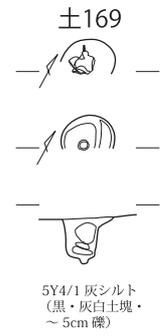
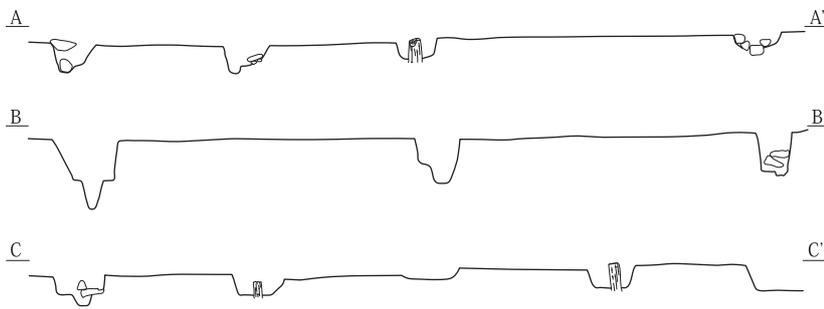
1: 2.5Y4/1 黄灰シルト質
(灰土塊・~20cm 礫)
2: 2.5Y2/1 黒粘質シルト
(灰土塊・~15cm 礫)

1: 2.5Y2/1 黒粘質シルト
(灰土塊・黄褐砂粒・
~8cm 礫)
2: 2.5Y3/1 黒褐粘質土
(黒粘土)



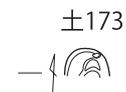
1: 2.5Y2/1 黒シルト質
(~10cm 礫)
2: 2.5Y3/1 黒褐粘質土
(黒粘土)

2.5Y3/1 黒褐シルト質
(灰白土塊・黒土塊)



5Y4/1 灰シルト
(黒・灰白土塊・
~5cm 礫)

1: 2.5Y3/2 黒褐粘質シルト
2: 2.5Y3/1 黒褐粘質シルト
3: 2.5Y2/1 黒粘質シルト



5Y3/2 オリーブ黒
シルト質 (~12cm 礫・
地山土塊)



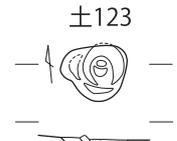
2.5Y3/1 黒褐粘質シルト
(~2cm 礫)



2.5Y3/1 黒褐粘質シルト
(~2cm 礫)



2.5Y3/1 黒褐粘質シルト
(灰・黒土塊・黄褐砂粒)



1: 5Y4/1 灰シルト
(黒・灰白土塊・~5cm 礫)
2: 5Y5/1 灰シルト質
(~2cm 礫・黒土塊)
3: 5Y3/1 オリーブ黒シルト質
(黒粘土)



2.5Y3/1 黒褐粘質シルト
(灰砂粒・植物片)



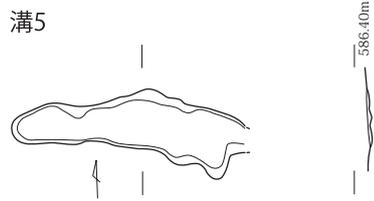
2.5Y3/3 暗オリーブ褐
シルト質 (黒粘土塊)



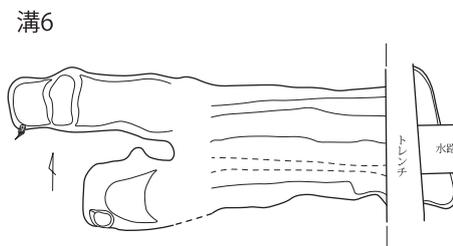
2.5Y3/2 暗オリーブ褐
シルト質



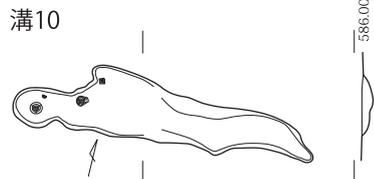
5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト
(黒粘土塊)



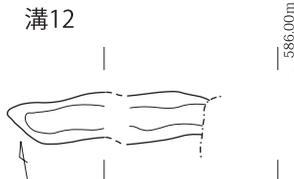
2.5Y2/1 黒粘質シルト
(植物片)



1: 5Y3/1 オリーブ黒粘質シルト
(灰白土塊・植物片)
2: 5Y2/1 黒粘質シルト
(灰白土塊・植物片)



2.5Y3/1 黒粘質シルト
(灰砂質土塊・植物片)



5Y3/1 オリーブ黒細砂
(植物片・黒粘土塊)

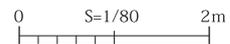
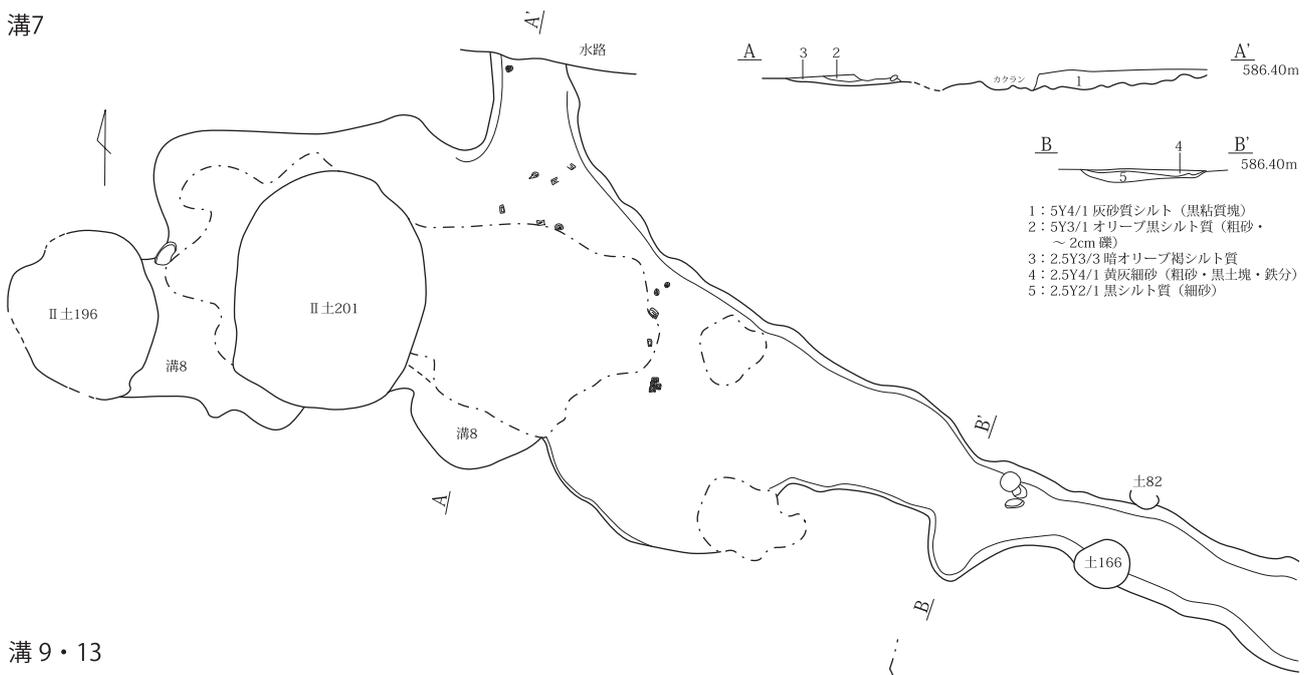


図 64 大名町3 Ⅲ検遺構図(1)

溝7



溝9・13

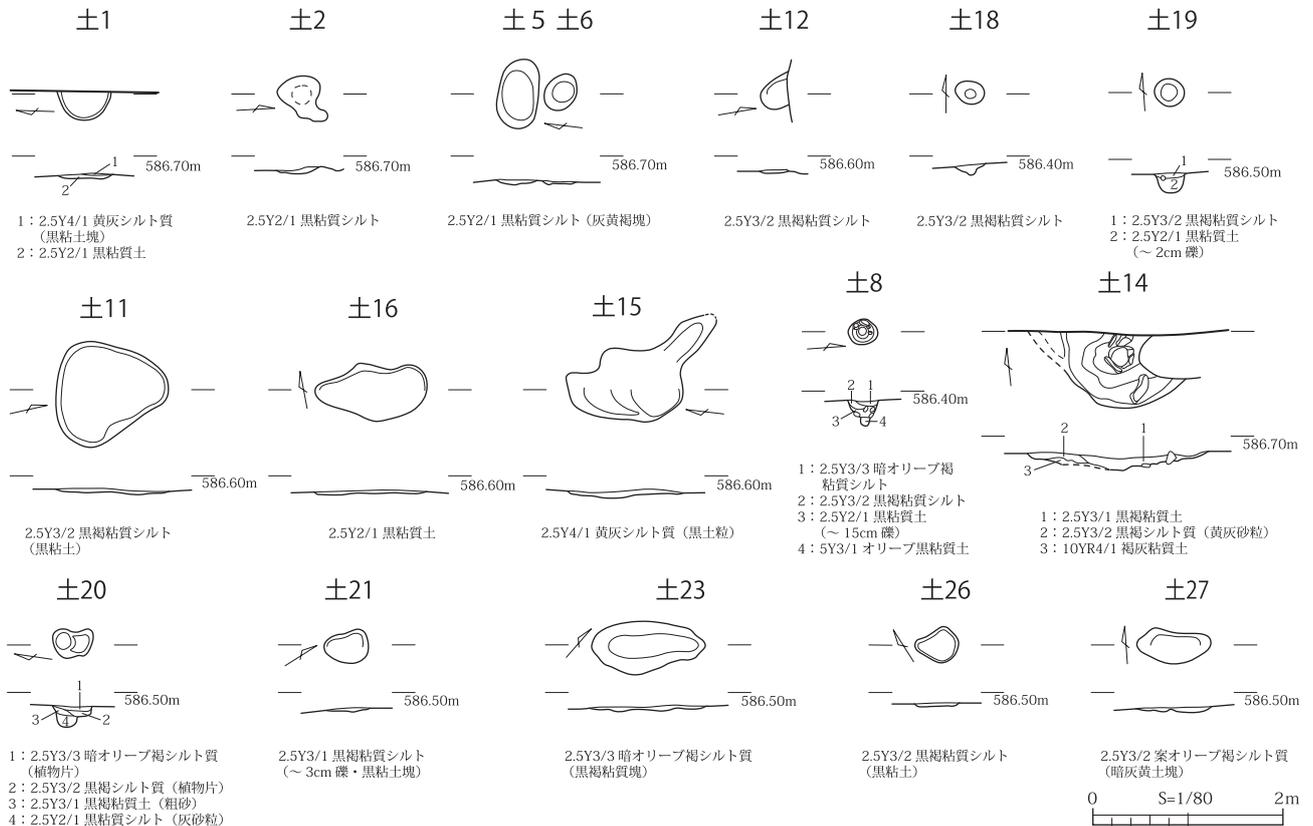
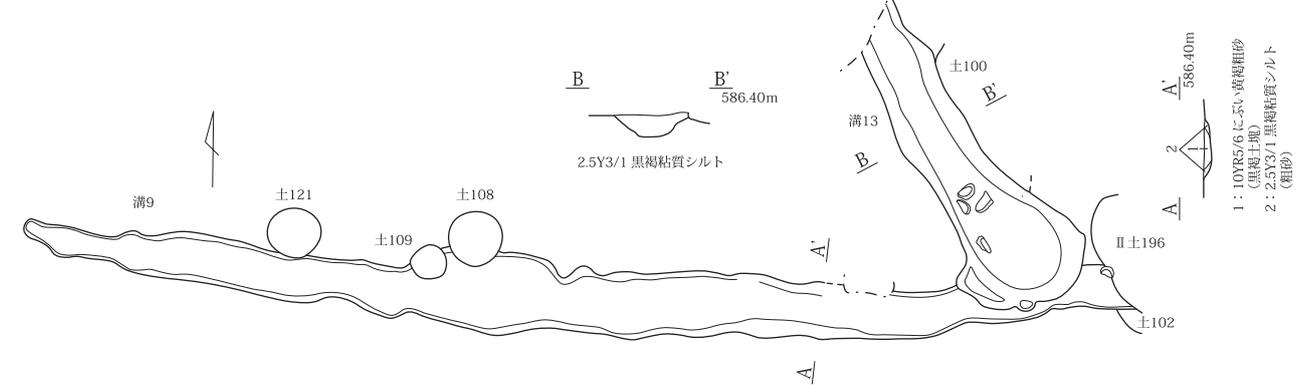


図 65 大名町 3 III 検遺構図 (2)

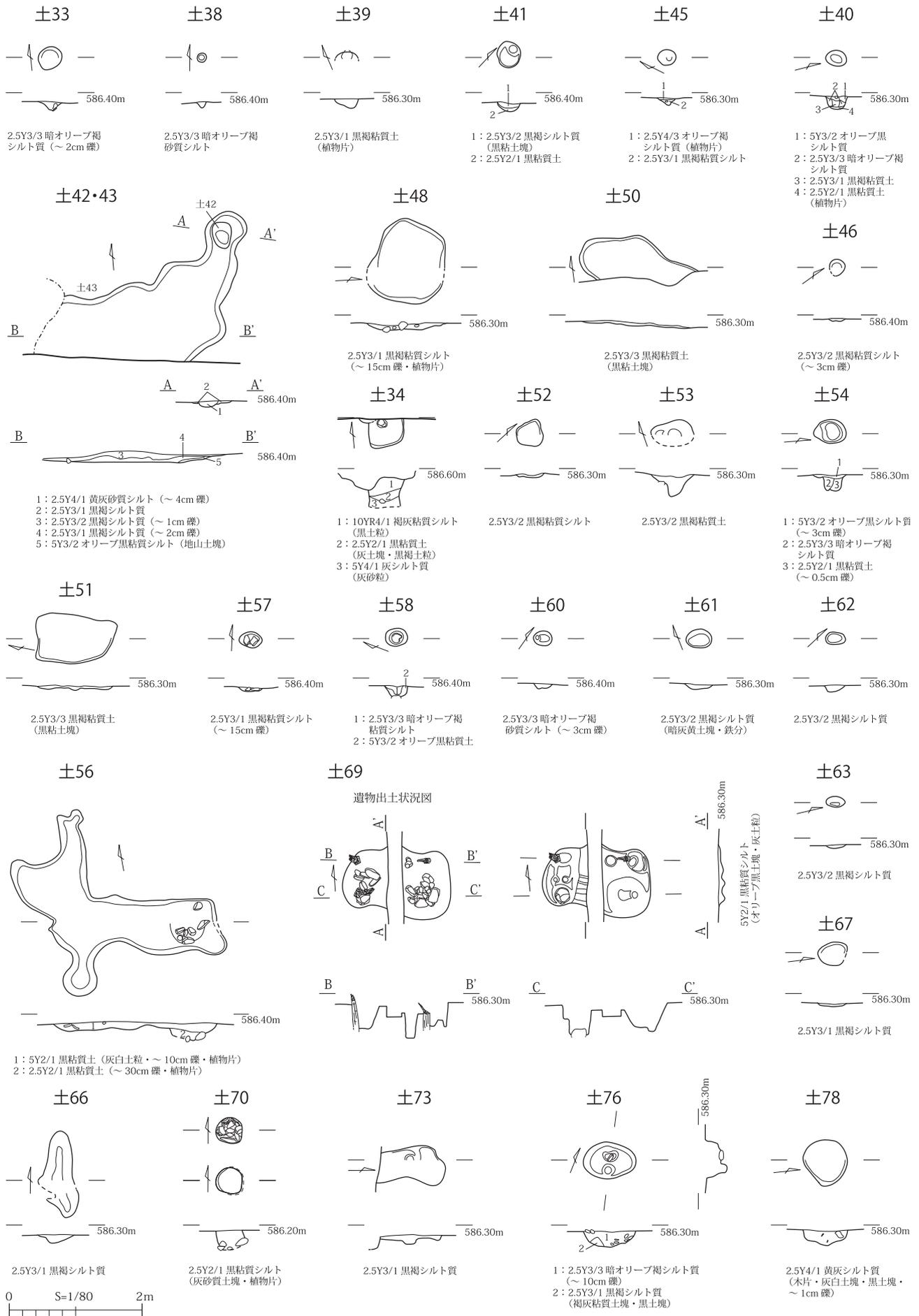


図 66 大名町 3 III 検遺構図 (3)

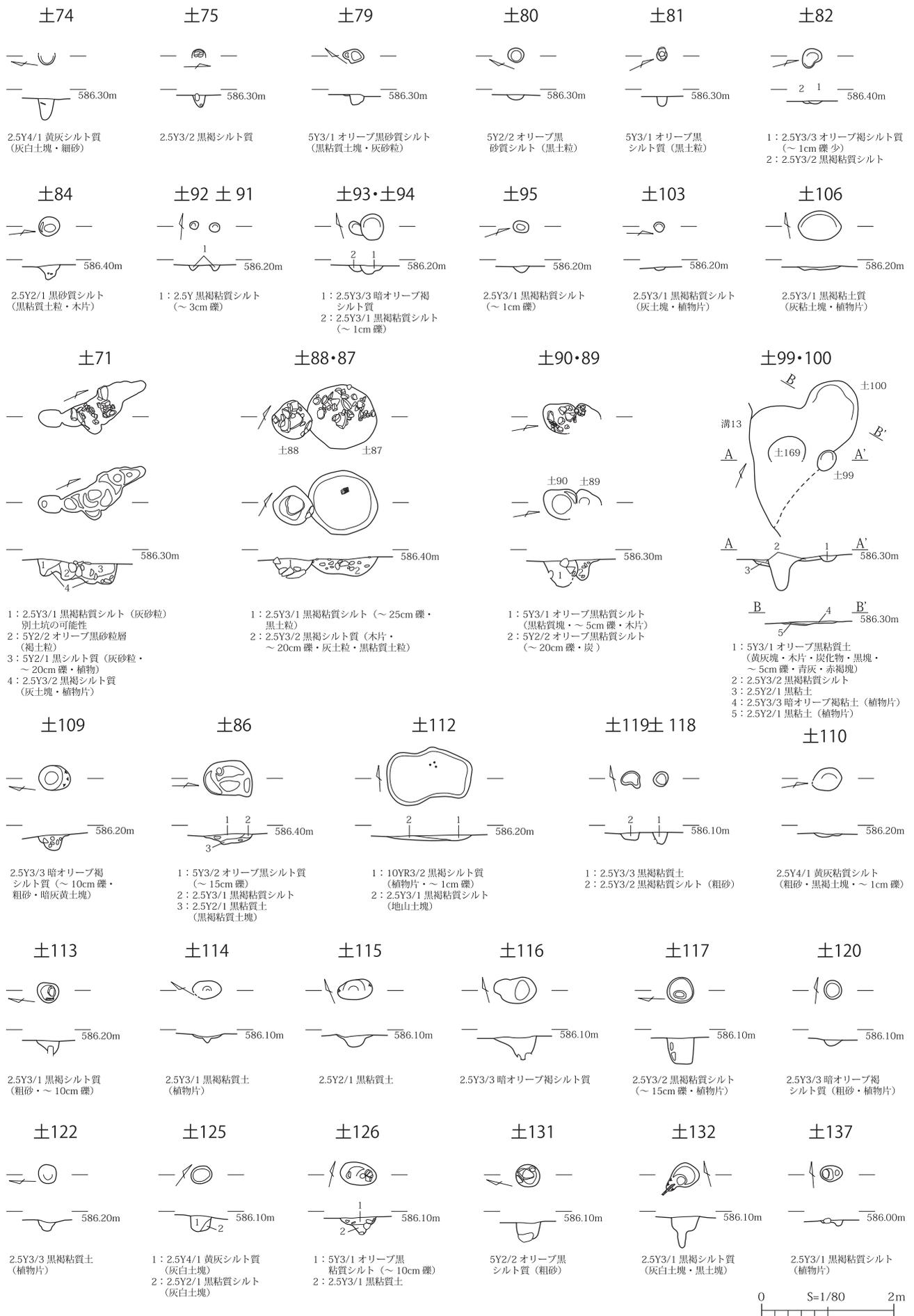


図 67 大名町 3 Ⅲ 検遺構図 (4)

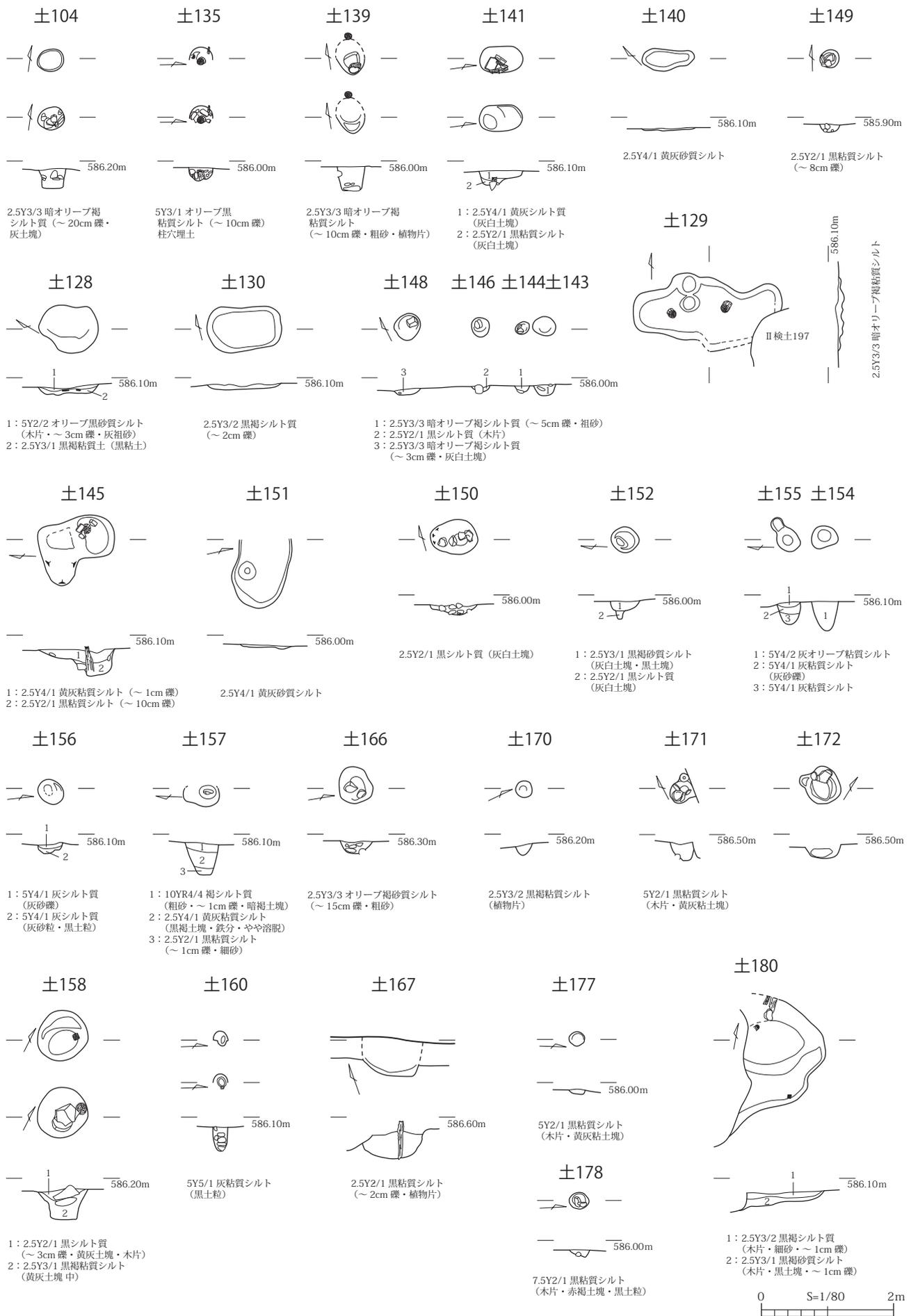


図 68 大名町 3 III 検遺構図 (5)

第V章 遺物

第1節 土器・陶磁器

1 土居尻1 (表6、図69～88、写真図版11～14)

今回の調査では、4層の整地層および各面の遺構から多量の土器・陶磁器が出土した。遺物点数が多いため、遺存率が良好なものを中心に、各遺構の器種や産地組成を考慮しながら474点を選出し実測図を提示した。種別内訳は、磁器140点、陶器216点、土器101点、土製品17点である。以下に検出面ごとの概要を記す。なお、陶磁器の製作年代判定と判断基準は、肥前産は大橋康二氏の編年を参照し、不明な箇所については大橋康二氏・山本文子氏のご助力を得た。瀬戸・美濃系は藤澤良祐氏の編年を参照し、金子健一氏、中畷茂氏にご指導いただいた。京焼系やその他産地については、関西近世考古学研究会の大会の際にご指導を賜った。

(1) 土居尻1 I検

I検から出土した資料のうち62点を図示した。種別内訳は、磁器36点、陶器19点、土器3点、土製品4点である。産地別では、肥前、瀬戸・美濃、京、備前、万古、在地産がみられる。以下、産地別に概要を述べる。

肥前産は5点あり、全体の8.1%を占める。製作年代は幅広く、17世紀～近代までを含む。石列Fの27は微塵唐草文の輪花皿で18世紀末～幕末の所産である。検出面の42は近代のイゲ皿で、底面に「城岩」の窯印がある。51の陶器の碗が最も古く17世紀前半に比定される。

瀬戸・美濃産は38点あり、全体の61.3%を占める。種別内訳は磁器30点、陶器7点、土製品1点である。大半が近代の所産であるが、近世の製品も少量含まれている。建1の3や建6の20は明治の銅版転写の染付皿である。建2の8や検出面の39・40の型打皿は幕末～明治初頭の所産である。建3の13はゴム印判と機械ロクロを用いた鉢で、昭和まで下る可能性がある。石列Aの21、検出面の41などは型紙摺絵の染付で、明治10年代の美濃産である。石列Fの26の皿は幕末の所産とみられる。甕9のどんぶりと高田徳利は大正～昭和まで下る可能性がある。また、製作年代は判然としないものの、建1の6の播鉢は高台に「尾州品野加藤鎌助製」の刻印があり、下品野村洞窯組の製品とわかる。

在地産は4点あり、全体の6.5%を占める。54は小型の播鉢で19世紀以降の所産とみられる。他に、建4に五徳と目皿、検出面に焜炉がある。

その他の産地では、京焼と思われる亀の土製品1点、備前産と思われる灯明皿1点、万古焼と思われる急須1点を図示した。この他、全体の19.4%にあたる12点を産地不明とした。

陶磁器の製作年代をみると、遺構から出土した遺物の大半は近代の所産である。明治を主体として、一部には大正～昭和と推定される遺物もみられる。一方、検出面一括の中には、幕末など近世の製品も僅かに含まれていた。検出面の遺物は副次的に扱うものとして、遺構からの出土遺物を優先して判断すると、I検の推定年代観は明治～昭和と考えられる。

(2) 土居尻1 II検

II検から出土した資料のうち98点を図示した。種別内訳は、磁器54点、陶器23点、土器19点、土製品2点である。産地別では、肥前、瀬戸・美濃、九谷、三田、京、信楽、益子、中国、在地産がみられる。以下、産地別に概要を述べる。

肥前産は30点あり、全体の30.6%を占める。このうち1点が陶器で、残る29点はすべて磁器である。陶器1点は白泥による巻刷毛目を施した126の碗で17世紀末～18世紀前半の所産とみられる。磁器は染付が主体である。年代別では、17世紀の製品に98・99のような口縁が鋸状に外反する皿がある。103の青磁は17世紀後半の波佐見産と考えられる。コンニャク印判を用いた84・85・113は、17世紀末～18

世紀にかけての所産である。87は17世紀末～18世紀前半の比較的初期のくらわんか碗と考えられる。点数では、18世紀末～幕末までの製品が最も多く、77の広東形の小杯・82・83の丸碗などがある。108の蛸唐草文の段重・112の線香筒・115の散蓮華などもこの時期の製品と考えられる。これらの肥前産陶磁はいずれも幕末までの所産で、近代のものは検出されなかった。また、30点中4点に修復の痕跡があり、113のコンニャク印判の水滴には漆継の痕が、107の段重・109の合子・115の散蓮華には焼継の痕がみられる。115の底面には、焼継印と思われる「松岡」の文字が確認できる。

瀬戸・美濃産は31点あり、全体の31.6%を占める。種別内訳は磁器18点、陶器13点である。磁器のうち半数以上は近代の所産とみられ、72～75は明治初頭の小杯である。94の陰刻型打皿も同時期のものと考えられる。井戸8の67は機械ロクロを用いた皿であり、大正まで下る可能性がある。110の植木鉢・111の御神酒徳利などは幕末～明治初頭に比定される。近世の製品は6点あり、79・80は19世紀前葉の端反碗で、93の寿文皿に代表される90～92などの型打皿は幕末の所産とみられる。一方、陶器13点はすべて近世の所産で、18世紀後半以降の製品が多数を占める。132の石皿・133の播鉢・137の瓶掛・142の乗燭は19世紀～幕末の瀬戸産である。127の天目茶碗・128の仏飯器は17世紀の所産とみられる。131の折縁皿は16世紀末～17世紀初頭の大窯に比定され、最も年代が古い。

在地産は15点あり、全体の15.3%を占める。種別内訳は陶器2点、瓦器1点、土器12点である。器種はかわらけを中心に、焙烙、五徳、火鉢などがある。

その他国内の産地は、九谷焼の色絵碗1点と植木鉢1点、三田焼とみられる染付2点、京焼の人形1点、信楽産の小杉碗1点、益子焼とみられる卸皿1点を図示した。外国産は中国の青磁碗1点と青花皿2点を図示した。89は15世紀後半～16世紀前半の龍泉窯系の青磁碗で伝世品とみられる。101・102は明末清初の青花で、102は漳州窯系である。この他、全体の12.2%にあたる12点を産地不明とした。このうち、150～152のかわらけ3点は、在地産に比べて薄手で胎土が白っぽく、ロクロ成形ではあるが、底部を回転糸切りした後に手持ちヘラ削りを施している点が特異なため、非在地産とした。

Ⅱ 検の陶磁器は、井戸4・井戸8で出土した7点を除けば、その多くが遺構外の出土である。このため、遺構の年代を陶磁器から判断することは難しい。遺構外で検出された陶磁器は、江戸後期～幕末の点数が最も多く、次いで江戸中期のもの、明治のものが数点ずつある。ただし明治の遺物についてはⅠ 検からの混入品とみられる。以上のことから、Ⅱ 検の推定年代観は18世紀後半～幕末と考えられる。

(3) 土居尻1 Ⅲ 検

Ⅲ 検から出土した資料のうち261点を図示した。種別内訳は、磁器43点、陶器142点、土器67点、土製品9点である。産地別では、肥前、瀬戸・美濃、京・信楽、志戸呂、中国、在地産がみられる。以下、産地別に概要を述べる。

肥前産は37点あり、全体の14.2%を占める。種別内訳は磁器27点、陶器10点である。磁器の大半は17世紀中葉～18世紀前半の所産である。土424の289は17世紀中葉の古九谷様式の色絵碗である。土418の284、検出面の320も同時期の色絵製品と考えられる。土342の221、検出面の313・318には、17世紀末に出現するコンニャク印判が確認できる。324の皿の内面に描かれた牡丹唐草文と五弁花文、銘「二重角に渦福」の組み合わせは17世紀末～18世紀中葉の製品によくみられる特徴である。また、321の紅皿のように幕末前後に比定される製品が数点みられるが、いずれも遺構外出土のため上層からの混入品と考えられる。陶器は17世紀が主体で、検出面の372の皿が最も古く17世紀初頭に比定される。溝301の171、土362の233、検出面の345・373は17世紀前半の絵唐津である。土400の253は叩き成形が特徴の壺もしくは小型甕で、17世紀の所産である。374は見込み部の銅緑釉を蛇の目状に剥いだ皿で、17世紀後半の内野山北窯の製品とみられる。

瀬戸・美濃産は 136 点あり、全体の 52.1% を占める。種別内訳は磁器 9 点、陶器 125 点、土製品 2 点である。磁器 9 点は幕末～明治の所産で、井戸 309 の 193・194 の小杯・195・196 の型打皿などがある。検出面一括で取り上げた磁器も同じく幕末～明治の様相を呈している。このうち 315 は窓内に染付で風景を描いた掛け分けの端反碗で、高台に灰釉の陶片を呼継した珍しい例である。陶器は 124 点を図示した。溝 301 は 13 点中 4 点が大窯の製品である。164 の天目茶碗が最も古く、大窯第 1 段階の 15 世紀末～16 世紀前半に比定される。165 の天目茶碗・167 の内禿皿・172 の黄瀬戸鉢は 16 世紀後半以降の大窯製品である。このうち 172 は線彫りと鉄彩・胆礬が施された黄瀬戸鉢で、漆継が施されている。対して 162 の長石釉丸碗・169 の鉄絵皿・170 の反り皿・173 の播鉢などはいずれも連房式登窯の製品で 17 世紀初頭～前半に比定される。池状遺構からは 18 世紀後半の美濃産陶器 3 点が出土した。土 362 の 232 は 17 世紀初頭の黒織部の沓茶碗である。これとは別に検出面からは、瀬戸黒もしくは織部黒とみられる 344 の碗が出土している。土 376 の 240 は茶入れ、241 は鹿を象った水滴で、いずれも 17 世紀の所産とみられる。土 400 の 247 の天目茶碗や 248～250 の輪禿皿は 17 世紀前半の所産である。土 416 の 274・275 は 17 世紀前半の天目茶碗で、275 の底面には「見里」の墨書がある。276～278 は大窯第 4 段階の丸皿や志野の鉢である。土 430 から出土した 294～300 はいずれも 17 世紀前半の所産で、長石釉小碗・天目茶碗・反り皿・灰釉緑釉流しの鉢などがある。この他にも各土坑から少量ずつ瀬戸・美濃産陶磁器が出土している。また、検出面一括からは 50 点を図示したが、その製作年代は 16 世紀後半～近代まで幅広い。古いものでは大窯第 3 段階後半～第 4 段階末にかけての美濃産の天目茶碗、折縁皿、内禿皿、黄瀬戸鉢、志野の蓋などがある。これに続く登窯 1・2 小期、すなわち 17 世紀前半の製品には、天目茶碗、輪禿皿、長石釉菊皿、鉄絵皿などがある。天目茶碗のうち 342 は段付天目で、内外面に灰釉を流し掛けている。364 は葵文が描かれた青織部の皿で 17 世紀初頭の美濃産である。一方、片口や播鉢といった調理具は江戸中期のものが多い。382 は 17 世紀後半～18 世紀前半の美濃産の鬢水入で、外面に型紙摺絵で紅葉文が描かれる。江戸後期の製品は、陶胎染付の仏飯器、灯明受皿、餌猪口、御神酒徳利、三組鍋、乗燭などがある。351 は広東形の碗で、淡黄褐の胎土の内面を白化粧し、外面にはイチン技法で折枝梅が描かれる。

在地産は 68 点あり、全体の 26.1% を占める。種別内訳は瓦器 2 点、土器 63 点、土製品 3 点である。瓦器 2 点は土 341 の 220 の軟質瓦質の火鉢と、検出面の 396 の硬質瓦質の焜炉である。土器はかわらけ、涼炉、五徳、植木鉢がある。Ⅲ 検からは在地産と思われるかわらけが大量に出土しており、そのうちの 60 点を図示した。かわらけの多くには、灯明皿としての使用痕がみられる。また、405 は底部中央部に焼成後穿孔をもつ。墨書されたかわらけは 7 点ある。403 は「御志ヤ水」と読めるが、404 も器形や被熱痕がよく似ているため同様の墨書をもつ揃いの皿とみられる。このうち 404 には口縁部と底部に研磨痕が残る。407 は外面に唐草文、内面に「花鳥月」と墨書された灯明皿である。灯火具という用途から考えて、これは「花鳥風月」から「風」の一字を意図的に除いたものだと推察される。411 の底面には「あ」と墨書されている。また、土 430 からは 12 点のかわらけを図示したが、これらの器形と法量にはまとまりがみられ、平均すると口径 10.2cm、底径 6.2cm、器高 2.9cm、外傾指数 68.7^{注1} となる。共伴する陶磁器の年代から、17 世紀前半の在地産かわらけの様相を示す資料と考えられる。

その他国内の産地は、京・信楽産の碗 1 点、底面に銘「錦光山」のある京焼の花生 1 点、京焼とみられるミニチュア・人形 3 点、志戸呂焼と考えられる灯明皿 1 点を図示した。外国産は中国の青磁碗 3 点と青花 3 点がある。土 368 の 237 は鎬蓮弁文の青磁碗で 13 世紀～14 世紀の龍泉窯系、検出面の 328 は 15 世紀の龍泉窯系の稜花皿である。土 424 の 290 の青花は漳州窯系の孔雀文の皿である。この他、全体の 3.1% にあたる 8 点を産地不明とした。溝 301 の 178 の焙烙は体部が内湾しているが、この器形は在地にはみられない。また、413 のかわらけは、内外面に黒漆が塗られその上に金箔が施されている。ロク口成形で、

段階、あるいはさらに古い段階の溝とも考えられるが、出土した陶磁器が少なく詳細は不明である。さらに、前述したⅢ検中央部にも16世紀末～17世紀前半の年代観をもつ溝301があり、これは(a)とも(b)とも軸を異にするため、さらに新たな段階の溝と考えられる。以上のことから、Ⅳ検には16世紀後半の生活面及び、17世紀前半に再整備された武家屋敷の2つの年代観が混在するものと推察される。

2 大名町3(表7、図89～105、写真図版15～18)

今回の調査では、3層の整地層および各面の遺構から土器・陶磁器が出土した。出土総量は約173.4kgである。種別重量は磁器約44.1kg・陶器約97.1kg・土器約32.0kg・土製品約0.2kgで、重量別比率は、25%・56%・19%・0.1%未満となる。遺物点数が多いため、遺存率が良好なものを中心に、各遺構の器種や産地組成を考慮しながら437点を選出し実測図を提示した。種別内訳は、磁器149点、陶器202点、土器65点、土製品21点である。以下に検出面ごとの概要を記す。なお、陶磁器の製作年代判定と判断基準は、肥前産は大橋康二氏の編年を参照した。瀬戸・美濃系は藤澤良祐氏の編年を参照し、金子健一氏、山下峰司氏、中畠茂氏にご指導いただいた。

(1) 大名町3 I 検

I 検から出土した資料のうち110点を図示した。種別内訳は、磁器54点、陶器38点、土器13点、土製品5点である。産地別では、肥前、瀬戸・美濃、京・信楽、中国、在地産がみられる。以下、産地別に概要を述べる。

肥前産は24点あり、全体の21.8%を占める。大半が近世の磁器で、このうち半数以上はV期の年代観をもつ。溝4の477、溝9の493は矢羽根文の猪口で、見込みに五弁花文をもつことから18世紀末～19世紀初頭の所産とみられる。溝16の520、検出面の564の菊花文の碗も同様の年代と考えられる。溝4の481は磁器のカキタテである。溝16の521、瓦集中部の541は筒形碗で、18世紀後半～19世紀初頭の所産である。溝4の476の皿・482の蓋、溝10の500の鉢、検出面の568・569の皿には焼継が施されており、このうち482には「×」、500には「戸」の焼継印が確認できる。一方、焼土15から出土した3点は様相が異なり、いずれも江戸前期～中期の所産である。532の碗には漆継痕がみられる。533の皿は全体的に被熱しており、高台内に銘「2重角に渦福」とハリ支え痕が残る。近代の製品も少量あり、土35の555は明治以降とみられる段重の蓋である。陶器は1点のみで、遺構外から575の17世紀前半の絵唐津の皿が出土した。

瀬戸・美濃産は46点あり、全体の41.8%を占める。種別内訳は磁器23点、陶器23点である。江戸後期以降の製品が主体で、うち15点は近代の所産である。特に溝10、瓦集中部からは近代の製品が多く出土した。瓦集中部は明治の火災に伴う廃棄遺構と推察され、出土陶磁器に一括性があるものと考えられる。溝10の498・501・503、瓦集中部の542～544は明治初頭～20年までの所産とみられる。ただし溝10には499の銅版転写の平碗があり、これはやや下った明治30年代の製品と考えられる。溝4からは483のせんじ・485の餌猪口など18世紀後半の陶磁器が出土した。溝9の492は美濃の炆器染付の碗である。495の御深井の向付も美濃産で、こちらはやや年代が古く18世紀前半の所産である。溝16からは、518・519の端反碗・526の灯明受皿など幕末～明治にかけての製品が出土した。水路1の530は19世紀前半～幕末にかけての梅文の碗である。土9の552は明治の型紙摺絵の蓋で、前述した瓦集中部の陶磁器と同様の年代である。一方で、これら江戸後期～近代の遺物群とは年代観の異なる陶磁器が、焼土15、土5からまとまって出土している。焼土15からは535の天目茶碗・536の白天目・537の輪髡皿など17世紀の陶磁器が出土した。土5の548の黄瀬戸鉢は大窯第4段階まで遡り、549の向付は17世紀後半の所産とみられる。また、遺構外では17世紀～近代まで幅広い年代の陶磁器を検出した。561の小杯・563

のゴム印判の碗などが最も新しく、昭和まで下る可能性がある。明治の製品は 565 の型紙摺絵の碗・566 の銅版転写の皿がある。近世では、18 世紀後半の製品に 573 の腰鍔湯呑、17 世紀の製品に 574 の天目茶碗・576 の長石釉丸皿などがみられる。

在地産は 14 点あり、全体の 12.7% を占める。種別内訳は陶器 2 点、瓦器 1 点、土器 11 点である。陶器 2 点は溝 10 の 507 の灯明受皿と土 82 の 558 の行平鍋で、橙褐色の胎土や灰釉の釉調から洗馬焼和兵衛窯で焼かれた可能性が高い。土器は、灯明皿として使用したとみられるかわらけや、焙烙、五徳がある。

その他の産地では、京・信楽産と考えられる陶器が 3 点ある。また、溝 15 の 512 は中国景德鎮系の青花で、18 世紀～19 世紀初頭の所産とみられる。この他、全体の 20% にあたる 22 点を産地不明とした。

陶磁器の製作年代をみると、遺構出土の大半が江戸後期～明治にかけての所産である。その中で、焼土 15・土 5 の出土遺物だけが 17 世紀の年代観を示している。これら 2 遺構はなんらかの要因で I 検に混入したものと考えられ、面全体の年代観を判断するための資料からは除外したい。また出土磁器の点数をみると、肥前産と瀬戸・美濃産が同数程度出土しており、近世でも特に幕末に近い段階であると考えられる。以上のことから、I 検の推定年代観は幕末～明治と推察される。

(2) 大名町 3 II 検

II 検から出土した資料のうち 312 点を図示した。種別内訳は、磁器 93 点、陶器 153 点、土器 50 点、土製品 16 点である。産地別では、肥前、瀬戸・美濃、京・信楽、備前、堺、中国、在地産がみられる。以下、産地別に概要を述べる。

肥前産は 82 点あり、全体の 26.3% を占める。種別内訳は磁器 72 点、陶器 7 点、土製品 3 点である。溝 7 からは 591・592 の 17 世紀前半の絵唐津の皿が出土した。溝 31 の 615・616 は見込みに五弁花文、高台内に銘「大明年製」・「2 重角に渦福」をもつ 17 世紀末～18 世紀の皿である。土 113 の 635 は焼継の施された染付輪花皿で、高台内に朱書きで「へ」の焼継印がある。土 123 からは陶磁器が大量に出土し、磁器は 27 点を図示したがこのうちの 25 点が肥前産であった。645 はコンニャク印判で主文様を描いた碗で、17 世紀末～18 世紀前半の所産である。647 は 17 世紀後半の色絵の碗とみられる。650～654 の 5 点はそれぞれ文様の異なる筒形碗で、18 世紀後半～19 世紀初頭の所産である。658・660 の皿の底面にはハリ支え痕が残ることから、17 世紀末～18 世紀前半の製品とみられる。659 の糸切細工の皿も同様の年代である。また、649・650・655・662・663 には漆継の痕跡が確認された。一方、焼継の施された製品はみられなかった。土 123 から出土したこれらの磁器は、IV～V 期の製品が中心で、点数では V 期がやや多い。後述するが、土 123 は瀬戸・美濃産磁器をほとんど伴わず、19 世紀の早い段階で廃絶を迎えた遺構であると推察される。土 142 からも 780 の筒形碗が出土しているが、781 の広東碗、782 の端反碗を伴う段階のため、土 123 よりもやや新しい年代観をもつ遺構と考えられる。また、土 143 にもやはり 792 の筒形碗がある。796～798 は蛇の目凹型高台の皿で、18 世紀後半以降の所産である。795 の糸切細工の摺絵皿・799 の皿は 17 世紀末～18 世紀前半の所産とみられ、漆継が施されている。土 143 は瀬戸・美濃産磁器を伴わないことから、土 123 と同様の年代観をもつ遺構と考えられる。土 169 の 828 は 17 世紀中葉の波佐見産青磁とみられ、内面をへら彫りし、高台内に鍍釉を塗っている。土 196 の 851 は底面のハリ支え痕及び銘から、17 世紀第 4 四半期頃の所産と考えられる。土 196 は、年代の推定が困難な個体もあるものの、概ね 17 世紀後半～18 世紀前半の年代観を示している。土 197 の 857 は 17 世紀第 3 四半期の所産とみられる輪花の皿である。土 201 の 866 は、17 世紀後半に焼かれた京焼風肥前の陶器の碗で、外面に楼閣山水文、高台内に銘「清水」が確認できる。畝状遺構の 876 は 18 世紀前半の碗とみられるが、焼継の上にさらに漆継を施した痕跡があるため、最終的な廃棄は 19 世紀以降と考えられる。遺構外からは 883 の色絵の皿が出土した。釉調から初期の色絵の可能性もあるが、市内出土の類例が少なく詳細は不明である。

瀬戸・美濃産は128点あり、全体の41.0%を占める。種別内訳は磁器13点、陶器114点、土製品1点である。このうち溝7の586が最も古く、大窯第3段階後半とみられる天目茶碗である。溝7の大窯製品は他に587の天目茶碗・589の志野丸皿がある。一方で588の天目茶碗・590の鉄絵皿は17世紀前半の連房式登窯のものである。溝7の年代観は16世紀後半～17世紀前半とみられ、Ⅱ検の遺構の中では古い様相を示す。大窯はこの他に、溝8から597の皿、溝25から607の志野の碗が出土している。溝16の603は18世紀後半～19世紀初頭のせんじである。溝23の604は白天目で17世紀前半の所産である。溝31の609の碗には高台内に銘「1重角に里」がみられ、美濃産と推察される。611は、Ⅰ検の水路1出土の530と同種の梅文の碗である。溝31からは他にも幕末～明治の所産とみられる陶磁器がまとまって出土した。土114の637の天目茶碗・638の丸碗・639の輪禿皿は17世紀前半の所産である。土123からは大量の陶磁器が出土しており、図示した陶器82点のうち63点が瀬戸・美濃産であった。大半は近世の陶器で、このうちの約半数が18世紀後半～19世紀初頭の所産である。679・680の鎧茶碗・681のせんじ・684～686の拳骨茶碗・706の襷皿・707の陶胎染付皿・719の輪禿鉢・744・745の灯明受皿などがある。678の炆器染付の碗や714の石皿などやや年代が下る製品もあるが、いずれにしても近世の所産といえる。なかには年代の古い遺物も一定数あり、692～694は17世紀の天目茶碗で、691の天目茶碗・708の志野丸皿などは大窯末まで遡る。また721・722の練鉢、736の尾呂徳利などは江戸中期の所産である。土123は出土陶器の年代幅が広いが、特に江戸前期の遺物群などは別の遺構からの混入である可能性が高い。また、土123には底部に墨書をもつ陶磁器が複数あり、699・700には筆致のよく似た猪の目文、704の仏飯器には「東西南北」の文字が確認できる。土125からは、777の掻き落しの磁器の端反碗が出土した。土142の785は美濃の炆器染付の碗である。土143からは、808のせんじ・809の拳骨茶碗が出土しており、これは土123の器種の組み合わせと類似することから同様の年代観をもつ遺構と推察される。また、遺構外には892の有耳壺があるが、内面に黒色付着物が確認できることから、鉄漿壺として使用された可能性が考えられる。

京・信楽産は15点あり、全体の4.8%を占める。このうち2点は土製品の人形と狛犬で、他はすべて陶器である。溝23の605、土143の804～806は小杉碗で、18世紀中葉の所産とみられる。土123の677の碗の高台内には「寶山」の刻印がみられる。土198の859は楽茶碗である。

在産地は49点あり、全体の15.7%を占める。種別内訳は陶器2点、瓦器6点、土器41点である。陶器は溝31の623と土124の775で、いずれも行平鍋である。このうち775の釉調は洗馬焼和兵衛窯の製品と似ている。瓦器は主に硬質瓦質の焜炉や火鉢であり、土123・土143・土160から出土した。土器はかわらけ、焙烙、内耳鍋がある。在地のかわらけは、時期が新しくなるにつれ法量が小型化する傾向にあり、16世紀末段階では口径10.5cm前後、器高2.9cm前後だったものが、19世紀中葉～後半には口径9.6cm前後、器高2.0cm前後まで変化することがこれまでの調査で指摘されている^{文献6}。溝7・土202のかわらけは器高が平均して3.2cmを超える大振りなつくりで、16世紀末～17世紀前半の様相を呈しているといえる。また、土201・土202からは、底部に墨書されたかわらけが複数出土している。土201の868・869の底面には「○」、870には「二」の墨書が確認できる。土202の874の墨書は「御」と読める。鍋は近世の焙烙が主体だが、溝7の596と土53の631は中世の内耳鍋と考えられる。

その他国内の産地は、備前焼と思われる炆器質の灯明皿・灯明受皿を各1点ずつ、堺の播鉢を2点、近畿産の焼塩壺1点を図示した。628の焼塩壺は、輪積み成形でつくられていることから17世紀の製品とみられる。これまでに松本城下で焼塩壺が出土した地点は4か所のみであり、それぞれの出土点数は以下の通りである。松本城二の丸御殿跡で59点、松本城下町跡本町2次(推定塩問屋跡)で1点、同8次(推定御使者宿跡)で1点、松本城三の丸跡土居尻11次(未報告、推定塩蔵跡)で2点確認されている。外国産

は中国の白磁1点と青花2点を図示した。溝7の585は16世紀の白磁の端反皿で、口縁が輪花を呈している。溝10の598、土169の827は中国漳州窯系の青花である。この他、全体の9.6%にあたる30点を産地不明とした。

Ⅱ検からは16世紀後半～近代までの陶磁器が幅広く出土しているため、面全体の年代観を限定することは困難である。しかしながら、遺構別にみれば製作年代には差があり、幾つかの時期の遺構が同一面に混在しているものと考えられる。そこで陶磁器の出土点数が多く信頼度の高い遺構を中心として、年代別に以下の4つの段階に分類した。ただし、前述したⅠ検の年代観が幕末～明治であることから、近代の遺物は上層からの混入とみなし、年代観の判別対象からは除外した。

陶磁器の出土状況からは、このように少なくとも4つの段階を捉えることができる。

- 16世紀末～17世紀前半　：溝7・土114など
- 17世紀後半～18世紀前半　：土169・土196・土201など
- 18世紀後半～19世紀初頭　：溝31・土123・土143など
- 19世紀前半～幕末　　　　：土124・土142・畝状遺構など

(3) 大名町3 Ⅲ検

Ⅲ検から出土した資料のうち13点を図示した。種別内訳は、磁器2点、陶器9点、土器2点である。産地別では、肥前、瀬戸・美濃、中国、在地産がみられる。以下、産地別に概要を述べる。

肥前産は2点あり、全体の15.4%を占める。902は18世紀後半～19世紀初頭の筒形碗で、909は17世紀前半とみられる陶器の鉢である。

瀬戸・美濃産は8点あり、全体の61.5%を占める。すべて陶器である。土112の899・900は長石釉丸皿で、17世紀前半の所産である。土180の901は大窯の灰志野の鉢と考えられる。遺構外には、904・905の天目茶碗や906の掛け分けの碗といった17世紀の製品と共に、907の内禿皿・908の折縁皿などの大窯製品がある。

在地産は2点あり、全体の15.4%を占める。溝9の897は9世紀前半～中葉の黒色土器Aの鉢と考えられる。土87の898は近世のかわらけとみられる。

この他に中国産の白磁が1点出土した。903は15世紀第4四半期～16世紀前半の端反の皿で、漆継が施されており、伝世品とみられる。

Ⅲ検は総じて陶磁器の出土量が少なく、年代決定のできない遺構が多い。よって面全体の年代観を陶磁器から判断することは難しいが、出土した陶磁器の製作年代は16世紀末～17世紀中葉に集中している。これは、前述したⅡ検の溝7・土114などと近い年代観であり、当該遺構との関連性を示唆するものである。また、溝9からは9世紀の土器が出土しており、古代に何らかの土地利用があった可能性も否定できない。

注1) 外傾指数は、 $\frac{(\text{口径}-\text{底径})}{2} \div \text{器高} \times 100$ で求めた。

〈参考・引用文献〉

- 文献1 江戸遺跡研究会 2001 『図説 江戸考古学研究事典』 柏書房
- 文献2 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年 ―九州近世陶磁学会10周年記念―』
- 文献3 塩尻市教育委員会 1996 『洗馬焼・和兵衛窯』
- 文献4 瀬戸市史編纂委員会 1993 『瀬戸市史 陶磁史篇五』
- 文献5 瀬戸市史編纂委員会 1998 『瀬戸市史 陶磁史篇六』
- 文献6 竹内靖長 2002 「4章1節 土器・陶磁器」 『松本城下町跡六九第4次発掘調査報告書』 松本市教育委員会

表6 土居尻1 土器・陶磁器観察表

No	検出面	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
						口径	底径	器高					
1	I	I-建1-1	建物1	磁器	碗	10.2	3.4	4.9	外面に笹文、緑内に2重圏線、見込み1重圏線内に寿字文	白	染付	明治10年代	瀬戸・美濃
2	I	I-建1-3	建物1	磁器	皿	(10.7)	(6.6)	2.05	外面に笹文、口縁、見込みに陰刻・ダミで牡丹獅子文	白	染付・口錆	幕末～明治初頭	美濃か
3	I	I-建1-2	建物1	磁器	皿	(12.8)	(7.2)	2.0	内面に銅版転写、高台内に1重圏線	白	染付	明治20後半～30年代	瀬戸・美濃
4	I	I-建1-4	建物1	陶器	小杯	5.4	2.3	2.65	外面に上絵(赤)で「坪醸造協会関東支部」、内面に上絵(黒・青・緑)で麦・豆・水、高台内に上絵(赤)で銘「三銀造」	黄白	透明釉・上絵	近代	瀬戸・美濃か
5	I	I-建1-5	建物1	炆器	植木鉢	-	(6.8)	-	錆流し掛けか、高台に水切溝3単位か	暗灰	錆釉	18c後半～	不明
6	I	I-建1-6	建物1	陶器	挿鉢	25.4	12.2	12.2	片口、内面に目跡2、高台に刻印「尾州品野加藤謙助製」、高台内に墨書「サヨ」もしくは「甘ヨ」	淡黄褐	鉄釉	19c～	瀬戸
7	I	I-建2-1	建物2	磁器	碗	(10.8)	(3.9)	5.5	外面に格子文、内面に付着物(漆か)	白	染付	明治	瀬戸・美濃
8	I	I-建2-2	建物2	磁器	皿	(8.0)	(3.8)	2.3	型打方形皿、内面に陽刻・ダミで花文、高台方形	白	染付	幕末～明治初頭	瀬戸・美濃
9	I	I-建2-5	建物2	陶器	挿鉢	27.4	14.2	12.2	片口	褐	鉄釉	近代	不明
10	I	I-建2-3	建物2	陶器	鍋蓋	-	-	6.0	外径(22.0)、摘み径(7.6)、湯気抜き孔1、外面に鉄釉・内面に灰釉、11とセット	淡黄	鉄釉・灰釉	近代	不明
11	I	I-建2-4	建物2	陶器	鍋	(22.8)	11.4	10.0	紐状双耳に竹管状工具で印刷、外面に鉄釉・内面に灰釉、底部煤付着、10とセット	淡黄	鉄釉・灰釉	近代	不明
12	I	I-建3-1	建物3	磁器	皿	(9.7)	(5.7)	1.55	見込みに陰刻・ダミで牡丹獅子文か	白	染付	明治初頭～10年代	美濃か
13	I	I-建3-2	建物3	磁器	鉢	10.4	3.85	-	輪花、ゴム判印、外面に唐草文、緑内に1重圏線、内面に窓縁唐草文、見込み2重圏線内に十字重圏線、機械クロコカ	白	染付	昭和か	瀬戸・美濃か
14	I	I-建3-3	建物3	磁器	鉢	(13.2)	9.9	5.7	内外面に花唐草文、胴部帯状に鉄釉、蛇の目状高台	白	染付・鉄釉	19c(1820～60年代)	肥前か
15	I	I-建3-4	建物3	陶器	片口	-	7.1	-	-	淡黄白	灰釉	近代か	不明
16	I	I-建4-1	建物4	磁器	碗	(11.4)	4.0	4.8	外面に銅版転写(青・緑)で花文、高台端部に砂付着	白	染付	大正か	瀬戸・美濃
17	I	I-建4-2	建物4	磁器	皿	(23.8)	10.6	4.0	輪花、外面に銅版転写で宝文、緑内に1重圏線、内面に上絵(赤・黄・緑・紫・銀等)で花蝶文	白	染付・上絵	明治後半～大正	瀬戸・美濃
18	I	I-建4-4	建物4	土器	目皿	-	-	1.1	最大径10.5、円形の孔7、被熱	橙褐	-	不明	在地か
19	I	I-建4-3	建物4	土器	五徳	(27.0)	(23.4)	7.7	縁外に沈線1条、内外面に煤付着、被熱	橙褐	-	不明	在地か
20	I	I-建6-1	建物6	磁器	皿	22.2～25.8	10.6	3.9	型打皿、銅版転写、外面に葡萄文、内面に風景	白	染付	明治後半	瀬戸・美濃
21	I	I-石垣A-1	石列A	磁器	碗	(7.4)	(3.1)	3.45	型紙摺絵、外面に唐子遊び・青海波文、緑内に瓔珞文	白	染付	明治10年代	美濃
22	I	I-石垣A-2	石列A	磁器	碗	(6.9)	(4.3)	7.2	筒型湯呑、外面に上絵(赤)で花文・雷文、緑内に歯歯文	白	透明釉・上絵	明治20～30年代	瀬戸・美濃
23	I	I-石垣A-3	石列A	磁器	蓋	-	-	1.55	外径5.3、取り径4.25、合子蓋か、銅版転写か、外面に花卉文	不明	染付	明治	不明
24	I	I-石垣A-4	石列A	陶器	合子か	5.95	2.85	3.0	-	暗褐	灰釉	不明	不明
25	I	I-石垣A-5	石列A	炆器	急須蓋	-	-	1.5	外径5.65、摘み径(0.95)、湯気抜き孔1	暗灰	-	幕末～	不明
26	I	I-石垣F-1	石列F	磁器	皿	9.65	4.9	2.5	縁内に2重圏線、見込みに陰刻・ダミで松鶴文	白	染付	幕末	美濃か
27	I	I-石垣F-2	石列F	磁器	皿	17.35	10.2	2.9	輪花、型打成形、外面に唐草文、内面に微塵唐草文、見込みに環状松竹梅文	白	染付	18c末～幕末	肥前
28	I	I-甕7-1	甕7	磁器	碗	-	(4.3)	-	内外面に銅版転写で亀甲文・鶴	白	染付	明治20～30年代	美濃か
29	I	I-甕8・9-1	甕8・9	磁器	小杯	3.8	2.85	4.3	外面に銅版転写で松竹梅文	不明	染付	明治30年代～大正	瀬戸・美濃か
30	I	I-甕8・9-2	甕8・9	磁器	碗	5.4	3.4	6.25	湯呑碗、外面に金彩で星印・桜・「温子」	不明	透明釉・上絵	明治後半～大正	瀬戸・美濃か
31	I	I-甕9-1	甕9	磁器	鉢	15.1	7.2	7.0	蓋付鉢、外面に麦藁文、高台内に1重圏線	白	染付・鉄絵	大正～昭和	瀬戸・美濃か
32	I	I-甕9-2	甕9	陶器	徳利	2.9	-	-	高田徳利形、外面に鉄絵で屋号「傘」、側面に溶着痕	灰	灰釉・鉄絵	大正～昭和	美濃
33	I	I-P16-1	ピット16	磁器	皿	-	(6.0)	-	内面に型紙摺絵	白	染付	明治10年代	美濃
34	I	I-P16-2	ピット16	陶器	碗	(6.5)	-	-	-	淡灰	鉄釉	不明	瀬戸・美濃
35	I	I-検-1	検出面	磁器	碗	7.4	3.25	3.9	外面に篆文、緑内に1重圏線、見込み2重圏線内に文様、登10小後	白	染付	19c前半(1830年代)	瀬戸・美濃
36	I	I-検-2	検出面	磁器	碗	8.1	3.0	4.8	外面に銅版転写で宝尽くし文、高台内に1重圏線	白	染付	明治後半	瀬戸・美濃
37	I	I-検-3	検出面	磁器	紅皿	4.4	0.8	1.25	型押成形、内面釉刷毛塗	白灰	透明釉か	明治か	美濃
38	I	I-検-4	検出面	磁器	仏飯器	(6.8)	3.9	7.3	外面に瑠璃釉・縁外～内面に透明釉を掛け分け	白	瑠璃釉・透明釉	明治か	瀬戸・美濃か
39	I	I-検-5	検出面	磁器	皿	9.0	4.4	2.4	型打菊皿、内面に陽刻で蝶文、見込みに環状松竹梅文	白	染付	幕末～明治初頭	瀬戸・美濃
40	I	I-検-6	検出面	磁器	皿	(8.5)	3.7	2.45	型打皿、見込みに陽刻で蝶文	白	染付	幕末～明治初頭	瀬戸・美濃
41	I	I-検-7	検出面	磁器	皿	(12.7)	6.2	2.7	外面に唐草文、内面に型紙摺絵で花鳥文、見込み1重圏線内に雷文・環状松竹梅文、蛇の目状高台	白	染付	明治10年代	美濃
42	I	I-検-8	検出面	磁器	皿	21.3	14.0	2.6	イゲ皿、口縁刻み・口錆、内面に銅版転写で竹文、高台内に窯印「城岩」	白	染付・口錆	近代	肥前
43	I	I-検-9	検出面	磁器	餌猪口	4.0	3.8	2.8	外面に帆掛け舟	白	染付	明治	瀬戸・美濃
44	I	I-検-10	検出面	磁器	香炉	(9.6)	(7.0)	8.0	外面に透明釉のち口縁～頸部に鉄釉流し掛け、内面無釉、見込みに煤付着	白	透明釉・鉄釉	近代	瀬戸・美濃か
45	I	I-検-11	検出面	青磁	火入れ	-	(7.6)	-	胴部に沈線1、蛇の目状高台、見込みに煤付着	白灰	青磁釉	17c後半～18c前半	肥前
46	I	I-検-12	検出面	磁器	灰落し	(10.5)	-	-	縁外に2条1単位の沈線2、外面～縁内に透明釉、口縁に敲打痕	白	透明釉	近代	瀬戸・美濃か
47	I	I-検-13	検出面	青磁	植木鉢	-	6.5	-	外面に上絵(緑・黒・茶)で草花文・「掬花・時・山生夫」、三足、底裏に墨書「券」	白	青磁釉・上絵	明治10～20年代	瀬戸
48	I	I-検-14	検出面	磁器	箸立てか	-	-	-	型押成形、透孔、陰刻・ダミで草花文	白	染付	幕末	瀬戸・美濃
49	I	I-検-15	検出面	磁器	碇子か	-	-	3.0	幅2.6、奥行2.5、型打成形、外面に「□□特許・五八〇四六」か	白	染付	近代	不明
50	I	I-検-18	検出面	陶器	碗	6.35	2.45	2.7	口唇に漆付着	白灰	灰釉	幕末	瀬戸か
51	I	I-検-19	検出面	陶器	碗	(7.25)	(2.8)	5.25	-	暗赤灰	鉄釉	17c前半	肥前
52	I	I-検-17	検出面	陶器	碗	11.5	3.8	7.2	全面施釉のち高台釉拭き取り	灰白	灰釉	18c後半～幕末	美濃

№	検出面	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
						口径	底径	器高					
53	I	I-検-20	検出面	炆器	皿	(9.0)	(1.8)	1.9	灯明皿か、口縁部内外面にタール付着	赤褐	-	17c～18c 初頭	備前か
54	I	I-検-21	検出面	陶器	播鉢	(13.6)	6.6	5.0	-	赤褐	鉄釉	19c～	在地か
55	I	I-検-22	検出面	陶器	植木鉢	-	8.8	-	底面中央に孔1、外面に灰釉のちうのふ釉流し掛け、高台に水切溝3、内面に重ね焼き痕	黄灰白	灰釉・うのふ釉	幕末～	不明
56	I	I-検-23	検出面	陶器	徳利	-	12.3	-	高田徳利形、外面に鉄絵で屋号	灰	灰釉・鉄絵	大正・昭和	美濃か
57	I	I-検-24	検出面	陶器	急須	5.9	5.45	5.7	型づくり、外面に菊の貼花文3、外面に灰釉のち口縁・注口・貼花文に鉄釉	灰	灰釉・鉄釉	近代	万古焼か
58	I	I-検-25	検出面	土器	煙炉か	14.8	-	-	内面煤付着	褐	-	不明	在地か
59	I	I-検-16	検出面	土製品	動物	-	-	-	犬か、磁器、型抜成形、中実	白	透明釉・青	近代	瀬戸・美濃か
60	I	I-検-26	検出面	土製品	動物	-	-	-	亀、陶器、型づくり	黄白	緑・黄	不明	京か
61	I	I-検-27	検出面	土製品	箱庭道具	-	-	-	幅3.6、灯籠、陶器、型押成形、中実	黄白	緑・黄	不明	不明
62	I	I-検-28	検出面	土製品	ミニチュア	-	-	2.8	幅7.3、奥行5.9、ままごと道具、甕か、型押成形	褐	-	19c 前半	不明
63	II	II-井戸4-1	井戸4	土器	皿	8.8	5.1	2.1	灯明皿か、ロクロ成形、内面煤付着	灰褐	-	19c か	在地か
64	II	II-井戸4-3	井戸4	土器	皿	8.35	6.3	2.25	灯明皿か、ロクロ成形、口縁に灯芯痕	淡暗褐	-	19c か	在地か
65	II	II-井戸4-2	井戸4	土器	皿	(10.2)	-	-	ロクロ成形	暗灰褐	-	不明	在地か
66	II	II-井戸8-1	井戸8	磁器	碗	7.6	3.4	4.3	外面に上絵(茶・金・黒・赤・他)で人物、高台内に銘「九谷造」	白	透明釉・上絵	近代	九谷
67	II	II-井戸8-2	井戸8	磁器	皿	8.7	5.2	1.6	見込みに銅版転写(黒・小円子)で花籠文、機械ロクロ	不明	透明釉・釉下彩	大正か	瀬戸・美濃か
68	II	II-井戸8-4	井戸8	陶器	卸皿	-	-	2.2	幅15.6、奥行10.0、型押成形、内面施釉、外面に布目圧痕、口縁に白色付着物(アルミナか)	不明	鉄釉	幕末～	益子か
69	II	II-井戸8-3	井戸8	陶器	急須	6.2	5.0	5.75	外面に手描き(緑・茶)で華文「兎本店」	白	透明釉・釉下彩	近代	不明
70	II	II-T-1	トレンヂ	陶器	皿	9.1	3.6	2.3	灯明皿か、口縁に煤付着、被熱	淡黄白	灰釉	18c 後半～幕末	瀬戸か
71	II	II-T-2	トレンヂ	土器	皿	10.15	6.5	2.7	ロクロ成形	淡暗褐	-	不明	在地か
72	II	II-検-1	検出面	磁器	小杯	(5.8)	2.7	4.2	外面に鳳凰文、高台に櫛歯文、高台内に銘	白	染付	明治初頭～10年代	瀬戸・美濃か
73	II	II-検-2	検出面	磁器	小杯	(6.0)	2.6	4.1	外面に牡丹獅子文、高台内に銘「六老」	白	染付	明治初頭～10年代	瀬戸・美濃か
74	II	II-検-6	検出面	磁器	小杯	6.3	2.6	4.2	外面に錦・漢詩、高台内に文様	白	染付	明治初頭～10年代	瀬戸・美濃か
75	II	II-検-4	検出面	磁器	小杯	(6.1)	(2.1)	3.1	縁内1重圏線、見込みに上絵(赤・金)で「屋」「園」、高台内1重圏線内に銘「貳」	白	染付・上絵	明治初頭～10年代	瀬戸・美濃か
76	II	II-検-3	検出面	磁器	小杯	(6.5)	(2.7)	4.2	外面に人物、高台内1重圏線内に銘「□靖」	白	染付	19c	三田か
77	II	II-検-8	検出面	磁器	小杯	6.4	(3.7)	4.5	広東形、外面に風景	白	染付	18c 末～19c 前	肥前
78	II	II-検-5	検出面	磁器	碗	(7.1)	3.5	4.9	外面に人物、高台内に銘	白	染付	19c 中葉	三田か
79	II	II-検-9	検出面	磁器	碗	(8.7)	(3.4)	4.7	端反碗、外面に仙芝祝寿文、縁内に帯線・圏線、見込み2重圏線内に文様、漆継痕、登10小前	白	染付	19c 前半(1820年代)	瀬戸・美濃
80	II	II-検-10	検出面	磁器	碗	(9.3)	(4.0)	4.9	端反碗、外面に風景、縁内に帯線、見込み1重圏線内に文様、登9小後	白	染付	19c 前半(1810年代)	瀬戸
81	II	II-検-11	検出面	磁器	碗	(9.3)	3.6	5.25	端反碗、外面に馬文、縁内に馬文・社文、見込みに馬文	白	染付	19c 前半～幕末	肥前
82	II	II-検-12	検出面	磁器	碗	(8.3)	3.3	5.3	外面に昆虫文、見込みに岩波文	白	染付	18c 末～19c 前半	肥前
83	II	II-検-13	検出面	磁器	碗	(8.1)	(2.8)	5.4	外面に矢羽根文、縁内に2重圏線、見込みに1重圏線、高台に砂付着	白	染付	18c 末～幕末	肥前
84	II	II-検-17	検出面	磁器	碗	-	(3.7)	-	外面にコンニャク印判で若松文、高台に砂付着	白	染付	17c 末～18c 前半	肥前
85	II	II-検-18	検出面	磁器	碗	-	3.7	-	筒形碗、高台脇に文様、見込み1重圏線内にコンニャク印判で五弁花文	白	染付	18c 後半	肥前
86	II	II-検-14	検出面	磁器	碗	-	4.0	-	外面に草花文、高台内に1重圏線、高台に砂付着	白	染付	18c 後半	肥前
87	II	II-検-15	検出面	磁器	碗	(11.3)	4.4	6.0	外面に雪輪草花文、高台内2重圏線内に銘崩れた「大明年製」、くらわんか碗	白	染付	17c 末～18c 前半	肥前
88	II	II-検-16	検出面	磁器	碗	-	3.6	-	外面に文様、見込み蛇の目軸刺ぎ、高台内に1重圏線、くらわんか碗	白	染付	18c 前半～19c 後半	肥前
89	II	II-検-19	検出面	青磁	碗	-	4.2	-	外面に櫛目、内面に片彫り文様、見込みにスタンプ文、高台内に目跡か、龍泉窯系	灰	青磁釉	15c 後半～16c 前半	中国
90	II	II-検-28	検出面	磁器	皿	7.85	3.6	2.2	型打皿、内面に隔刻で紗綾形文、見込みに花文、高台方形、登10・11小	白	透明釉	19c 前半～幕末	瀬戸・美濃
91	II	II-検-29	検出面	磁器	皿	8.2	3.6	2.45	型打皿、内面に隔刻で壽字文、見込みに花文、高台方形、登10・11小	白	染付	19c 前半～幕末	瀬戸・美濃
92	II	II-検-25	検出面	磁器	皿	9.4	5.0	2.6	型打輪花皿、内面に隔刻で紗綾形文、見込みに三方割銀杏文	白	透明釉	幕末	瀬戸・美濃
93	II	II-検-24	検出面	磁器	皿	9.2	4.8	2.0	寿文皿、見込みに隔刻で壽字文	白	透明釉	幕末	美濃
94	II	II-検-22	検出面	磁器	皿	(10.2)	5.3	2.4	内面に陰刻・タミで牡丹獅子文	白	染付	明治初頭	美濃
95	II	II-検-27	検出面	磁器	皿	(10.5)	5.4	2.9	輪花、外面に唐草文、内面に微塵唐草文、見込みに環状松竹梅文、高台内に銘「成化年製」、高台に砂付着	白	染付	19c～幕末	肥前
96	II	II-検-26	検出面	磁器	皿	10.45	6.5	2.3	輪花、外面に帆掛け舟、口籍、内面に楼閣山水文、高台内1重圏線内に銘「成化年製」、高台脇に漆付着	白	染付・口籍	18c 後半	肥前
97	II	II-検-23	検出面	磁器	皿	(13.2)	(8.5)	2.9	外面に唐草文、口籍、内面に墨弾き、見込みに獅子文、高台内にハリ支え痕	白	染付・口籍	17c 後半	肥前
98	II	II-検-31	検出面	磁器	皿	16.4	6.4	2.6	口縁が鐔状に外反、内面に風景	白	染付	17c 前半～中葉	肥前
99	II	II-検-32	検出面	磁器	皿	-	9.4	-	口縁が鐔状に外反、外面に菊唐草文、内面に蓮弁文・四方摺文・樹木、高台内に銘「大明成化年製」か	白	染付	17c 中葉～後半	肥前
100	II	II-検-30	検出面	磁器	皿	(22.6)	(14.6)	3.2	内外面に唐草文、見込みに環状松竹梅文、高台内に1重圏線・ハリ支え痕	白	染付	17c 末～18c 前半	肥前
101	II	II-検-34	検出面	青花	皿	-	(12.8)	-	型打成形、外面に渦文、見込み2重圏線内に草花文、高台に砂目、底裏に放射状の削り痕	白	染付	17c 中葉	中国
102	II	II-検-33	検出面	青花	皿	-	(17.4)	-	内面に植物文、高台に砂目、漳州窯系	灰	染付	16c 末～17c 初頭	中国
103	II	II-検-36	検出面	青磁	皿	(33.5)	-	-	折縁形口縁、内面に片切り彫りで文様、見込みに陰刻で算木文、波佐見	淡灰	青磁釉	17c 後半	肥前
104	II	II-検-21	検出面	磁器	猪口	-	(4.3)	-	外面に五葉若葉重文、高台内1重圏線内に銘か	白	染付	18c 前半	肥前
105	II	II-検-20	検出面	磁器	猪口	(6.7)	5.0	6.1	外面に雪持笹・雪輪文	白	染付	18c 中葉～後半	肥前
106	II	II-検-39	検出面	磁器	蓋物	(6.7)	(4.5)	3.65	外面に笹文、口唇部無釉	白	染付	幕末か	肥前か
107	II	II-検-38	検出面	磁器	段重	(8.7)	(5.2)	4.4	外面に梅枝文、口唇部無釉、焼継痕	白	染付	18c～幕末	肥前
108	II	II-検-40	検出面	磁器	段重	15.0	10.9	5.55	外面に蛸唐草文、口唇部無釉	白	染付	18c 末～幕末	肥前

№	検出面	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
						口径	底径	器高					
109	II	II-検-7	検出面	磁器	合子か	(5.1)	3.0	2.5	外面に花文、口唇部無釉、焼継痕	白	染付	18c～幕末	肥前
110	II	II-検-37	検出面	青磁	植木鉢	(21.7)	-	-	鐳線桶形、鐳部に菊の貼花文(8単位か)、胴部に花唐草の貼花文	白	青磁釉	幕末～明治初頭	瀬戸・美濃
111	II	II-検-41	検出面	磁器	御神酒德利	1.45	2.35	6.5	外面に五弁花文・笹文	不明	染付	幕末～明治初頭	瀬戸・美濃
112	II	II-検-42	検出面	磁器	線香筒	-	6.0	-	竹筒形、外面に竹文	白	染付	19c前半	肥前
113	II	II-検-43	検出面	磁器	水滴	-	-	-	型押成形、外面にコンニャク印判で紅葉文、漆継痕	淡灰	染付	18c	肥前
114	II	II-検-44	検出面	磁器	水滴	-	-	-	型押成形、上面に陽刻・ダミで菊文、内面指押さえ痕、側面に墨付着か	白	染付	近世	肥前
115	II	II-検-45	検出面	磁器	散蓮華	-	-	-	奥行4.6、糸切細工、内面に孔雀羽文、底面に焼継印「松岡」、焼継痕	白	染付	19c	肥前
116	II	II-検-48	検出面	磁器	蓋	-	-	2.5	外径(9.7)、摘み径4.0、外面に印章文、緑内に網目文、頂に銘「嘉永年製」	白	染付	19c中葉(嘉永年間)	不明
117	II	II-検-47	検出面	磁器	蓋	-	-	2.4	外径9.45、摘み径3.5、外面に河骨文、緑内に渦文、天井1重圏線内に寿字文	不明	染付	幕末～明治	瀬戸・美濃
118	II	II-検-50	検出面	磁器	蓋	-	-	2.5	外径9.4、摘み径3.8、外面に花文、頂に銘「1重角に青」か、緑内に四方禪文、天井1重圏線内に花文	白	染付	幕末～明治	瀬戸・美濃か
119	II	II-検-49	検出面	磁器	蓋	-	-	2.2	外径9.0、摘み径4.8、外面に花蝶文、頂に草文、緑内2重圏線、天井1重圏線内に岩波文	白	染付	19c～幕末	肥前
120	II	II-検-46	検出面	磁器	蓋	-	-	2.55	外径10.4、摘み径4.4、外面に草花文、頂に銘「2重角に青」、緑内に四方禪文、天井2重圏線内に花文	白	染付	18c後半～19c前半	肥前
121	II	II-検-52	検出面	磁器	合子蓋	-	-	0.75	外径4.2、六角形、外面に蕪文、外側面に格子文	白	染付	近代	瀬戸・美濃
122	II	II-検-51	検出面	磁器	合子蓋	-	-	0.7	外径5.6、返り径4.2、外面に梅氷裂文	不明	染付	18c～幕末	肥前
123	II	II-検-53	検出面	磁器	不明	-	-	1.8	底面無釉	白	透明釉	近代か	瀬戸・美濃
124	II	II-検-57	検出面	陶器	碗	-	4.8	-	小形碗、外面に鉄絵で若松文	黄白	透明釉	18c中葉	信楽
125	II	II-検-56	検出面	陶器	碗	-	2.8	-	外面にイッチン白描・鉄絵で梅文、内面に白泥のち灰釉、内面に漆多量付着	暗灰	白泥・灰釉・イッチン・鉄絵	19cか	不明
126	II	II-検-55	検出面	陶器	碗	10.3	3.65	6.5	内外面に白泥による巻刷毛目	褐	透明釉・白泥	17c末～18c前半	肥前
127	II	II-検-54	検出面	陶器	碗	(11.4)	-	-	天目茶碗、登3小	灰白	鉄釉	17c後半	瀬戸・美濃
128	II	II-検-58	検出面	陶器	仏飯器	8.55	4.8	6.8	口縁うのふ軸流し掛け、脚部貼付、登5小	淡黄灰	灰釉・うのふ釉	17c末	瀬戸・美濃
129	II	II-検-67	検出面	陶器	皿	7.0	2.05	1.5	口縁～内面に鉄釉、見込みに目跡3	灰白	鉄釉	18c後半～幕末	美濃
130	II	II-検-68	検出面	陶器	皿	9.55	3.45	2.0	口縁～内面に鉄釉、見込みに目跡3	淡灰	灰釉	18c後半～幕末	美濃か
131	II	II-検-59	検出面	陶器	皿	11.05	5.65	2.05	折縁皿、内側面にソギ、見込みと高台内に目跡(輪トチ)、大窯4後	淡黄灰	灰釉	16c末～17c初頭	美濃
132	II	II-検-60	検出面	陶器	皿	-	18.6	-	石皿、見込みに目跡4、漆継、登10・11小	淡黄白	灰釉	19c前半～幕末	瀬戸
133	II	II-検-61	検出面	陶器	播鉢	(31.9)	(12.9)	10.75	播目22本1単位、登11小	黄灰白	鉄釉	19c中葉	瀬戸
134	II	II-検-62	検出面	陶器	餌猪口	4.6	4.9	2.55	環状の摘み1、施釉時の指痕2	灰白	長石釉	18c後半～幕末	美濃
135	II	II-検-63	検出面	陶器	餌猪口か	(6.55)	7.0	3.6	-	淡黄白	灰釉	不明	不明
136	II	II-検-69	検出面	陶器	植木鉢	(16.1)	(9.6)	13.7	外面に白泥のち上絵(黒・緑・黄・紫・橙・青)で亀・蓮弁文、口縁に蓮弁文、三足	暗褐	白泥・透明釉・上絵	19c～	九谷
137	II	II-検-70	検出面	陶器	瓶掛	(19.6)	-	-	頸部に丸ノノミによる画花文、肩部に印花文、登9小	灰白	銅緑釉・鉄釉	19c前半	瀬戸
138	II	II-検-73	検出面	陶器	火鉢か	(30.8)	-	-	胴部上半に穿孔1	赤褐	長石釉	不明	在地か
139	II	II-検-64	検出面	陶器	半册	-	(12.7)	-	見込みに目跡2、高台内に墨書「老升口」	黄灰白	鉄釉	18c後半～幕末	瀬戸
140	II	II-検-65	検出面	陶器	小瓶	-	2.7	-	-	淡黄白	灰釉	18c後半～幕末	瀬戸・美濃
141	II	II-検-71	検出面	陶器	行平鍋	13.7	5.8	8.15	外面に飛鉤文、把手上面に陽刻型押で「本中」、内外面に煤付着	暗褐	鉄釉	幕末～	洗馬か
142	II	II-検-72	検出面	陶器	秉燭	(4.1)	2.4	2.0	口縁～内面に鉄釉、登10・11小	灰白	灰釉	19前半～幕末	瀬戸
143	II	II-検-66	検出面	陶器	蓋	-	-	1.4	外径3.3、返り径2.4、摘み径6.0、外面に陰刻で唐草文、型づくりか	灰白	長石釉	不明	不明
144	II	II-検-74	検出面	瓦器	火鉢	(16.1)	(11.2)	7.9	硬質瓦質、口縁沈線1条、三足	灰	-	18c後半～	在地か
145	II	II-検-76	検出面	土器	皿	8.0	5.95	2.2	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	不明	-	19cか	在地か
146	II	II-検-78	検出面	土器	皿	9.6	6.65	2.05	ロクロ成形	暗褐	-	19cか	在地か
147	II	II-検-80	検出面	土器	皿	9.2	6.45	1.9	ロクロ成形	淡暗褐	-	19cか	在地か
148	II	II-検-81	検出面	土器	皿	9.35	5.9	2.9	ロクロ成形	淡暗褐	-	不明	在地か
149	II	II-検-83	検出面	土器	皿	(9.9)	6.2	2.45	ロクロ成形	黒褐	-	不明	在地か
150	II	II-検-77	検出面	土器	皿	8.65	5.3	1.95	灯明皿か、ロクロ成形、底部回転系切のち手持ちへラ削り、口縁部内外面に煤付着	不明	-	不明	非在地系か
151	II	II-検-82	検出面	土器	皿	(9.2)	(6.4)	1.9	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤付着、底部回転系切のち手持ちへラ削り	淡暗褐	-	不明	非在地系か
152	II	II-検-79	検出面	土器	皿	8.75	5.7	1.7	ロクロ成形、底部回転系切後に手持ちへラ削り、見込み・底部に煤付着	淡灰褐	-	不明	非在地系か
153	II	II-検-85	検出面	土器	植木鉢	-	(7.7)	-	-	暗褐	-	18c後半～	在地か
154	II	II-検-91+92+93	検出面	土器	焜炉か涼炉	(19.4)	18.2	-	粘土紐巻き上げ成形、外面に陽刻で「火作□」の反転文字、円形孔3残存、底部内面に指頭圧痕、内面及び口縁部被熱	褐	-	不明	不明
155	II	II-検-89+90	検出面	土器	焜炉か涼炉	-	16.3	-	ロクロ成形、円形孔8残存、底部透孔3単位、内面上半被熱	淡褐	-	不明	不明
156	II	II-検-86	検出面	土器	五徳	(27.7)	(23.0)	7.2	-	暗褐	-	不明	在地か
157	II	II-検-84	検出面	土器	焙烙	-	-	-	耳部のみ	淡灰褐	-	19cか	在地か
158	II	II-検-75	検出面	土器	蓋	-	-	-	外径(18.0)、返り径(14.4)、火消し壺の蓋、内面被熱	淡灰	-	不明	不明
159	II	II-検-88	検出面	土製品	人形	-	-	-	人物座像、陶器、手捏成形	淡灰	透明釉・緑・茶	不明	京
160	II	II-検-87	検出面	土製品	ミニチュア	(6.3)	(4.6)	2.0	最大幅(7.3)、鎌子か、型押成形、三足、キウ残存	淡褐	-	不明	非在地系か
161	III	III-溝301-5	溝301	陶器	碗	(9.3)	-	-	長石釉小碗、登1・2小	淡灰	長石釉	17c初頭	美濃
162	III	III-溝301-1	溝301	陶器	碗	10.5	4.6	5.35	長石釉丸碗、内面に目跡3、登1小	淡黄灰	長石釉	17c前半	美濃
163	III	III-溝301-6	溝301	陶器	碗	(10.4)	-	-	鉄絵丸碗、外面に木賊文	淡灰白	長石釉	17c初頭	美濃
164	III	III-溝301-4	溝301	陶器	碗	(10.8)	-	-	天目茶碗、大窯1・2	淡黄白	鉄釉	15c末～16c前半	瀬戸・美濃
165	III	III-溝301-3	溝301	陶器	碗	(10.7)	-	-	天目茶碗、大窯4後	淡灰	鉄釉	16c末～17c初頭	美濃
166	III	III-溝301-2	溝301	陶器	碗	(10.8)	-	-	天目茶碗、登1小	淡黄灰	鉄釉	17c前半	瀬戸・美濃
167	III	III-溝301-11	溝301	陶器	皿	(10.6)	(6.6)	1.6	内禿皿、大窯3後	淡黄白	灰釉	16c後半	美濃
168	III	III-溝301-8	溝301	陶器	皿	11.8	5.8	2.65	長石釉丸皿、大窯4後	淡褐白	長石釉	16c末～17c初頭	美濃

№	検出面	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
						口径	底径	器高					
169	Ⅲ	Ⅲ-溝301-10	溝301	陶器	皿	(12.0)	-	-	鉄絵皿、内面に圈線、登2小	淡灰	長石釉・鉄絵	17c前半	瀬戸・美濃
170	Ⅲ	Ⅲ-溝301-9	溝301	陶器	皿	(12.6)	(6.5)	2.9	反り皿、登1・2小	淡灰白	長石釉	17c前半	瀬戸・美濃
171	Ⅲ	Ⅲ-溝301-7	溝301	陶器	皿	12.5	5.0	3.4	縁内に鉄絵、見込みに目跡4	灰	灰釉・鉄絵	17c前半	肥前
172	Ⅲ	Ⅲ-溝301-12	溝301	陶器	鉢	(16.2)	9.4	4.85	黄瀬戸、刻線で縁内に花唐草文・内側面に草文、見込みに草花文、内面に鉄彩・胆礬、漆継痕、大窯4前	淡黄白	灰釉・鉄彩・胆礬	16c末	美濃
173	Ⅲ	Ⅲ-溝301-13	溝301	陶器	播鉢	(35.0)	-	-	片口、登1小	淡黄白	錆釉	17c前半	瀬戸・美濃
174	Ⅲ	Ⅲ-溝301-19	溝301	土器	皿	(9.2)	(6.0)	2.2	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	暗褐	-	17cか	在地か
175	Ⅲ	Ⅲ-溝301-18	溝301	土器	皿	9.3	5.6	2.5	ロクロ成形	黒	-	17cか	在地か
176	Ⅲ	Ⅲ-溝301-17	溝301	土器	皿	9.6	6.2	3.0	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤・タール付着	不明	-	17cか	在地か
177	Ⅲ	Ⅲ-溝301-16	溝301	土器	皿	10.3	5.9	2.9	灯明皿か、ロクロ成形、外面に煤付着	暗褐	-	17cか	在地か
178	Ⅲ	Ⅲ-溝301-15	溝301	土器	焙烙	(34.6)	-	-	体部内湾	暗灰褐	-	近世	非在地系
179	Ⅲ	Ⅲ-溝302-1	溝302	土器	皿	10.0	5.95	2.5	ロクロ成形	暗褐	-	17c～18cか	在地か
180	Ⅲ	Ⅲ-溝310-1	溝310	土器	皿	10.1	5.8	2.5	灯明皿か、ロクロ成形、縁内全体に煤・タール付着	黒褐	-	17c～18cか	在地か
181	Ⅲ	Ⅲ-溝310-2	溝310	土器	皿	11.2	6.4	2.75	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	暗橙褐	-	17c～18cか	在地か
182	Ⅲ	Ⅲ-池状-1	池状遺構	陶器	小杯	(7.5)	(2.55)	3.05	連房Ⅲc	淡黄白	灰釉	18c後半	美濃
183	Ⅲ	Ⅲ-池状-2	池状遺構	陶器	皿	(21.3)	8.2	5.6	輪花、灰釉・鉄釉掛け分け	灰黄白	鉄釉・灰釉	18c後半	美濃
184	Ⅲ	Ⅲ-池状-3	池状遺構	陶器	仏花瓶	-	7.8	-	灰釉・鉄釉上下掛け分け、連房Ⅲc	灰	鉄釉・灰釉	18c後半	美濃
185	Ⅲ	Ⅲ-竹302-1	竹管302	土器	皿	9.6	6.0	2.8	灯明皿か、ロクロ成形、口唇打ち欠き、口縁部内外面に煤・タール付着	暗灰褐	-	17c～18cか	在地か
186	Ⅲ	Ⅲ-南東桶-1	木桶303	陶器	碗	(10.6)	-	-	外面に鉄絵で紅葉文、登1小	淡灰褐	長石釉・鉄絵	17c前半	美濃
187	Ⅲ	Ⅲ-南東桶-2	木桶303	陶器	皿	(11.0)	-	-	長石釉丸皿、大窯4後	白	長石釉	16c末～17c初頭	美濃
188	Ⅲ	Ⅲ-南東桶-3	木桶303	土製品	土錘	-	-	-	長さ3.1、幅0.9、厚さ0.75	淡灰褐	-	不明	在地か
189	Ⅲ	Ⅲ-井戸306-1	井戸306	陶器	皿	(12.8)	-	-	丸皿、大窯4末・登初	灰	灰釉	17c初頭	美濃
190	Ⅲ	Ⅲ-井戸306-2	井戸306	陶器	鉢	-	8.0	-	志野、見込みに目跡3(円錐ピン)、大窯4後・末	淡灰	長石釉	16c末～17c初頭	美濃
191	Ⅲ	Ⅲ-井戸308-1	井戸308	磁器	小杯	(5.6)	(2.5)	3.6	外面に船か、畳付に砂付着	白	染付	近世	肥前
192	Ⅲ	Ⅲ-井戸308-2	井戸308	磁器	碗	8.65	4.3	6.7	-	淡黄白	透明釉	不明	肥前か
193	Ⅲ	Ⅲ-井戸309-1	井戸309	磁器	小杯	(5.6)	2.7	3.85	外面に風景、高台内に銘「青風」	白	染付	明治前半	瀬戸・美濃
194	Ⅲ	Ⅲ-井戸309-2	井戸309	磁器	小杯	(6.3)	(2.9)	4.35	外面に青磁釉のち上絵(緑・黒・橙・イッテン白)、口縁～内面に透明釉	白	青磁釉・透明釉・上絵	明治10年代～中葉	瀬戸
195	Ⅲ	Ⅲ-井戸309-3	井戸309	磁器	皿	(8.3)	(3.5)	2.3	型打皿、内側面区画内に七宝文・麻の葉文、青海波文、見込みに文様、方形の付け高台	白	透明釉	幕末～明治	瀬戸・美濃
196	Ⅲ	Ⅲ-井戸309-4	井戸309	磁器	皿	(9.2)	5.4	1.85	寿文皿、型打ち、見込みに陰刻で壽字文	白	透明釉	幕末～明治初	美濃
197	Ⅲ	Ⅲ-検-35	井戸309	青磁	鉢	(17.5)	-	-	波状口縁	白	青磁釉	不明	肥前
198	Ⅲ	Ⅲ-井戸309-5	井戸309	陶器	鉢	(28.2)	-	-	内面に銅緑釉流し掛け、漆継	淡灰	灰釉・銅緑釉	17c前半	瀬戸・美濃
199	Ⅲ	Ⅲ-井戸309-6	井戸309	土器	涼炉か	(17.7)	-	19.5	口縁部に突起1残存、胴部に通気口1、三足、底部内面に指頭痕	褐	-	19c～大正	在地か
200	Ⅲ	Ⅲ-井戸309-7	井戸309	土製品	人形	-	-	-	大黒天、型押成形	褐	-	不明	不明
201	Ⅲ	Ⅲ-土301-1	土301	磁器	碗	-	(4.2)	-	外面に上絵(黒・赤・緑・黄)で梅文、口縁	白	透明釉・上絵・口縁	17c後半	肥前
202	Ⅲ	Ⅲ-土301-2	土301	陶器	碗	10.65	5.2	7.2	口縁部内外面に生漆付着	黄灰	鉄釉	17c中葉	瀬戸・美濃
203	Ⅲ	Ⅲ-土301-3	土301	陶器	播鉢	(29.5)	-	-	-	淡灰	鉄釉	不明	瀬戸・美濃か
204	Ⅲ	Ⅲ-土302-2	土302	陶器	皿	(11.0)	(6.5)	1.95	長石釉丸皿、登2小	黄白	長石釉	17c前半	瀬戸・美濃
205	Ⅲ	Ⅲ-土302-1	土302	土製品	ミニチュア	2.5	1.1	1.65	碗、磁器、型打成形、外面に上絵(赤)で人物・竹	白	透明釉・上絵	明治	瀬戸・美濃
206	Ⅲ	Ⅲ-土313-1	土313	土器	皿	9.5	4.45	1.95	ロクロ成形	不明	-	19cか	在地か
207	Ⅲ	Ⅲ-土318-1	土318	陶器	皿	(11.2)	-	-	丸皿	淡灰	灰釉	16c後半～	瀬戸・美濃
208	Ⅲ	Ⅲ-土326-1	土326	土器	皿	16.1	8.8	3.85	中皿、ロクロ成形、底部回転糸切後に手持ちへら削り、内外面に煤付着	褐	-	不明	在地か
209	Ⅲ	Ⅲ-土327-1	土327	陶器	瓶	2.1	-	-	口縁部に栓止金具用孔2	淡灰	灰釉	明治～	美濃
210	Ⅲ	Ⅲ-土330-1	土330	土器	皿	(11.0)	(6.85)	2.75	ロクロ成形、内面に煤付着	暗灰褐	-	17c～18cか	在地か
211	Ⅲ	Ⅲ-土336-3	土336	磁器	小杯	-	2.6	-	外面に鎬文、端反口縁、高台無釉	白	透明釉	17c中葉	肥前
212	Ⅲ	Ⅲ-土336-2	土336	青花	碗	(8.15)	-	-	縁内に1重圈線、見込みに圈線	白	染付	17c前半	中国か
213	Ⅲ	Ⅲ-土336-1	土336	磁器	碗	(10.9)	4.5	6.0	外面に草文	白	染付	17c後半～18c前半	肥前
214	Ⅲ	Ⅲ-土336-4	土336	陶器	皿	(19.7)	-	-	折縁皿	黄白	長石釉	17c前半	美濃
215	Ⅲ	Ⅲ-土336-5	土336	土器	皿	8.7	6.5	2.35	ロクロ成形、内外面に煤付着	不明	-	19cか	在地か
216	Ⅲ	Ⅲ-土340-1	土340	土器	皿	9.6	5.65	2.8	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤付着	不明	-	17c～18cか	在地か
217	Ⅲ	Ⅲ-土341-1	土341	磁器	碗	(10.4)	-	-	外面に上絵(緑・赤・金か)で折枝梅・草紙文	白	透明釉・上絵	17c後半か	肥前
218	Ⅲ	Ⅲ-土341-2	土341	陶器	碗	(11.7)	(5.2)	7.6	外面に呉須絵	淡灰	灰釉・呉須絵	18c	瀬戸・美濃か
219	Ⅲ	Ⅲ-土341-3	土341	陶器	播鉢	(36.8)	-	-	播目12本1単位、登1小	淡黄灰	鉄釉	17c前半	瀬戸・美濃
220	Ⅲ	Ⅲ-土341-4	土341	瓦器	火鉢	(39.2)	-	-	外面ミガキ、軟質瓦質	暗灰	-	17c～18c初頭	在地か
221	Ⅲ	Ⅲ-土342-1	土342	磁器	碗	(11.2)	-	-	外面にコンニャク印判で菊文・手書きで蝶文	白	染付	17c末～18c前半	肥前
222	Ⅲ	Ⅲ-土342-2	土342	陶器	碗	(7.3)	3.4	3.3	-	淡黄	鉄釉	17c中葉～後半	美濃
223	Ⅲ	Ⅲ-土342-3	土342	陶器	碗	(12.2)	5.0	8.1	-	淡黄	灰釉	18c	瀬戸か
224	Ⅲ	Ⅲ-土345-1	土345	陶器	皿	(11.2)	-	-	長石釉丸皿、大窯4後半	淡黄	長石釉	16c末～17c初頭	美濃
225	Ⅲ	Ⅲ-土351-1	土351	陶器	皿	(11.7)	-	-	長石釉丸皿、大窯4後半	淡灰	長石釉	16c末～17c初頭	美濃
226	Ⅲ	Ⅲ-土352-1	土352	陶器	碗	(10.5)	4.9	7.6	丸碗、内面に灰釉流し掛け	淡灰	鉄釉・灰釉	17c前半	美濃
227	Ⅲ	Ⅲ-土352-2	土352	陶器	皿	(11.4)	-	-	丸皿、大窯3・4	白	灰釉	16c後半～17c初頭	瀬戸・美濃
228	Ⅲ	Ⅲ-土352-3	土352	土器	皿	9.6	6.3	2.9	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	不明	-	17c～18cか	在地か
229	Ⅲ	Ⅲ-土352-4	土352	土器	皿	10.4	6.4	2.7	灯明皿か、ロクロ成形、口縁～見込みの一部に煤付着	暗褐	-	17c～18cか	在地か

№	検出面	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
						口径	底径	器高					
230	Ⅲ	Ⅲ-土352-5	土352	土器	皿	10.75	7.7	3.1	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤・タール付着	暗褐	-	17c～18cか	在地か
231	Ⅲ	Ⅲ-土362-2	土362	陶器	碗	(10.4)	-	-	天目茶碗、大窯3前半	淡黄白	鉄釉	16c後半	瀬戸・美濃
232	Ⅲ	Ⅲ-土362-1	土362	陶器	碗	(12.8)	-	-	黒織部、香茶碗	灰	鉄釉・長石釉	17c初頭	美濃
233	Ⅲ	Ⅲ-土362-3	土362	陶器	皿か	-	(4.3)	-	内面に鉄絵、畳付に目跡	暗褐	透明釉・鉄絵	17c前半	肥前
234	Ⅲ	Ⅲ-土364-1	土364	陶器	皿	(11.4)	(7.5)	2.1	長石釉丸皿、登2小	灰白	長石釉	17c前半	瀬戸・美濃
235	Ⅲ	Ⅲ-土364-2	土364	土器	皿	(9.9)	(6.0)	3.0	灯明皿か、ロクロ成形、口縁にタール付着、内外面に煤付着	黒	-	17c～18cか	在地か
236	Ⅲ	Ⅲ-土364-3	土364	土器	皿	10.6	5.5	2.6	ロクロ成形	暗褐	-	17c～18cか	在地か
237	Ⅲ	Ⅲ-土368-1	土368	青磁	碗	-	-	-	外面に鎗蓮弁文、龍泉窯系か	灰	青磁釉	13～14c	中国
238	Ⅲ	Ⅲ-土368-3	土368	陶器	搦鉢	(33.2)	-	-	搦目14本1単位、登1小	淡灰	鉄釉	17c前半	瀬戸・美濃
239	Ⅲ	Ⅲ-土368-2	土368	磁器	蓋	-	-	1.7	外径7.0、搦み径1.3、口受部に重焼痕	暗灰	鉄釉	不明	不明
240	Ⅲ	Ⅲ-土376-1	土376	陶器	茶入	-	(2.7)	-	-	灰	鉄釉	17c	瀬戸・美濃
241	Ⅲ	Ⅲ-土376-2	土376	陶器	水滴	-	-	-	鹿か	淡灰	鉄釉	17c	美濃
242	Ⅲ	Ⅲ-土377-1	土377	土器	皿	(9.8)	(6.0)	2.2	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	暗褐	-	18c後半～19c初頭	在地か
243	Ⅲ	Ⅲ-土385-1	土385	陶器	碗	(10.8)	-	-	天目茶碗、内外面に灰釉流し掛け、登1小	灰	鉄釉・灰釉	17c前半	美濃
244	Ⅲ	Ⅲ-土394-1	土394	土器	皿	9.8	7.0	2.75	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	褐	-	17c～18cか	在地か
245	Ⅲ	Ⅲ-土395-1	土395	陶器	碗	(11.0)	(4.2)	7.3	端反碗	淡灰	鉄釉	17c前半	美濃
246	Ⅲ	Ⅲ-土399-1	土399	土器	皿	10.4	6.6	2.75	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	暗褐	-	17c～18cか	在地か
247	Ⅲ	Ⅲ-土400-1	土400	陶器	碗	-	4.8	-	天目茶碗、見込み部被熱か	淡灰	鉄釉	17c前半	瀬戸
248	Ⅲ	Ⅲ-土400-2	土400	陶器	皿	-	6.2	-	輪禿皿、見込みに印花文	淡灰	鉄釉	17c前半	瀬戸・美濃
249	Ⅲ	Ⅲ-土400-3	土400	陶器	皿	(12.3)	5.5	3.8	輪禿皿、見込みに印花文、銅緑釉流し掛け	淡白	灰釉・銅緑釉	17c前半	美濃
250	Ⅲ	Ⅲ-土400-4	土400	陶器	皿	-	(5.8)	-	輪禿皿、見込みに印花文、銅緑釉流し掛け、被熱	淡白	灰釉・銅緑釉	17c前半	瀬戸・美濃
251	Ⅲ	Ⅲ-土400-5	土400	陶器	鉢	(27.0)	16.0	7.6	鉄絵鉢、内面に草花文、見込みに目跡2、漆継痕、登4小	淡灰	灰釉・銅緑釉・鉄絵	17c後半	瀬戸・美濃
252	Ⅲ	Ⅲ-土400-6	土400	陶器	小瓶	-	(3.6)	-	-	淡灰	灰釉	18c～幕末	瀬戸・美濃
253	Ⅲ	Ⅲ-土400-7	土400	陶器	壺・甕か	-	17.2	-	叩き成形、全面施釉、内面に指頭圧痕、底面に目跡1	淡茶	灰釉	17c	福岡または肥前
254	Ⅲ	Ⅲ-土400-8	土400	土器	皿	9.75	5.9	2.2	ロクロ成形	褐	-	17cか	在地か
255	Ⅲ	Ⅲ-土400-9	土400	土器	皿	13.0	5.8	2.3	灯明皿か、ロクロ成形、口縁に煤・タール付着	褐	-	17cか	在地か
256	Ⅲ	Ⅲ-土400-10	土400	土器	皿	(9.6)	6.6	2.65	ロクロ成形	褐	-	17cか	在地か
257	Ⅲ	Ⅲ-土404-1	土404	陶器	皿	(12.0)	(7.4)	(2.4)	長石釉丸皿、見込みに目跡1、高台内に目跡1、登1小	淡灰	長石釉	17c前半	瀬戸・美濃
258	Ⅲ	Ⅲ-土404-2	土404	陶器	皿	(12.7)	-	-	長石釉丸皿、大窯4後半	淡褐	長石釉	16c末～17c初頭	美濃
259	Ⅲ	Ⅲ-土407-1	土407	陶器	碗	-	(3.4)	-	全面施釉、登1小初	淡灰	長石釉	17c初頭	美濃
260	Ⅲ	Ⅲ-土407-2	土407	土器	皿	10.4	6.0	3.0	ロクロ成形	褐	-	17c～18cか	在地か
261	Ⅲ	Ⅲ-土407-3	土407	土器	皿	10.1	5.1	3.0	ロクロ成形	暗褐	-	17c～18cか	在地か
262	Ⅲ	Ⅲ-土408-1	土408	磁器	小杯	(6.8)	2.6	4.5	外面に文様、高台に砂付着	白	染付	17c中葉	肥前
263	Ⅲ	Ⅲ-土408-2	土408	磁器	仏飯器	-	(4.0)	-	外面に文様	淡灰	染付	17c後半	肥前
264	Ⅲ	Ⅲ-土408-3	土408	陶器	碗	(8.15)	3.0	4.2	外面に呉須絵	黄白	灰釉・呉須絵	18c前半～中葉	美濃
265	Ⅲ	Ⅲ-土408-4	土408	陶器	碗	(10.5)	4.6	6.9	天目茶碗、内面に灰釉流し掛け、登3小	淡黄灰	鉄釉	17c中葉	瀬戸
266	Ⅲ	Ⅲ-土408-5	土408	陶器	鉢	(15.8)	-	-	外面鉄釉・灰釉掛け分け、連房Ⅲc	灰	灰釉・鉄釉	18c後半	瀬戸・美濃
267	Ⅲ	Ⅲ-土408-6	土408	陶器	片口	16.3	5.5	9.15	見込みに目跡2	灰	鉄釉	不明	瀬戸・美濃
268	Ⅲ	Ⅲ-土408-7	土408	陶器	不明	-	(5.8)	-	-	灰	透明釉	不明	肥前
269	Ⅲ	Ⅲ-土410-1	土410	陶器	皿	(14.4)	-	-	折縁皿	淡灰	長石釉	17c前半	美濃
270	Ⅲ	Ⅲ-土414-1	土414	土器	皿	(9.9)	-	-	縁内に炭化物付着	灰	-	不明	在地か
271	Ⅲ	Ⅲ-土415-1	土415	磁器	鉢	(16.2)	-	-	外面に風景、縁内に列点文	白	染付	17cか	肥前
272	Ⅲ	Ⅲ-土415-3	土415	陶器	鉢	-	(8.0)	-	御深井、外面に線刻、内面型打ち	灰	御深井釉	17c前半	美濃
273	Ⅲ	Ⅲ-土415-2	土415	陶器	鉢	(25.4)	-	-	鉄絵鉢	灰	灰釉	17c中葉	瀬戸・美濃
274	Ⅲ	Ⅲ-土416-4	土416	陶器	碗	-	4.2	-	天目茶碗、登2小	淡黄白	鉄釉	17c前半	瀬戸・美濃
275	Ⅲ	Ⅲ-土416-5	土416	陶器	碗	-	4.8	-	天目茶碗、内面に灰釉流し掛け、高台内に墨書「見里」	淡黄白	鉄釉・灰釉	17c前半	美濃
276	Ⅲ	Ⅲ-土416-1	土416	陶器	皿	(12.7)	(9.2)	2.5	丸皿、大窯3後・4前	暗灰	灰釉	16c後半	美濃
277	Ⅲ	Ⅲ-土416-2	土416	陶器	皿	-	(6.2)	-	丸皿、見込みに菊の印花文・目跡1(円錐ビソ)、高台内に目跡2、大窯4後・末	黄白	灰釉	16c末～17c初頭	美濃
278	Ⅲ	Ⅲ-土416-3	土416	陶器	鉢	-	-	-	志野、大窯4後・末	淡黄灰	長石釉	16c末～17c初頭	美濃
279	Ⅲ	Ⅲ-土416-8	土416	土器	皿	(8.85)	(5.2)	2.1	灯明皿か、ロクロ成形、内面に煤付着	暗褐	-	17cか	在地か
280	Ⅲ	Ⅲ-土416-6	土416	土器	皿	10.3	7.0	3.0	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	褐	-	17cか	在地か
281	Ⅲ	Ⅲ-土416-7	土416	土器	皿	10.5	5.8	2.85	灯明皿か、ロクロ成形、内面に煤・タール付着	暗褐	-	17cか	在地か
282	Ⅲ	Ⅲ-土415・416-1	土415・416	陶器	皿	(11.6)	-	-	輪禿皿か	淡黄灰	灰釉	17c前半	瀬戸・美濃
283	Ⅲ	Ⅲ-土417-1	土417	土器	皿	9.75	5.5	3.1	灯明皿か、ロクロ成形、見込みにタール付着	不明	-	17c～18cか	在地か
284	Ⅲ	Ⅲ-土418-1	土418	磁器	瓶	-	(5.35)	-	外面に上絵(赤・緑・黒)で区画文	白	透明釉・上絵	17c中葉	肥前
285	Ⅲ	Ⅲ-土418-2	土418	陶器	碗	(10.8)	-	-	外面に鉄絵・白泥で草花文	黄白	透明釉・鉄絵・白泥	18c前半～中葉	京・信楽
286	Ⅲ	Ⅲ-土418-3	土418	陶器	皿	(12.2)	-	-	長石釉丸皿、登1・2小	淡黄灰	長石釉	17c前半	瀬戸・美濃
287	Ⅲ	Ⅲ-土418-4	土418	陶器	茶壺	-	-	-	祖母懷壺、頸部に沈線2条、把手1残存	灰	鉄釉	不明	瀬戸
288	Ⅲ	Ⅲ-土418-5	土418	土器	皿	9.3	4.6	2.45	灯明皿か、ロクロ成形、縁内に煤・タール付着	淡褐	-	17c～18cか	在地か
289	Ⅲ	Ⅲ-土424-1	土424	磁器	碗	(12.3)	(5.8)	6.3	外面に染付のち上絵(赤・黒・緑・紫)で牡丹文、縁内に1重圓線、見込み2重圓線内に上絵(黒・紫・緑)、古九谷様式	白	染付・上絵	17c中葉	肥前
290	Ⅲ	Ⅲ-土424-2	土424	青花	皿	(25.8)	14.0	3.5	外面に圓線、縁内に青海波文・窓に花文、見込みに孔雀文・牡丹文・菫文、畳付に砂付着多、漳州窯系	淡黄白	染付	16c末～17c初頭	中国
291	Ⅲ	Ⅲ-土424-3	土424	陶器	碗	6.9	3.2	3.8	-	灰	灰釉	18c	美濃
292	Ⅲ	Ⅲ-土425-1	土425	陶器	碗	(11.6)	-	-	外面に千鳥文、鉄絵丸碗	淡灰白	長石釉	17c初頭	美濃
293	Ⅲ	Ⅲ-土430-1	土430	青磁	碗	-	(3.4)	-	高台胎に砂付着	灰	青磁釉	不明	中国か

№	検出面	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
						口径	底径	器高					
294	Ⅲ	Ⅲ-土 430-4	土 430	陶器	碗	6.1	3.0	3.3	長石釉小碗、登1小期	淡黄灰	長石釉	17c前半	美濃
295	Ⅲ	Ⅲ-土 430-3	土 430	陶器	碗	(10.9)	-	-	天目茶碗、内外面に灰釉流し掛け、登1・2小	淡黄白	鉄釉・灰釉	17c前半	美濃
296	Ⅲ	Ⅲ-土 430-2	土 430	陶器	碗	(10.7)	-	-	-	淡黄灰	灰釉	17c	瀬戸・美濃
297	Ⅲ	Ⅲ-土 430-5	土 430	陶器	皿	13.8	6.6	3.5	反り皿、登1・2小	淡灰	長石釉	17c前半	瀬戸
298	Ⅲ	Ⅲ-土 430-6	土 430	陶器	皿	(14.1)	6.0	3.4	反り皿、登1・2小	淡黄灰	長石釉	17c前半	瀬戸
299	Ⅲ	Ⅲ-土 430-7	土 430	陶器	鉢	(27.2)	(12.9)	8.2	内面に櫛描文・銅緑釉流し掛け	淡灰	灰釉・銅緑釉	17c前半	瀬戸・美濃
300	Ⅲ	Ⅳ-土 560-1	土 430	陶器	鉢	(28.8)	-	-	銅緑釉流し掛け、登1・2小	白	灰釉・銅緑釉	17c前半	瀬戸・美濃
301	Ⅲ	Ⅲ-土 430-9	土 430	土器	皿	10.3	6.5	2.7	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	暗褐	-	17cか	在地か
302	Ⅲ	Ⅲ-土 430-10	土 430	土器	皿	10.2	6.4	2.9	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	不明	-	17cか	在地か
303	Ⅲ	Ⅲ-土 430-11	土 430	土器	皿	10.2	5.6	3.15	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	不明	-	17cか	在地か
304	Ⅲ	Ⅲ-土 430-12	土 430	土器	皿	10.0	6.4	3.0	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	不明	-	17cか	在地か
305	Ⅲ	Ⅲ-土 430-13	土 430	土器	皿	9.8	5.4	3.0	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	暗褐	-	17cか	在地か
306	Ⅲ	Ⅲ-土 430-14	土 430	土器	皿	10.3	5.9	2.9	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	暗褐	-	17cか	在地か
307	Ⅲ	Ⅲ-土 430-15	土 430	土器	皿	9.75	5.8	2.85	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	不明	-	17cか	在地か
308	Ⅲ	Ⅲ-土 430-16	土 430	土器	皿	10.2	6.3	2.85	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	不明	-	17cか	在地か
309	Ⅲ	Ⅲ-土 430-17	土 430	土器	皿	10.3	6.2	3.15	ロクロ成形	不明	-	17cか	在地か
310	Ⅲ	Ⅲ-土 430-18	土 430	土器	皿	10.3	6.6	2.9	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	不明	-	17cか	在地か
311	Ⅲ	Ⅳ-土 560-2	土 430	土器	皿	10.7	6.6	2.65	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤付着	暗褐	-	不明	在地か
312	Ⅲ	Ⅳ-土 560-3	土 430	土器	皿	10.3	6.6	2.95	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤付着	暗褐	-	不明	在地か
313	Ⅲ	Ⅲ-検-1	検出面	磁器	小杯	-	3.4	-	外面にコンニャク印判で紅葉文	白	染付	17c末~18c前半	肥前
314	Ⅲ	Ⅲ-検-2	検出面	磁器	碗	7.2	3.1	4.35	外面に松竹梅文、縁内1重圏線、高台内に銘	白	染付	明治	瀬戸・美濃か
315	Ⅲ	Ⅲ-検-3	検出面	磁器	碗	8.75	3.5	4.4	外面に鉄釉、窓内に染付で風景、口縁~内面に透明釉、焼継、高台に陶片(灰釉)を呼継	白	鉄釉・染付	明治	瀬戸・美濃
316	Ⅲ	Ⅲ-検-4	検出面	磁器	碗	9.4	3.8	5.0	外面に桔梗文・雲、縁内に渦文、見込み2重圏線内に花文	白	染付	18c末~幕末	肥前
317	Ⅲ	Ⅲ-検-5	検出面	磁器	碗	-	4.2	-	外面に1重網目文に魚か	白	染付	17c後半	肥前
318	Ⅲ	Ⅲ-検-6	検出面	磁器	碗	(11.5)	-	-	外面にコンニャク印判で菊文	白	染付	17c末~18c前半	肥前
319	Ⅲ	Ⅲ-検-7	検出面	磁器	碗	-	4.4	-	外面に上絵(赤)で縁線、置付に砂付着	白	透明釉・上絵	17c後半	肥前
320	Ⅲ	Ⅲ-検-8	検出面	磁器	碗	-	3.8	-	外面に上絵(赤・黄・緑・黒)で窓縁・青海波文、見込み1重圏線(赤)内に柘榴(黄・緑)か、高台内に1重圏線(赤)	白	透明釉・上絵	17c中葉(1650年~60年代)	肥前
321	Ⅲ	Ⅲ-検-16	検出面	磁器	紅皿	(6.1)	2.8	1.8	糸切細工、外面に唐草文	白	透明釉	幕末~明治	肥前
322	Ⅲ	Ⅲ-検-17	検出面	磁器	仏飯器	(5.4)	4.2	5.15	外面に上絵(赤・黒・緑)	白	透明釉・上絵	幕末~明治	瀬戸・美濃
323	Ⅲ	Ⅲ-検-13	検出面	磁器	皿	(8.05)	3.6	2.4	型打皿、内側面区画内に七宝文・麻の葉文・青海波文、見込みに文様、方形の付け高台	白	透明釉	幕末~明治	瀬戸・美濃
324	Ⅲ	Ⅲ-検-9	検出面	磁器	皿	(14.2)	(7.8)	3.55	輪花、外面に唐草文、内面に牡丹唐草文、見込みに五弁花文、高台内に1重圏線・銘「2重角に渦文」	白	染付	17c末~18c中葉	肥前
325	Ⅲ	Ⅲ-検-12	検出面	青花	皿	-	(13.7)	-	型打成形、高台脇に連続文、見込み2重圏線内に草花文、高台に砂付着、高台内全面施釉・放射状の工具痕	白	染付	17c前半	中国
326	Ⅲ	Ⅲ-検-10	検出面	磁器	皿	-	(12.45)	-	内面に牡丹唐草文、見込みに上絵(緑・赤)で団籠文、高台内に1重圏線・銘「2重角に異体字」、高台内にハリ支え痕	白	染付	17c後半	肥前
327	Ⅲ	Ⅲ-検-11	検出面	磁器	皿か	-	(11.8)	-	外面に上絵(緑・桃)で雲文、内面に染付で唐草文、上絵(赤・桃・緑・金)で紗籠形・七宝文、高台内に1重圏線	白	染付・上絵	18c後半	肥前
328	Ⅲ	Ⅲ-検-14	検出面	青磁	皿	(12.8)	(5.2)	3.2	青磁椀花皿、内面に櫛彫り・片彫りで文様、見込みにスタンプで花文、漆継痕、龍泉窯系	灰	青磁釉	15c	中国
329	Ⅲ	Ⅲ-検-15	検出面	青磁	鉢	(23.2)	-	-	稜花、内面に片切り彫りによる陰刻文	淡灰	青磁釉	17c後半	肥前
330	Ⅲ	Ⅲ-検-18	検出面	磁器	御神酒徳利	-	4.5	-	外面に笹文、高台に砂付着	白	染付	近世	肥前
331	Ⅲ	Ⅲ-検-19	検出面	青磁	御神酒徳利	-	-	-	-	灰	青磁釉	近代か	不明
332	Ⅲ	Ⅲ-検-22	検出面	青磁	花生	8.0	-	-	-	白	青磁釉	近世	肥前
333	Ⅲ	Ⅲ-検-20	検出面	磁器	蓋	-	-	-	外径9.7、外面に染付のち上絵(赤・黒)で牡丹文	-	染付・上絵	18c後半~幕末	肥前
334	Ⅲ	Ⅲ-検-21	検出面	磁器	風鎖	-	-	3.2	幅3.6、外面に風景・文字「真人道人」もしくは「直人道人」	白	染付	明治	瀬戸・美濃
335	Ⅲ	Ⅲ-検-23	検出面	陶器	碗	(7.4)	1.8	4.0	外面に上絵(緑・赤)で笹文	淡黄白	灰釉・上絵	18c後半	瀬戸・美濃
336	Ⅲ	Ⅲ-検-24	検出面	陶器	碗	(8.0)	3.6	4.0	-	淡黄白	灰釉	17c前半	美濃
337	Ⅲ	Ⅲ-検-25	検出面	陶器	碗	(8.2)	4.0	3.55	見込みに目跡1	淡黄灰	鉄釉	17c前半	美濃
338	Ⅲ	Ⅲ-検-26	検出面	陶器	碗	(8.0)	4.3	5.95	-	淡黄白	灰釉	17c前半	瀬戸・美濃
339	Ⅲ	Ⅲ-建-2	検出面	陶器	碗	(10.1)	(4.6)	-	天目茶碗、大窯4末	淡灰	鉄釉	16c末~17c初頭	美濃
340	Ⅲ	Ⅲ-検-30	検出面	陶器	碗	(10.8)	-	-	天目茶碗、大窯3後	淡黄白	鉄釉	16c後半	美濃
341	Ⅲ	Ⅲ-検-27	検出面	陶器	碗	(11.8)	4.0	6.3	天目茶碗、大窯3後	不明	鉄釉	16c後半	美濃
342	Ⅲ	Ⅲ-検-28	検出面	陶器	碗	(10.7)	5.0	7.45	段付天目、内外面に灰釉流し掛け、登1小	不明	鉄釉・灰釉	17c前半	美濃
343	Ⅲ	Ⅲ-検-29	検出面	陶器	碗	(11.4)	5.0	6.75	天目茶碗、内外面に灰釉流し掛け、登2小	淡黄白	鉄釉・灰釉	17c前半	美濃
344	Ⅲ	Ⅲ-検-32	検出面	陶器	碗	(11.8)	-	-	瀬戸黒もしくは織部黒、大窯4	暗灰	鉄釉	16c末~17c初頭	美濃
345	Ⅲ	Ⅲ-検-33	検出面	陶器	碗	(10.2)	-	-	外面に鉄絵で草花文	暗灰	灰釉・鉄絵	17c前半	肥前
346	Ⅲ	Ⅲ-検-58	検出面	陶器	碗	-	(3.2)	-	内外面に白泥による打ち刷毛目、高台内に窯印か、現川か	灰	透明釉・白泥	17c末~18c前半	肥前
347	Ⅲ	Ⅲ-検-36	検出面	陶器	碗	10.1	5.5	6.1	登5・6小	淡灰	灰釉	17c末~18c前半	美濃
348	Ⅲ	Ⅲ-検-35	検出面	陶器	碗	(11.5)	4.4	7.1	-	淡灰	灰釉	18c	瀬戸・美濃
349	Ⅲ	Ⅲ-検-31	検出面	陶器	碗	(10.9)	6.2	7.1	連房Ⅳ	淡黄	錆釉	18c後半~19c前半	美濃
350	Ⅲ	Ⅲ-検-37	検出面	陶器	碗	(10.8)	(4.4)	7.1	登8・9小	淡黄白	灰釉	18c後半~19c前半	瀬戸・美濃

№	検出面	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
						口径	底径	器高					
351	Ⅲ	Ⅲ-検-34	検出面	陶器	碗	(12.2)	5.8	6.5	広東形、外面に鉄絵・イッチン白描きで折枝梅、内面に白泥、登10・11小	淡黄褐	白泥・灰釉・透明釉・鉄絵・イッチン	19c前半～幕末	瀬戸
352	Ⅲ	Ⅲ-検-59	検出面	陶器	仏飯器	(6.0)	(4.0)	5.4	外面に菱垣文、陶胎染付、登9・10小	淡黄	染付	19c前半	瀬戸
353	Ⅲ	Ⅲ-検-38	検出面	陶器	皿か	9.05	4.4	3.15	うのふ釉流し掛け、内側面～見込み無	淡黄灰	胎釉・うのふ釉	18c	美濃か
354	Ⅲ	Ⅲ-検-41	検出面	陶器	皿	9.0	3.9	2.05	灯明皿か、全面施釉	暗灰	錆釉	不明	志戸呂か
355	Ⅲ	Ⅲ-検-40	検出面	陶器	皿	(12.0)	(9.8)	1.8	灯明皿か、全面施釉	暗灰褐	鉄釉	19c	瀬戸・美濃か
356	Ⅲ	Ⅲ-検-42	検出面	陶器	皿	(10.2)	5.6	2.15	折線皿、高台内に目跡(輪トチ)、大窯4前	淡黄白	灰釉	16c末	美濃
357	Ⅲ	Ⅲ-検-43	検出面	陶器	皿	(10.5)	(6.2)	1.6	内禿皿、高台内に目跡(輪トチ)、大窯4後	淡灰白	灰釉	16c末～17c初頭	美濃
358	Ⅲ	Ⅲ-検-39	検出面	陶器	皿	(12.0)	-	-	折線皿、大窯4後	灰	鉄釉	16c末～17c初頭	美濃
359	Ⅲ	Ⅲ-建-3	検出面	陶器	皿	(11.6)	-	-	折線皿、内面にソギ、大窯4後	淡黄白	灰釉	16c末～17c初頭	美濃
360	Ⅲ	Ⅲ-検-45	検出面	陶器	皿	(10.1)	4.9	1.45	折線皿、内側面にソギ、高台内に目跡(輪トチ)、大窯4末	淡黄灰	灰釉	16c末～17c初頭	美濃
361	Ⅲ	Ⅲ-検-44	検出面	陶器	皿	(10.2)	5.0	1.6	折線皿、内側面にソギ、高台内に目跡(輪トチ)、大窯4末	淡灰	灰釉	16c末～17c初頭	美濃
362	Ⅲ	Ⅲ-検-46	検出面	陶器	皿	(13.2)	6.1	4.0	輪禿皿、内面に銅緑釉流し掛け	淡灰	灰釉・銅緑釉	17c前半	美濃
363	Ⅲ	Ⅲ-検-47	検出面	陶器	皿	(12.9)	(5.7)	3.8	輪禿皿、見込みに印花文、内面に銅緑釉流し掛け	淡黄白	灰釉・銅緑釉	17c前半	美濃
364	Ⅲ	Ⅲ-検-51	検出面	陶器	皿	14.35	6.6	4.0	青織部、見込みに鉄絵で葵文、内面に銅緑釉流し掛け、見込みに重ね焼き痕、側面に溶着痕、登1小、大平窯か	淡黄白	灰釉・銅緑釉・鉄絵	17c初頭	美濃
365	Ⅲ	Ⅲ-検-52	検出面	陶器	皿	12.1	6.8	3.25	鉄絵皿、内面に圈線・唐草文、登1小	淡黄白	長石釉・鉄絵	17c前半	美濃
366	Ⅲ	Ⅲ-検-53	検出面	陶器	皿	(12.1)	(7.6)	2.3	鉄絵皿、内面に圈線・蘭竹文、登2小	淡黄白	長石釉・鉄絵	17c前半	瀬戸・美濃
367	Ⅲ	Ⅲ-検-48	検出面	陶器	皿	(11.1)	5.8	2.7	長石釉丸皿、口縁に煤付着、灯明皿に転用か、登2小	白	長石釉	17c前半	瀬戸・美濃
368	Ⅲ	Ⅲ-検-49	検出面	陶器	皿	12.25	7.2	2.5	長石釉菊皿、全面施釉、見込みに目跡3、外面に溶着痕、登1小	淡灰	長石釉	17c前半	美濃
369	Ⅲ	Ⅲ-検-50	検出面	陶器	皿	-	7.0	-	長石釉菊皿、登1小	淡灰	長石釉	17c前半	美濃
370	Ⅲ	Ⅲ-検-56	検出面	陶器	皿	(14.2)	(6.0)	3.5	反り皿、登1・2小	淡灰	長石釉	17c前半	瀬戸・美濃
371	Ⅲ	Ⅲ-検-57	検出面	陶器	皿	(16.8)	5.0	4.7	全面施釉、見込みに目跡4残存、高台脇に目跡1	淡褐	透明釉	17c前半	肥前
372	Ⅲ	Ⅲ-検-55	検出面	陶器	皿	(15.9)	5.4	4.0	見込みに目跡4(漆付着顕著)、内外面に一部漆付着、高台に砂付着	淡灰	灰釉	17c初頭	肥前
373	Ⅲ	Ⅲ-検-60	検出面	陶器	皿	-	4.15	-	内面に鉄絵で草文、畳付に目跡	褐	長石釉・鉄絵	17c前半	肥前
374	Ⅲ	Ⅲ-検-54	検出面	陶器	皿	-	4.4	-	外面に灰釉、内面に銅緑釉、見込み蛇の目釉剥ぎ、兜中高台、内野山北窯	淡灰	灰釉・銅緑釉	17c後半	肥前
375	Ⅲ	Ⅲ-検-62	検出面	陶器	鉢	-	(9.2)	-	黄瀬戸、見込みに刻線で唐草文・目跡1、秣尚底、大窯4前	淡灰	灰釉	16c末	美濃
376	Ⅲ	Ⅲ-検-63	検出面	陶器	鉢	(29.35)	-	-	内面に銅緑釉流し掛け、登1・2小	淡灰	灰釉	17c前半	瀬戸・美濃
377	Ⅲ	Ⅲ-検-84	検出面	陶器	片口か	(26.4)	(13.6)	10.3	見込みに目跡2	淡黄白	鉄釉	18c	瀬戸・美濃
378	Ⅲ	Ⅲ-検-64	検出面	陶器	片口	(16.7)	-	-	-	淡灰	鉄釉	18c前半	美濃
379	Ⅲ	Ⅲ-検-85	検出面	陶器	播鉢	(32.2)	8.4	11.9	播目16本1単位、使用による摩滅顕著、登1小	淡黄灰	錆釉	17c前半	瀬戸・美濃
380	Ⅲ	Ⅲ-検-86	検出面	陶器	播鉢	-	10.4	-	播目16本2単位、底面に目跡3、底面焼成後穿孔、植木鉢に転用か	淡灰	錆釉	18c	瀬戸・美濃
381	Ⅲ	Ⅲ-検-66	検出面	陶器	餌猪口	(5.5)	(4.6)	2.8	-	淡黄灰	灰釉	18c後半～幕末	瀬戸・美濃
382	Ⅲ	Ⅲ-検-65	検出面	陶器	甕水入れ	-	-	4.4	外面に型紙摺絵(鉄)で紅葉文、連房Ⅲa	淡灰	灰釉・鉄絵	17c後半～18c前半	美濃
383	Ⅲ	Ⅲ-検-67	検出面	陶器	茶入	-	3.2	-	-	灰	鉄釉	不明	瀬戸・美濃か
384	Ⅲ	Ⅲ-検-68	検出面	陶器	御神酒徳利	1.15	2.15	4.1	頸部捻じれ、底面に粘土溶着	淡灰	灰釉	18c後半～幕末	瀬戸・美濃
385	Ⅲ	Ⅲ-検-69	検出面	陶器	御神酒徳利	-	1.95	-	-	淡黄白	灰釉	18c後半～幕末	瀬戸・美濃
386	Ⅲ	Ⅲ-検-70	検出面	陶器	御神酒徳利	(1.1)	2.5	5.35	頸部に上絵(赤)で帯線、被熱	淡黄白	不明・上絵	18c後半～幕末	不明
387	Ⅲ	Ⅲ-検-71	検出面	炆器	小瓶	1.85	(4.2)	9.25	-	暗赤褐	-	不明	不明
388	Ⅲ	Ⅲ-検-72	検出面	陶器	小瓶	2.3	4.0	11.2	底部に墨書「ア(部)もしくは「ヤ」	淡黄灰	灰釉	18c中葉	美濃
389	Ⅲ	Ⅲ-検-73	検出面	陶器	花生か	-	(6.6)	-	脚1残存、外面に鉄釉のち透明釉、脚部に白泥のち透明釉、内面鉄釉、底面に銘「錦光山」、赤色漆による漆継痕	橙褐	鉄釉・透明釉・白泥	不明	京
390	Ⅲ	Ⅲ-検-75	検出面	陶器	水滴	2.75	4.0	1.65	大窯4前か	淡灰	鉄釉	16c後半	美濃
391	Ⅲ	Ⅲ-検-74	検出面	陶器	鍋	(15.5)	-	-	把手2、三組鍋	淡黄白	柿釉	18c後半～近代	瀬戸
392	Ⅲ	Ⅲ-検-76	検出面	陶器	秉燭	4.2	1.8	2.0	灯芯受部にタール付着、登10・11小	不明	灰釉	19c前半～幕末	瀬戸・美濃
393	Ⅲ	Ⅲ-検-61	検出面	陶器	灯明受皿	(9.7)	(3.7)	2.05	登10・11小	淡灰	灰釉	19c前半～幕末	瀬戸・美濃
394	Ⅲ	Ⅲ-検-83	検出面	陶器	カキタテか	-	-	-	厚さ1.0	暗灰	鉄釉	不明	不明
395	Ⅲ	Ⅲ-検-77	検出面	陶器	蓋	-	-	2.1	外径3.7、摘み径1.0、返り径2.0、志野、外面に鉄絵で圈線、大窯4後	淡黄灰	長石釉・鉄絵	16c末～17c初頭	美濃
396	Ⅲ	Ⅲ-検-87	検出面	瓦器	焜炉	(19.0)	(24.0)	25.4	硬質瓦質	淡灰	-	18c後半～	在地か
397	Ⅲ	Ⅲ-検-99	検出面	土器	皿	7.7	5.6	1.85	ロクロ成形、外面～底面に被熱による黒変	暗褐	-	不明	在地か
398	Ⅲ	Ⅲ-検-98	検出面	土器	皿	8.8	5.3	2.35	灯明皿か、ロクロ成形、口縁一部に煤付着、内面粒状に剥落・煤付着	不明	-	不明	在地か
399	Ⅲ	Ⅲ-検-100	検出面	土器	皿	9.2	5.3	1.9	ロクロ成形、見込み黒灰色に変色部分あり	不明	-	不明	在地か
400	Ⅲ	Ⅲ-検-90	検出面	土器	皿	8.95	6.5	2.25	ロクロ成形、口縁全周に煤・タール付着	不明	-	17c～18cか	在地か
401	Ⅲ	Ⅲ-検-102	検出面	土器	皿	(8.6)	(6.6)	2.4	ロクロ成形、外面に墨書「□□□」	暗褐	-	不明	在地か
402	Ⅲ	Ⅲ-検-101	検出面	土器	皿	9.2	5.6	2.2	ロクロ成形、外面に墨書「□之可勺」	暗褐	-	不明	在地か
403	Ⅲ	Ⅲ-検-92	検出面	土器	皿	9.9	6.0	2.3	ロクロ成形、外面に墨書「御志ヤ水」、底面に被熱による黒変	不明	-	不明	在地か
404	Ⅲ	Ⅲ-検-93	検出面	土器	皿	9.95	6.0	2.05	ロクロ成形、外面に墨書「ヤ水」か、緑外・底部に研磨痕、外面～底面に被熱による黒変・油染み	暗褐	-	不明	在地か
405	Ⅲ	Ⅲ-検-89	検出面	土器	皿	9.4	7.0	2.0	ロクロ成形、底部中央に焼成後穿孔、内面立ち上がり部に強いナデ	淡暗褐	-	不明	在地か
406	Ⅲ	Ⅲ-検-95	検出面	土器	皿	10.8	6.8	2.6	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤付着、内面に墨書	暗褐	-	17c～18cか	在地か
407	Ⅲ	Ⅲ-検-94	検出面	土器	皿	9.7	6.0	2.85	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤付着、外面に墨書で唐草文、内面に墨書「花鳥月」	暗褐	-	17c～18cか	在地か
408	Ⅲ	Ⅲ-検-91	検出面	土器	皿	10.3	5.9	2.75	ロクロ成形	暗褐	-	17c～18cか	在地か
409	Ⅲ	Ⅲ-検-96	検出面	土器	皿	10.5	6.0	2.95	内面全体に黒色付着物、外面に黒色の液体が垂れた痕	暗褐	-	17c～18cか	在地か
410	Ⅲ	Ⅲ-検-97	検出面	土器	皿	10.4	6.0	3.15	ロクロ成形、内外面一部に煤付着か	暗灰褐	-	17c～18cか	在地か

№	検出面	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
						口径	底径	器高					
411	Ⅲ	Ⅲ-検-103	検出面	土器	皿	(11.8)	(9.2)	2.7	ロクロ成形、底面に墨書「あ」	暗灰褐	-	不明	在地か
412	Ⅲ	Ⅲ-検-88	検出面	土器	皿	(14.2)	8.2	2.8	中皿、ロクロ成形、内外面一部に煤付着	暗橙褐	-	不明	在地か
413	Ⅲ	Ⅲ-検-107	検出面	土器	皿	(10.7)	-	-	ロクロ成形、黒漆による総金箔貼り、口縁部内外面に煤・タール付着、被熱か	淡暗褐	-	不明	非在地系か
414	Ⅲ	Ⅲ-検-105	検出面	土器	植木鉢	-	8.0	-	底部中央に穿孔1	淡灰褐	-	18c後半～	在地か
415	Ⅲ	Ⅲ-検-104	検出面	土器	五徳	-	(19.2)	-	-	暗黄褐	-	不明	在地か
416	Ⅲ	Ⅲ-検-82	検出面	土製品	飾り	-	-	-	長さ8.8、幅10.1、陶器、葉形	淡灰	鉄釉	不明	瀬戸・美濃か
417	Ⅲ	Ⅲ-検-79	検出面	土製品	ミニチュア	2.4	0.9	1.18	碗、陶器	淡黄白	緑	不明	京
418	Ⅲ	Ⅲ-検-80	検出面	土製品	ミニチュア	2.9	1.5	1.4	片口か、陶器	淡黄灰	不明	不明	京
419	Ⅲ	Ⅲ-検-81	検出面	土製品	人形か	-	-	-	長さ2.1、幅2.1、厚さ0.75、壺か、陶器、上面に渦巻文	淡灰白	透明釉・茶	不明	京
420	Ⅲ	Ⅲ-検-78	検出面	土製品	土鉢	-	-	-	長さ4.55、幅1.0、厚さ0.4	淡灰褐	-	不明	在地か
421	Ⅲ	Ⅲ-検-106	検出面	土製品	土鉢	-	-	-	長さ4.4、幅2.0、厚さ0.65	淡褐	-	不明	在地か
422	Ⅳ	Ⅳ-溝502-1	溝502	陶器	皿	9.6	4.8	1.6	折縁皿、内側面三方にソギ、大窯4末	不明	灰釉	16c末～17c初頭	美濃
423	Ⅳ	Ⅳ-溝503-1	溝503	青磁	碗	(13.5)	-	-	外面に鎬蓮弁文、龍泉窯系	灰	青磁釉	13～14c	中国
424	Ⅳ	Ⅳ-溝503-2	溝503	陶器	皿	(10.2)	(5.4)	2.0	内赤皿、高台内に目跡(輪トチ)、見込みに漆付着、大窯4前	淡黄白	灰釉	16c末	美濃
425	Ⅳ	Ⅳ-溝504-2	溝504	陶器	皿	(11.0)	(5.6)	2.3	長石釉丸皿、登2小	淡灰白	長石釉	17c前半	瀬戸・美濃
426	Ⅳ	Ⅳ-溝504-1	溝504	陶器	皿	(12.9)	(6.6)	3.0	内面に銅緑釉流し掛け、登1・2小	淡灰白	灰釉・銅緑釉	17c前半	瀬戸・美濃
427	Ⅳ	Ⅳ-溝505-1	溝505	陶器	皿	8.8	4.9	2.4	端反皿、灯明皿転用か、口縁にタール付着、高台内に目跡(輪トチ)、大窯1	淡灰白	灰釉	15c末～16c前半	瀬戸・美濃
428	Ⅳ	Ⅳ-材木下-1	材木下	土器	皿	9.6	6.4	2.8	灯明皿か、ロクロ成形、縁内に煤付着	暗褐	-	不明	在地か
429	Ⅳ	Ⅳ-土543-1	井戸502	陶器	碗	12.2	5.2	7.45	外面に鉄絵で折枝桜文、見込みに目跡(足付ハマ)	淡黄白	灰釉か・鉄絵	18cか	不明
430	Ⅳ	Ⅳ-土543-2	井戸502	陶器	碗	-	(3.9)	-	内外面に白泥による打ち刷毛目、現川	暗褐	透明釉・白泥	17c末～18c前半	肥前
431	Ⅳ	Ⅳ-土521-1	土521	陶器	碗	(11.45)	-	-	天目茶碗、大窯4前	淡黄白	鉄釉	16c末	美濃
432	Ⅳ	Ⅳ-土545-1	土545	陶器	碗	(10.2)	-	-	天目茶碗、大窯3後	淡黄白	鉄釉	16c後半	美濃
433	Ⅳ	Ⅳ-土558-1	土558	土器	皿	10.4	6.6	2.4	ロクロ成形、口縁一部と見込みに黒色付着物	暗褐	-	不明	在地か
434	Ⅳ	Ⅳ-土566-1	土566	土器	皿	(9.4)	6.8	2.6	ロクロ成形、底部中央に穿孔1	暗褐	-	不明	在地か
435	Ⅳ	Ⅳ-土579-1	土579	陶器	碗	(10.3)	-	-	天目茶碗、大窯4前	淡黄白	鉄釉	16c末	美濃
436	Ⅳ	Ⅳ-土582-1	土582	青磁	碗	-	-	-	外面に鎬蓮弁文、龍泉窯系	灰	青磁釉	13～14c	中国
437	Ⅳ	Ⅳ-土587-1	土587	陶器	碗	(9.9)	-	-	天目茶碗、外面に灰釉流し掛け、大窯3後	灰	鉄釉	16c後半	美濃
438	Ⅳ	Ⅳ-土591-1	土591	土器	皿	10.6	6.8	2.45	ロクロ成形	暗褐	-	不明	在地か
439	Ⅳ	Ⅳ-検-2	検出面	青磁	碗	-	5.3	-	外面に鎬蓮弁文、龍泉窯系	灰	青磁釉	13～14c	中国
440	Ⅳ	Ⅳ-検-1	検出面	青磁	碗	(16.0)	-	-	外面に鎬蓮弁文、内面に文様、龍泉窯系	灰	青磁釉	13～14c	中国
441	Ⅳ	Ⅳ-検-3	検出面	青磁	盤か	-	-	-	見込みに目跡1	灰	青磁釉	13～14c	中国
442	Ⅳ	Ⅳ-検-5	検出面	青花	皿	(39.6)	-	-	縁内に如意頭文、内面に風景、漳州窯系	淡灰	染付	16c後半～17c初頭	中国
443	Ⅳ	Ⅳ-検-13	検出面	陶器	碗	(11.0)	-	-	天目茶碗、内外面に漆付着、大窯3後	淡灰白	鉄釉	16c後半	美濃
444	Ⅳ	Ⅳ-検-10	検出面	陶器	碗	(11.2)	-	-	天目茶碗、大窯3後～4前	淡黄灰	鉄釉	16c後半	美濃
445	Ⅳ	Ⅳ-検-12	検出面	陶器	碗	(11.1)	-	-	天目茶碗、大窯4前	灰	鉄釉	16c末	美濃
446	Ⅳ	Ⅳ-検-9	検出面	陶器	碗	(11.2)	-	-	天目茶碗、大窯4後	淡黄	鉄釉	16c末～17c初頭	美濃
447	Ⅳ	Ⅳ-検-11	検出面	陶器	碗	-	4.9	-	天目茶碗、灰釉流し掛け、高台内に墨書「十升」、登2・3小期	淡黄白	鉄釉	17c中葉	瀬戸・美濃
448	Ⅳ	Ⅳ-検-8	検出面	陶器	碗	(11.9)	-	-	-	黄褐	長石釉	17c	瀬戸・美濃
449	Ⅳ	Ⅳ-検-6	検出面	陶器	碗	(10.8)	-	-	漆継痕、外面に漆付着	褐	長石釉	18c中葉～幕末	瀬戸
450	Ⅳ	Ⅳ-検-14	検出面	陶器	皿	(10.4)	(6.2)	2.4	丸皿、高台内に目跡、内面に漆付着か、大窯3後	灰	灰釉	16c後半	美濃
451	Ⅳ	Ⅳ-検-17	検出面	陶器	皿	(9.2)	(5.5)	1.6	内赤皿、大窯4前	淡黄白	灰釉	16c末	美濃
452	Ⅳ	Ⅳ-検-16	検出面	陶器	皿	(10.1)	(5.5)	1.9	折縁皿、内側面にソギ、見込み・高台内に目跡(輪トチ)、大窯4後	褐	灰釉	16c末～17c初頭	美濃
453	Ⅳ	Ⅳ-検-15	検出面	陶器	皿	11.7	7.0	2.5	長石釉丸皿、見込み・高台内に目跡、大窯4後、口縁に煤付着か	淡褐	長石釉	16c末～17c初頭	美濃
454	Ⅳ	Ⅳ-検-18	検出面	陶器	皿	-	(5.8)	-	長石釉丸皿、見込み・高台内に目跡、登1・2小	灰	長石釉	17c前半	瀬戸・美濃
455	Ⅳ	Ⅳ-検-20	検出面	陶器	皿	(12.5)	6.9	2.8	長石釉菊皿、高台内に目跡2、登1小	淡灰白	長石釉	17c前半	瀬戸・美濃
456	Ⅳ	Ⅳ-検-19	検出面	陶器	皿	-	(4.9)	4.2	内面に鉄絵で草文	灰褐	長石釉	17c前半	肥前
457	Ⅳ	Ⅳ-検-7	検出面	陶器	鉢	-	(7.6)	-	志野、高台内に目跡1(円錐ビン)、大窯4後	灰	長石釉	16c末～17c初頭	美濃
458	Ⅳ	Ⅳ-検-22	検出面	陶器	鉢	(28.8)	-	-	内面に銅緑釉流し掛け、登1・2	淡灰白	灰釉・銅緑釉	17c前半	瀬戸・美濃
459	Ⅳ	Ⅳ-検-21	検出面	陶器	鉢	(27.6)	(14.6)	6.7	内面に刻線・印花文、見込みに目跡1、漆継痕、登1・2	淡黄灰	灰釉	17c前半	瀬戸・美濃
460	Ⅳ	Ⅳ-検-23	検出面	陶器	餌猪口	5.8	4.0	3.0	環状把手1、底部煤付着	淡黄白	灰釉	18c後半～幕末	瀬戸・美濃
461	Ⅳ	Ⅳ-検-24	検出面	陶器	壺	(4.7)	5.0	6.45	有耳壺	有耳壺	鉄釉	18c	瀬戸・美濃
462	Ⅳ	Ⅳ-検-25	検出面	陶器	水注か	-	-	-	施釉時の指痕残存、大窯4か	灰	鉄釉	16c末～17c初頭	美濃
463	Ⅳ	Ⅳ-検-28	検出面	土器	皿	9.3	5.8	2.4	ロクロ成形	不明	-	不明	在地か
464	Ⅳ	Ⅳ-検-29	検出面	土器	皿	9.35	6.0	2.9	灯明皿か、ロクロ成形、口縁一部に煤付着	不明	-	不明	在地か
465	Ⅳ	Ⅳ-検-30	検出面	土器	皿	10.0	5.6	2.8	灯明皿か、ロクロ成形、口縁一部に煤付着	暗灰褐	-	不明	在地か
466	Ⅳ	Ⅳ-検-33	検出面	土器	皿	10.7	7.05	1.95	灯明皿か、ロクロ成形、口縁一部に煤付着	不明	-	不明	在地か
467	Ⅳ	Ⅳ-検-31	検出面	土器	皿	9.5	6.75	2.3	ロクロ成形	暗褐	-	不明	在地か
468	Ⅳ	Ⅳ-検-32	検出面	土器	皿	9.5	5.2	2.9	灯明皿か、ロクロ成形、底面中央に未貫通孔か、内外面に煤付着	暗褐	-	不明	在地か
469	Ⅳ	Ⅳ-検-35	検出面	土器	目皿	-	-	-	最大径(8.0)、孔3残存、上面煤付着、被熱	淡褐	-	不明	不明
470	Ⅳ	Ⅳ-検-34	検出面	土器	内耳鍋	(34.2)	(27.0)	15.0	把手1残存、内外面に煤付着	暗灰褐	-	16c～17c	在地か
471	Ⅳ	Ⅳ-検-26	検出面	土製品	土鉢	-	-	-	長さ4.1、幅1.1、厚さ0.4	淡黄白	-	不明	在地か
472	Ⅳ	Ⅳ-検-27	検出面	土製品	土鉢	-	-	-	長さ3.2、幅1.1、厚さ0.5	淡灰褐	-	不明	在地か
473	-	Ⅳ-排土-1	排土	磁器	小杯	(5.7)	2.4	3.1	口縁に口紅(小円子)、内面に染付・土絵(金・赤)で国旗「無線」「近衛電信第一連隊」、機械ロクロか	白	染付・土絵	大正～	瀬戸・美濃
474	-	Ⅰ-排-1	排土	陶器	仏花瓶	-	5.2	-	瓶子丸耳形、外面に灰釉・鉄釉上下掛け分け、連房Ⅲc	灰	灰釉・鉄釉	18c後半	美濃

※()内数値は、推定値を表す。

表7 大名町3 土器・陶磁器観察表

No	検出面	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
						口径	底径	器高					
475	I	I - 溝 4-1	溝 4	磁器	碗	(6.4)	2.9	4.3	外面に区画文・蓮弁文、兜中高台	白	染付	幕末～	不明
476	I	I - 溝 4-3	溝 4	磁器	皿	(20.6)	(12.9)	3.0	外面に文様か、縁内に墨弾き、見込み2重圏線内に環状松竹梅文か、高台内にハリ支え痕、焼継痕	白	染付	18c 前半	肥前
477	I	I - 溝 4-2	溝 4	磁器	猪口	-	5.4	-	外面に矢羽根文、見込み1重圏線内に五弁花文、蛇の目凹型高台、焼成不良	淡灰白	染付	18c 末～19c 初頭	肥前
478	I	I - 溝 4-5	溝 4	磁器	段重	(12.4)	(11.8)	7.3	外面に格子文、口唇部袖拭き取り、漆継痕	淡灰白	染付	18c 末～幕末	肥前
479	I	I - 溝 4-6	溝 4	磁器	花瓶	-	5.0	-	外面に草文・蝶文、撥状高台	淡灰白	染付	19c ～	不明
480	I	I - 溝 4-7	溝 4	磁器	水滴	-	-	2.7	型押成形、上面に陽刻・タミ、内面指押さえ痕、底面に布目圧痕、側面に墨付着	白	染付	近世	肥前
481	I	I - 溝 4-8	溝 4	磁器	カキタテ	-	-	3.7	上面に文様	白	染付	幕末～明治	肥前
482	I	I - 溝 4-4	溝 4	磁器	蓋	-	-	-	摘み径 4.2、外面に蔓草文、頂1重圏線内に銘「2重角に乾」、焼継印「×」、焼継痕	白	染付	18c 末～幕末	肥前か
483	I	I - 溝 4-9	溝 4	陶器	碗	(9.2)	-	-	せんじ、登7小	淡黄褐	灰釉	18c 後半	瀬戸
484	I	I - 溝 4-10	溝 4	陶器	鉢	(18.4)	-	-	白泥のち鉄絵で圏線・文様	淡黄白	白泥・鉄絵・透明釉	幕末	瀬戸
485	I	I - 溝 4-13	溝 4	陶器	餌猪口	3.4	3.2	1.85	-	淡黄白	灰釉	18c 後半	美濃
486	I	I - 溝 4-11	溝 4	陶器	有耳壺	(6.5)	-	-	外面に左馬の貼花文、口縁部・内面無釉	淡灰	透明釉・鉄絵	近代	不明
487	I	I - 溝 4-12	溝 4	陶器	鍋	(18.0)	(6.2)	-	-	暗褐灰	長石釉	18c 後半～	不明
488	I	I - 溝 4-16	溝 4	瓦器	甕	(16.0)	-	-	-	黒	-	18c 後半～	在地か
489	I	I - 溝 4-14	溝 4	土器	焙烙	(10.7)	(6.2)	4.3	外面に把手1、見込みに煤付着	暗褐	-	幕末～か	在地か
490	I	I - 溝 4-15	溝 4	土器	焙烙	(37.8)	(31.0)	8.2	外面に把手1 残存	暗褐	-	幕末～	在地か
491	I	I - 溝 7-1	溝 7	磁器	碗	-	4.7	-	外面に文様、見込み2重圏線内に環状松竹梅文	白	染付	18c 末～幕末	肥前
492	I	I - 溝 9-3	溝 9	炆器	碗	(7.8)	(3.4)	5.3	外面に柳文、縁内に1重圏線、見込み2重圏線内に五弁花文、炆器染付、登10・11小	淡黄灰	染付	19c 前半～幕末	美濃
493	I	I - 溝 9-1	溝 9	磁器	猪口	7.3	5.6	5.3	外面に矢羽根文、縁内に2重圏線、見込み2重圏線内に五弁花文、蛇の目凹型高台、漆継痕	白	染付	18c 末～19c 初頭	肥前
494	I	I - 溝 9-2	溝 9	磁器	仏花瓶	-	4.8	-	外面に上絵(赤・黄・緑・黒)で花唐草文・笹文	白	透明釉・上絵	幕末か	瀬戸・美濃
495	I	I - 溝 9-4	溝 9	陶器	向付	-	5.4	4.0	口径短軸(12.2)、御深井、木瓜形、ロクロのち型打ち成形	黄白	御深井釉	18c 前半	美濃
496	I	I - 溝 9-5	溝 9	陶器	徳利	2.1	-	-	べこかん形	淡灰	灰釉	幕末	美濃
497	I	I - 溝 9-6	溝 9	土製品	動物	-	-	-	鳥、陶器、左右型合せ、中空	淡黄	鉄釉	不明	不明
498	I	I - 溝 10-1	溝 10	磁器	小杯	6.1	(2.25)	4.45	外面に手描き(青・緑)で草文・漢詩	白	染付	明治初頭～20年	瀬戸・美濃
499	I	I - 溝 10-2	溝 10	磁器	碗	(12.0)	-	-	外面に銅版転写で花札	白	染付	明治30年代か	瀬戸・美濃
500	I	I - 溝 10-3	溝 10	磁器	鉢か	-	(7.3)	-	見込みに文様、焼継痕、高台内に朱書きで焼継印「戸」	白	染付	19c	肥前か
501	I	I - 溝 10-4	溝 10	磁器	鉢	16.3	9.4	5.7	外面に透山文、内面に草花文、蛇の目凹型高台	白	染付	明治初頭～20年	瀬戸・美濃
502	I	I - 溝 10-5	溝 10	磁器	御神酒徳利	-	2.6	-	外面に五弁花文・笹文	白	染付	幕末～明治	瀬戸・美濃
503	I	I - 溝 10-6	溝 10	磁器	蓋	-	-	2.65	外径9.2、摘み径4.0、外面に笹文、頂に銘、縁内に四方禪文、天井1重圏線内に寿字文	白	染付	明治初頭～20年	瀬戸・美濃
504	I	I - 溝 10-9	溝 10	陶器	薬味入れ	(3.7)	-	-	甕	暗赤褐	鉄釉	不明	不明
505	I	I - 溝 10-10	溝 10	陶器	小瓶	-	2.4	-	-	淡黄白	灰釉	幕末～明治	瀬戸
506	I	I - 溝 10-7	溝 10	陶器	灯明受皿	8.8	3.15	1.65	-	淡灰	灰釉	幕末～明治	美濃
507	I	I - 溝 10-8	溝 10	陶器	灯明受皿	(8.2)	(3.1)	1.8	-	淡橙褐	灰釉	幕末～明治か	洗馬か
508	I	I - 溝 10-11	溝 10	土製品	箱庭道具	-	-	-	幅3.1、奥行2.5、屋根、陶器、中実	橙褐	透明釉・白泥・緑	不明	不明
509	I	I - 溝 11-1	溝 11	磁器	碗	(10.4)	-	-	外面に文様	白	染付	明治前半	瀬戸・美濃
510	I	I - 溝 11-2	溝 11	磁器	蓋物	-	-	1.95	幅7.7、奥行5.3、外面に禪文・七宝文、朱入れ	白	染付	近代か	不明
511	I	I - 溝 12-1	溝 12	陶器	小杯	(6.8)	(3.0)	3.0	内面に上絵(金・黄・緑・桃・黒)で蒲公英文	淡黄白	透明釉・上絵	近代か	京・信楽か
512	I	I - 溝 15-1	溝 15	青花	碗	(8.3)	(3.0)	4.5	外面に花唐草文、縁内に渦繁文、見込み2重圏線内に文様、高台内に1重圏線、景德鎮系	白	染付	18c ～19c 初頭	中国
513	I	I - 溝 15-2	溝 15	磁器	皿	-	(5.8)	-	内面に型紙摺絵	淡灰白	染付	近代	不明
514	I	I - 溝 15-3	溝 15	陶器	小杯	(6.0)	(3.5)	3.4	-	淡黄白	灰釉	幕末～明治	瀬戸・美濃
515	I	I - 溝 15-4	溝 15	陶器	蓋	-	-	-	外径3.0、外面に霞文、516とセット	灰	鉄釉	不明	不明
516	I	I - 溝 15-5	溝 15	陶器	水滴か	3.3	3.0	-	胴部上半に霞文、施釉時の指痕残存、515とセット	暗灰	鉄釉	不明	不明
517	I	I - 溝 15-6	溝 15	土製品	人形	-	-	-	型押成形、中空、穿孔1、大黒天	褐	-	不明	不明
518	I	I - 溝 16-1	溝 16	磁器	碗	(6.4)	(2.25)	3.05	端反碗、外面に花文・雁金文、見込みに帆掛け舟文、登10・11小	白	染付	19c 前半～幕末	瀬戸・美濃
519	I	I - 溝 16-2	溝 16	磁器	碗	(10.25)	(4.0)	5.8	端反碗、外面に唐草文、縁内に帯線、見込み2重圏線内に寿字文、登11小	白	染付	幕末	瀬戸・美濃
520	I	I - 溝 16-3	溝 16	磁器	碗	(8.7)	3.2	5.3	外面斜格子地に菊花文、縁内に2重圏線、見込み1重圏線内に五弁花文	白	染付	18c 末～19c 初頭	肥前
521	I	I - 溝 16-4	溝 16	磁器	碗	(6.95)	(3.5)	5.3	筒形碗、外面に柳文、縁内に2重圏線、見込み1重圏線内に五弁花文	白	染付	18c 後半～19c 初頭	肥前
522	I	I - 溝 16-5	溝 16	磁器	蓋	-	-	2.0	外径(9.1)、摘み部(4.0)、外面に仙芝祝寿文、縁内に禪文、天井2重圏線内に環状松竹梅文	白	染付	近代か	瀬戸・美濃
523	I	I - 溝 16-6	溝 16	陶器	皿	9.5	2.5	2.1	灯明皿か、見込みに目跡1	淡黄灰	鉄釉	幕末～明治	美濃か
524	I	I - 溝 16-8	溝 16	陶器	播鉢	(33.4)	-	-	-	赤褐	鉄釉	近代か	不明
525	I	I - 溝 16-9	溝 16	陶器	香炉か	-	(6.0)	-	高台内に墨書、内面無釉	淡黄白	透明釉	不明	京・信楽
526	I	I - 溝 16-7	溝 16	陶器	灯明受皿	(9.4)	-	-	外面に墨書「□□」	淡黄灰	灰釉	幕末～明治	美濃か
527	I	I - 溝 16-10	溝 16	土器	皿	10.2	5.75	2.4	ロクロ成形	褐	-	不明	在地か

№	検出面	実測番号	造構	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
						口径	底径	器高					
528	I	I - 水路 3-1	水路 1	磁器	小杯	(5.7)	(2.8)	4.35	外面に線条・蓮弁文、緑内に連弧文	白	染付	近代	不明
529	I	I - 水路 3-2	水路 1	磁器	碗	(8.4)	3.4	4.9	端反碗、外面に草花文	白	染付	19c 幕末	肥前
530	I	I - 水路 3-3	水路 1	磁器	碗	(7.6)	(3.0)	5.1	外面・見込みに梅文、登 10・11 小	白	染付	19c 前半～幕末	瀬戸・美濃
531	I	I - 焼土 15-1	焼土 15	磁器	小杯	-	2.7	-	外面に草文、高台に砂付着	淡灰	染付	17c～18c	肥前
532	I	I - 焼土 15-2	焼土 15	磁器	碗	(11.0)	-	-	外面に鳥文、緑内 1 重圏線、漆継痕	白	染付	17c 後半～18c	肥前
533	I	I - 焼土 15-3	焼土 15	磁器	皿	24.1	15.3	4.1	稜花、外面に唐草文、内面に牡丹唐草文、高台内に 1 重圏線・銘「2 重角に渦福」・ハリ支え痕、被熱	白	染付	17c 末～18c 前半	肥前
534	I	I - 焼土 15-4	焼土 15	陶器	碗	(7.05)	(4.2)	5.2	碁筈底、全面施釉	淡褐	灰釉	17c	美濃
535	I	I - 焼土 15-5	焼土 15	陶器	碗	(11.9)	-	-	天目茶碗、漆継痕、登 3 小	淡黄白	鉄釉	17c 中葉	瀬戸・美濃
536	I	I - 焼土 15-6	焼土 15	陶器	碗	-	(4.9)	-	白天目	淡黄褐	長石釉	17c	瀬戸・美濃
537	I	I - 焼土 15-7	焼土 15	陶器	皿	13.3	6.35	3.75	輪禿皿、見込みに印花文、登 2・3 小	淡灰褐	灰釉	17c 前半	瀬戸・美濃
538	I	I - 焼土 15-10	焼土 15	土器	皿	8.7	5.3	2.3	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	黒褐	-	19c か	在地か
539	I	I - 焼土 15-9	焼土 15	土器	皿	9.8	6.5	2.5	灯明皿か、ロクロ成形、口縁・見込みに煤・タール付着	不明	-	不明	在地か
540	I	I - 焼土 15-8	焼土 15	土器	皿	(10.4)	(6.1)	(2.85)	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	灰褐	-	不明	在地か
541	I	I - 瓦集中-4	瓦集中部	磁器	碗	-	-	-	筒形碗、外面に桐文、緑内に四方禪文	白	染付	18c 後半～19c 初頭	肥前
542	I	I - 瓦集中-1	瓦集中部	磁器	碗	(10.8)	(3.7)	5.85	外面に縞文、緑内に四方禪文、見込み 1 重圏線内に文様	白	染付	明治初頭～20 年	瀬戸・美濃
543	I	I - 瓦集中-2	瓦集中部	磁器	碗	(11.85)	4.2	4.8	型紙摺絵、外面に花文、緑内に瓔珞文、高台内 1 重圏線	白	染付	明治初頭～20 年	美濃
544	I	I - 瓦集中-3	瓦集中部	磁器	皿	(10.1)	(4.8)	2.2	内外面に仙芝祝寿文、高台内 1 重圏線	白	染付	明治初頭～20 年	瀬戸・美濃
545	I	I - 瓦集中-5	瓦集中部	陶器	小杯	(6.3)	2.8	4.45	高台内に刻印「飛亀」	淡灰	透明釉	近代	不明
546	I	I - 瓦集中-6	瓦集中部	陶器	水注	(6.6)	-	-	外面に銅緑釉、内面に長石釉	黄白	銅緑釉・長石釉	18c 後半～	瀬戸
547	I	I - 瓦集中-7	瓦集中部	土器	五徳	-	-	-	-	赤褐	-	不明	在地か
548	I	I - 土 5-1	土 5	陶器	鉢	(10.6)	(6.1)	2.7	黄瀬戸、碁筈底、大窯 4 後	淡黄白	灰釉	16c 末～17c 初頭	美濃
549	I	I - 土 5-2	土 5	陶器	向付	(12.3)	5.3	2.8	内面に鉄絵、碁筈底	淡灰白	透明釉・鉄絵	17c 後半	瀬戸・美濃
550	I	I - 土 5-4	土 5	土器	皿	8.9	5.4	2.15	灯明皿か、ロクロ成形、口縁全周にタール付着	黒褐	-	不明	在地か
551	I	I - 土 5-3	土 5	土器	皿	9.65	5.5	2.85	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	暗褐	-	不明	在地か
552	I	I - 土 9-1	土 9	磁器	蓋	-	-	2.7	外径 (10.8)、摘み部 (4.2)、型紙摺絵、外面に微塵唐草文、頂に 1 重圏線、緑内に瓔珞文	白	染付	明治初頭～20 年	美濃
553	I	I - 土 9-2	土 9	土器	皿	8.75	6.8	2.21	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	黒褐	-	19c か	在地か
554	I	I - 土 35-1	土 35	磁器	御神酒徳利	(2.0)	2.8	6.7	外面に笹文・五弁花文	白	染付	幕末～明治	瀬戸・美濃
555	I	I - 土 35-2	土 35	磁器	段重蓋	-	-	3.7	外径 13.2、返り径 11.0、摘み径 4.5、外面に染付・上絵 (赤・金・緑・黒) で窓絵・福寿文	白	染付・上絵	近代	肥前か
556	I	I - 土 47-1	土 47	磁器	小杯	(6.3)	-	-	内面に上絵 (青・黒・金・赤) で文様、焼継痕、登 10・11 小	白	透明釉・上絵	幕末	瀬戸・美濃
557	I	I - 土 59-1	土 59	磁器	碗	(7.6)	(2.6)	4.5	外面にゴム印判で唐草文・蓮弁文、高台内 1 重圏線	白	染付	20c 前半	不明
558	I	I - 土 82-1	土 82	陶器	鍋	(17.6)	-	-	行平鍋、外面に飛龍文、外面に煤付着	暗橙褐	灰釉	幕末～	洗馬か
559	I	I - 土 84-1	土 84	磁器	御神酒徳利	1.6	-	-	外面に五弁花文・笹文	白	染付	幕末～明治	瀬戸・美濃
560	I	I - 土 84-2	土 84	陶器	灯明受皿	9.5	3.6	1.9	-	淡黄灰	鉄釉	幕末～明治	不明
561	I	I - 検-1	検出面	磁器	小杯	(6.2)	2.9	5.3	外面に植物文、高台内 1 重圏線内に銘「清玩」	白	染付	大正～昭和	瀬戸・美濃
562	I	I - 検-3	検出面	磁器	碗	(7.8)	3.8	4.2	銅版転写、外面に建物、高台内 1 重圏線内に銅版転写で銘「成化年製」、高台に砂付着	白	染付	明治～大正	瀬戸・美濃
563	I	I - 検-2	検出面	磁器	碗	(8.0)	(2.8)	5.0	外面にゴム印判で花唐草文、高台に砂付着	白	染付	昭和	瀬戸・美濃
564	I	I - 検-4	検出面	磁器	碗	(8.4)	3.2	5.0	外面斜格子地に菊花文、緑内 2 重圏線、見込み 1 重圏線内に五弁花文	白	染付	18c 末～19c 初頭	肥前
565	I	I - 検-5	検出面	磁器	碗	11.6	3.5	4.85	型紙摺絵、外面に微塵唐草文・蓮弁文、緑内に瓔珞文	白	染付	明治初頭～20 年	美濃
566	I	I - 検-6	検出面	磁器	皿	9.2	5.5	1.65	内面に銅版転写	白	染付	明治後半	瀬戸・美濃
567	I	I - 検-7	検出面	磁器	皿	(13.9)	(8.3)	3.95	輪花、口縁、内外面に唐草文、高台内 1 重圏線	白	染付・口縁	17c 末～18c 前半	肥前
568	I	I - 検-8	検出面	磁器	皿	(17.3)	(11.1)	2.7	外面に唐草文、口縁、内面に菊唐草文、高台内 1 重圏線内に銘・ハリ支え痕 2、焼継痕	白	染付・口縁	17c 末～18c 前半	肥前
569	I	I - 検-9	検出面	磁器	皿	-	9.2	-	外面に文様、高台に櫛歯文、内面に陰刻・青磁釉、見込みに中央に染付で菊文、焼継痕、高台内僅かに焼継白か	白	染付・青磁釉	幕末～明治か	肥前
570	I	I - 検-10	検出面	青磁	香炉	(7.0)	-	-	外面に沈線 3 残存、内面無釉	淡灰白	青磁釉	17c 中葉～18c 前半	肥前
571	I	I - 検-11	検出面	磁器	線香筒	(2.9)	-	-	外面に竹文、内面無釉	淡灰白	染付	19c 前半か	肥前
572	I	I - 検-12	検出面	磁器	蓋	-	-	2.3	外径 8.4、摘み径 3.4、外面に牡丹唐草文、頂 1 重圏線内に銘「2 重角に福」、緑内に渦文、天井 1 重圏線内に環状松竹梅文	白	染付	幕末～明治か	不明
573	I	I - 検-13	検出面	陶器	碗	(9.1)	-	-	腰錮湯呑、外面に沈線 4、外面に鉄釉、緑外～内面に灰釉、登 8 小	淡黄白	灰釉・鉄釉	18c 後半	瀬戸
574	I	I - 検-14	検出面	陶器	碗	(11.5)	-	-	天目茶碗、登 3・4 小	淡黄白	鉄釉	17c 後半	瀬戸・美濃
575	I	I - 検-16	検出面	陶器	皿	(14.4)	-	-	内面に鉄絵	暗灰	鉄釉・長石釉	17c 前半	肥前
576	I	I - 検-18	検出面	陶器	皿	10.1	6.0	1.8	長石釉丸皿、登 3 小	淡灰白	長石釉	17c 中葉	瀬戸・美濃
577	I	I - 検-19	検出面	陶器	皿	10.1	3.8	1.85	灯明皿か、見込みに目跡 3	淡褐白	灰釉	18c 後半～	瀬戸・信楽か
578	I	I - 検-17	検出面	陶器	皿	9.3	3.4	2.3	灯明皿か、見込みに目跡 3	淡黄白	灰釉	幕末～明治	瀬戸・美濃
579	I	I - 検-15	検出面	陶器	火入れ	(10.2)	-	-	灰落としに転用か、外面～緑内に白泥、口縁部内外面に銅緑釉、内面無釉、口縁に敲打痕、内面に煤付着	褐	白泥・銅緑釉・透明釉	18c 後半～幕末か	不明
580	I	I - 検-20	検出面	土器	皿	10.05	6.2	2.6	ロクロ成形	暗褐	-	19c か	在地か

№	検出面	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
						口径	底径	器高					
581	I	I - 検-21	検出面	土器	灰落しか	(10.0)	(8.4)	(8.8)	外面に沈線 4、碁笥底、口縁に敲打痕	灰褐	-	不明	不明
582	I	I - 検-23	検出面	土製品	ミニチュア	-	-	6.0	幅 2.1、硯、型押成形、キラ残存	黒褐	-	不明	不明
583	I	I - 検-22	検出面	土製品	玩具	-	-	-	長 2.0、幅 2.0、厚 0.6、碁石形土製品、手捏ね成形	暗褐	-	不明	不明
584	I	I-tr1-1	トレンチ 1	陶器	皿	9.75	3.8	2.1	灯明皿か、見込みに輪トチ痕	不明	錆釉	18c 後半～幕末	美濃
585	II	II - 溝 7-1	溝 7	白磁	皿	(14.6)	-	-	端反、輪花、E 群	淡黄灰	白磁釉	16c	中国
586	II	II - 溝 7-4	溝 7	陶器	碗	(11.2)	3.0	6.25	天目茶碗、内面に漆残存、大窯 3 後	淡黄白	鉄釉	16c 後半	美濃
587	II	II - 溝 7-3	溝 7	陶器	碗	(11.2)	-	-	天目茶碗、大窯 4 前	淡黄白	鉄釉	16c 末	美濃
588	II	II - 溝 7-2	溝 7	陶器	碗	(10.8)	-	-	天目茶碗、内外面に灰釉流し掛け、登 1・2 小	淡黄白	鉄釉・灰釉	17c 前半	美濃
589	II	II - 溝 7-6	溝 7	陶器	皿	(11.3)	(6.2)	2.2	志野丸皿、高台内に目跡 1、口縁に煤付着、大窯 4	淡黄白	長石釉	16c 末～17c 初頭	美濃
590	II	II - 溝 7-5	溝 7	陶器	皿	11.4	6.2	2.65	鉄絵皿、内面に圈線・紅葉唐草文、見込みに目跡 2、登 1・2 小	淡黄白	長石釉・鉄絵	17c 前半	美濃
591	II	II - 溝 7-8	溝 7	陶器	皿	(14.7)	(4.4)	(5.1)	内面に鉄絵、見込みに 2 重沈線	褐	灰釉・鉄絵	17c 前半	肥前
592	II	II - 溝 7-7	溝 7	陶器	皿	-	4.4	-	内面に鉄絵	灰褐	灰釉・鉄絵	17c 前半	肥前
593	II	II - 溝 7-9	溝 7	土器	皿	10.3	7.0	3.1	ロクロ成形	淡褐	-	16c 末～17c 前半か	在地か
594	II	II - 溝 7-10	溝 7	土器	皿	9.6	5.6	3.19	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着	暗褐	-	16c 末～17c 前半か	在地か
595	II	II - 溝 7-11	溝 7	土器	皿	(10.2)	(5.3)	3.3	灯明皿か、ロクロ成形、口唇打ち欠き、内外面に煤付着	暗褐	-	16c 末～17c 前半か	在地か
596	II	II - 溝 7-12	溝 7	土器	内耳鍋	(25.3)	(20.3)	11.25	内耳 1 残存、内外面に煤付着	暗褐	-	16c 中葉～後半	在地か
597	II	II - 溝 8-1	溝 8	陶器	皿	(9.4)	(6.2)	2.0	碁笥底、底面に目跡、内外面に漆付着、大窯 4	淡褐	灰釉	16c 末～17c 初頭	美濃
598	II	II - 溝 10-1	溝 10	青花	皿	-	(10.4)	-	見込みに文様、底部に砂付着多、漳州窯系	灰白	染付	16c 末～17c 初頭	中国
599	II	II - 溝 10-2	溝 10	土器	皿	(10.7)	(6.6)	2.8	ロクロ成形	灰褐	-	17c か	在地か
600	II	II - 溝 11-1	溝 11	磁器	小杯	(7.1)	(3.4)	3.4	外面に煤付着、被熱か	淡黄白	透明釉	近世	不明
601	II	II - 溝 11-2	溝 11	磁器	合子蓋	-	-	1.25	外径 (5.0)、外面に松文	白	染付	17c 中葉～18c	肥前
602	II	II - 溝 15-1	溝 15	陶器	碗	(9.0)	-	-	端反碗、外面に錆釉のち白泥・鉄絵で文様、緑外～内面に白泥のち透明釉	淡灰	錆釉・透明釉・白泥・鉄絵	近代か	不明
603	II	II - 溝 16-1	溝 16	陶器	碗	(10.5)	-	-	せんじ、登 8・9 小	淡黄白	灰釉	18c 後半～19c 初頭	瀬戸
604	II	II - 溝 23-2	溝 23	陶器	碗	(10.4)	-	-	白天目、被熱か、登 1・2 小	淡黄白	長石釉	17c 前半	瀬戸
605	II	II - 溝 23-3	溝 23	陶器	碗	(10.4)	(3.7)	5.5	小形碗、外面に鉄絵で若松文か	淡黄白	透明釉・鉄絵	18c 中葉	京・信楽
606	II	II - 溝 23-1	溝 23	土製品	ミニチュア	(4.1)	(1.8)	1.4	碗、磁器、型押成形か	白	透明釉	不明	肥前
607	II	II - 溝 25-1	溝 25	陶器	碗	(7.6)	-	-	志野、大窯 4	淡黄白	長石釉	16c 末～17c 初頭	美濃
608	II	II - 溝 31-1	溝 31	磁器	小杯	(4.7)	(3.2)	3.2	外面に扇文、箱形	白	染付	幕末	不明
609	II	II - 溝 31-3	溝 31	磁器	碗	7.0	4.25	4.5	外面に幾何文・蓮弁文、縁内に雷文、高台内に銘「1 重角に里」	白	染付	幕末～明治初	美濃
610	II	II - 溝 31-4	溝 31	磁器	碗	(9.0)	(3.6)	5.9	外面に若松文	白	染付	18c 後半	肥前
611	II	II - 溝 31-2	溝 31	磁器	碗	(7.5)	(3.2)	5.2	外面・見込みに梅文、登 10・11 小	白	染付	19c 前半～幕末	瀬戸・美濃
612	II	II - 溝 31-5	溝 31	磁器	碗	(10.1)	(3.8)	5.25	端反碗、外面に帆掛け舟・菊水文、縁内に 2 重圈線、見込みに 1 重圈線内に文様	白	染付	幕末	瀬戸・美濃
613	II	II - 溝 31-6	溝 31	磁器	碗	(14.6)	(6.0)	6.75	外面に菊文、縁内に四方禪文、見込みに 2 重圈線内に菊文	白	染付	18c 後半	肥前
614	II	II - 溝 31-7	溝 31	磁器	皿	10.7	6.35	2.25	外面に唐草文、内面に鶴文	白	染付	19c	不明
615	II	II - 溝 31-8	溝 31	磁器	皿	(10.4)	(6.0)	2.85	輪花、外面に唐草文、内面に花唐草文、見込みに 2 重圈線内に五弁花文、高台内に銘「大明年製」か	白	染付	17c 末～18c	肥前
616	II	II - 溝 31-9	溝 31	磁器	皿	13.8	8.1	3.95	輪花、外面に唐草文、内面に花唐草文、見込みに 2 重圈線内に五弁花文、高台内に銘「2 重角に溝幅」	白	染付	17c 末～18c	肥前
617	II	II - 溝 31-10	溝 31	磁器	御神酒徳利	1.75	3.45	12.1	外面に松竹梅文、頸部に呉須	白	染付	幕末	瀬戸・美濃
618	II	II - 溝 31-11	溝 31	磁器	散蓮華	-	-	-	糸切細工、内面に文様	白	染付	18c 末～幕末か	肥前
619	II	II - 溝 31-12	溝 31	陶器	碗	(6.25)	2.8	4.6	外面に花鳥文	白	透明釉・土絵	近代	瀬戸
620	II	II - 溝 31-13	溝 31	陶器	皿	(10.0)	2.5	2.1	灯明皿、口縁に煤付着	淡黄白	灰釉	幕末～明治	瀬戸
621	II	II - 溝 31-18	溝 31	磁器	播鉢	(8.0)	3.4	2.4	播目 11 本 1 単位	赤褐	-	18c 後半～	不明
622	II	II - 溝 31-17	溝 31	陶器	柄杓	(8.9)	(5.4)	4.8	内面に鉄絵で圈線、柄固定用の孔 1	灰	透明釉・鉄絵	18c 後半～幕末	美濃か
623	II	II - 溝 31-14	溝 31	陶器	鍋	18.1	7.8	8.65	行平鍋、腰下に煤付着	褐	鉄釉	18c 末～	在地か
624	II	II - 溝 31-15	溝 31	陶器	灯明受皿	10.0	3.8	2.35	-	淡褐	鉄釉	幕末～明治	美濃
625	II	II - 溝 31-16	溝 31	陶器	灯明受皿	(10.4)	4.6	2.65	登 7 小	黄褐	鉄釉	18c 中葉	美濃
626	II	II - 溝 31-19	溝 31	土器	皿	(8.0)	(4.6)	2.0	ロクロ成形	褐	-	19c か	在地か
627	II	II - 溝 31-20	溝 31	土器	皿	10.8	6.3	3.05	灯明皿か、ロクロ成形、内外面に煤付着、口縁にタール付着	不明	-	17c か	在地か
628	II	II - 溝 31-21	溝 31	土器	焼塩壺	-	-	-	輪積み成形 (I 類)	淡赤褐	-	17c	近畿
629	II	II - 土 52-1	土 52	磁器	碗	6.25	2.8	4.25	外面に塀・花文・井桁文・雁金文、高台内 1 重圈線内に銘	白	染付	明治前半	瀬戸・美濃
630	II	II - 土 52-2	土 52	土製品	玩具	-	-	-	長 2.0、幅 2.0、厚 0.7、碁石形土製品、手捏ね成形	暗褐	-	不明	不明
631	II	II - 土 53-1	土 53	土器	内耳鍋	(32.8)	(27.0)	17.3	内外面に炭化物付着	暗褐	-	15c 後半～16c 前半	在地か
632	II	II - 土 54-1	土 54	磁器	小杯	(5.5)	(1.9)	2.9	外面に手描き (緑) で圈線文	白	染付	明治後半	瀬戸・美濃
633	II	II - 土 75-1	土 75	土器	皿	10.5	6.5	2.8	灯明皿か、ロクロ成形、口縁全周に煤・タール付着	暗褐	-	17c 後半か	在地か
634	II	II - 土 85-1	土 85	土器	皿	(10.4)	(6.2)	3.0	灯明皿か、ロクロ成形、口縁・内面に煤付着	暗褐	-	17c 前半か	在地か
635	II	II - 土 113-1	土 113	磁器	皿	(10.4)	(5.4)	2.4	輪花、口縁、内面に山水文、高台内に朱書きで焼印「八」	白	染付・口縁	18c 後半	肥前
636	II	II - 土 114-1	土 114	磁器	御神酒徳利	-	2.9	-	外面に五弁花文・笹文	白	染付	19c	肥前か
637	II	II - 土 114-2	土 114	陶器	碗	(9.7)	-	-	天目茶碗、外面に灰釉流し掛け、登 1 小	淡黄白	鉄釉・灰釉	17c 前半	瀬戸・美濃
638	II	II - 土 114-3	土 114	陶器	碗	-	5.0	-	丸碗、内外面に灰釉流し掛け	淡黄白	鉄釉・灰釉	17c 前半	美濃
639	II	II - 土 114-4	土 114	陶器	皿	(12.8)	-	-	輪壳皿	淡灰	鉄釉	17c 前半	美濃
640	II	II - 土 119-2	土 119	土器	皿	(9.9)	5.4	2.25	ロクロ成形	暗褐	-	不明	在地か
641	II	II - 土 119-1	土 119	土器	皿	(10.5)	5.4	3.05	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	暗褐	-	17c 前半か	在地か
642	II	II - 土 123-1	土 123	磁器	小杯	(5.2)	1.7	2.45	外面に上絵 (赤) で文様	白	透明釉・上絵	18c 末～幕末	肥前
643	II	II - 土 123-2	土 123	磁器	小杯	(6.6)	2.7	2.65	外面に折松葉文・若葉文	白	染付	近世	肥前
644	II	II - 土 123-3	土 123	磁器	碗	(6.8)	2.7	3.85	外面に竹文、高台内に砂付着	白	染付	17c	肥前

№	検出面	実測番号	造構	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
						口径	底径	器高					
645	II	II - 土 123-4	土 123	磁器	碗	7.1	2.4	3.65	外面にコンニャク印判で紅葉文、内外面に生漆付着	白	染付	17c 末～ 18c 前半	肥前
646	II	II - 土 123-8	土 123	磁器	碗	-	3.8	-	くらわんか碗、外面に文様、高台内 1 重圏線内に判読不能な銘、畳付に砂付着	淡灰	染付	18c	肥前
647	II	II - 土 123-6	土 123	磁器	碗	(10.8)	-	-	外面に上絵 (赤・緑・黒・黄) で花文	白	透明釉・上絵	17c 後半	肥前
648	II	II - 土 123-5	土 123	磁器	碗	(9.8)	3.5	5.0	内外面に斜格子地・菊花文	白	染付	18c 後半～ 19c 前半	肥前
649	II	II - 土 123-7	土 123	磁器	碗	(9.1)	3.2	5.7	外面に葉文、緑内に四方禪文、見込み 2 重圏線内に五弁花文、漆継痕	白	染付	18c 後半～ 19c 初頭	肥前
650	II	II - 土 123-11	土 123	磁器	碗	7.9	3.9	6.4	筒形碗、外面に木目文、緑内に四方禪文、見込み 2 重圏線内に五弁花文、漆継痕	白	染付	18c 後半～ 19c 初頭	肥前
651	II	II - 土 123-14	土 123	磁器	碗	(7.4)	-	-	筒形碗、外面に輪宝文、緑内に帯線、見込みに 2 重圏線	白	染付	18c 後半～ 19c 初頭	肥前
652	II	II - 土 123-9	土 123	磁器	碗	7.5	3.8	6.05	筒形碗、外面に草花文、緑内に四方禪文、見込み 2 重圏線内に五弁花文	白	染付	18c 後半～ 19c 初頭	肥前
653	II	II - 土 123-12	土 123	磁器	碗	7.8	3.6	6.05	筒形碗、外面に松竹梅文、緑内に四方禪文、見込み 2 重圏線内に五弁花文	白	染付	18c 後半～ 19c 初頭	肥前
654	II	II - 土 123-13	土 123	磁器	碗	(8.0)	3.8	6.05	筒形碗、外面斜格子地に菊花文、緑内に 2 重圏線、見込み 2 重圏線内に五弁花文	白	染付	18c 後半～ 19c 初頭	肥前
655	II	II - 土 123-16	土 123	磁器	皿	(9.8)	5.8	2.5	輪花、外面に唐草文、内面に柴垣・椀文、高台内 1 重圏線内に銘「嘉」、漆継痕	白	染付	19c	肥前
656	II	II - 土 123-17	土 123	磁器	皿	(14.5)	(6.4)	2.7	緑内に波文・見込みに文様、漆継痕	淡灰	染付	不明	不明
657	II	II - 土 123-19	土 123	磁器	皿	(15.0)	(8.8)	2.3	内面に唐草文・椀文、高台内に 1 重圏線	白	染付	17c 後半	肥前
658	II	II - 土 123-18	土 123	磁器	皿	(20.2)	(11.8)	2.7	内面に隔刻・タミ、高台内にハリ支え痕	白	染付	17 後半～ 18c 前半	肥前
659	II	II - 土 123-21	土 123	磁器	皿	-	-	3.3	方形、糸切細工、外面に唐草文、高台に雷文、内面に胡唐草文、見込み 2 重圏線内に鳳凰文、高台内に銘「2 重角に□」、被熱	白	染付	17c 末～ 18c 前半	肥前
660	II	II - 土 123-20	土 123	磁器	皿	(14.1)	7.4	4.9	輪花、内外面に唐草文、見込み 2 重圏線内に五弁花文、高台内 1 重圏線内に銘「2 重角に渦福」、ハリ支え痕	白	染付	17c 末～ 18c 前半	肥前
661	II	II - 土 123-15	土 123	磁器	猪口	-	(6.6)	-	外面に染付・上絵 (金) で水車文・松葉文・連弁文・蛇の目凹型高台	白	染付	18c 後半～ 幕末	肥前
662	II	II - 土 123-10	土 123	磁器	蓋付鉢	(9.0)	5.0	8.5	筒形、外面に草花文、緑内に四方禪文、口唇無釉、漆継痕	白	染付	18c 後半～ 19c 初頭	肥前
663	II	II - 土 123-22	土 123	磁器	段重	8.1	6.2	4.2	外面に如意雲文・連弁文、受部無釉、蛇の目凹型高台、漆継痕	白	染付	18c 後半～ 幕末	肥前
664	II	II - 土 123-23	土 123	磁器	香炉	-	4.6	-	有三足、内面無釉	白	透明釉	近代	瀬戸・美濃
665	II	II - 土 123-24	土 123	磁器	瓶	-	6.0	-	外面に牡丹唐草文、内面無釉	白	染付	18c 後半か	肥前か
666	II	II - 土 123-25	土 123	青磁	花生か	(6.6)	5.9	8.7	内面下半無釉、底面に墨書「戊」、漆継痕	淡灰	青磁釉	17c 中葉～ 18c 前半	肥前
667	II	II - 土 123-27	土 123	青磁	蓋	-	-	-	外径 (11.0)、香炉の蓋、透彫、口唇部無釉、被熱	白	青磁釉	17c 中葉～ 18c 前半	肥前
668	II	II - 土 123-26	土 123	磁器	蓋	-	-	3.0	外径 (10.2)、摺み径 3.6、外面に青磁釉、頂に銘「2 重角に渦福」、緑内に四方禪文、天井 2 重圏線内に五弁花文	白	染付・青磁釉	18c 中葉～ 後半	肥前
669	II	II - 土 123-30	土 123	陶器	碗	7.9	3.95	3.0	被熱	淡黄灰	灰釉	19c	瀬戸・美濃
670	II	II - 土 123-31	土 123	陶器	碗	(6.95)	1.8	4.1	外面に上絵 (赤・緑)、内面に黒色付着物 (使用痕か)、登 8・9 小	淡灰	透明釉・上絵	18c 後半～ 19c 初頭	美濃
671	II	II - 土 123-32	土 123	陶器	碗	8.4	2.7	5.2	外面に鉄絵で笹文、被熱、連房 IV b	淡灰	灰釉・鉄絵	19c 前半	美濃
672	II	II - 土 123-33	土 123	陶器	碗	(8.7)	-	-	外面に鉄絵で唐草文	淡黄白	透明釉・鉄絵	19c 前半	瀬戸・美濃
673	II	II - 土 123-35	土 123	陶器	碗	(8.8)	-	-	外面に上絵 (緑) で笹文、登 8・9 小	淡黄白	透明釉・上絵	18c 後半～ 19c 初頭	瀬戸
674	II	II - 土 123-36	土 123	陶器	碗	-	2.9	-	外面に上絵 (緑) で草文	淡灰	透明釉・上絵	18c か	京・信楽か
675	II	II - 土 123-34	土 123	陶器	碗	(10.8)	-	-	外面に上絵で菖蒲文、内面に上絵で梅花文、被熱	淡黄白	透明釉・上絵	18c か	京・信楽
676	II	II - 土 123-37	土 123	陶器	碗	(8.8)	(4.85)	5.2	外面に鉄絵で漢詩、口銘	淡灰	透明釉・鉄絵	19c か	京・信楽か
677	II	II - 土 123-38	土 123	陶器	碗	-	3.3	-	外面に上絵 (緑)、高台内に刻印「寶山」	淡黄白	透明釉・上絵	17c 中葉～	京・信楽
678	II	II - 土 123-116	土 123	妬器	碗	(7.8)	4.0	5.9	外面に草文、妬器染付、登 10・11 小	灰	染付	19c	美濃
679	II	II - 土 123-44	土 123	陶器	碗	7.9	3.7	5.9	鍔茶碗、胴部に回転施文による鍔手文、外面釉掛け分け	淡灰	鉄釉・鉛釉	18c 後半	美濃
680	II	II - 土 123-45	土 123	陶器	碗	(8.0)	(4.1)	5.95	鍔茶碗、胴部に回転施文による鍔手文、外面釉掛け分け、登 8・9・10 小期	淡灰	鉄釉・鉛釉	18c 後半～ 19c 前半	美濃
681	II	II - 土 123-47	土 123	陶器	碗	(9.55)	3.9	4.85	せんじ、外面に銅緑釉	淡黄灰	灰釉・銅緑釉	18c 後半	瀬戸
682	II	II - 土 123-48	土 123	陶器	碗	(10.7)	-	-	-	淡黄白	灰釉	18c 後半	瀬戸
683	II	II - 土 123-46	土 123	陶器	碗	(10.3)	-	-	-	灰	灰釉	不明	美濃
684	II	II - 土 123-58	土 123	陶器	碗	11.2	5.2	7.55	拳骨茶碗、鉄釉のち外面にうのふ釉、拳骨痕 6 残存、高台に刻印「◎」、登 7・8 小期	淡灰	鉄釉・うのふ釉	18c 後半	瀬戸・美濃
685	II	II - 土 123-59	土 123	陶器	碗	11.6	5.2	7.95	拳骨茶碗、鉄釉のち外面にうのふ釉、拳骨痕 7 残存、高台に刻印	淡灰	鉄釉・うのふ釉	18c 後半	美濃
686	II	II - 土 123-57	土 123	陶器	碗	-	5.0	-	拳骨茶碗、高台に刻印「㊦」	淡黄灰	鉄釉	18c 後半	瀬戸・美濃
687	II	II - 土 123-60	土 123	陶器	碗	(11.3)	4.7	6.95	外面に沈線 2	淡灰	鉄釉	18c 後半	美濃
688	II	II - 土 123-61	土 123	陶器	碗	10.95	4.9	7.3	外面に沈線 4	淡灰	鉄釉	18c 後半	美濃
689	II	II - 土 123-83	土 123	陶器	碗	-	-	-	織部か、筒形碗、外面に鉄絵で圏線文	淡灰褐	長石釉・鉄絵	17c 前半	美濃
690	II	II - 土 123-53	土 123	陶器	碗	(11.1)	-	-	天目茶碗	淡灰	鉄釉	不明	不明
691	II	II - 土 123-50	土 123	陶器	碗	(10.7)	-	-	天目茶碗、大窯 4	淡黄灰	鉄釉	16c 末～ 17c 初頭	美濃
692	II	II - 土 123-49	土 123	陶器	碗	(10.5)	5.0	6.65	天目茶碗、登 2 小後半	淡灰	鉄釉	17c 中葉	瀬戸
693	II	II - 土 123-51	土 123	陶器	碗	(11.1)	-	-	天目茶碗、内外面に灰釉流し掛け、登 1 小	淡黄白	鉄釉	17c 前半	美濃
694	II	II - 土 123-52	土 123	陶器	碗	(11.8)	-	-	天目茶碗、内外面に灰釉流し掛け、登 2 小	黄灰	鉄釉	17c 前半	美濃
695	II	II - 土 123-54	土 123	陶器	碗	(11.2)	4.8	7.0	見込みに重ね焼き痕	淡褐	灰釉	17c 末～ 18c 後半	肥前

№	検出面	実測番号	造構	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
						口径	底径	器高					
696	II	II - 土 123-55	土 123	陶器	碗	(10.7)	-	-	漆継痕	淡黄白	透明釉	17c 末～18c 後半	肥前
697	II	II - 土 123-56	土 123	陶器	碗	-	4.7	-	-	黄白	灰釉	17c 末～18c 後半	肥前
698	II	II - 土 123-80	土 123	陶器	碗	(13.4)	5.7	11.0	連房皿 b	灰	灰釉	18c 前半	美濃
699	II	II - 土 123-42	土 123	陶器	碗	(9.1)	3.0	5.25	高台内に墨書で猪目文、登 8・9 小	淡黄白	灰釉	18c 後半～19c 初頭	瀬戸
700	II	II - 土 123-43	土 123	陶器	碗	-	3.2	-	高台内に墨書で猪目文、登 8・9 小	淡灰	灰釉	18c 後半～19c 初頭	美濃
701	II	II - 土 123-39	土 123	陶器	碗	-	3.1	-	高台内に墨書「近」	淡灰白	灰釉	18c 後半～19c 初頭 か	京・信楽
702	II	II - 土 123-40	土 123	陶器	碗	-	4.4	-	高台内に墨書「所」	淡黄白	灰釉	17c 末～18c 中葉か	瀬戸
703	II	II - 土 123-41	土 123	陶器	碗	-	3.9	-	高台内に墨書「連」か	淡黄白	灰釉	17c 末～18c 中葉か	瀬戸
704	II	II - 土 123-62	土 123	陶器	仏飯器	-	4.3	-	底部に墨書「東西南北」、登 9・10 小	淡黄褐	灰釉	19c 前半	瀬戸
705	II	II - 土 123-63	土 123	陶器	皿	(8.9)	-	-	見込みに白泥のち鉄絵	淡黄白	透明釉・白泥・鉄絵	17c 中葉～	京・信楽
706	II	II - 土 123-64	土 123	陶器	皿	(9.1)	4.3	2.4	斐皿、被熱、連房皿 c	淡灰白	灰釉	18c 後半	美濃
707	II	II - 土 123-68	土 123	陶器	皿	(11.75)	4.8	3.05	内面に青輪草花文、見込みに花文、陶胎染付、登 9 小	淡黄白	染付	19c 初頭	瀬戸
708	II	II - 土 123-67	土 123	陶器	皿	(11.45)	(6.65)	2.35	志野丸皿、煤付着、大窯 4 末	灰白	長石釉	16c 末～17c 初頭	美濃
709	II	II - 土 123-70	土 123	陶器	皿	10.0	3.9	1.95	灯明皿か、碁笥底、見込みに目跡 3、登 8・9 小	淡黄白	鉄釉	18c 後半～19c 初頭	美濃
710	II	II - 土 123-69	土 123	陶器	皿	7.1	2.3	1.25	灯明皿か、登 8・9 小	淡褐	鉄釉	18c 後半～19c 初頭	美濃
711	II	II - 土 123-71	土 123	陶器	皿	9.5	3.0	2.4	灯明皿か、見込みに目跡 3、登 8・9 小	淡黄白	鉄釉	18c 後半～19c 初頭	美濃
712	II	II - 土 123-73	土 123	陶器	皿	9.5	3.4	2.2	灯明皿か、外面に煤付着、登 8・9 小	不明	鉄釉	18c 後半～19c 初頭	美濃
713	II	II - 土 123-72	土 123	炆器	皿	10.9	-	1.95	灯明皿か、口縁部内外面に煤・タール付着	赤褐	-	18c ～	備前か
714	II	II - 土 123-77	土 123	陶器	皿	(24.1)	(12.5)	4.8	石皿、内面に呉須絵・鉄絵で昔書文、見込みに目跡、被熱、登 10 小	淡黄褐	灰釉・呉須絵・鉄絵	19c 前半	瀬戸
715	II	II - 土 123-78	土 123	陶器	水盤	(22.2)	(15.7)	13.4	外面に沈線 4・陰刻・灰釉のちうのふ釉、三足、漆継痕、登 8 小	淡灰	灰釉・うのふ釉	18c 後半	瀬戸
716	II	II - 土 123-82	土 123	陶器	鉢	(17.6)	-	-	内外面に白泥のち鉄絵で菊花文	赤褐	白泥・鉄絵	17c 中葉	肥前
717	II	II - 土 123-79	土 123	陶器	鉢	(14.8)	6.7	8.4	外面鉄釉・灰釉掛け分け、見込みに目跡	黄白	灰釉・鉄釉	18c 後半	瀬戸・美濃
718	II	II - 土 123-86	土 123	陶器	鉢	-	7.4	-	見込みに目跡 3、高台内に墨書「カリ」か	淡黄白	鉄釉	18c 後半	瀬戸・美濃
719	II	II - 土 123-85	土 123	陶器	鉢	(20.3)	7.7	5.9	輪弁鉢	淡灰	灰釉	18c 後半	美濃
720	II	II - 土 123-89	土 123	陶器	鉢	24.0	11.0	6.7	内面に刻線で文様、全面施釉	淡黄白	錆釉	17c 前半か	瀬戸
721	II	II - 土 123-88	土 123	陶器	鉢	(22.6)	-	-	練鉢	淡黄白	灰釉	18c 中葉	瀬戸・美濃
722	II	II - 土 123-87	土 123	陶器	鉢	(26.0)	-	-	練鉢、登 7 小	淡灰白	灰釉	18c 中葉	瀬戸
723	II	II - 土 123-81	土 123	陶器	片口	(15.8)	(8.8)	7.7	内面灰釉のち銅緑釉流し掛け、登 8 小	淡黄	灰釉・銅緑釉	18c 後半	瀬戸
724	II	II - 土 123-93	土 123	陶器	播鉢	-	-	-	片口	淡灰白	鉄釉	不明	美濃
725	II	II - 土 123-92	土 123	陶器	播鉢	33.4	(13.2)	14.25	播目 18 本 1 単位、登 8 小	淡黄白	鉄釉	18c 後半	瀬戸
726	II	II - 土 123-117	土 123	炆器	播鉢	(23.4)	-	-	-	赤褐	-	18c 前半～中葉	堺
727	II	II - 土 123-94	土 123	陶器	餵猪口	(4.7)	4.6	2.55	連房皿 c	淡灰白	灰釉	18c 後半	美濃
728	II	II - 土 123-91	土 123	陶器	植木鉢	(24.0)	(15.6)	14.6	外面に壽字の貼花文、口縁～胴部に灰釉、底部～脚部に鉄釉、三足、見込み・底面に目跡	淡黄灰	灰釉・鉄釉	幕末	瀬戸
729	II	II - 土 123-84	土 123	陶器	香炉か	(16.0)	-	-	内面施釉	淡褐	鉄釉	17c 前半	美濃
730	II	II - 土 123-96	土 123	陶器	灰落し	(4.2)	(5.9)	7.9	外面に上絵(緑・黒・赤)で文様、三足	淡黄白	透明釉・上絵	18c 後半	瀬戸・美濃
731	II	II - 土 123-101	土 123	陶器	火入れ	(8.0)	4.7	6.1	輪花、碁笥底、外面に鉄絵で桜・折松葉文、外面～縁内に白泥のち灰釉、縁内に指頭圧痕、見込及び底面被熱	淡灰	白泥・灰釉・鉄絵	不明	京・信楽か
732	II	II - 土 123-90	土 123	陶器	甕	(25.6)	-	-	灰釉のちうのふ釉流し掛け	赤褐	灰釉・うのふ釉	19c ～	不明
733	II	II - 土 123-95	土 123	陶器	甕	(26.6)	(15.6)	21.5	外面肩部に沈線文、外面～縁内に鉄釉、内面に灰釉、高台内に墨書「政□」、漆継痕	淡褐～淡灰	鉄釉・灰釉	19c ～	不明
734	II	II - 土 123-119	土 123	炆器	瓶	1.3	(2.2)	5.8	ロクロ成形のち変形	暗灰	-	不明	不明
735	II	II - 土 123-97	土 123	陶器	瓶	(2.7)	-	-	外面に呉須絵で文様	淡灰白	透明釉・呉須絵	18c 中葉	美濃
736	II	II - 土 123-98	土 123	陶器	徳利	(3.25)	-	-	尾呂徳利、外面に餵釉のちうのふ釉流し掛け、登 5・6 小	黄白	餵釉・うのふ釉	17c 末～18c 初頭	瀬戸・美濃
737	II	II - 土 123-118	土 123	炆器	瓶か	-	(7.8)	-	底面に刻印「△」、刻印内に朱か	暗灰	-	不明	不明
738	II	II - 土 123-99	土 123	陶器	仏花瓶	-	(5.6)	-	瓶子丸耳形、外面に灰釉・鉄釉上下掛け分け、連房皿 c	灰	灰釉・鉄釉	18c 後半	美濃
739	II	II - 土 123-100	土 123	陶器	水注	-	9.0	-	無釉、注口・把手剥落	淡灰	-	不明	不明
740	II	II - 土 123-102	土 123	陶器	土瓶	(11.0)	-	-	外面に鉄絵で折枝梅文、登 8 小～	淡黄	透明釉・鉄絵	18c 後半～	瀬戸・美濃か
741	II	II - 土 123-108	土 123	陶器	水滴	-	-	(3.3)	御深井、連房皿 a	淡灰白	御深井釉	17c 後半	美濃
742	II	II - 土 123-103	土 123	陶器	土鍋	20.2	8.0	10.7	各 1 と 2 穿孔の板状双耳、見込み釉剥ぎ、外面煤付着	淡黄白	鉄釉	18c 後半か	美濃
743	II	II - 土 123-109	土 123	陶器	秉燭	3.85	2.2	2.0	登 10・11 小	淡黄白	灰釉	19c	瀬戸
744	II	II - 土 123-74	土 123	陶器	灯明受皿	10.1	3.7	1.9	油孔 1、外面に煤付着、登 8 小	不明	鉄釉	18c 後半	瀬戸・美濃
745	II	II - 土 123-75	土 123	陶器	灯明受皿	10.0	301	2.3	油孔 1、外面に煤付着、登 8 小	淡黄白	鉄釉	18c 後半	瀬戸・美濃
746	II	II - 土 123-76	土 123	炆器	灯明受皿	10.8	2.2	2.35	油溝アーチ状 3、内外面に煤・タール付着	赤褐	-	18c ～	備前か
747	II	II - 土 123-104	土 123	陶器	蓋	-	-	1.45	外径 6.0、摘み径 3.1、煤付着	淡灰	灰釉	17c 末～18c 中葉	瀬戸・美濃
748	II	II - 土 123-107	土 123	陶器	蓋	-	-	-	外径(7.5)、返り径(6.2)、外面に上絵(緑・黒)で文様	淡黄白	透明釉・上絵	18c 後半	瀬戸・美濃
749	II	II - 土 123-106	土 123	陶器	蓋	-	-	2.35	外径 8.9、返り径 6.8、外面に上絵(赤・緑)で巻文、被熱	淡灰褐	透明釉・上絵	18c 後半	美濃か
750	II	II - 土 123-105	土 123	陶器	蓋	-	-	-	外径 9.4、返り径 7.2、外面にイッチン白描・鉄絵・呉須絵で梅文	淡灰白	透明釉・イッチン・鉄絵・呉須絵	18c 中葉	京・信楽
751	II	II - 土 123-121	土 123	瓦器	火鉢	(14.8)	-	-	外面に回転印刻・ミガキのち沈線、硬質瓦質、内面煤付着、口縁に敲打痕か	暗灰	-	18c 後半～	在地か
752	II	II - 土 123-122	土 123	瓦器	焜炉か	(25.2)	-	-	内面に接着用の溝、硬質瓦質	灰	-	18c 後半～	在地か
753	II	II - 土 123-123	土 123	瓦器	焜炉	-	(19.2)	-	三足、硬質瓦質	灰～淡褐	-	18c 後半～	在地か
754	II	II - 土 123-120	土 123	瓦器	火鉢	(24.0)	-	-	口縁に刻み、外面へラ削りのちミガキ、軟質瓦質	淡褐～淡灰	-	17c ～18c 初頭	在地か
755	II	II - 土 123-127	土 123	土器	皿	8.6	5.6	1.75	ロクロ成形	暗灰褐	-	不明	在地か